

## フリーソフトを活用したネットショップ構築テキスト 目次

1. サーバ概要
  1. テキスト運用にあたって
    - (1) テキストの概要
  2. 各サーバの概要
    - (1) 設置サーバの概要
    - (2) EC-CUBE について
    - (3) Moodle について
    - (4) ナレッジデリについて
2. EC-CUBE サーバの設定
  1. EC-CUBE のインストール
    - (1) システム要件
    - (2) EC-CUBE が使用可能なレンタルサーバ
    - (3) データベースの作成
    - (4) EC-CUBE のインストール
    - (5) 補足：EC-CUBE のダウンロード
3. Moodle サーバの設定
  1. Moodle のインストール
    - (1) システム要件
    - (2) インストール用 CD の作成
    - (3) 各パッケージのインストール
    - (4) Moodle のインストール
    - (5) 補足：Moodle パッケージのダウンロード
    - (6) 補足：Apache2、PHP、MySQL パッケージのダウンロード
  2. 各種ファイルの設定
    - (1) PHP ファイルの設定
    - (2) Apache2 および Vine Linux の再起動
    - (3) グローバルな環境での閲覧確認
  3. ユーザの作成
    - (1) ログイン・ログアウト
    - (2) ユーザの追加
    - (3) ユーザの修正
    - (4) ロールの割当て
  4. コースサイトの作成
    - (1) コースサイトとは
    - (2) カテゴリの登録
    - (3) コースの登録
  5. コース参加ユーザの登録
    - (1) コース参加ユーザの登録方法
    - (2) 学生による自己登録
    - (3) 教員による手動登録

6. リソースの追加
  - (1) リソースとは
  - (2) 編集モード
  - (3) テキストページの作成
  - (4) リソースの編集
  - (5) 要約の確認
  - (6) ウェブページの作成
  - (7) ファイルまたはウェブサイトへのリンク
  - (8) その他のリソース
7. 活動の追加
  - (1) 活動とは
  - (2) 小テストの作成
  - (3) その他の活動
4. ナレッジデリの設定
  1. 動作環境
    - (1) 教材作成環境
    - (2) 受講者環境
  2. ユーザの作成
    - (1) ログイン・ログアウト
    - (2) ユーザ登録
  3. コンテンツの作成
    - (1) コンテンツの作成
    - (2) テスト教材の作成
  4. コース教材の作成
    - (1) コンテンツおよびテスト教材の登録
    - (2) コースのシステムへの反映および受講者登録
5. 付録：Vine Linux のインストール
  1. サーバの設定
    - (1) インストール用 CD の作成
    - (2) Vine Linux のインストール
6. 付録：固定 IP の設定
  1. ルータの設定
    - (1) 固定 IP の設定
    - (2) アドレスの変換

---

## 第 1 章 サーバ概要

### 1.1 テキスト運用にあたって

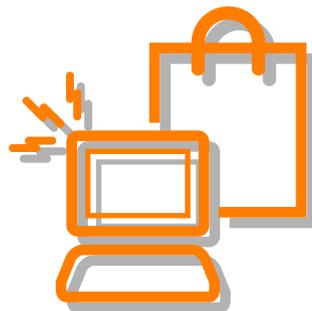
#### (1) テキストの概要

今回、ネットショップ店長育成講座を行うにあたり、フリーソフトを活用し、ネットショップサイトを構築するための「フリーソフトを活用したネットショップ構築テキスト」を作成した。

本テキストでは、ネットショップを構築するために、サーバを構築し、ネットショップ構築のためのフリーソフト「EC-CUBE」をインストールし、さらにネットショップ店長育成講座を収録し、オンデマンド学習を行うために活用できる eラーニングプラットフォーム「Moodle」および「Knowledge Deliver」をインストールし、設定を行う方法までを収録している。

このテキストを用いることにより、ネットショップを構築し、受講者との対面式の講座を実施するだけでなく、eラーニングを活用したオンデマンド授業が行えるような構成になっている。

これから講座を実施されたい先生方が、このテキストを参考に、講座を行い、eラーニングサイトを作成し、オンデマンドでの学習を行えるようになれば幸いである。



---

## 第 1 章 サーバ概要

### 1.2 各サーバの概要

#### (1) 設置サーバの概要

今回、ネットショップのサイト構築に使用するオープンソースである「EC-CUBE」および、同じくオープンソースで、e ラーニングサイトを構築するためのプラットフォームである「Moodle」をインストールする為のサーバを構築した。

サーバの OS には日本語対応の Linux である「Vine Linux」を使用した。

なお、Vine Linux の詳細については、5 章で紹介する。

また、もう一つ、e ラーニングサイトを構築するための商用プラットフォームである「Knowledge Deliver」をインストールする為のサーバを構築した。

Knowledge Deliver は、Windows を OS としたシステムである為、今回サーバの OS には「Windows 2000 Server」を使用した。

なお、Windows2000 Server の詳細については、6 章で紹介する。

#### (2) EC-CUBE について

EC-CUBE とは

「EC-CUBE」は、株式会社ロックオンがオープンソースとして提供している e コマースサイト構築の為のパッケージソフトウェアである。

e コマースは「電子商取引」とも呼ばれ、インターネット等のネットワーク上にて電子的な情報で契約や売買、決済等を行うものである。

EC-CUBE を用いる事により、ユーザに対して商品の詳細情報や商品検索、カートを用いて商品の購入から決済までの一連の手続きを行うことができる。

また、ネットショップサイトを作成するにあたり、あらかじめ用意されたテンプレートのレイアウトを元に、魅力的なページを作成する事が可能である。

さらに、EC-CUBE では PC からのみだけでなく、モバイルからの利用も可能である。2008 年 12 月現在、DoCoMo、au、SoftBank の 3 キャリアに対応している。

一方、管理機能としては、管理画面による商品登録や詳細の登録、売上管理や欠品の管理、顧客情報・受注情報・売上管理を行うことができる。

また、メールマガジンの配信機能やサイトデザインの変更などもシンプルな操作で行うことが可能である。現在、Ver1 シリーズおよび新機能を追加した Ver2 シリーズがリリースされているが、今回の講座では Ver.2.3.2 を使用した。

# 第1章 サーバ概要

## EC-CUBE の機能

EC-CUBE の機能は、主にユーザ側が利用出来る機能である「フロント機能」および、管理者が利用出来る機能である「管理機能」に大別される。

フロント機能は、「商品紹介」「商品注文」「MY ページ」「その他」「モバイル」「多言語対応」の6の機能に分類される。

また、管理機能は、「認証機能」「TOP ページ」「基本情報設定」「商品管理」「顧客管理」「受注管理」「売上集計」「メルマガ配信」「コンテンツ管理」「デザイン管理」「システム設定」「オーナーズストア」の12の機能に分類される。



図 1-1 EC-CUBE フロント画面



図 1-2 EC-CUBE 管理画面

## 第1章 サーバ概要

それぞれの機能の一覧を以下の表に示す。各機能の詳細および使用方法については、「成功するネットショップの企画と運営テキスト」で述べる。

表 1-1 EC-CUBE におけるフロント機能一覧

| 分類       | # | 機能          | 説明  | Ver.1 | Ver.2 |
|----------|---|-------------|---|-------|-------|
| A:商品紹介   | 1 | 商品一覧ページ     | 登録商品をカテゴリごとに一覧表示する                                |       |       |
|          | 2 | 商品サムネイル表示   | 一覧ページで商品がサムネイル表示される                               |       |       |
|          | 3 | 商品一覧並び替え    | 商品を価格順・新着順で並び替えをすることができる                          |       |       |
|          | 4 | 商品詳細ページ     | 説明文表示・商品画像表示・カゴへボタン表示ができる                         |       |       |
|          | 5 | 商品ステータス     | おすすめ・残り僅かなどのステータスを表示（手動）させることができる                 |       |       |
|          | 6 | 在庫終了ステータス   | 在庫が切れた場合には、自動的に在庫切れを表示することができる                    |       |       |
|          | 7 | ユーザレビュー     | 商品詳細ページに商品レビューを登録・表示できるようにする                      |       |       |
| B:商品注文   | 1 | ショッピングカート   | 複数商品選択などを行う、基本的なショッピングカートを利用できる                   |       |       |
|          | 2 | 別のお届け先追加・編集 | 1 ユーザが複数のお届け先を保持することができる（最大 20 個まで）               |       |       |
|          | 3 | 配送時間指定      | 管理者画面で登録した配送時間の指定を行える                             |       |       |
|          | 4 | 決済方法選択      | 管理者画面で登録した支払い方法の選択を行える                            |       |       |
|          | 5 | ポイント購入      | 商品購入で蓄積したポイントを利用して商品を購入できる                        |       |       |
|          | 6 | 購入前見積表示     | 送料・手数料を自動計算した後、注文内容の確認ページを表示できる                   |       |       |
|          | 7 | 注文処理        | 注文登録と同時に Thanks メールを自動送信し、管理者にも注文受付メールを送信することができる |       |       |
|          | 8 | 注文時会員登録     | 会員登録していないユーザの購入の際、同時に会員登録するかどうか選択できる              |       |       |
| C:MY ページ | 1 | 会員登録        | 会員登録を行うことができる                                     |       |       |
|          | 2 | ログイン        | ユーザログイン画面を提供する                                    |       |       |
|          | 3 | 会員情報編集      | 会員情報の登録・変更ができる                                    |       |       |
|          | 4 | 注文履歴一覧表示    | 過去の注文を一覧表示する                                      |       |       |
|          | 5 | 注文詳細確認      | 現在の注文内容を表示できる                                     |       |       |
|          | 6 | 別のお届け先追加・編集 | 複数の配送先の登録・編集・削除ができる                               |       |       |
|          | 7 | 退会          | 退会手続きを行うことができる                                    |       |       |

## 第 1 章 サーバ概要

| 分類      | # | 機能         | 説明  | Ver.1 | Ver.2 |
|---------|---|------------|---|-------|-------|
| D:その他   | 1 | パスワードヒント機能 | ユーザがパスワードを忘れた際に会員登録時に入力したパスワードヒントからパスワードを表示することができる |       |       |
|         | 2 | オススメ商品表示   | トップページのオススメ枠に設置したオススメ商品を表示することができる                  |       |       |
|         | 3 | 新着情報表示     | 新着情報の表示を行うことができる                                    |       |       |
|         | 4 | 商品カテゴリ検索   | 商品カテゴリをもとに検索を行うことができる                               |       |       |
|         | 5 | 商品キーワード検索  | キーワード検索（ブランド名、商品名の一部など）で検索できる                       |       |       |
|         | 6 | メルマガ登録・変更  | メールマガジン購読登録の解除・変更ができる。                              |       |       |
|         | 7 | お問い合わせフォーム | お問い合わせフォームから管理者宛にお問い合わせをメールすることができる                 |       |       |
|         | 8 | キャンペーン応募   | 管理画面より作成したキャンペーンページより、キャンペーン応募や会員登録をすることができる        |       |       |
| E:モバイル  | 1 | モバイルサイト生成  | モバイルサイトを自動生成する                                      |       |       |
|         | 2 | 絵文字互換機能    | 主要 3 キャリアの絵文字に対応し、自動で互換される                          |       |       |
|         | 3 | 公式サイト対応    | 主要 3 キャリアの公式サイトに対応している                              |       |       |
|         | 4 | 簡単ログイン対応   | 携帯固有の製造番号登録により、2 回目からは簡単にログインできるようになる               |       |       |
| F:多言語対応 | 1 | 多言語対応      | UTF-8 の採用により、多言語サイトに対応する                            | ×     |       |

出所：「EC-CUBE 公式サイト」<http://ec-cube.net/>

## 第 1 章 サーバ概要

表 1-2 EC-CUBE における管理機能一覧

| 分類       | #  | 機能              | 説明  | Ver.1 | Ver.2 |
|----------|----|-----------------|---|-------|-------|
| A:認証機能   | 1  | パスワード認証         | 管理者登録したユーザでの ID・パスワードによるログイン                            |       |       |
|          | 2  | 管理者登録           | 複数の管理者の登録を行うことができる                                      |       |       |
| B:TOPページ | 1  | 集計情報簡易表示        | 現在の売上・会員数を TOP ページに表示できる                                |       |       |
| C:基本情報設定 | 1  | SHOP マスタ        | サイト運営に必要な会社情報の設定・編集ができる                                 |       |       |
|          | 2  | 消費税計算方法設定       | 消費税の端数を何桁で切り捨てるか、四捨五入・切り捨てるどちらで計算するかを設定できる              |       |       |
|          | 3  | 配送料無料条件設定       | 購入合計金額等から配送料が無料になる条件の設定を行うことができる                        |       |       |
|          | 4  | 特定商取引に関する法律     | 特定商取引に関する法律に定める要件等の記入・編集ができる                            |       |       |
|          | 5  | 配送業者・配送料・配送時間指定 | 配送業者および配送業者ごとの配送料・配送時間の設定ができる                           |       |       |
|          | 6  | 支払い方法・手数料設定     | 支払い方法・支払い方法ごとの手数料の設定ができる                                |       |       |
|          | 7  | 会員規約設定          | 会員登録時に確認する規約の記入・編集ができる                                  |       |       |
|          | 8  | 支払い方法利用条件設定     | 購入金額の上限下限の設定を行うことができる                                   |       |       |
|          | 9  | ポイント設定          | 商品全体に対するポイント付与率の設定、会員時に付与するポイント数の設定、商品ごとのポイント付与率の設定ができる |       |       |
|          | 10 | 各種メールテンプレート登録   | メール文面（問い合わせ自動応答、購入自動応答）の設定・登録ができる                       |       |       |
|          | 11 | SEO 管理          | メタタグにキーワードを埋め込むことができる                                   |       |       |
|          | 12 | サイト管理設定         | 機能を利用するかどうかを設定できる                                       |       |       |
| D:商品管理   | 1  | 商品検索・一覧         | 商品の検索・一覧表示を行うことができる                                     |       |       |
|          | 2  | 商品情報 CSV 出力     | 商品データの CSV 出力ができる                                       |       |       |
|          | 3  | 商品情報 CSV 登録     | 商品データを CSV で一括登録することができる                                |       |       |
|          | 4  | 商品登録・編集機能       | 商品名・価格・コメントなどの商品基本データの登録ができる                            |       |       |
|          | 5  | 商品画像登録          | 商品画像のアップロード・登録ができる                                      |       |       |
|          | 6  | 在庫情報登録          | 在庫数の登録を行うことができる   |       |       |
|          | 7  | 販売制限            | 一度の注文で同時に購入可能な商品数の制限ができる                                |       |       |
|          | 8  | 関連商品手動管理・編集     | 商品を購入した人に推奨する関連商品の手動登録ができる                              |       |       |
|          | 9  | 規格登録            | 商品の規格の登録ができる  |       |       |

## 第1章 サーバ概要

| 分類       | #  | 機能                | 説明  | Ver.1 | Ver.2 |
|----------|----|-------------------|---|-------|-------|
|          | 10 | カテゴリ登録・編集機能       | 商品の表示スタイル選択、階層の登録・編集ができる                  |       |       |
|          | 11 | 商品並び替え            | 各カテゴリ商品一覧に表示される表示順序の変更ができる                |       |       |
|          | 12 | 商品レビュー管理          | 商品のレビュー管理ができる                             |       |       |
|          | 13 | 複数カテゴリ            | 商品を複数カテゴリに登録して管理することができる                  |       |       |
|          | 14 | 商品キーワード検索項目管理     | 商品のキーワードの項目を登録できる                         |       |       |
|          | 15 | トラックバック管理         | トラックバックしているブログなどの情報を知ることができる              |       |       |
| E:顧客管理   | 1  | 顧客情報検索・一覧         | 顧客情報の検索、一覧表示ができる                          |       |       |
|          | 2  | 顧客情報 CSV 出力       | 顧客情報の CSV 出力ができる                          |       |       |
|          | 3  | 顧客情報編集            | 顧客情報の編集ができる                               |       |       |
| F:受注管理   | 1  | 受注情報検索・一覧         | 受注情報の検索・一覧表示ができる                          |       |       |
|          | 2  | 受注情報 CSV 出力       | 受注内容の CSV 出力ができる                          |       |       |
|          | 3  | 受注情報編集            | 受注情報の編集ができる                               |       |       |
|          | 4  | 対応状況設定            | 未処理、商品手配中、配送中などのステータスを設定することができる          |       |       |
|          | 5  | 各種メール送信           | 注文されたお客様に任意のタイミングで「商品発送済みメール」などのメールを送信できる |       |       |
|          | 6  | 対応状況一括変更          | 複数の受注ステータスを一括で変更できる                       |       |       |
| G:売上集計   | 1  | 期間別集計             | 任意の期間の売上集計結果をグラフと一覧で表示でき、CSV 出力できる        |       |       |
|          | 2  | 商品別集計             | 商品別の売上集計結果をグラフと一覧で表示でき、CSV 出力できる          |       |       |
|          | 3  | 年代別集計             | 購入者の年代別の売上集計結果をグラフと一覧で表示でき、CSV 出力できる      |       |       |
|          | 4  | 職業別集計             | 購入者の職業別の売上集計結果をグラフと一覧で表示でき、CSV 出力できる      |       |       |
|          | 5  | 会員別集計             | 購入者の会員別の売上集計結果をグラフと一覧で表示でき、CSV 出力できる      |       |       |
| H:メルマガ配信 | 1  | メルマガ配信検索・配信予約     | メルマガ配信先のしぼり込み検索・配信予約設定ができる                |       |       |
|          | 2  | HTML メルマガテンプレート作成 | HTML ベースのメルマガテンプレートの作成が行える                |       |       |
|          | 3  | TEXT メルマガテンプレート作成 | TEXT ベースのメルマガテンプレートの作成を行うことができる           |       |       |
|          | 4  | 配信履歴              | メルマガの配信履歴、配信内容、配信条件の確認ができる                |       |       |

## 第 1 章 サーバ概要

| 分類         | # | 機能                 | 説明   | Ver.1 | Ver.2 |
|------------|---|--------------------|--|-------|-------|
| I:コンテンツ管理  | 1 | 新着情報管理             | フロント TOP ページなどに表示する新着情報の登録・編集ができる          |       |       |
|            | 2 | オススメ管理             | フロント TOP ページなどに表示するオススメ商品の登録ができる（最大 8 個まで） |       |       |
|            | 3 | キャンペーン管理           | キャンペーンの設定・ページ作成ができる                        |       |       |
|            | 4 | ファイル管理             | ファイルのアップロード・ダウンロードができる                     |       |       |
|            | 5 | CSV 出力項目設定         | CSV で出力する際に記載される内容を設定できる                   |       |       |
| J:デザイン管理   | 1 | レイアウト編集            | TOP ページ・商品一覧ページ・商品詳細ページのレイアウトを変更できる        |       |       |
|            | 2 | ブロック編集             | TOP ページのレイアウト編集にて、表示させるブロックを登録する事ができる      |       |       |
|            | 3 | ヘッダー・フッター編集        | 全ページで共通で使用するヘッダー・フッターの編集ができる               |       |       |
|            | 4 | CSS 編集             | 管理画面より CSS の編集ができる                         | 1     | 2     |
|            | 5 | テンプレート設定           | あらかじめ用意された専用テンプレートをワンボタンで適用できる             |       |       |
| K:システム設定   | 1 | メンバー管理             | 管理画面にログインできるメンバーの管理を行う                     |       |       |
|            | 2 | アップデート管理           | EC-CUBE のバージョン管理ができる                       |       |       |
|            | 3 | モジュール管理            | EC-CUBE で利用できる他社サービスのモジュール設定を行う            |       |       |
|            | 4 | バックアップ管理           | EC-CUBE の現在の登録商品などや顧客データのバックアップを保存します      |       |       |
| L:オーナーズストア | 1 | 会員サポート             | 電話・メールにて構築のサポートを行う（有料）                     | ×     |       |
|            | 2 | 自動アップデート           | 操作する事なく自動で EC-CUBE をアップデートする（有料）           | ×     |       |
|            | 3 | EC-CUBE Speed Mail | EC-CUBE メール配信サービスの上位版を利用できる（有料）            | ×     |       |

- 1 デフォルトではテキスト装飾等の CSS が登録されている
- 2 全てのレイアウトを CSS にて制御している

出所：「EC-CUBE 公式サイト」<http://ec-cube.net/>

## 第 1 章 サーバ概要

### (3) Moodle について

#### Moodle とは

Moodle は、Martin Dougiamas 氏が開発を行ったコース管理システム (コースマネジメントシステム:CMS)である。Dougiamas 氏はオーストラリアのカーティン工科大学に在籍時、WebCT の管理を担当していたが、カスタマイズ上の制約や、修士課程での「社会的構築主義 (Social Constructionism)」の研究の中で、プラットフォームの開発を行おうとしていたことから、Moodle を開発した。

当時は Plone というコンテンツマネジメントシステムを使用していた。Plone は Python というスクリプト言語によって開発可能であったが、Moodle では比較的短期間で習得可能な PHP スクリプトで開発を行った。

現在は、Moodle は世界で 1 万サイト以上のサーバが運用されている。Moodle の利点は、

- ・ 問題解決の為のノウハウが公式サイト上のフォーラムでやり取りされている。
- ・ オフラインでの研究会の開催が活発に行われている。
- ・ 誰でもコミュニティサイトに登録し、バグフィックスや拡張モジュールを投稿できる。

などがある。

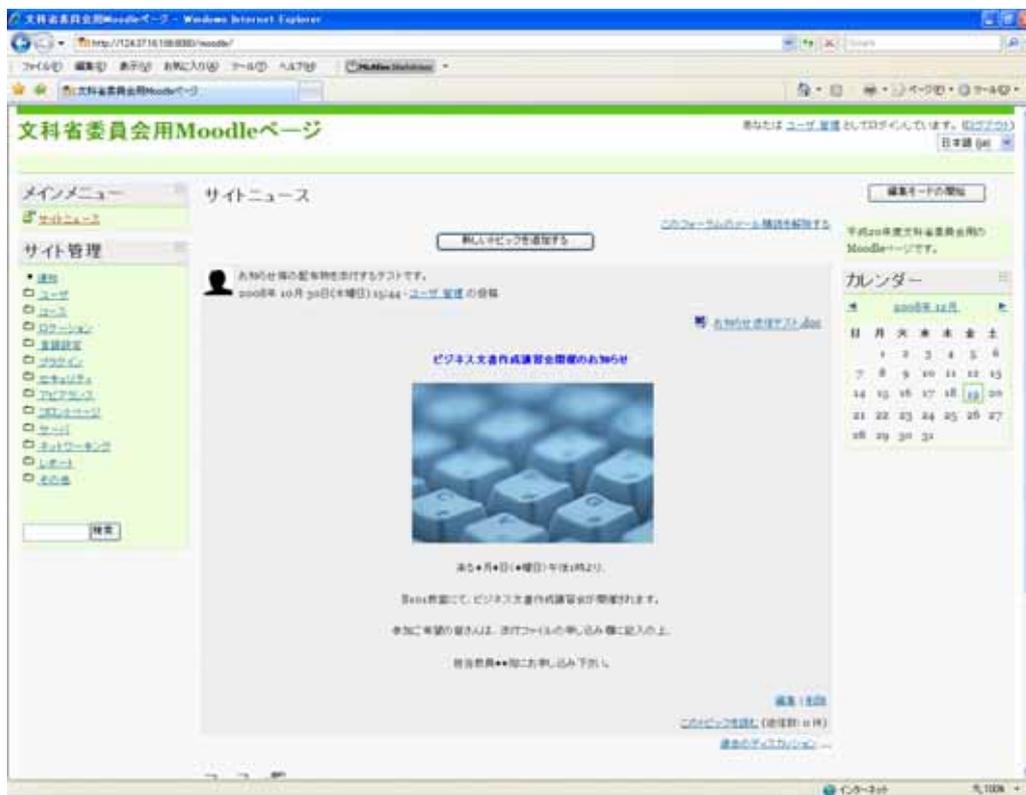


図 1-3 Moodle フロントページ

# 第 1 章 サーバ概要

## Moodle の機能

Moodle では、「コースサイト」と呼ばれる、科目ごとの受講者のみがアクセスできる Web サイトを作成し、コース作成者の権限を持ったユーザのみが、コースサイトの中に、講義テキストなどのリソースや、テスト・チャット・掲示板などのモジュールの設置や成績管理などを行うことができる。

以下の表に、Moodle の主な機能を示す。

なお、実際の Moodle の設定に関しては、3 章で紹介する。

表 1-3 Moodle における主な機能

| 機能            | 説明   |
|---------------|--|
| コースの追加・編集     | 学科や年度などのカテゴリを作成し、授業名・概要・開始日・終了日などの情報を入力したコースを作成・編集することができる |
| ブロック編集        | コースのレイアウトを変更することができる                                       |
| リソースの追加・編集    | それぞれの授業の教科書となるテキストページ・Web ページ・ファイルなどを追加・編集することができる         |
| 活動モジュールの追加・編集 | チャットや課題・小テストなどの活動モジュールを追加・編集することができる                       |
| ユーザ登録         | コースに参加できる教員・学生等の登録を行うことができる                                |
| ユーザ登録方法       | コースサイトに学生を登録する際、学生に自己登録させたり、教員が手動で登録したりすることができる            |
| バックアップ        | コース・ユーザのバックアップを行うことができる                                    |
| ロケーション        | Moodle を使用している国やタイムゾーン等を設定できる                              |
| 言語設定          | 使用しているデフォルトの言語の設定・編集および言語パックのインストールができる                    |
| プラグイン         | 使用している活動モジュールやブロック等の表示・非表示などの設定ができる                        |
| セキュリティ        | ログインの方法やユーザ名の表示方法等の設定を行うことができる                             |
| アピアランス        | Moodle のテーマ(デザイン)・カレンダー・HTML エディタなどの仕様変更ができる               |
| フロントページ       | Moodle にログインした際のメインページとなるフロントページの設定を行うことができる               |
| サーバ           | ユーザのログアウトまでの時間や e メール、ログの保存期間等、サーバに関する設定ができる               |
| レポート          | コースごとのログや、ユーザあるいは日付ごとのログなどの詳細を閲覧することができる                   |

## 第1章 サーバ概要

また、コースを作成するにあたり、授業のテキストとして利用できる主な「リソース」を以下の表に示す。

表 1-4 Moodle における主なリソース

| リソース名        | 説明   |
|--------------|--|
| テキストページの作成   | テキスト（文字）および空白や改行、HTML タグのみで構成された、シンプルなページを作成することができる                                 |
| ウェブページの作成    | Moodle 内に埋め込まれている HTML ブラウザエディタを用いて、Word のような感覚で Web ページを作成することができる                  |
| ファイル・サイトにリンク | コンピュータ上にある PDF、Word 文書、Excel ブック、画像・動画・音声ファイルなどのアップロードを行うことや、外部の Web サイトへリンクすることができる |
| ディレクトリの表示    | コース内のファイル一覧を表示し、目的のファイルを利用することができる。  |

リソースに対し、掲示板などのコミュニケーションツールやテスト・簡易投票などを行うための主な「活動モジュール」を以下の表に示す。

表 1-5 Moodle における主な活動モジュール

| 活動モジュール名     | 説明  |
|--------------|---|
| Wiki モジュール   | コースのメンバーが誰でも自由に書き込むことができ、共同のプロジェクトなどに利用できる  |
| チャットモジュール    | 時間を設定しチャットを行うことができ、オフィスアワーなどに利用できる          |
| データベースモジュール  | 学生の作品などのファイルを保存・閲覧できるデータベースを作成できる           |
| フォーラムモジュール   | 学生同士、教員同士、あるいは教員と学生が情報を交換できる掲示板を設置できる       |
| レッスンモジュール    | 解説のページとテストのページを組み合わせて、レッスン教材を作成できる          |
| ワークショップモジュール | 学生同士による課題の評価を行うことができる                       |
| 小テストモジュール    | ×問題や作文問題など、さまざまな形式のテストを作成できる                |
| 投票モジュール      | 学生の理解度や要望、多数決などを採る際に利用できる                   |
| 用語集モジュール     | 語彙集など、コース用の辞書を作成・閲覧することができる                 |
| 課題モジュール      | 教員が学生に対して、様々なファイル形式のアップロードによる課題を提出させることができる |

## 第 1 章 サーバ概要

### (4) Knowledge Deliver について

#### Knowledge Deliver とは

Knowledge Deliver は、株式会社デジタル・ナレッジが提供する、学習の進捗・成績など、受講者の管理を行う LMS ( Learning Management System : 学習管理システム ) および教材の作成・単元設定・コンテンツ等の管理を行う LCMS ( Learning Content Management System : 学習コンテンツ管理システム ) を組み合わせた、商用の統合 e ラーニングプラットフォームである。

LCMS を利用することにより、すでに作成している PowerPoint プレゼンテーションや Word 文書、動画ファイルなどを元に、コンテンツ BOX を用いてアップロードを行った後、音声やテロップを加えることができ、受講者によりわかり易いオリジナル教材を作成することができる。

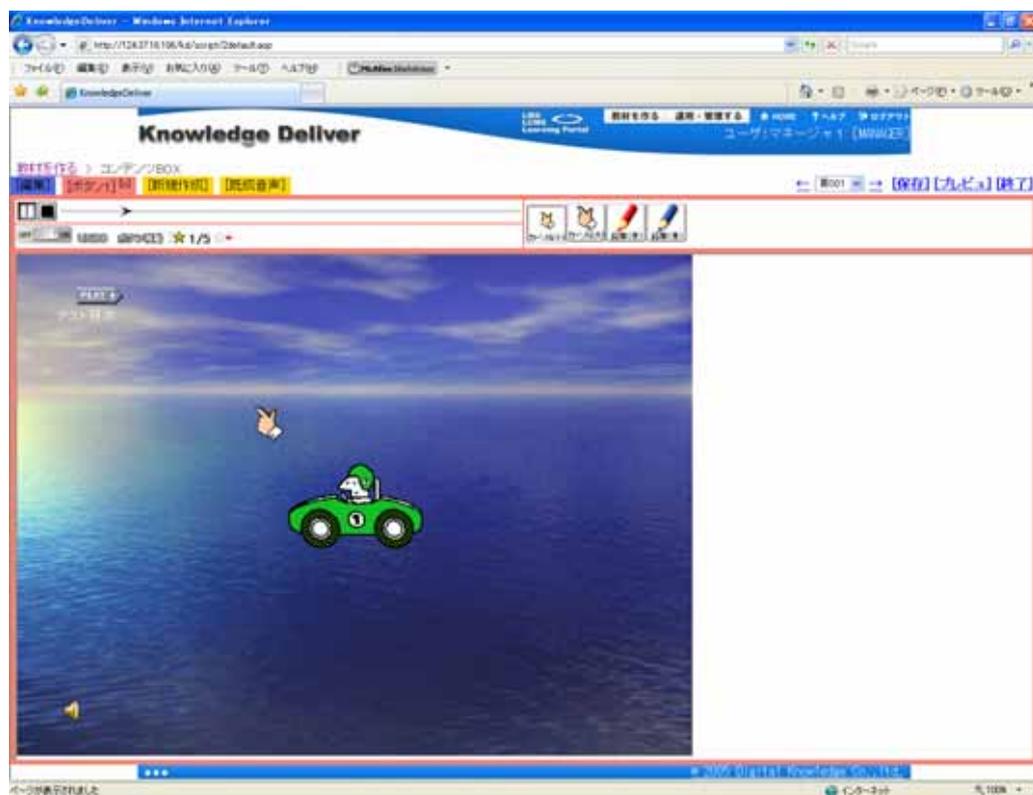


図 1-4 Knowledge Deliver コンテンツ BOX

## 第1章 サーバ概要

その後、コースを作成し、教材をコースに当てはめていく。

受講者はコースにあわせて、教材を用いて受講することができ、LMS を利用して受講者の学習履歴や進捗状況、問題解答の正答率などの管理を行うことができる。



図 1-5 Knowledge Deliver コース選択画面

### Knowledge Deliver の機能

Knowledge Deliver の機能は、「教材作成」および「運用・管理」の2つの機能に分けることができる。

教材作成機能では、受講者が受講するコースの作成、およびコース内に配置する教材のアップロード、および音声やテロップの追加を行うことができる。

一方、運用・管理機能では、受講者のユーザ登録や受講状況・学習震度のチェックなど、受講者管理の他、各ページのインフォメーション設定、各コースについてのFAQ管理など、システムの設定を行うことができる。

それぞれの機能について、次ページ以降の表に述べる。

# 第 1 章 サーバ概要

表 1-6 Knowledge Deliver における教材作成機能

| 機能             | 説明  |
|----------------|---|
| フォルダ作成         | 作成した教材をアップロードして入れておくフォルダを作成・編集することができる  |
| コンテンツ追加・作成     | 既存の PowerPoint プレゼンテーション・Word 文書・を用いて、教材をアップロードすることができる                           |
| 指示動作・音声の付加     | アップロードした PowerPoint プレゼンテーションなどに、マーカーやポインタ等の指示動作や音声を、画面上で録画することや、既存の音声を付加することができる |
| テキスト打ち込み       | テキストを画面内で直接入力し、教材を作成することができる  |
| HTML アップロード    | Word 文書や画像・音声・動画ファイルなど、複数のファイルをまとめてアップロードし、その場で Web ページの教材を作成する                   |
| Web ページ参照・映像参照 | あらかじめアップロードした HTML ファイル・動画ファイルを、教材として利用することができる                                   |
| テスト教材作成        | PowerPoint プレゼンテーションを用いることや、直接テキスト入力を行うことにより、×問題・複数選択問題・記述式問題などのテスト問題を作成することができる  |
| コース作成          | コースおよび章・単元を作成し、教材を割り当て、コースをアップロードすることができる   |



図 1-6 Knowledge Deliver 教材作成画面

# 第1章 サーバ概要

表 1-7 Knowledge Deliver における運用・管理機能

| 機能               | 説明  |
|------------------|---|
| ユーザ登録・編集         | MANAGER（管理者）や、USER（コース受講を行う受講者）の登録および編集を行う                          |
| 部門作成             | 部門を作成し、ユーザを部門ごとに管理することができる  |
| ユーザデータのインポート     | CSV ファイルを用いて、ユーザの一括登録を行うことができる                                      |
| ユーザデータのエクスポート    | システム上にあるユーザデータを、ローカル環境へ書き出すことができる                                   |
| 受講者別受講状況         | 受講者を絞り込み、学習開始日・前回学習日・受講期限・修了日・学習時間・進捗率・正解率・ログイン回数などの学習進捗を確認することができる |
| コース別受講状況         | コース単位で、学習完了者数・テスト正答率・平均学習時間を確認することができる                              |
| 質問管理             | 受講者からの質問を確認し、返信することができる   |
| インフォメーション設定      | コースごとの「お知らせ」や、全体に対する「お知らせ」を作成・更新することができる                            |
| FAQ 管理           | 各コースおよび全般的な FAQ を作成・更新することができる                                      |
| HOME 画面カスタマイズ    | 「教材を作る」などのタブや、FAQ、掲示板などの表示・非表示を設定できる                                |
| デザインカスタマイズ       | タイトルロゴの画像や、コピーライトおよびシステム名のテキスト部分を編集できる                              |
| システムメール設定        | 自動送信メールの送信者名義や送信者メールアドレスを設定できる                                      |
| メールテンプレート設定      | ユーザ登録完了メールなど、自動送信されるメールの文面を登録することができる                               |
| SCORM コンテンツの読み込み | Knowledge Deliver 以外のシステムで利用した e ラーニング用教材を転用することができる                |



図 1-7 Knowledge Deliver 運用・管理画面



## 第2章 EC-CUBE サーバの設定

### 2.1 EC-CUBE のインストール

#### (1) システム要件

EC-CUBE のサーバを構築し、インストールを行う場合は、ソフトウェア要件・最小構成のハードウェア構成・および対応ブラウザについて条件を満たしている必要がある。

以下、提供元のロックオン社が示している各要件について述べる。

#### ソフトウェア要件

EC-CUBE をインストールする際に必要なソフトウェア要件を、以下の表に示す。

表 2-1 ソフトウェア要件

| 分類     | ソフトウェア   | 動作確認済み  |
|--------|----------|---|
| OS     | Windows  | Windows 2000 Professional<br>Windows 2000 Server<br>Windows 2003 Server<br>Windows XP Professional<br>Windows NT Workstation 4.0<br>Windows NT Server 4.0 |
|        | UNIX     | Linux glibc 2.1/2.2/2.3<br>FreeBSD 5.4 以降   |
| 言語     | PHP      | PHP4.1.x 以降<br>PHP5.0.x 以降  |
| ライブラリ  | 画像生成     | freetype2 2.1.x 以降<br>gd 2.0.x 以降   |
| データベース | Postgres | PostgreSQL 7.4.x 以降   |
|        | MySQL    | MySQL4.1 以上<br>(MySQL5.x 系を含む)  |

出所：「EC-CUBE 公式サイト」<http://ec-cube.net/>

#### ハードウェア構成

EC-CUBE をインストールする際に必要なハードウェア構成（最小値）を、以下の表に示す。

表 2-2 ハードウェア構成（最小値）

| ハードウェア | 最小値                           |
|--------|-------------------------------|
| CPU    | Intel Pentium 互換 300MHz 以上を推奨 |
| メモリ    | OS の最低動作環境以上                  |
| HDD    | 50MB 以上を推奨<br>商品情報の登録情報は含まない  |

出所：「EC-CUBE 公式サイト」<http://ec-cube.net/>

## 第 2 章 EC-CUBE サーバの設定

### 管理機能対応ブラウザ

EC-CUBE の管理機能を使用する際に対応しているブラウザについて、以下の表に示す。

表 2-3 管理機能対応ブラウザ

| ブラウザ                        | 対応バージョン        |
|-----------------------------|----------------|
| Microsoft Internet Explorer | 6.0 ( SP1 ) 以上 |
| Fire Fox                    | 1.5.0.4 以上     |

出所 : 「EC-CUBE 公式サイト」 <http://ec-cube.net/>

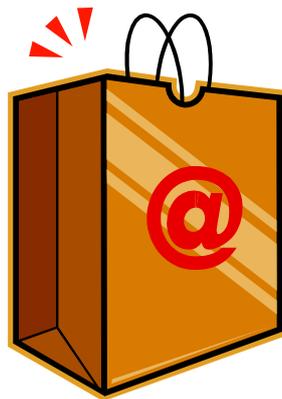
### (2) EC-CUBE が使用可能なレンタルサーバ

EC-CUBE をインストールする際、自身で用意したサーバでなく、レンタルサーバを使用する場合は、2009 年 1 月 16 日現在、以下のレンタルサーバが使用可能である。

#### オフィシャルパートナー

EC-CUBE をホスティングの付属サービスとして導入しているレンタルサーバ会社のうち、契約すれば最初から EC-CUBE を使用できる会社を「オフィシャルパートナー」と呼ぶ。

2009 年 1 月 16 日時点で EC-CUBE のオフィシャルサイトに挙げられている、オフィシャルパートナーを次ページの表に示す。



## 第2章 EC-CUBE サーバの設定

表2-4 オフィシャルパートナー一覧

| サービス名                         | 対応バージョン        | 詳細  |
|-------------------------------|----------------|---|
| KAGOYA<br>Internet<br>Routing | ver.1<br>ver.2 | カゴヤ・ジャパン株式会社が提供している、高品質ホスティングサービス。<br>独自のコントロールパネルからインストール先を選択するだけの簡単操作で、EC-CUBE をインストールすることができる。<br>インストールに関する不明な点は、電話サポートも対応している。   |
| WADAX                         | ver.2          | 株式会社ワダックスが提供している、高機能・高セキュリティのサーバを手ごろな価格で提供しているホスティングサービス。<br>使用するにはインストールが必要であるが、代行設定も行っている。  |
| iSLE<br>(アイル)                 | ver.2          | GMO ホスティング&セキュリティ株式会社が提供しているホスティングサービス。<br>マルチドメイン対応共用サーバ「Infinito」にて EC-CUBE が標準搭載されている。   |
| ラピッド<br>サイト                   | ver.1<br>ver.2 | GMO ホスティング&セキュリティ株式会社が提供しているホスティングサービス。<br>ラピッドサイトの「VPS サービス」では、EC-CUBE が標準装備されている。<br>また、設定代行も行っている。   |
| クララ<br>オンライン                  | ver.1<br>ver.2 | 株式会社クララオンラインが提供しているホスティングサービス。<br>「Linux FPS サービス」及び「Linux 専用サーバサービス」にて、EC-CUBE を使用することができる。  |
| 使えるねっと                        | ver.1<br>ver.2 | 株式会社 JMF が提供しているホスティングサービス。<br>簡単インストールツールにて EC-CUBE をインストールできる。  |
| Joe's ウェブ<br>ホスティング           | ver.1<br>ver.2 | 株式会社 Joe's ウェブホスティングが提供しているホスティングサービス。<br>全共用サーバおよび専用サーバから、「Joe's の素(フルマネージド)」のコントロールパネル「CPanel」から、無償で EC-CUBE をワンタッチでインストールできる。<br>また、バージョンアップの都度、検証の上問題の生じない限り、無償で最新版にアップデートする処理を行っている。 |

出所：「EC-CUBE 公式サイト」<http://ec-cube.net/>

## 第2章 EC-CUBE サーバの設定

### 動作検証済みレンタルサーバ

EC-CUBE をホスティングの付属サービスとして導入しているレンタルサーバ会社のうち、サービス提供会社の協力の下、EC-CUBE 開発チームが EC-CUBE のインストール、動作検証を行ったレンタルサーバを「動作検証済みレンタルサーバ」と呼ぶ。

2009年1月16日時点で EC-CUBE のオフィシャルサイトに挙げられている、動作検証済みレンタルサーバを以下の表に示す。

表 2-5 動作検証済みレンタルサーバ一覧

| サービス名      | 対応バージョン | 詳細  |
|------------|---------|---|
| アスカレンタルサーバ | ver.2   | 株式会社ロジックリンクが提供しているホスティングサービス。<br>EC-CUBE のインストールに関して、ユーザーマニュアルが公開されている。<br>また、EC-CUBE の文字化け対応パッチ済みデータをサイトよりダウンロードできる。 |
| ABLENET    | ver.2   | 株式会社ケイアンドケイコーポレーションが提供しているホスティングサービス。<br>EC-CUBE のサポートは対応していないが、サイトに EC-CUBE のインストール手順がキャプチャ画像と共に公開されている。             |
| CPI        | ver.1   | 株式会社 KDDI ウェブコミュニケーションズが提供しているホスティングサービス。<br>サイトには EC-CUBE のインストール手順が公開されている。   |
| ドライブネットワーク | ver.1   | 株式会社シーポイントが提供しているホスティングサービス。<br>オンラインヘルプページ（管理画面）より、ワンクリックでインストールできる。   |
| Web Arena  | 明記なし    | 株式会社エヌ・ティ・ティ・ピー・シーコミュニケーションズが提供しているホスティングサービス。  |

出所：「EC-CUBE 公式サイト」<http://ec-cube.net/>

## 第2章 EC-CUBE サーバの設定

### EC-CUBE が使われているレンタルサーバ

EC-CUBE をホスティングの付属サービスとして導入しているレンタルサーバ会社のうち、EC-CUBE 開発チームが動作確認は行っていないが、レンタルサーバサービスに EC-CUBE を搭載しているレンタルサーバを「EC-CUBE が使われているレンタルサーバ」と呼ぶ。

2009 年 1 月 16 日時点で EC-CUBE のオフィシャルサイトに挙げられている、EC-CUBE が使われているレンタルサーバを以下の表に示す。

表 2-6 EC-CUBE が使われているレンタルサーバ一覧

| サービス名     | 提供元             |
|-----------|-----------------|
| まるごとサーバー  | GMO インターネット株式会社 |
| レンサーバ.com | GMO インターネット株式会社 |
| @YMC      | 株式会社@YMC        |

出所：「EC-CUBE 公式サイト」<http://ec-cube.net/>

### EC-CUBE が使えるレンタルサーバ

EC-CUBE をホスティングの付属サービスとして導入しているレンタルサーバ会社のうち、EC-CUBE 開発チームが動作確認は行っていないが、レンタルサーバ会社から EC-CUBE を利用できることを報告を受けているレンタルサーバを「EC-CUBE が使えるレンタルサーバ」と呼ぶ。

2009 年 1 月 16 日時点で EC-CUBE のオフィシャルサイトに挙げられている、EC-CUBE が使えるレンタルサーバを以下の表に示す。

表 2-7 EC-CUBE が使えるレンタルサーバ一覧

| サービス名                | 提供元               |
|----------------------|-------------------|
| インフォジャム              | 株式会社インフォジャム       |
| XREA ( エクスリア )       | 株式会社デジロック         |
| AT+LINK<br>専用サーバサービス | 株式会社リンク           |
| XSERVER              | 株式会社ベット           |
| ファーストサーバ             | ファーストサーバ株式会社      |
| WEBMASTERS           | 株式会社イーサポート        |
| Xbit                 | 株式会社アイティーブースト     |
| hateml ( ヘテムル )      | 株式会社 paperboy&co. |

出所：「EC-CUBE 公式サイト」<http://ec-cube.net/>

## 第 2 章 EC-CUBE サーバの設定

### (3) データベースの作成

ここからは、EC-CUBE をインストールする為に必要な作業にとりかかる。

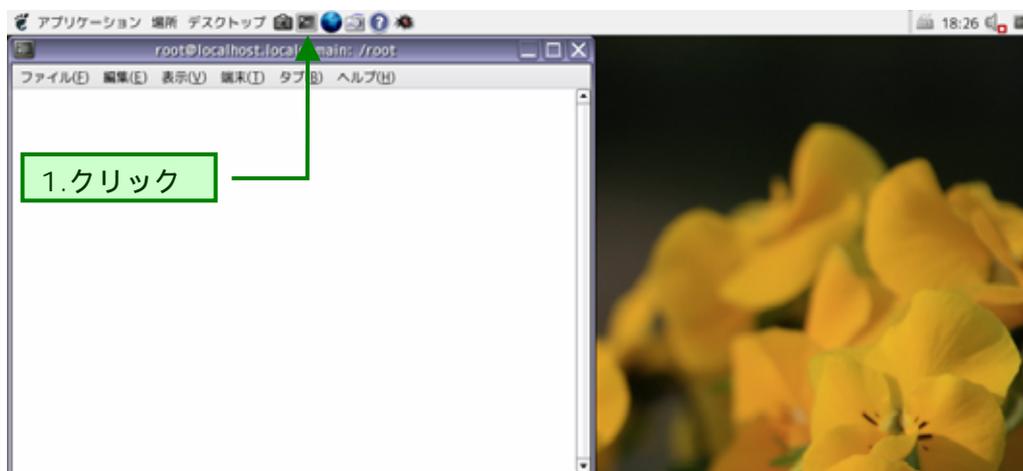
まずは、EC-CUBE をインストールする際に必要なデータベースを作成する。

本テキストでは、データベース作成に必要なソフトウェアとして、MySQL を用いて操作説明を進める。

また、Web サーバのソフトウェアである Apache2 およびがインストールされている環境での説明を行う為、Apache2、PHP および MySQL およびをインストールする必要がある場合は、3 章の補足「Apache2、PHP、MySQL パッケージのダウンロード」を参考にしていただきたい。

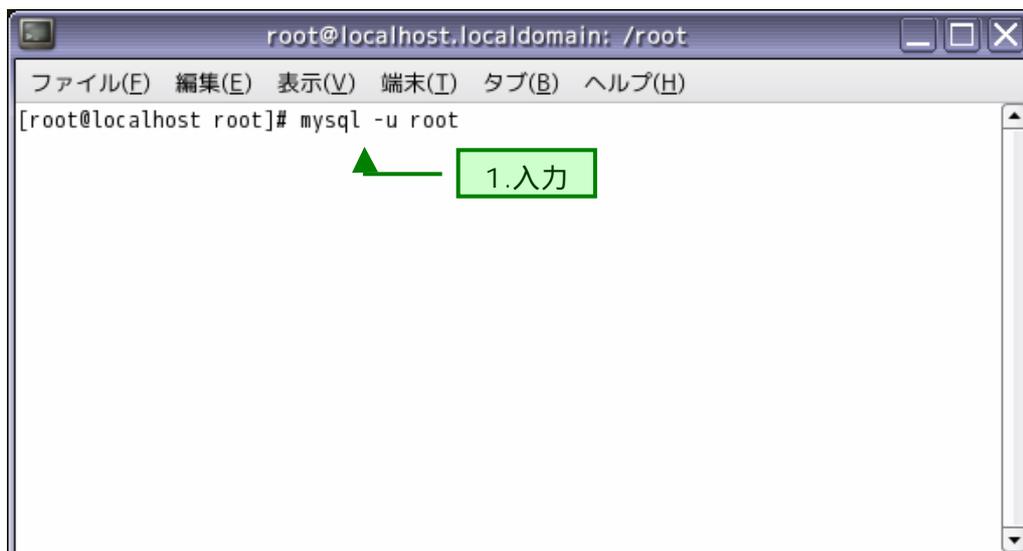
1

[パネル] [GNOME 端末]をクリックする。



2

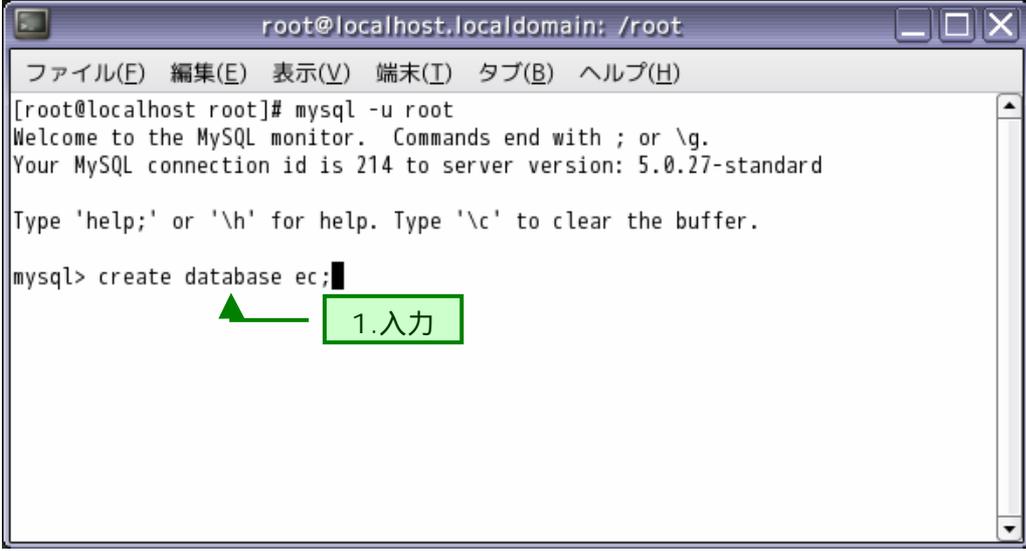
MySQL へ root 権限でログインする。



## 第2章 EC-CUBE サーバの設定

3

任意の名前のデータベースを作成する。  
今回は「ec」という名前でデータベースを作成する。



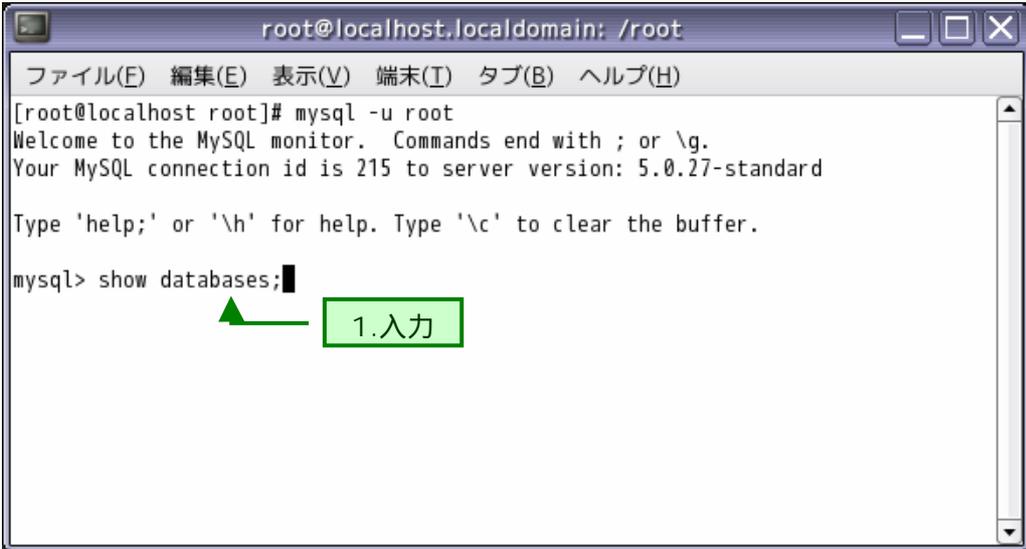
```
root@localhost.localdomain: /root
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) 端末(T) タブ(B) ヘルプ(H)
[root@localhost root]# mysql -u root
Welcome to the MySQL monitor.  Commands end with ; or \g.
Your MySQL connection id is 214 to server version: 5.0.27-standard

Type 'help;' or '\h' for help. Type '\c' to clear the buffer.

mysql> create database ec;
      ▲ 1.入力
```

4

現在作成されているデータベースを確認する。



```
root@localhost.localdomain: /root
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) 端末(T) タブ(B) ヘルプ(H)
[root@localhost root]# mysql -u root
Welcome to the MySQL monitor.  Commands end with ; or \g.
Your MySQL connection id is 215 to server version: 5.0.27-standard

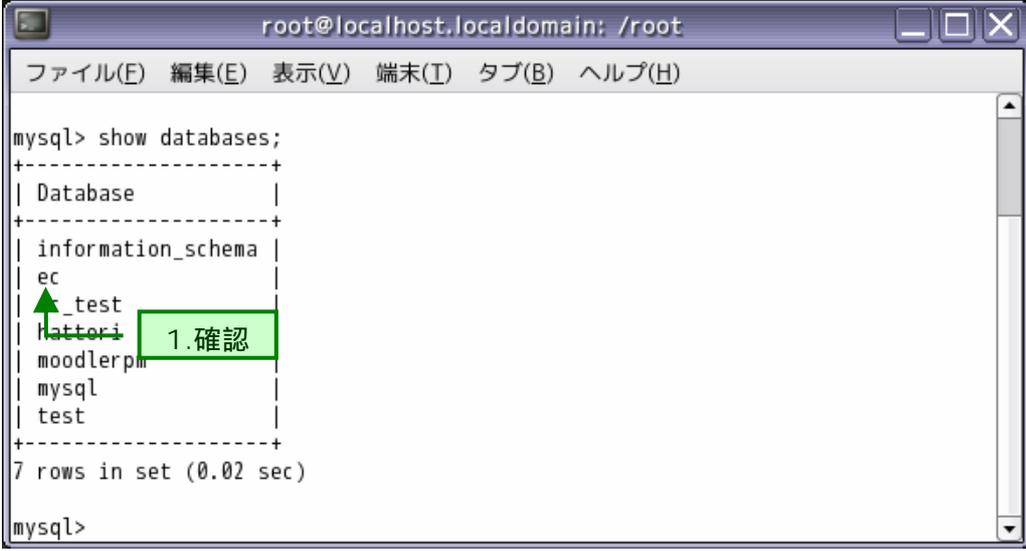
Type 'help;' or '\h' for help. Type '\c' to clear the buffer.

mysql> show databases;
      ▲ 1.入力
```

## 第2章 EC-CUBE サーバの設定

5

現在作成されているデータベースが一覧で表示される。  
「ec」という名前のデータベースが作成されている事を確認する。

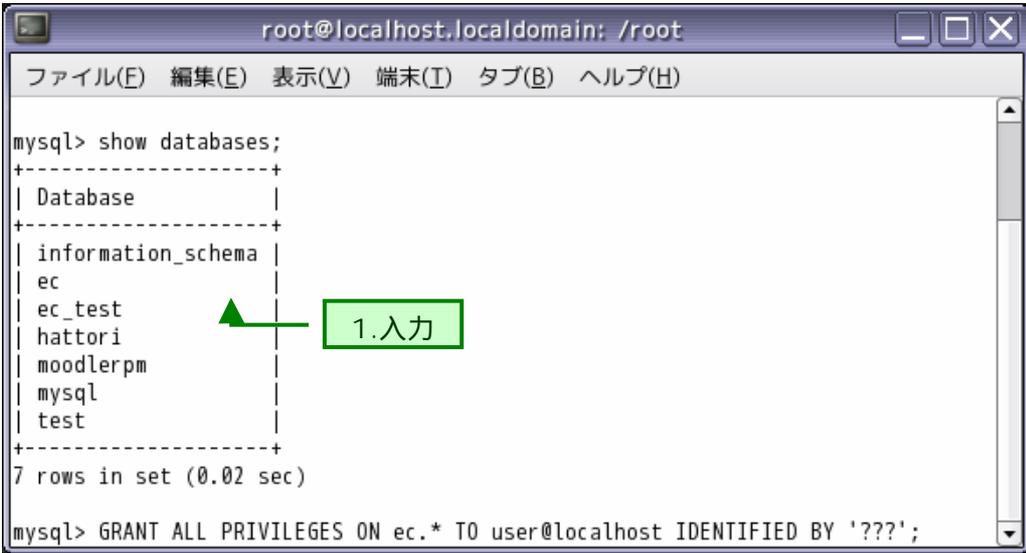


```
root@localhost.localdomain: /root
mysql> show databases;
+-----+
| Database |
+-----+
| information_schema |
| ec          |
| ec_test     |
| hattori     |
| moodlerpm   |
| mysql       |
| test        |
+-----+
7 rows in set (0.02 sec)

mysql>
```

6

「ec」データベース内に「user」というユーザ名を作成し、そのユーザに任意のパスワードを設定する。  
「???'の部分に任意のパスワードを入力する。



```
root@localhost.localdomain: /root
mysql> show databases;
+-----+
| Database |
+-----+
| information_schema |
| ec          |
| ec_test     |
| hattori     |
| moodlerpm   |
| mysql       |
| test        |
+-----+
7 rows in set (0.02 sec)

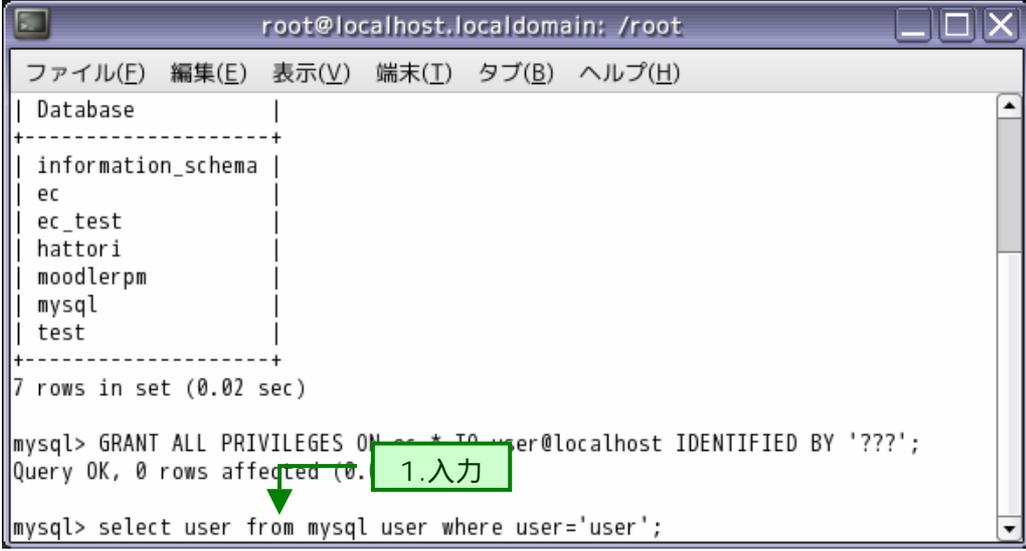
mysql> GRANT ALL PRIVILEGES ON ec.* TO user@localhost IDENTIFIED BY '???';
```

GRANT ALL PRIVILEGES ON [データベース名].\* TO [ユーザ名]@localhost  
IDENTIFIED BY '[パスワード]' with grant option

## 第2章 EC-CUBE サーバの設定

7

登録したユーザを入力し、ユーザとパスワードを確認する。



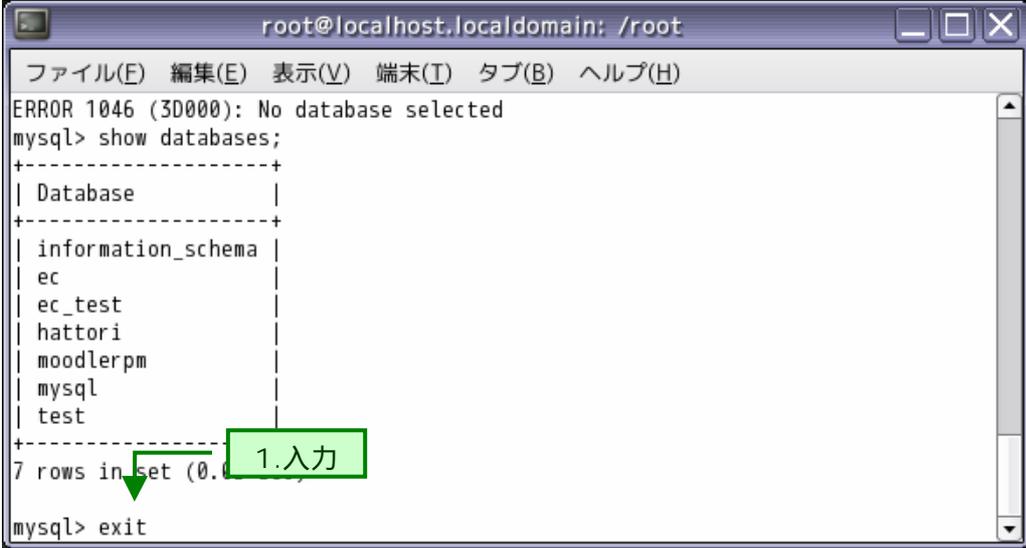
```
root@localhost.localdomain: /root
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) 端末(T) タブ(B) ヘルプ(H)
+-----+
| Database |
+-----+
| information_schema |
| ec |
| ec_test |
| hattori |
| moodlerpm |
| mysql |
| test |
+-----+
7 rows in set (0.02 sec)

mysql> GRANT ALL PRIVILEGES ON *.* TO user@localhost IDENTIFIED BY '???';
Query OK, 0 rows affected (0.00 sec)
mysql> select user from mysql user where user='user';
```

1.入力

8

My SQL からログアウトし、GNOME 端末を閉じる。



```
root@localhost.localdomain: /root
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) 端末(T) タブ(B) ヘルプ(H)
ERROR 1046 (3D000): No database selected
mysql> show databases;
+-----+
| Database |
+-----+
| information_schema |
| ec |
| ec_test |
| hattori |
| moodlerpm |
| mysql |
| test |
+-----+
7 rows in set (0.00 sec)
mysql> exit
```

1.入力

## 第2章 EC-CUBE サーバの設定

### (4) EC-CUBE のインストール

データベース作成完了後、続いて EC-CUBE のインストールを行う。

本テキストでは、付属の DVD に収録されているパッケージを用いた操作方法を紹介するが、EC-CUBE の Web サイトからパッケージをダウンロードする場合は、2 章の補足「EC-CUBE のダウンロード」を参考にいただきたい。

1

DVD 内の「eccube-2.3.2」zip ファイルをデスクトップへドラッグしてコピーする。



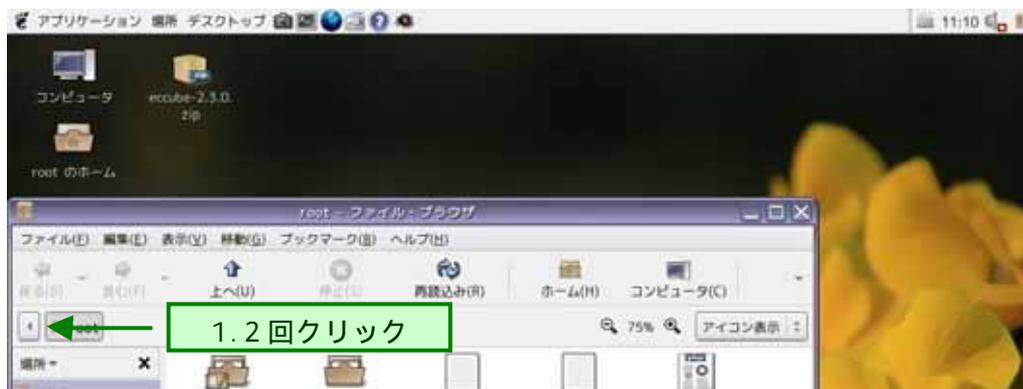
2

EC-CUBE をどこにインストールすれば良いか、apache2 内の httpd.conf を調べる。  
[root のホーム]をダブルクリックして開く。



3

ツールバー下部に、現在開かれているフォルダの位置が表示される。  
左向き ボタンを2回クリックし、[ファイルシステム]を開く。



## 第2章 EC-CUBE サーバの設定

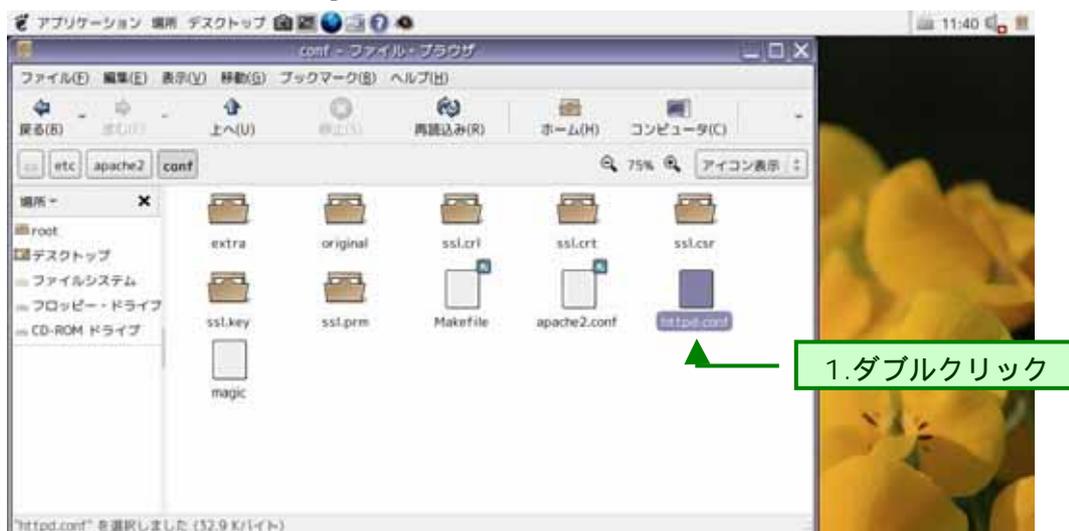
4

[etc]フォルダをダブルクリックして開く。



5

さらに[apache2]フォルダおよび[conf]フォルダをダブルクリックして開き、[conf]フォルダ内のファイル[httpd.conf]をダブルクリックして開く



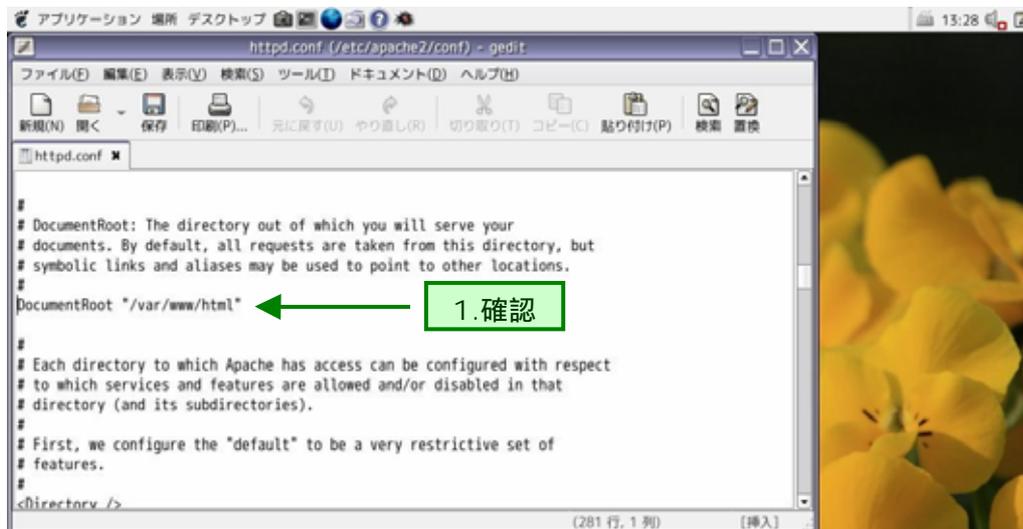
## 第2章 EC-CUBE サーバの設定

6

281 行目の DocumentRoot を確認する。

今回は「"/var/www/html"」となっている為、[var]フォルダ [www]フォルダ [html]フォルダ内にインストールを行う。

確認後、httpd.conf を閉じる。



7

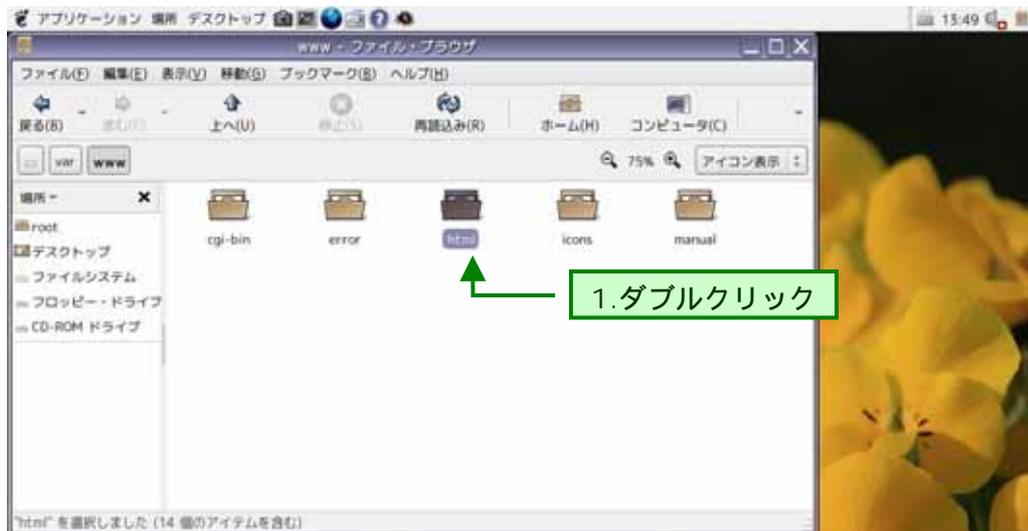
インストールするフォルダを開く為に、まず[ファイルシステム]を開く。



## 第2章 EC-CUBE サーバの設定

8

さらに[var]フォルダ [www]フォルダ [html]フォルダの順にダブルクリックして開く。



9

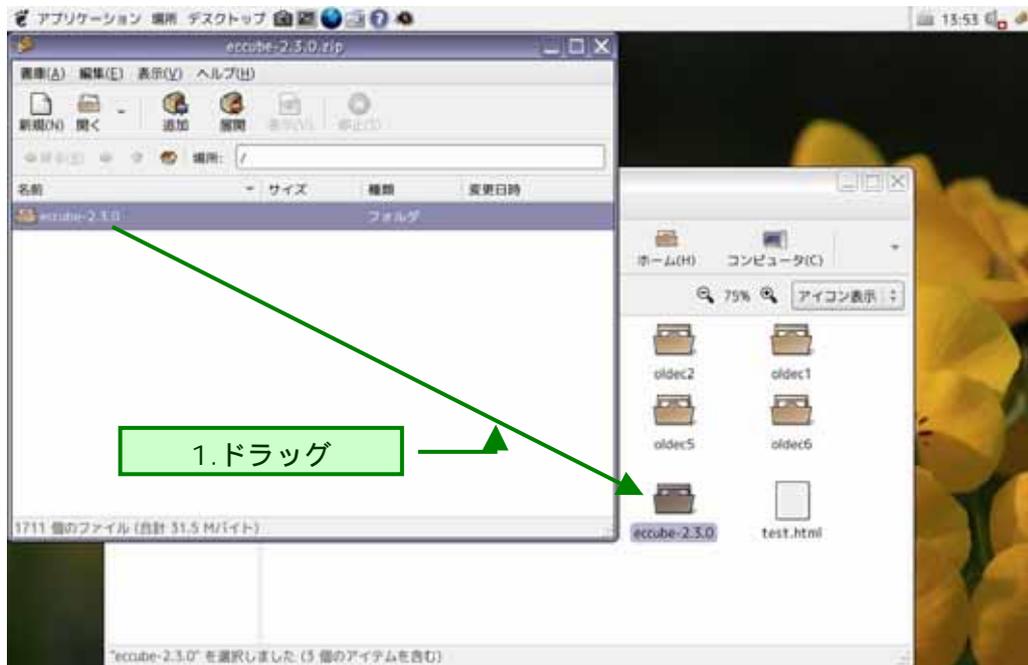
デスクトップへ移動しておいた「eccube-2.3.2」zip ファイルを、ダブルクリックして解凍する。



## 第2章 EC-CUBE サーバの設定

10

解凍したフォルダ「eccube-2.3.2」を、[html]フォルダ内へドラッグして移動する。



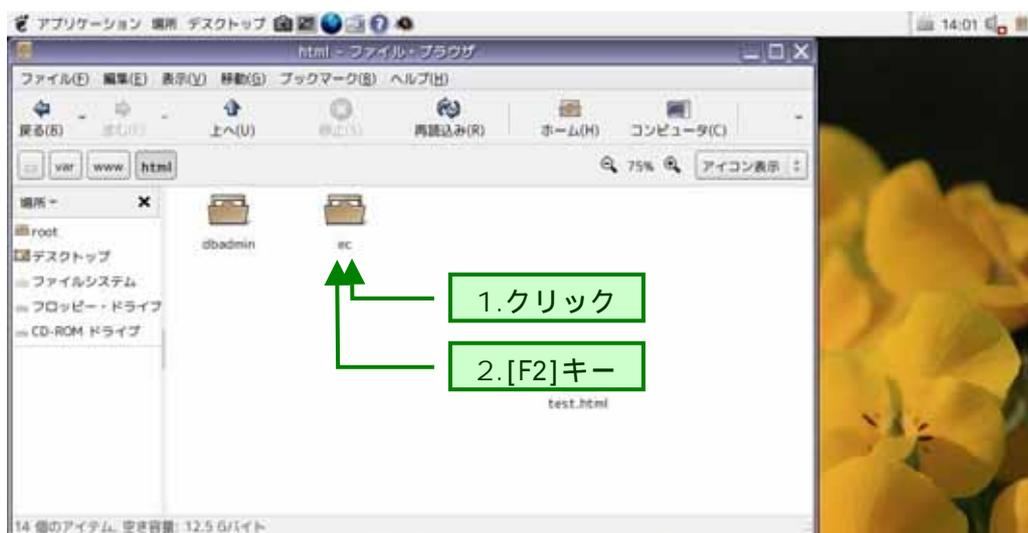
11

移動したフォルダ「eccube-2.3.2」を、簡潔な名前に変更する。

今回は「ec」という名前に変更する。

(以後、移動したフォルダ名を入力する箇所がある場合、本テキストでは「ec」と入力する。)

フォルダの名前を変更する場合は、フォルダをクリックして選択し、[F2]キーを押すと名前の編集モードになる。



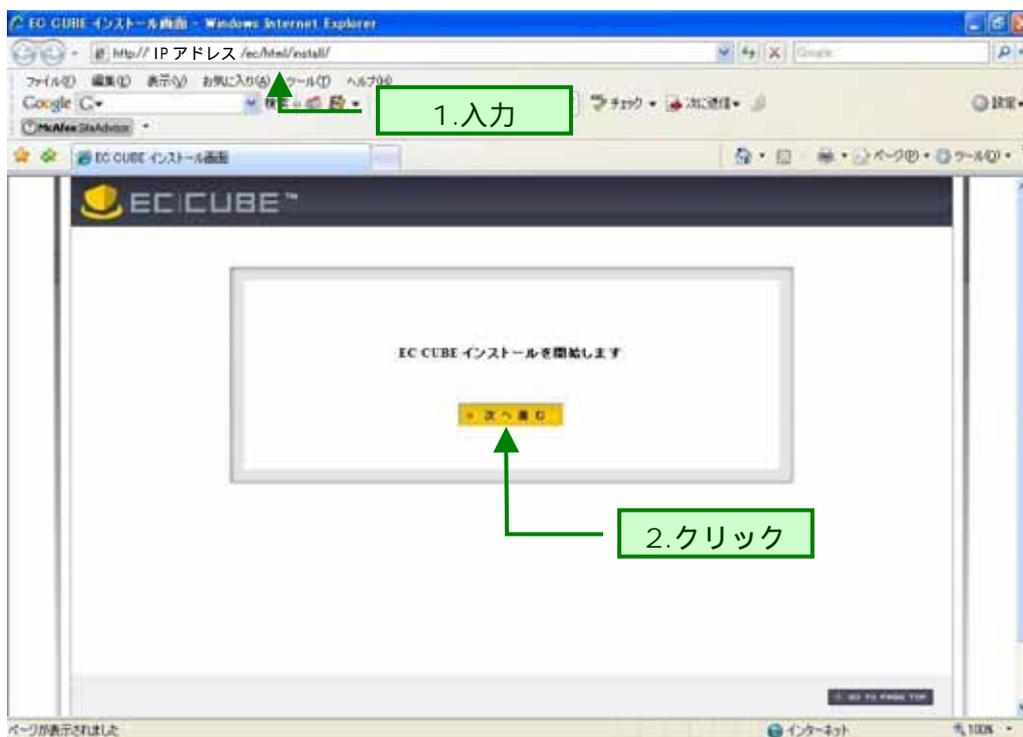
## 第2章 EC-CUBE サーバの設定

**12** つづけて、クライアントとして使用するパソコンのブラウザより EC-CUBE のインストールを始める。

「http://[先ほど参照した DocumentRoot を表示できる IP アドレス]/ec/html/install」  
へアクセスする。

ルータでの IP アドレスの確認、固定 IP の設定、およびポート番号の変更が必要な場合は、7章の付録「ルータの設定」を参考にしていきたい。

インストール開始画面が表示された事を確認し、[次へ進む]をクリックする。



## 第 2 章 EC-CUBE サーバの設定

13

アクセス権限のチェックが行われる。

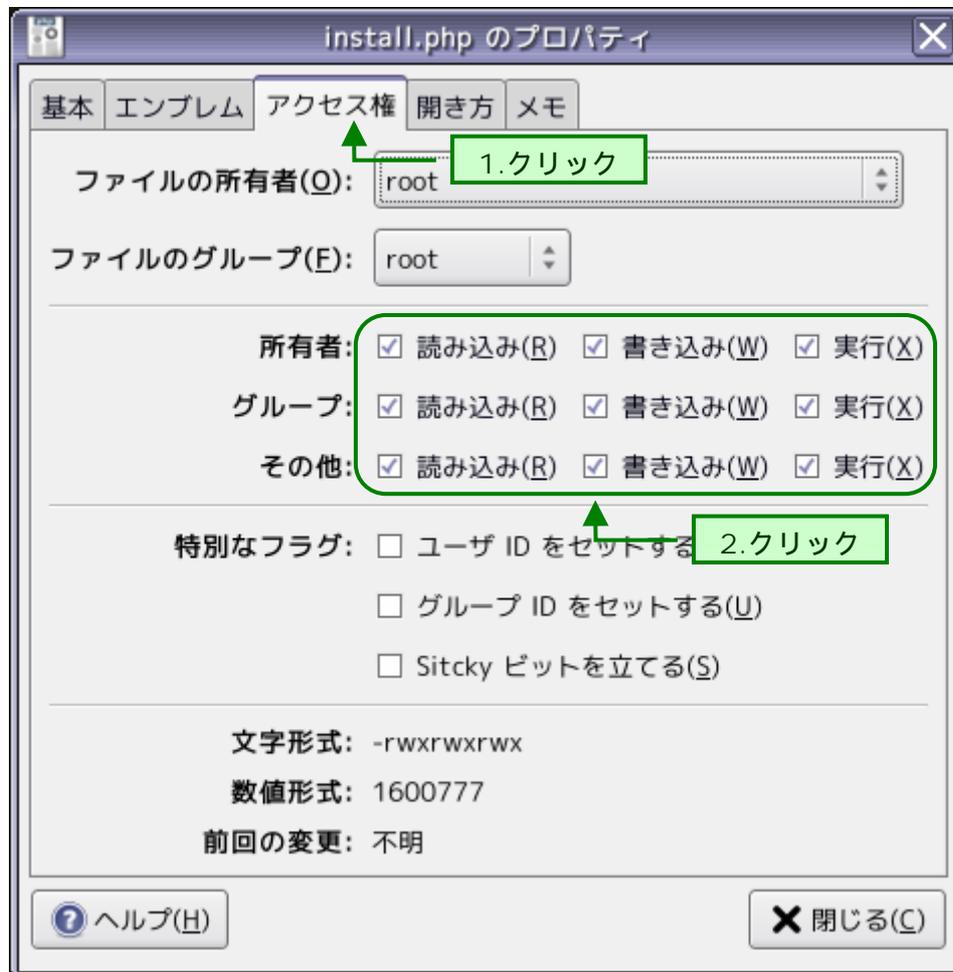
属性の変更が必要な場合は、変更するファイルがリスト表示される。

( 以下インストール中のサーバのマシンで操作を行う )

[ec]フォルダの中から、目的のフォルダ内の変更するファイルを探す。

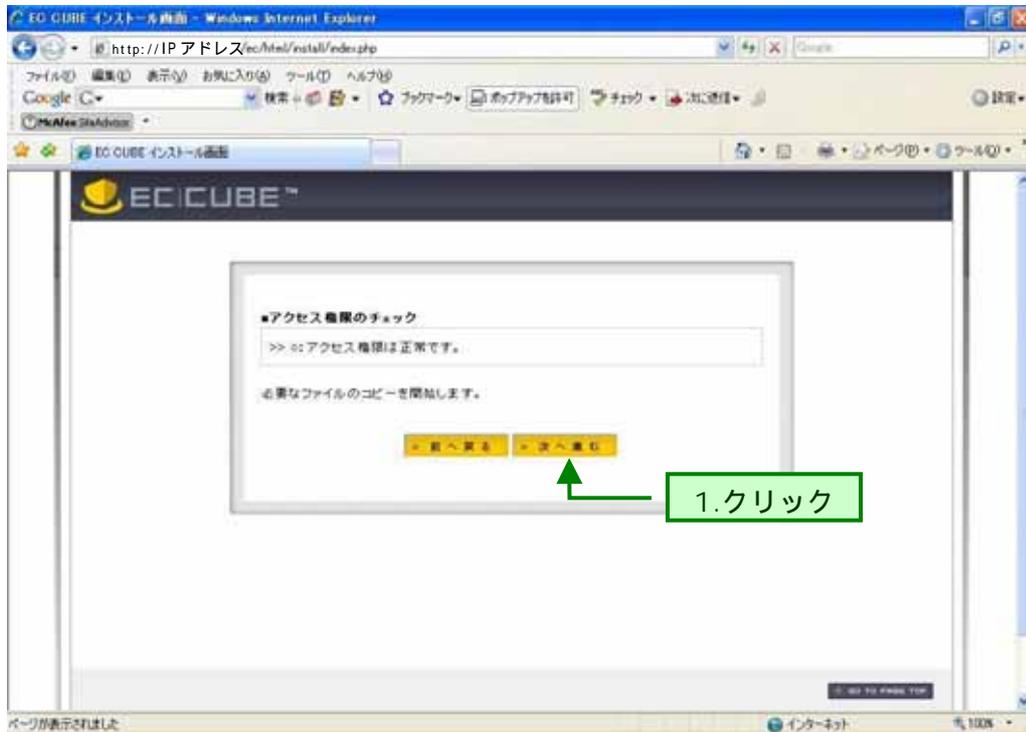
探したファイルを右クリック [プロパティ]をクリックする。

プロパティのダイアログボックスの中から、[アクセス権]タブをクリックする。  
読み込み・書き込み・実行の各チェックボックスをクリックし、チェックを入れる。

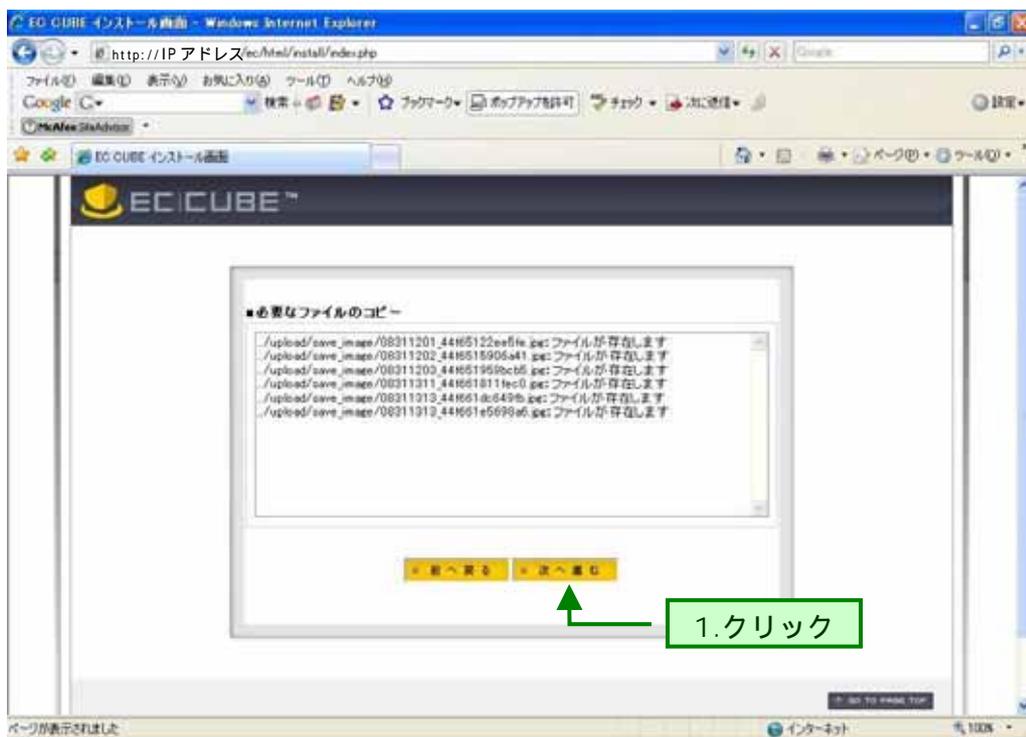


## 第2章 EC-CUBE サーバの設定

- 14** 属性の変更が必要ない場合、あるいはすべて属性を変更し、再チェックを行い問題なければ、下記の画面が表示される。  
[次へ進む]をクリックする。



- 15** 必要なファイルのコピーが開始される。  
コピー完了後、[次へ進む]をクリックする。

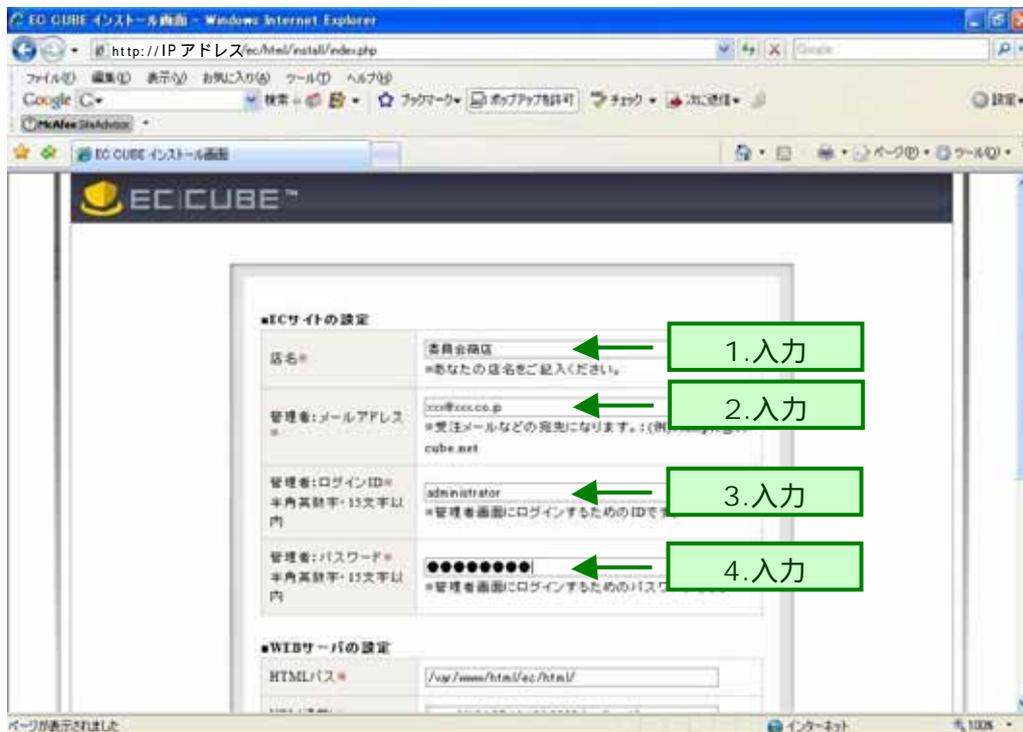


## 第2章 EC-CUBE サーバの設定

16

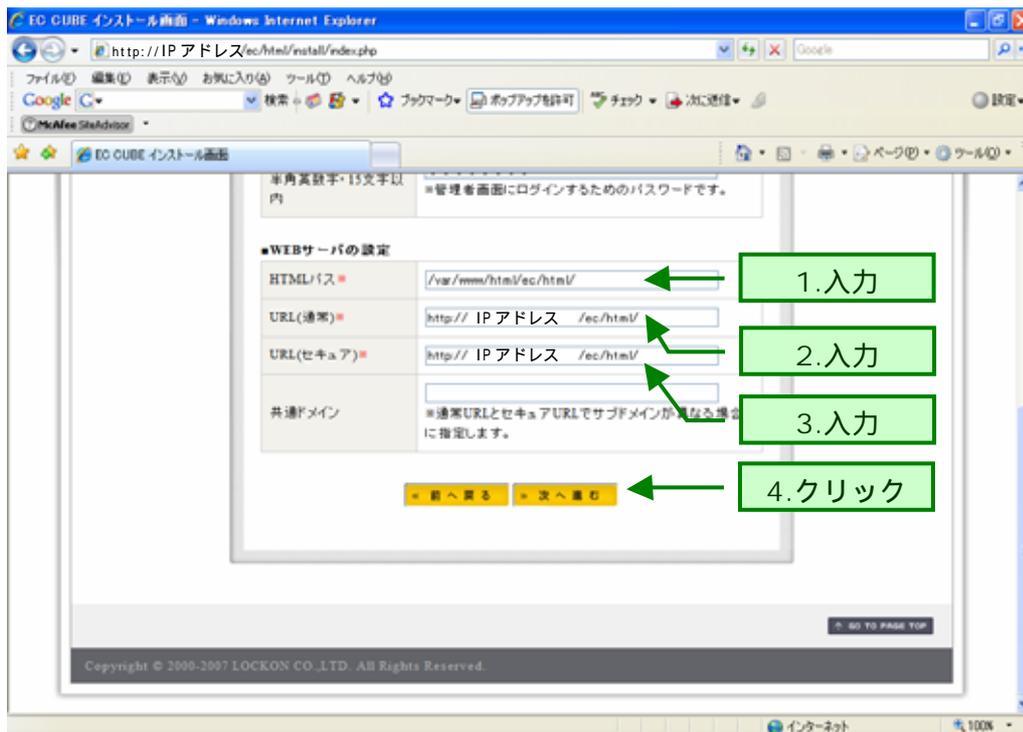
EC サイトの設定画面が表示される。

店名、管理者のメールアドレス（後ほど受注メールなどが届く）、および後ほど必要な管理画面の任意のログイン ID およびパスワードを設定する。



17

続いて、Web サーバの設定を行う。HTML パス（[ec]フォルダ内の[html]フォルダの位置）URL（「http://[DocumentRoot を表示できる IP アドレス]/ec/html/」）を入力する。「URL（セキュア）」は、暗号化しない場合は URL（通常）と同じものを入力する。入力完了後、[次へ進む]をクリックする。



## 第2章 EC-CUBE サーバの設定

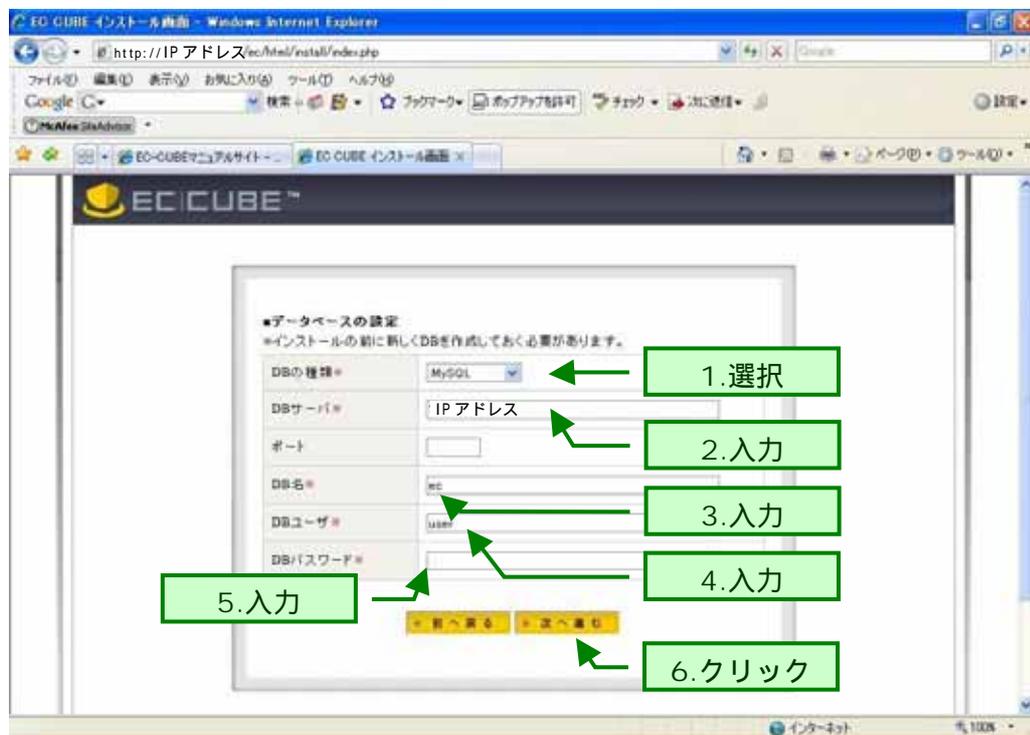
**18** データベースの設定画面が表示される。[DBの種類]は、インストールしているデータベースを右側下向き ボタンをクリックし、プルダウンメニューの一覧から選択する。

[DBサーバ]は、データベースがインストールされているサーバのアドレス（IP アドレス）を入力する。

[ポート]は、MySQL を使用する場合で、ポート番号を変更する必要がある場合のみ入力する。

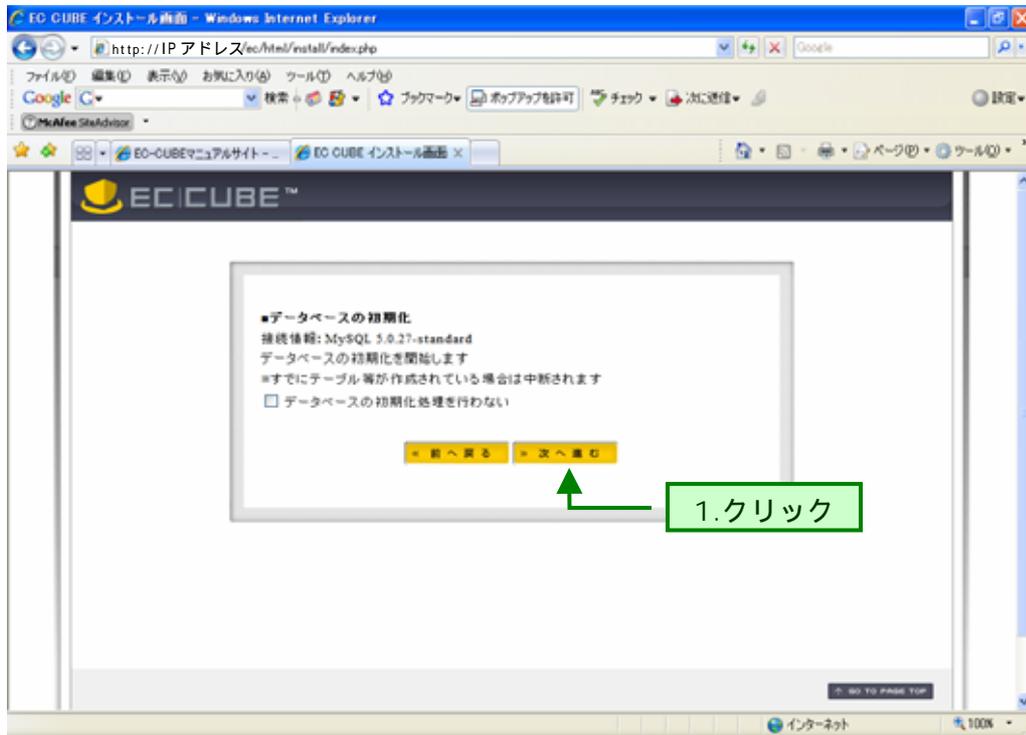
[DB名]、[DB ユーザ]および[DB パスワード]は、「(3)データベースの作成」にて指定したデータベース名、ユーザ名およびパスワードを入力する。

全て入力完了後、[次へ進む]をクリックする。

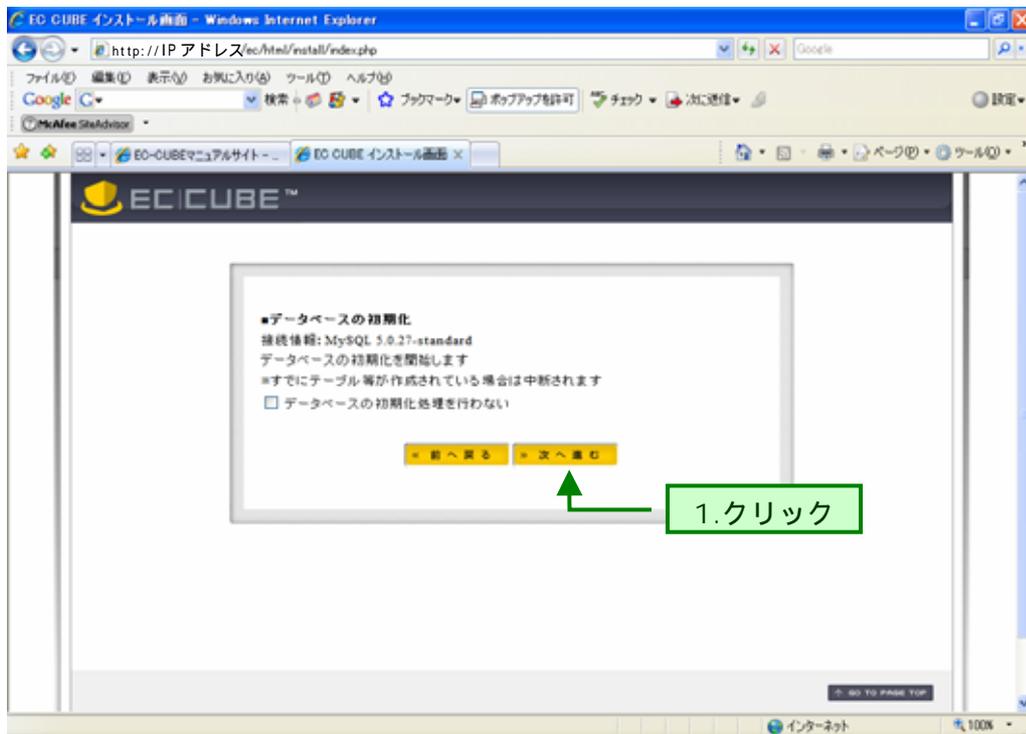


## 第2章 EC-CUBE サーバの設定

**19** データベースの初期化画面が表示される。  
[次へ進む]をクリックする。

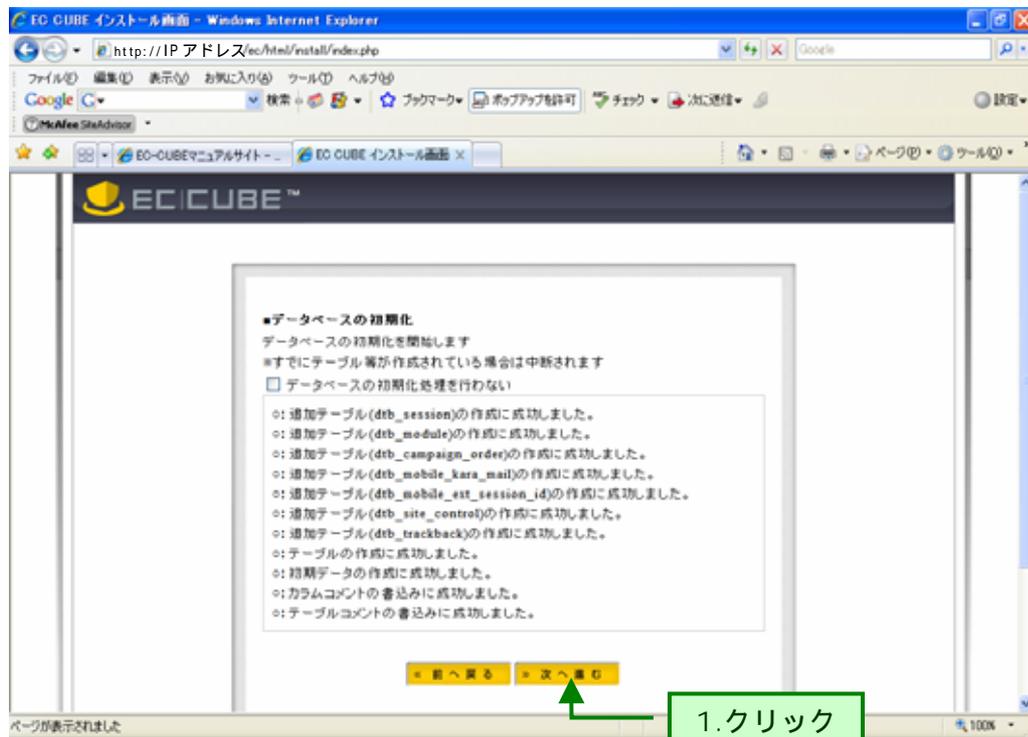


**20** データベースの初期化画面が表示される。  
[次へ進む]をクリックする。

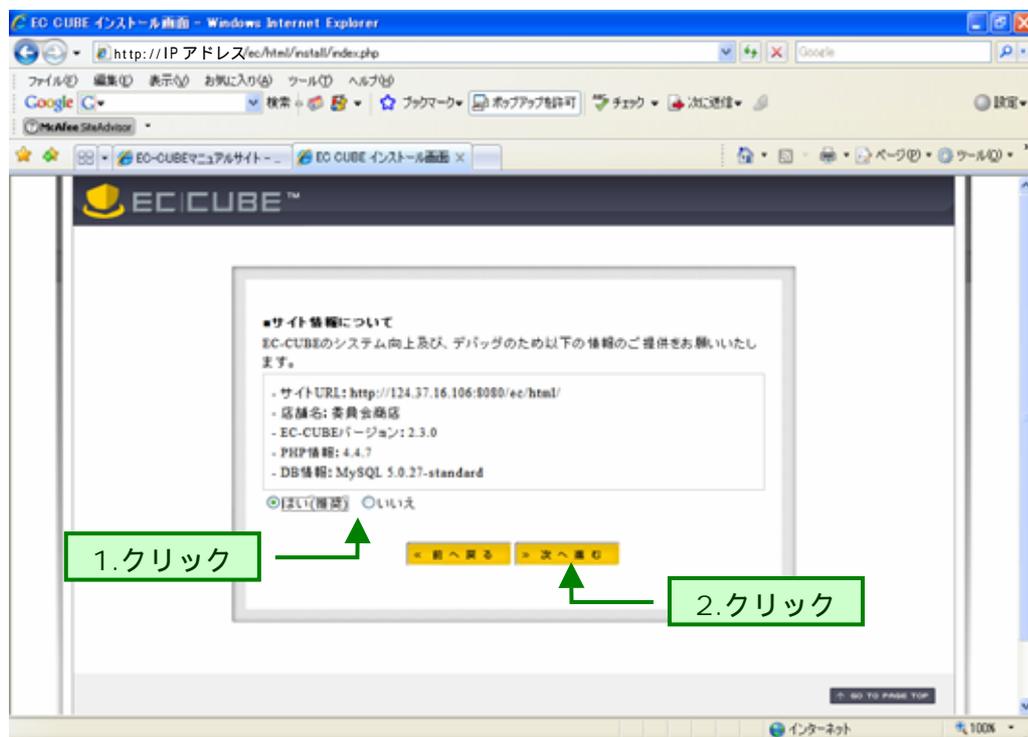


## 第2章 EC-CUBE サーバの設定

**21** データベースの初期化が完了する。  
[次へ進む]をクリックする。

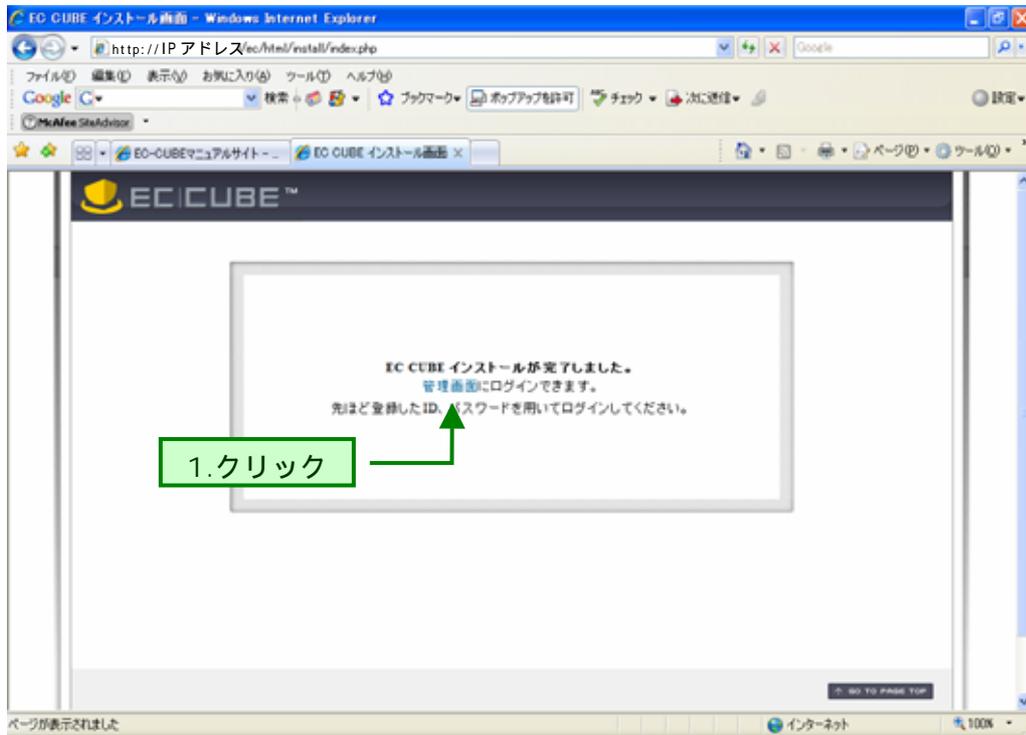


**22** サイト情報について情報提供の可否を選択し、  
[次へ進む]をクリックする。

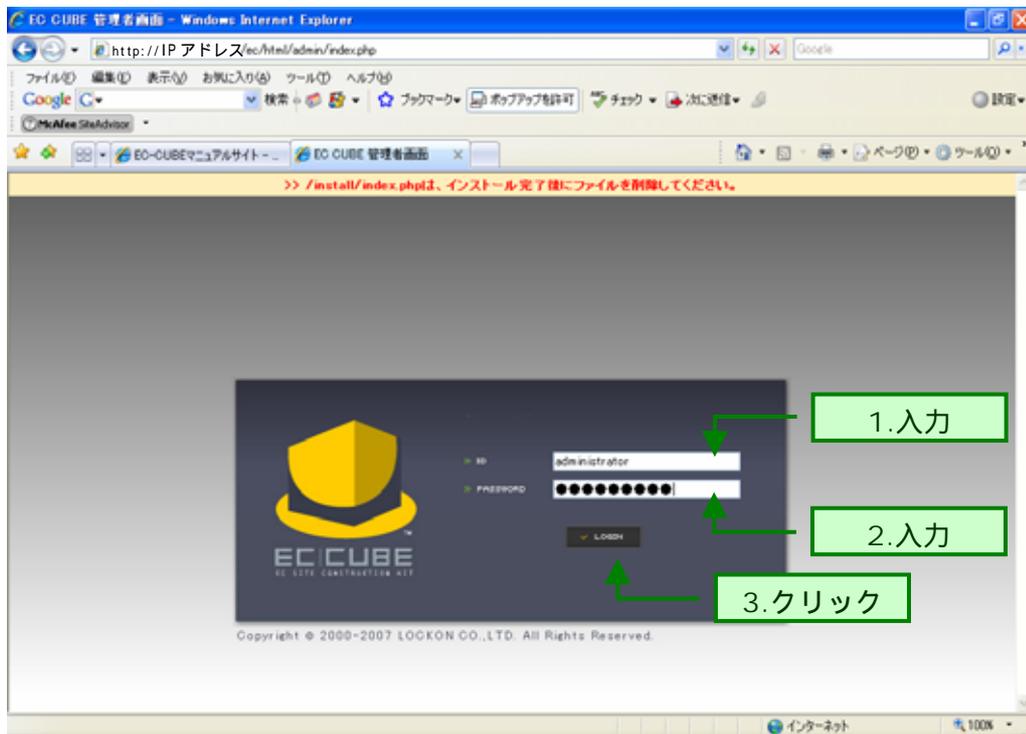


## 第2章 EC-CUBE サーバの設定

- 23** インストール完了画面が表示される。  
[管理画面]の文字列をクリックする。



- 24** 管理画面へのログイン画面が表示される。  
手順 16 にて設定した ID およびパスワードを入力し、[LOGIN]をクリックする。



なお、ログイン以降の管理画面の設定および運営に関しては、「成功するネットショップの企画と運営テキスト」にて説明を行う。

## 第2章 EC-CUBE サーバの設定

- 25** 画面上部に「/install/index.php は、インストール完了後にファイルを削除してください。」と表示されていることを確認する。  
悪意のある者がアクセスし、設定を変更しないよう、install.php を削除する。



- 26** EC-CUBE をインストールしたサーバマシンより、  
[ファイルシステム] [var]フォルダ [www フォルダ] [html]フォルダ [ec]フォルダ [html]フォルダの順に開く。  
[html]フォルダ内の install.php を削除する。



## 第2章 EC-CUBE サーバの設定

### (5) 補足：EC-CUBE のダウンロード

本テキストでは、付属 DVD に収録されている「EC-CUBE-2.3.0」を用いたインストール方法を紹介したが、EC-CUBE の Web サイトより、EC-CUBE パッケージソフトをダウンロードし、インストールを行うことも可能である。

ダウンロードを行う場合の方法について、以下に示す。

1

Internet Explorer を起動し、EC-CUBE 公式サイト (http://www.ec-cube.net) を表示する。

[DOWNLOAD]アイコンをクリックする。



2

EC-CUBE ダウンロードページが表示される。

EC-CUBE ver.2 正式版的 zip ファイルをダウンロードする。

2009年01月21日時点の最新版は、ver 2.3.3 である。



## 第3章 Moodle サーバの設定

### 3.1 Moodle のインストール

#### (1) システム要件

Moodle は、Apache、MySQL および PHP を使用し、Linux で開発された。

Moodle のサーバを構築し、インストールを行う場合は、ソフトウェア要件・最小構成のハードウェア構成について条件を満たしている必要がある。

以下、Moodle の公式ドキュメントサイトに示されている各要件について述べる。

#### ソフトウェア要件

Moodle をインストールする際に必要なソフトウェア要件を、以下の表に示す。

表 3-1 ソフトウェア要件

| 分類                | ソフトウェア                       | 動作確認済み   |
|-------------------|------------------------------|--|
| OS                | Windows                      | Windows XP<br>Windows 2000<br>Windows 2003                             |
|                   | Macintosh                    | Mac OS X   |
|                   | UNIX                         | Solaris 10<br>その他各種 Linux の利用が確認されている<br>本テキストでは Vine Linux4.1 を使用している |
| Web サーバ<br>ソフトウェア | Apache                       | Apache 1.x<br>Apache 2.x<br>本テキストでは Vine Linux4.1 に付属の Apache2 を使用している |
|                   | IIS                          | 各 Windows OS にバンドルされているもの  |
| 言語                | PHP                          | Moodle 1.9 の場合<br>PHP4.3.x 以降<br>PHP5.1.x 以降                           |
| データベース            | Postgres                     | Moodle 1.9 の場合<br>PostgreSQL 7.4.x 以降                                  |
|                   | MySQL                        | Moodle 1.9 の場合<br>MySQL 4.1.12 以降<br>本テキストでは MySQL 4.4.7 を使用している       |
|                   | Microsoft SQL<br>Server 2005 | Moodle 1.9 の場合<br>バージョン 9 または<br>SQL Server Express 2005               |

出所：「MoodleDocs」<http://docs.moodle.org/ja/>

## 第3章 Moodle サーバの設定

### ハードウェア構成

Moodle をインストールする際に必要なハードウェア構成(最小値)を、以下の表に示す。

表 3-2 ハードウェア構成

| ハードウェア | 最小値  |
|--------|--|
| メモリ    | 256MB (最低)<br>1GB (推奨)<br>1GB 毎に 50 名の同時接続ユーザをサポート |
| HDD    | 最低空き容量 60MB<br>教材を保存するためには、さらに空き容量が必要              |

出所:「MoodleDocs」<http://docs.moodle.org/ja/>

### 閲覧ユーザ数

Moodle では、同時接続ユーザ数および最大閲覧ユーザ数の目安が、計算式によって設定されている。

それぞれのユーザ数の計算式を、以下の表に示す。

表 3-3 閲覧ユーザ数

| ブラウザ        | 対応バージョン         |
|-------------|-----------------|
| 最大同時接続ユーザ概数 | RAM (GB) × 50   |
| 最大閲覧ユーザ数    | 最大同時接続ユーザ概数 × 5 |

出所:「MoodleDocs」<http://docs.moodle.org/ja/>

## (2) インストール用 CD の作成

### 各パッケージの導入方法

Moodle を使用するには、Moodle 自体のパッケージおよび、Moodle を動作させる基盤となる Web サーバソフトウェア、PHP、データベースが必要となる。

本テキストでは、Web サーバソフトウェアに Apache、データベースに MySQL を使用し、説明を行う。

それぞれの導入方法には、以下の様なものがある。

- ・ Apache、MySQL、PHP、Moodle を同梱したパッケージの導入
- ・ Apache、MySQL、PHP はバイナリパッケージから導入、Moodle はマニュアルで設定
- ・ ソースからビルドを行う

本テキストでは、DVD に収録している、Moodle パッケージおよび Apache、MySQL、PHP のバイナリパッケージのインストールによる導入方法を解説する。

## 第3章 Moodle サーバの設定

なお、本テキストで使用する Moodle パッケージのバージョンは以下のとおりである。

- moodle-1.8.3-0v11.noarch.rpm
- moodle-mysqladmin-1.8.3-0v11.noarch.rpm
- moodle-quizreport-detail-1.8.3-0v11.noarch.rpm

また、本テキストで使用するバイナリパッケージのバージョンは以下のとおりである。

- libsablotron0-0.97-0v14.i386.rpm
- MySQL-client-5.0.27-0v13.i386.rpm
- MySQL-server-5.0.27-0v13.i386.rpm
- MySQL-shared-5.0.27-0v13.i386.rpm
- perl-DBI-1.53-0v11.i386.rpm
- php-4.4.7-0v12.i386.rpm
- php-apache2-4.4.7-0v12.i386.rpm
- php-mysql-4.4.7-0v12.i386.rpm
- php-pear-4.4.7-0v12.i386.rpm
- gmp-4.1.4-6v11.i386.rpm

### 各パッケージの CD-R への書き込み

インストールを行うにあたり、まずインストール用 CD を作成する。

CD 作成の手順を以下に示す。

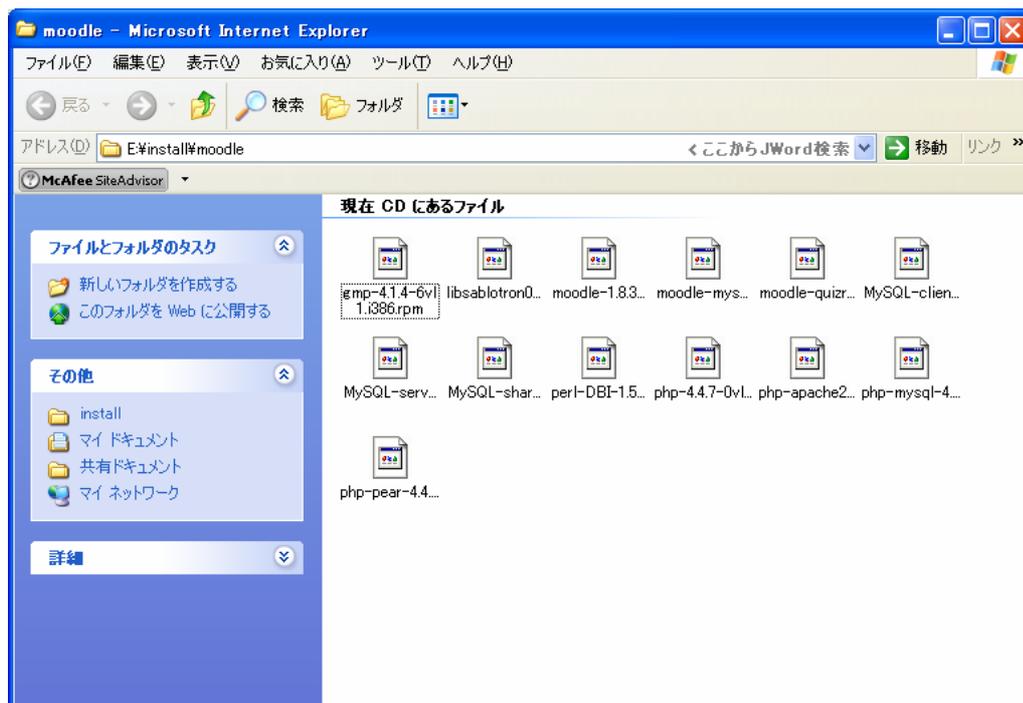
なお CD 作成の為に、あらかじめブランク CD-R (空の CD-R) を準備しておく

### 1

付属 DVD 中の[moodle]フォルダを開く。

さらにブランク CD-R をドライブに挿入する。

CD/DVD ドライブが 1 つのみのパソコンを使用している場合は、[moodle]フォルダごとデスクトップ等へコピーし、DVD を取り出した後、ブランク CD-R を挿入する。



## 第3章 Moodle サーバの設定

2

CD 挿入後、ダイアログが自動的に表示される。

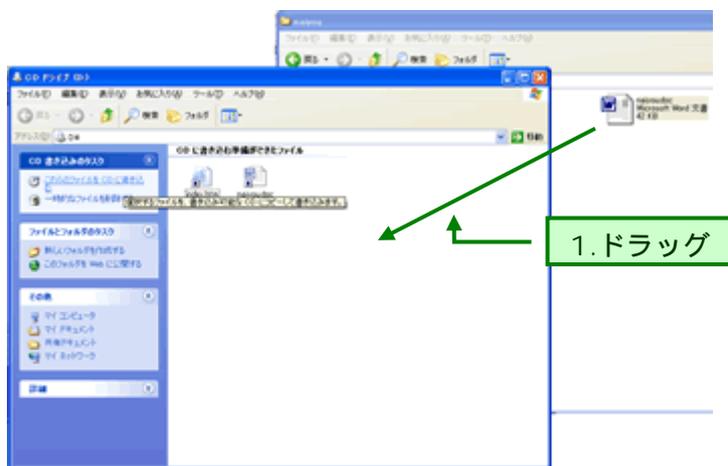
「書き込み可能な CD フォルダを開く」を選択し、[OK]をクリックする。



3

[書き込み可能な CD]フォルダが開く。

[Moodle]フォルダ内のファイルをすべて[書き込み可能な CD]フォルダ内へドラッグする。

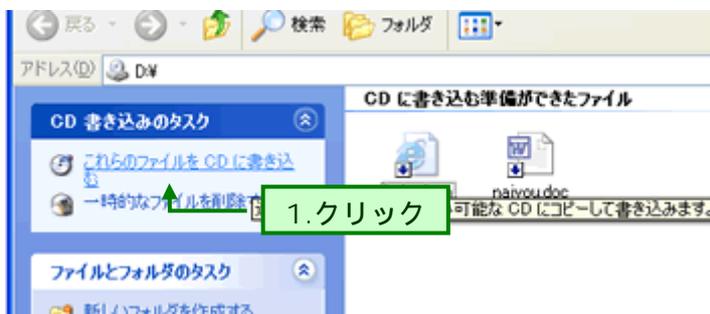


### 第3章 Moodle サーバの設定

4

ドラッグしたファイルが、[CD に書き込む準備ができたファイル]一覧に追加される。

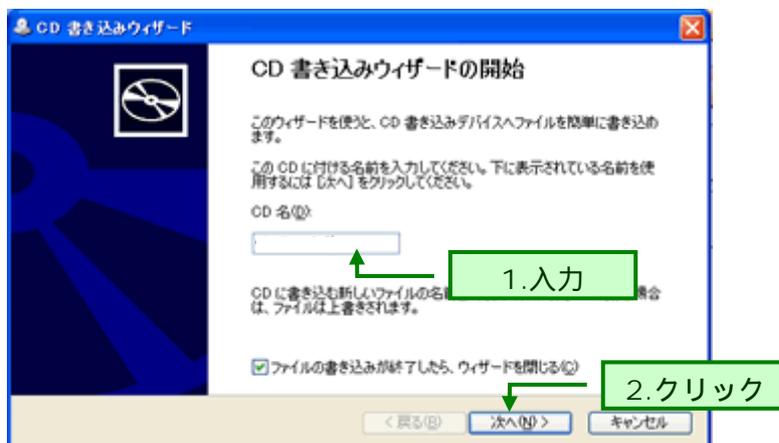
[CD 書き込みのタスク] [これらのファイルを CD に書き込む]をクリックする。



5

[CD 書き込みウィザード]が起動する。

任意の CD 名を入力後、[次へ]をクリックし、書き込みを開始する。



## 第3章 Moodle サーバの設定

### (3) 各パッケージのインストール

CD-R への書き込み完了後、つづいて、インストールを行う Vine Linux PC に、各パッケージのインストールを行う。

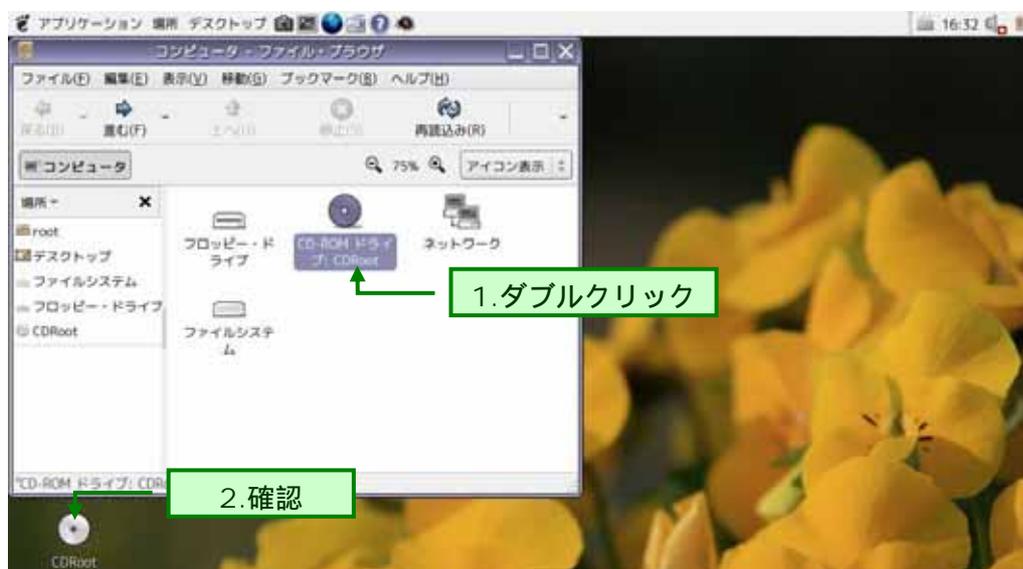
Vine Linux を PC にインストールする必要がある場合は、「5章 付録 : Vine Linux のインストール」を参考にしてインストールを行っておく。

1

書き込みを行ったインストール CD をドライブへ挿入する。

[デスクトップ] [コンピュータ] [CDRoot]を開き、CD-ROM ドライブをマウントする。

CD-ROM ドライブがマウントされ、デスクトップにアイコンが表示される。



2

[パネル] [GNOME 端末]をクリックする。



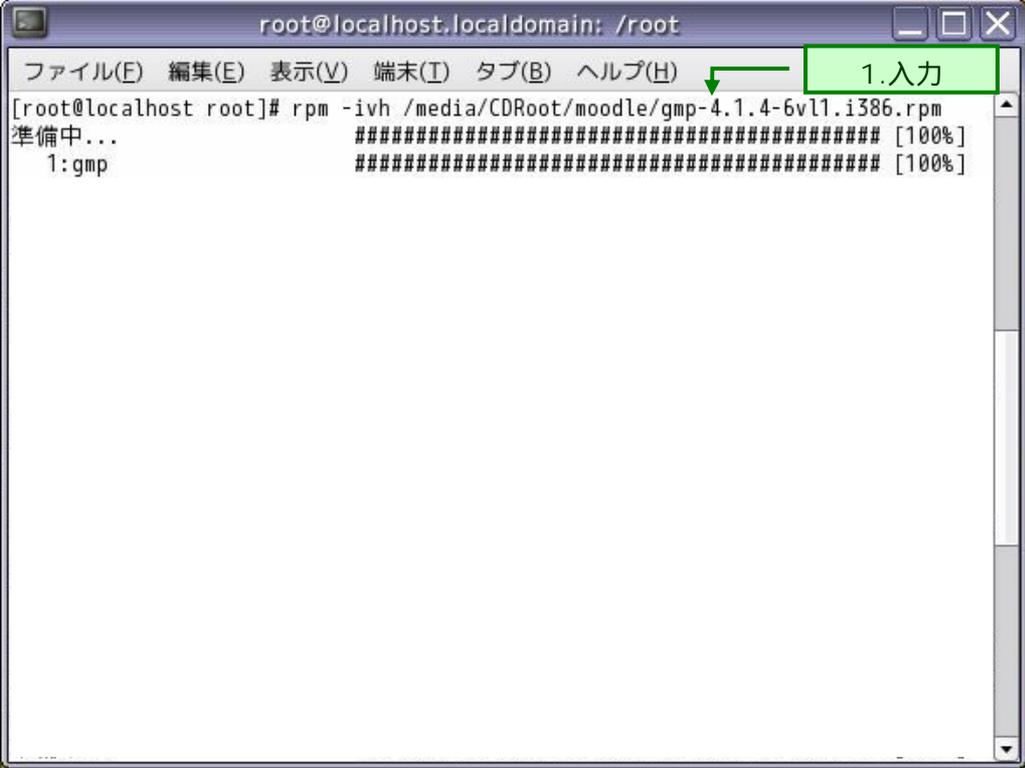
## 第3章 Moodle サーバの設定

3

RPM パッケージのインストールを行う。

[gmp-4.1.4-6v11.i386.rpm]パッケージのインストールを行う。

[rpm -ivh /media/CDRoot/Moodle/gmp-4.1.4-6v11.i386.rpm]と入力し、Enter キーで確定する。

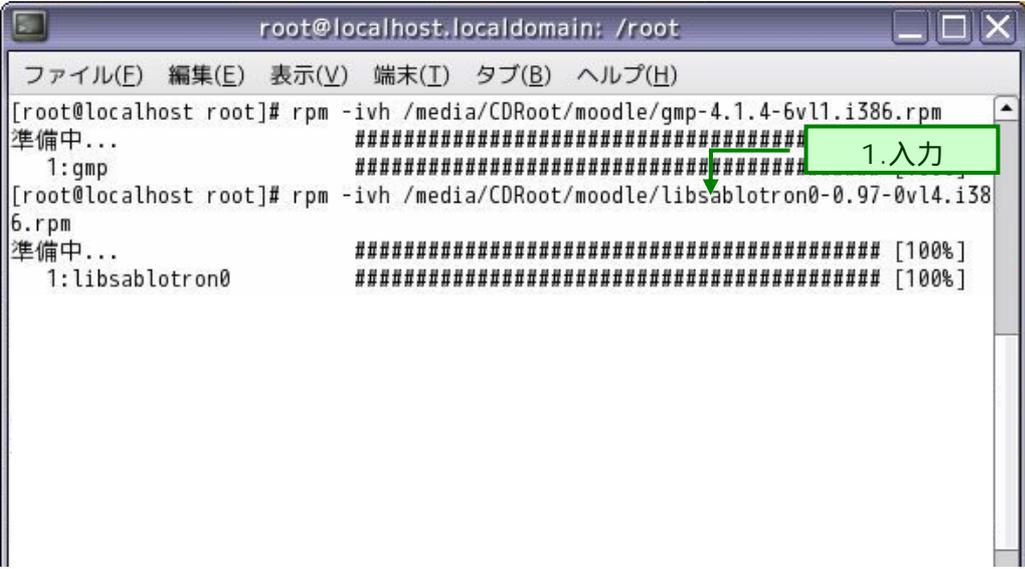


```
root@localhost.localdomain: /root
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) 端末(T) タブ(B) ヘルプ(H)
[root@localhost root]# rpm -ivh /media/CDRoot/moodle/gmp-4.1.4-6v11.i386.rpm
準備中... ##### [100%]
  1:gmp ##### [100%]
```

4

続けて[libsablotron0-0.97-0v14.i386.rpm]パッケージのインストールを行う。

[rpm -ivh /media/CDRoot/Moodle/libsablotron0-0.97-0v14.i386.rpm]と入力し、Enter キーで確定する。



```
root@localhost.localdomain: /root
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) 端末(T) タブ(B) ヘルプ(H)
[root@localhost root]# rpm -ivh /media/CDRoot/moodle/gmp-4.1.4-6v11.i386.rpm
準備中... #####
  1:gmp #####
[root@localhost root]# rpm -ivh /media/CDRoot/moodle/libsablotron0-0.97-0v14.i386.rpm
準備中... ##### [100%]
  1:libsablotron0 ##### [100%]
```

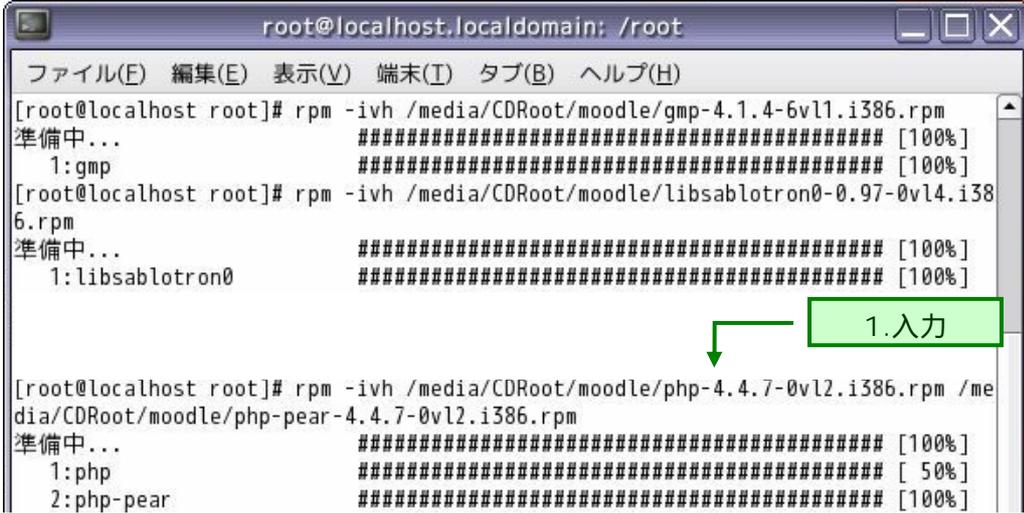
### 第3章 Moodle サーバの設定

5

同様に[php-4.4.7-0v12.i386.rpm]パッケージおよび[php-pear-4.4.7-0v12.i386]パッケージのインストールを同時に行う。

```
[rpm -ivh /media/CDRoot/Moodle/php-4.4.7-0v12.i386.rpm.i386.rpm
```

/media/CDRoot/Moodle/php-pear-4.4.7-0v12.i386]と入力し、Enter キーで確定する。

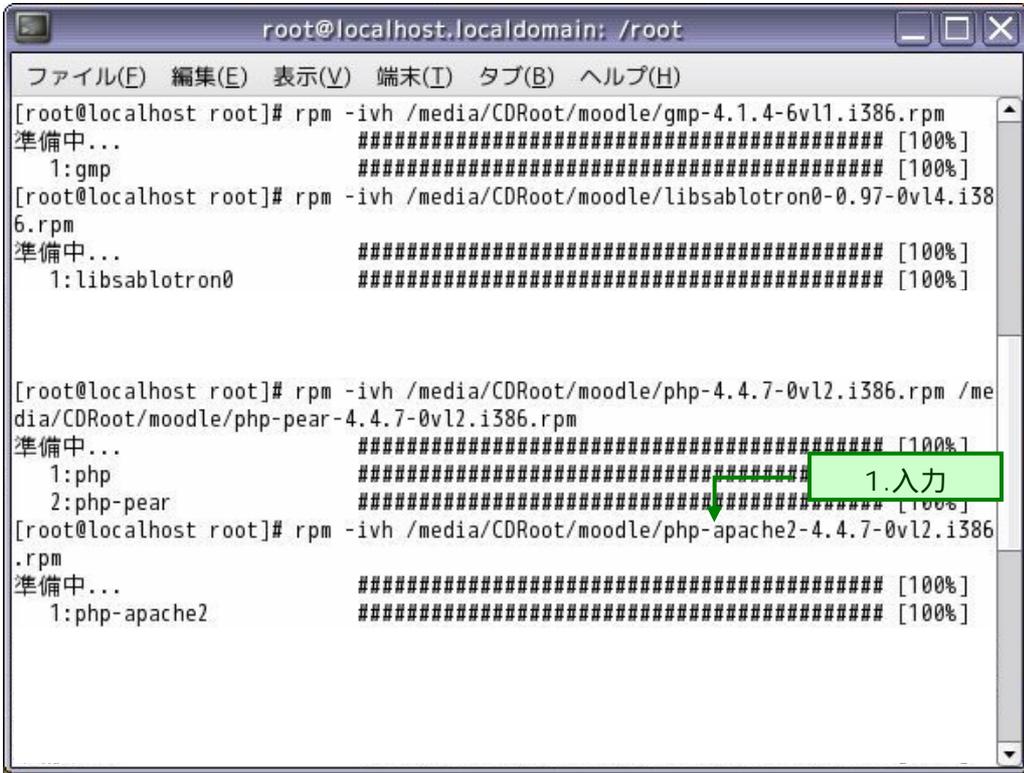


```
root@localhost.localdomain: /root
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) 端末(T) タブ(B) ヘルプ(H)
[root@localhost root]# rpm -ivh /media/CDRoot/moodle/gmp-4.1.4-6v11.i386.rpm
準備中... ##### [100%]
  1:gmp ##### [100%]
[root@localhost root]# rpm -ivh /media/CDRoot/moodle/libsablotron0-0.97-0v14.i386.rpm
準備中... ##### [100%]
  1:libsablotron0 ##### [100%]
[root@localhost root]# rpm -ivh /media/CDRoot/moodle/php-4.4.7-0v12.i386.rpm /media/CDRoot/moodle/php-pear-4.4.7-0v12.i386.rpm
準備中... ##### [100%]
  1:php ##### [ 50%]
  2:php-pear ##### [100%]
```

6

さらに[php-apache2-4.4.7-0v12.i386.rpm]パッケージのインストールを行う。

```
[rpm -ivh /media/CDRoot/Moodle/php-apache2-4.4.7-0v12.i386.rpm]と入力し、Enter キーで確定する。
```



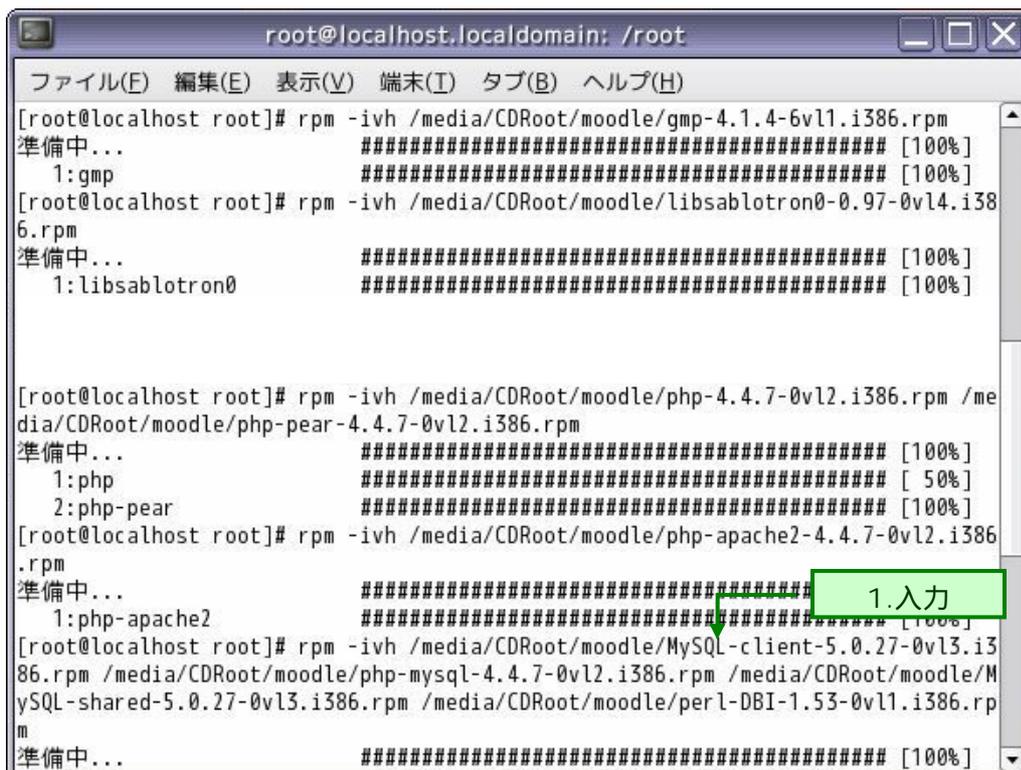
```
root@localhost.localdomain: /root
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) 端末(T) タブ(B) ヘルプ(H)
[root@localhost root]# rpm -ivh /media/CDRoot/moodle/gmp-4.1.4-6v11.i386.rpm
準備中... ##### [100%]
  1:gmp ##### [100%]
[root@localhost root]# rpm -ivh /media/CDRoot/moodle/libsablotron0-0.97-0v14.i386.rpm
準備中... ##### [100%]
  1:libsablotron0 ##### [100%]
[root@localhost root]# rpm -ivh /media/CDRoot/moodle/php-4.4.7-0v12.i386.rpm /media/CDRoot/moodle/php-pear-4.4.7-0v12.i386.rpm
準備中... ##### [100%]
  1:php ##### [100%]
  2:php-pear ##### [100%]
[root@localhost root]# rpm -ivh /media/CDRoot/moodle/php-apache2-4.4.7-0v12.i386.rpm
準備中... ##### [100%]
  1:php-apache2 ##### [100%]
```

### 第3章 Moodle サーバの設定

7

同様に[MySQL-shared-5.0.27-0v13.i386.rpm]、[php-mysql-4.4.7-0v12.i386.rpm]、[MySQL-client-5.0.27-0v13.i386.rpm]、[perl-DBI-1.53-0v11.i386.rpm]パッケージのインストールを同時に行う。

```
[rpm -ivh /media/CDRoot/Moodle/MySQL-shared-5.0.27-0v13.i386.rpm
/media/CDRoot/Moodle/ php-mysql-4.4.7-0v12.i386.rpm
/media/CDRoot/Moodle/MySQL-client-5.0.27-0v13.i386.rpm
/media/CDRoot/Moodle/perl-DBI-1.53-0v11.i386.rpm]と入力し、Enter キーで確定
する。
```

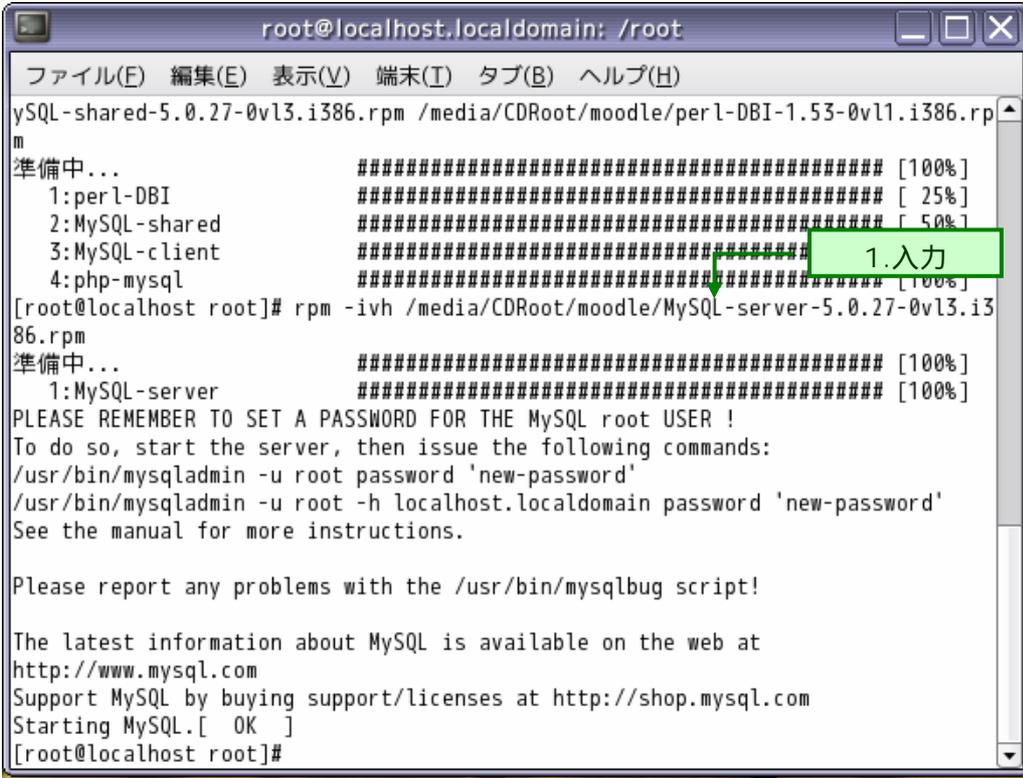


```
root@localhost.localdomain: /root
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) 端末(T) タブ(B) ヘルプ(H)
[root@localhost root]# rpm -ivh /media/CDRoot/moodle/gmp-4.1.4-6v11.i386.rpm
準備中... ##### [100%]
  1:gmp ##### [100%]
[root@localhost root]# rpm -ivh /media/CDRoot/moodle/libsablotron0-0.97-0v14.i386.rpm
準備中... ##### [100%]
  1:libsablotron0 ##### [100%]
[root@localhost root]# rpm -ivh /media/CDRoot/moodle/php-4.4.7-0v12.i386.rpm /media/CDRoot/moodle/php-pear-4.4.7-0v12.i386.rpm
準備中... ##### [100%]
  1:php ##### [ 50%]
  2:php-pear ##### [100%]
[root@localhost root]# rpm -ivh /media/CDRoot/moodle/php-apache2-4.4.7-0v12.i386.rpm
準備中... ##### [100%]
  1:php-apache2 ##### [100%]
[root@localhost root]# rpm -ivh /media/CDRoot/moodle/MySQL-client-5.0.27-0v13.i386.rpm /media/CDRoot/moodle/php-mysql-4.4.7-0v12.i386.rpm /media/CDRoot/moodle/MySQL-shared-5.0.27-0v13.i386.rpm /media/CDRoot/moodle/perl-DBI-1.53-0v11.i386.rpm
準備中... ##### [100%]
```

### 第3章 Moodle サーバの設定

8

さらに[MySQL-server-5.0.27-0v13.i386.rpm]パッケージのインストールを行う。  
[rpm -ivh /media/CDRoot/Moodle/MySQL-server-5.0.27-0v13.i386.rpm]と入力し、  
Enter キーで確定する。



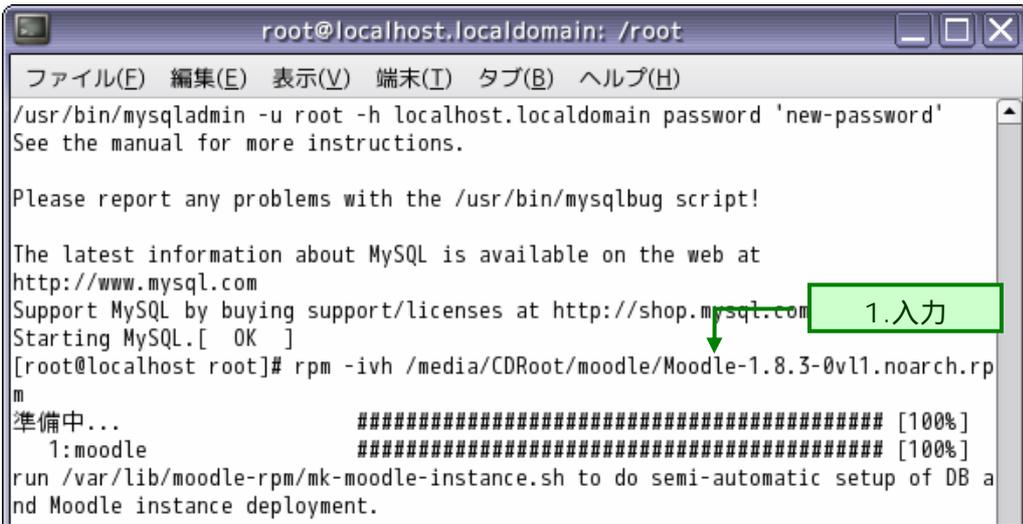
```
root@localhost.localdomain: /root
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) 端末(T) タブ(B) ヘルプ(H)
MySQL-shared-5.0.27-0v13.i386.rpm /media/CDRoot/moodle/perl-DBI-1.53-0v11.i386.rp
準備中... ##### [100%]
  1:perl-DBI ##### [ 25%]
  2:MySQL-shared ##### [ 50%]
  3:MySQL-client ##### [100%]
  4:php-mysql ##### [100%]
[root@localhost root]# rpm -ivh /media/CDRoot/moodle/MySQL-server-5.0.27-0v13.i3
86.rpm
準備中... ##### [100%]
  1:MySQL-server ##### [100%]
PLEASE REMEMBER TO SET A PASSWORD FOR THE MySQL root USER !
To do so, start the server, then issue the following commands:
/usr/bin/mysqladmin -u root password 'new-password'
/usr/bin/mysqladmin -u root -h localhost.localdomain password 'new-password'
See the manual for more instructions.

Please report any problems with the /usr/bin/mysqlbug script!

The latest information about MySQL is available on the web at
http://www.mysql.com
Support MySQL by buying support/licenses at http://shop.mysql.com
Starting MySQL.[ OK ]
[root@localhost root]#
```

9

次に[moodle-1.8.3-0v11.noarch.rpm]パッケージのインストールを行う。  
[rpm -ivh /media/CDRoot/Moodle/moodle-1.8.3-0v11.noarch.rpm]と入力し、Enter  
キーで確定する。



```
root@localhost.localdomain: /root
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) 端末(T) タブ(B) ヘルプ(H)
/usr/bin/mysqladmin -u root -h localhost.localdomain password 'new-password'
See the manual for more instructions.

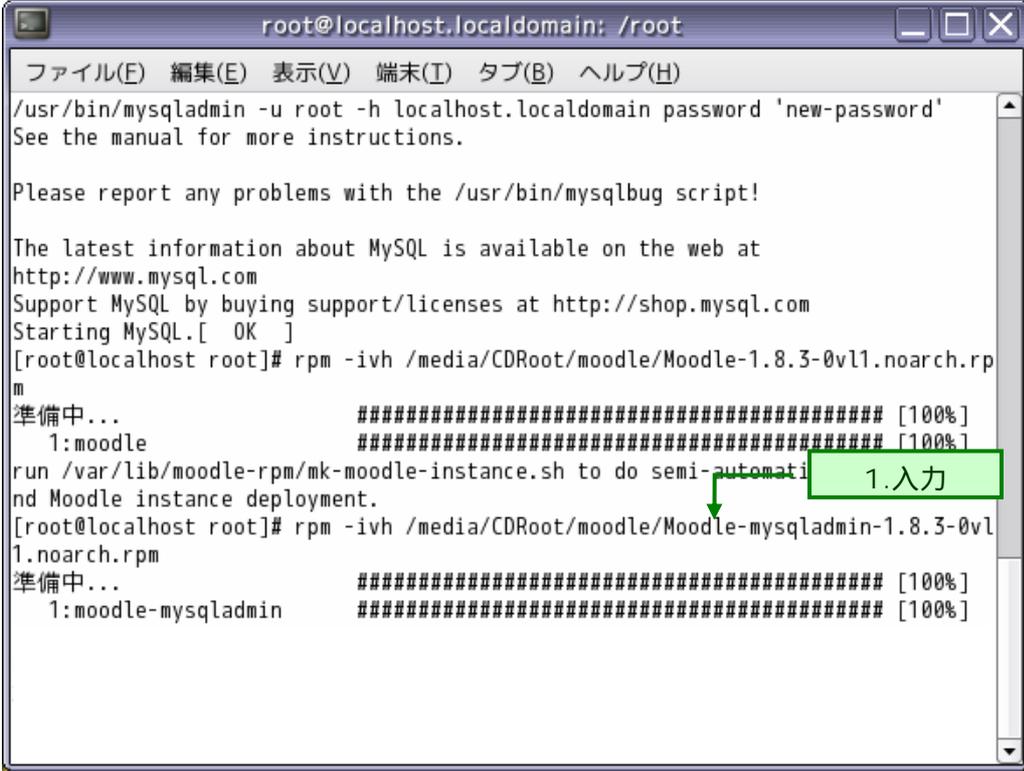
Please report any problems with the /usr/bin/mysqlbug script!

The latest information about MySQL is available on the web at
http://www.mysql.com
Support MySQL by buying support/licenses at http://shop.mysql.com
Starting MySQL.[ OK ]
[root@localhost root]# rpm -ivh /media/CDRoot/moodle/Moodle-1.8.3-0v11.noarch.rp
準備中... ##### [100%]
  1:moodle ##### [100%]
run /var/lib/moodle-rpm/mk-moodle-instance.sh to do semi-automatic setup of DB a
nd Moodle instance deployment.
```

### 第3章 Moodle サーバの設定

**10** 続けて[moodle-mysqldadmin-1.8.3-0v11.noarch.rpm]パッケージのインストールを行う。

[rpm -ivh /media/CDRoot/Moodle/moodle-mysqldadmin-1.8.3-0v11.noarch.rpm]と入力し、Enter キーで確定する。



```
root@localhost.localdomain: /root
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) 端末(T) タブ(B) ヘルプ(H)
/usr/bin/mysqladmin -u root -h localhost.localdomain password 'new-password'
See the manual for more instructions.

Please report any problems with the /usr/bin/mysqlbug script!

The latest information about MySQL is available on the web at
http://www.mysql.com
Support MySQL by buying support/licenses at http://shop.mysql.com
Starting MySQL.[ OK ]
[root@localhost root]# rpm -ivh /media/CDRoot/moodle/Moodle-1.8.3-0v11.noarch.rp
m
準備中... ##### [100%]
  1:moodle ##### [100%]
run /var/lib/moodle-rpm/mk-moodle-instance.sh to do semi-automati
nd Moodle instance deployment.
[root@localhost root]# rpm -ivh /media/CDRoot/moodle/Moodle-mysqldadmin-1.8.3-0v1
1.noarch.rpm
準備中... ##### [100%]
  1:moodle-mysqldadmin ##### [100%]
```

## 第3章 Moodle サーバの設定



最後に[moodle-quizreport-detail-1.8.3-0v11.noarch.rpm]パッケージのインストールを行う。

```
[rpm -ivh /media/CDRoot/Moodle/  
moodle-quizreport-detail-1.8.3-0v11.noarch.rpm]
```

と入力し、Enter キーで確定する。

```
root@localhost.localdomain: /root  
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) 端末(T) タブ(B) ヘルプ(H)  
/usr/bin/mysqladmin -u root -h localhost.localdomain password 'new-password'  
See the manual for more instructions.  
  
Please report any problems with the /usr/bin/mysqlbug script!  
  
The latest information about MySQL is available on the web at  
http://www.mysql.com  
Support MySQL by buying support/licenses at http://shop.mysql.com  
Starting MySQL.[ OK ]  
[root@localhost root]# rpm -ivh /media/CDRoot/moodle/Moodle-1.8.3-0v11.noarch.r  
m  
準備中... ##### [100%]  
 1:moodle ##### [100%]  
run /var/lib/moodle-rpm/mk-moodle-instance.sh to do semi-automati  
nd Moodle instance deployment.  
[root@localhost root]# rpm -ivh /media/CDRoot/moodle/Moodle-mysqladmin-1.8.3-0v1  
1.noarch.rpm  
準備中... ##### [100%]  
 1:moodle-mysqladmin ##### [100%]  
[root@localhost root]# rpm -ivh /media/CDRoot/moodle/Moodle-quizreport-detail-1.  
8.3-0v11.noarch.rpm  
準備中... ##### [100%]  
 1:moodle-quizreport-detai##### [100%]  
[root@localhost root]#
```

## 第3章 Moodle サーバの設定

### (4) Moodle のインストール

各パッケージのインストール完了後、つづいて、インストールを行ったサーバのブラウザより Moodle のインストールを行う。

本テキストでは、サーバは Vine Linux 4.1、ブラウザは Vine Linux 4.1 に付属の Firefox を使用した手順について解説を行う。

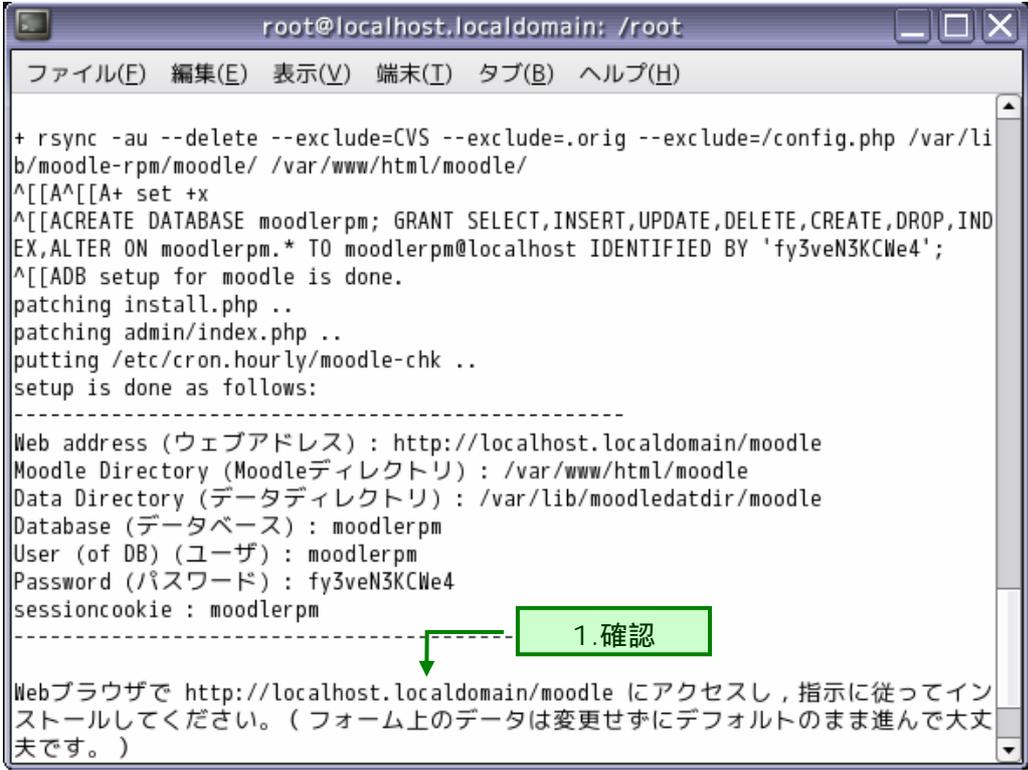
Moodle のインストール手順を以下に示す。

1

インストールを行う URL を確認する。

[/var/lib/moodle-rpm/mk-moodle-instance.sh]と入力し、Enter キーで確定する。

URL 確認後、GNOME 端末を閉じる。



```
root@localhost.localdomain: /root
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) 端末(T) タブ(B) ヘルプ(H)
+ rsync -au --delete --exclude=CVS --exclude=.orig --exclude=/config.php /var/lib/moodle-rpm/moodle/ /var/www/html/moodle/
^[[A^[[A+ set +x
^[[ACREATE DATABASE moodlerpm; GRANT SELECT,INSERT,UPDATE,DELETE,CREATE,DROP,INDEX,ALTER ON moodlerpm.* TO moodlerpm@localhost IDENTIFIED BY 'fy3veN3KCWe4';
^[[ADB setup for moodle is done.
patching install.php ..
patching admin/index.php ..
putting /etc/cron.hourly/moodle-chk ..
setup is done as follows:
-----
Web address (ウェブアドレス) : http://localhost.localdomain/moodle
Moodle Directory (Moodleディレクトリ) : /var/www/html/moodle
Data Directory (データディレクトリ) : /var/lib/moodledatdir/moodle
Database (データベース) : moodlerpm
User (of DB) (ユーザ) : moodlerpm
Password (パスワード) : fy3veN3KCWe4
sessioncookie : moodlerpm
-----
Webブラウザで http://localhost.localdomain/moodle にアクセスし、指示に従ってインストールしてください。(フォーム上のデータは変更せずにデフォルトのまま進んで大丈夫です。)
```

## 第3章 Moodle サーバの設定

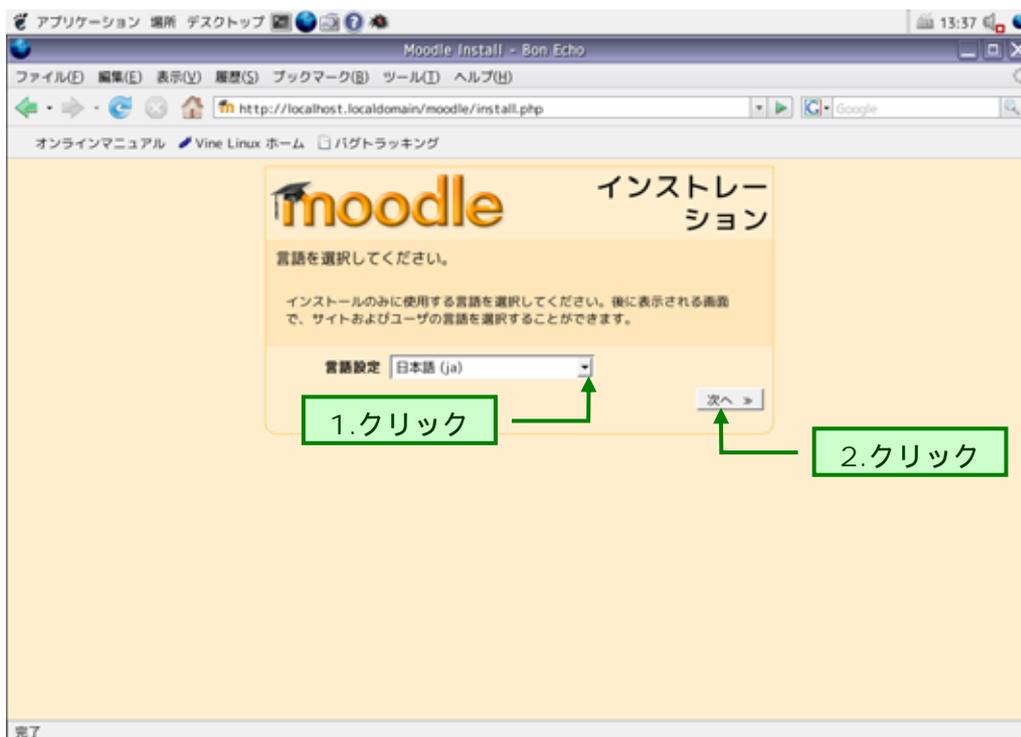
2

[パネル] [Firefox]をクリックし、ブラウザを起動する。  
ロケーションバーに、前ページで確認した URL を入力し、Enter キーで確定する。



3

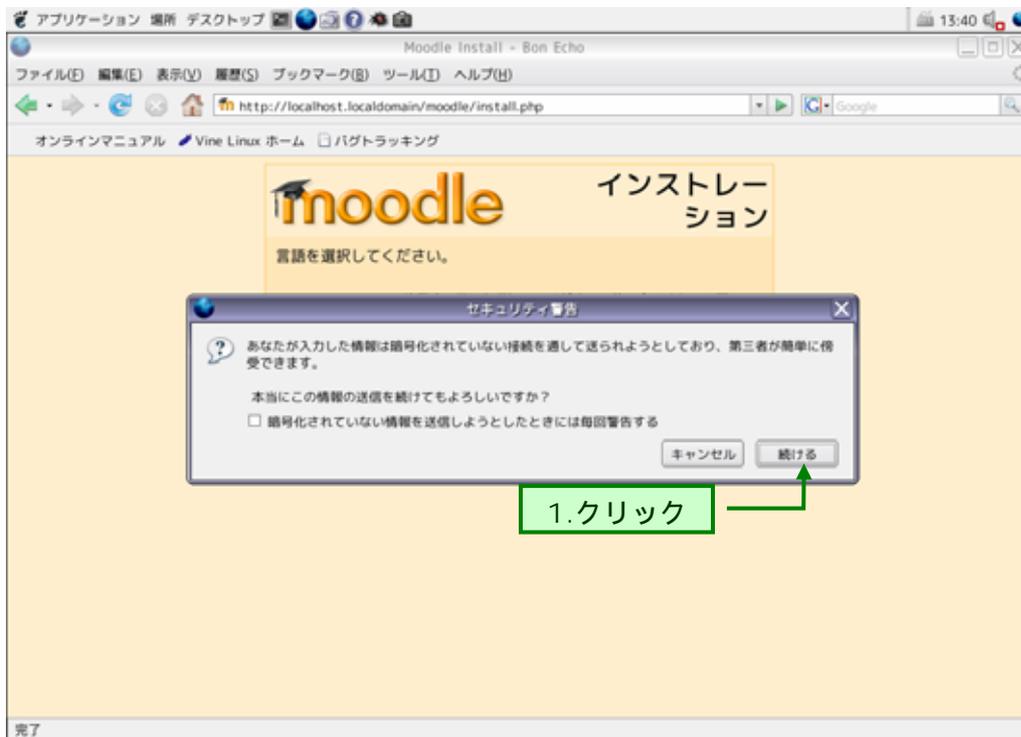
Moodle インストール画面が表示される。  
言語設定ボックス右側 ボタンをクリックし、プルダウンメニューより[日本語]を選択する。  
言語選択後、[次へ]をクリックする。



## 第3章 Moodle サーバの設定

4

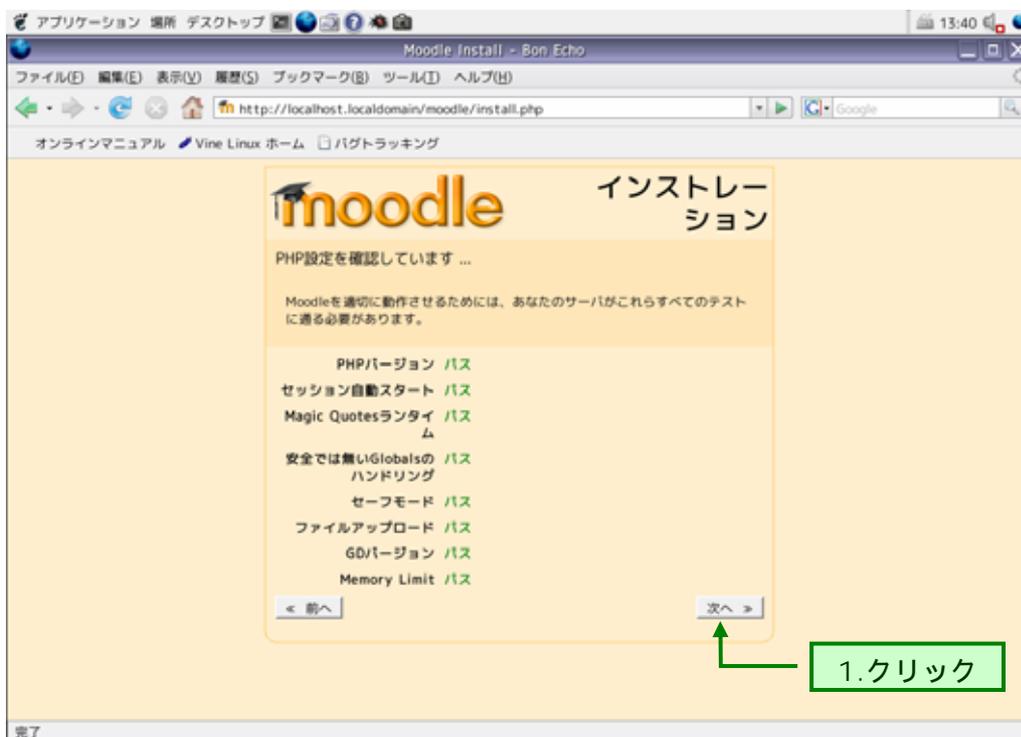
セキュリティ警告が表示された場合は、[続ける]をクリックする。



5

PHP 設定の確認画面が表示される。

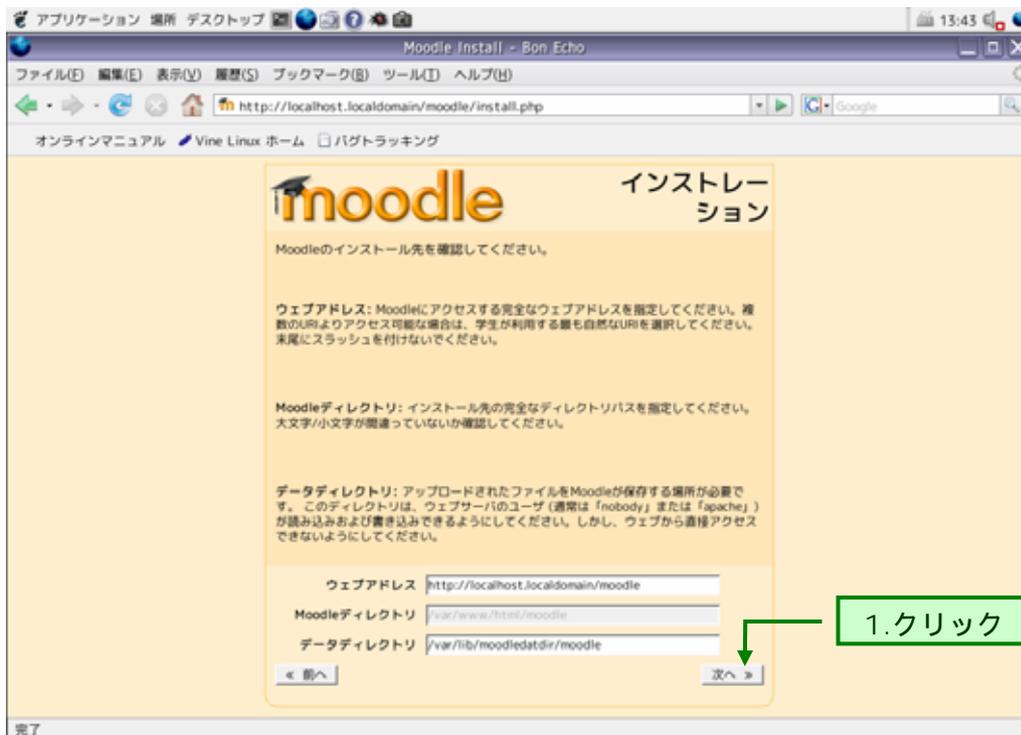
確認後、[次へ]をクリックする。



## 第3章 Moodle サーバの設定

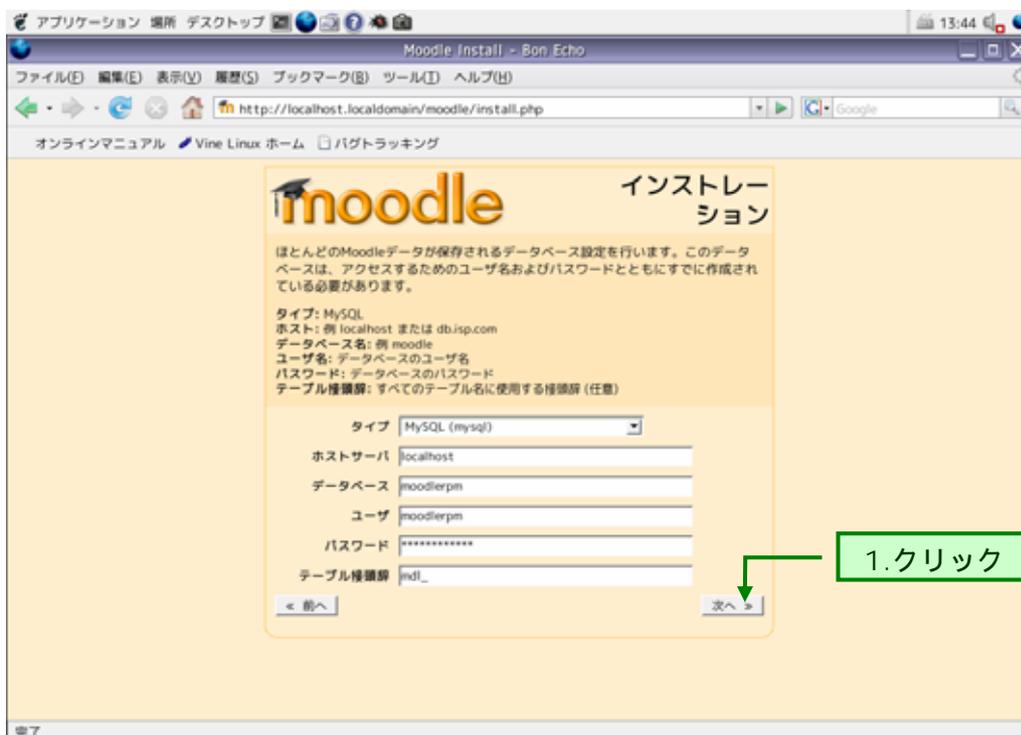
6

インストール先の確認画面が表示される。  
確認後、[次へ]をクリックする。



7

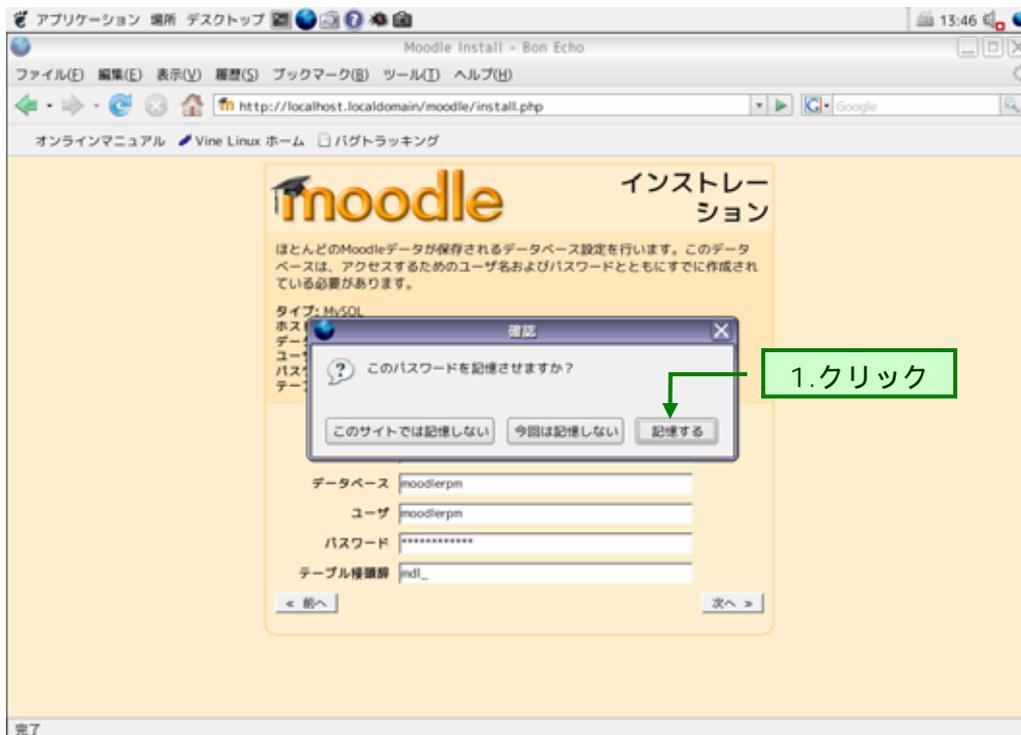
データベース設定画面が表示される。  
確認後、[次へ]をクリックする。



## 第3章 Moodle サーバの設定

8

パスワードを記憶されるかどうかのダイアログボックスが表示される。  
[記憶する]をクリックする。



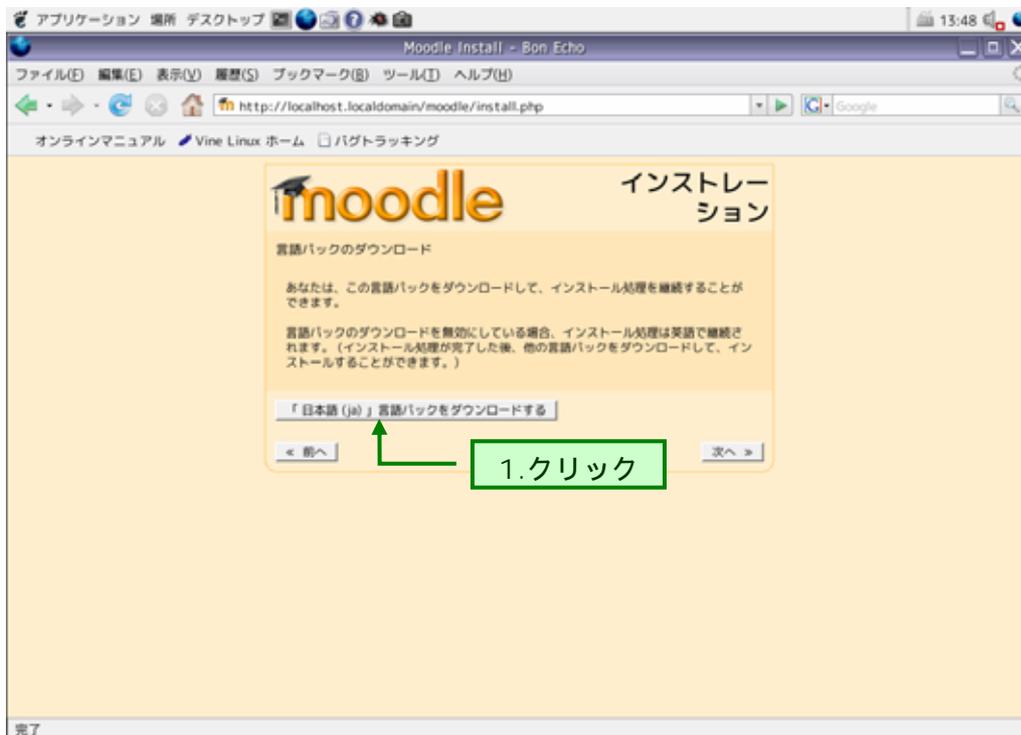
9

サーバチェック画面が表示される。  
チェック完了後、[次へ]をクリックする。

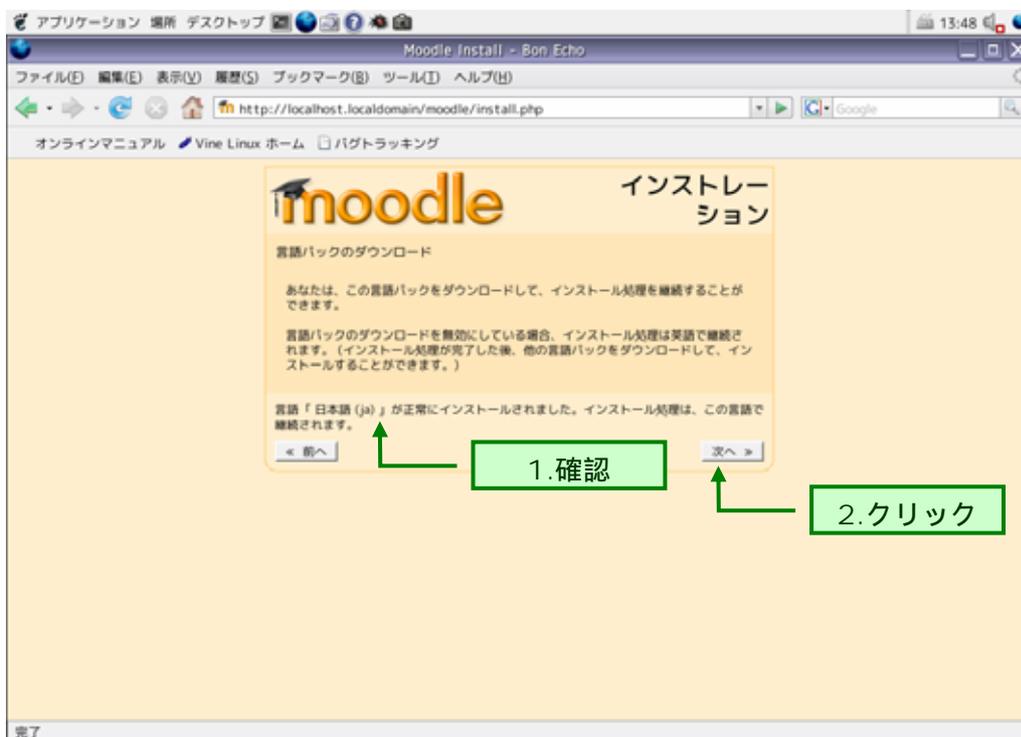


## 第3章 Moodle サーバの設定

- 10 言語パックのダウンロード画面が表示される。  
[日本語言語パックをダウンロードする]をクリックする。

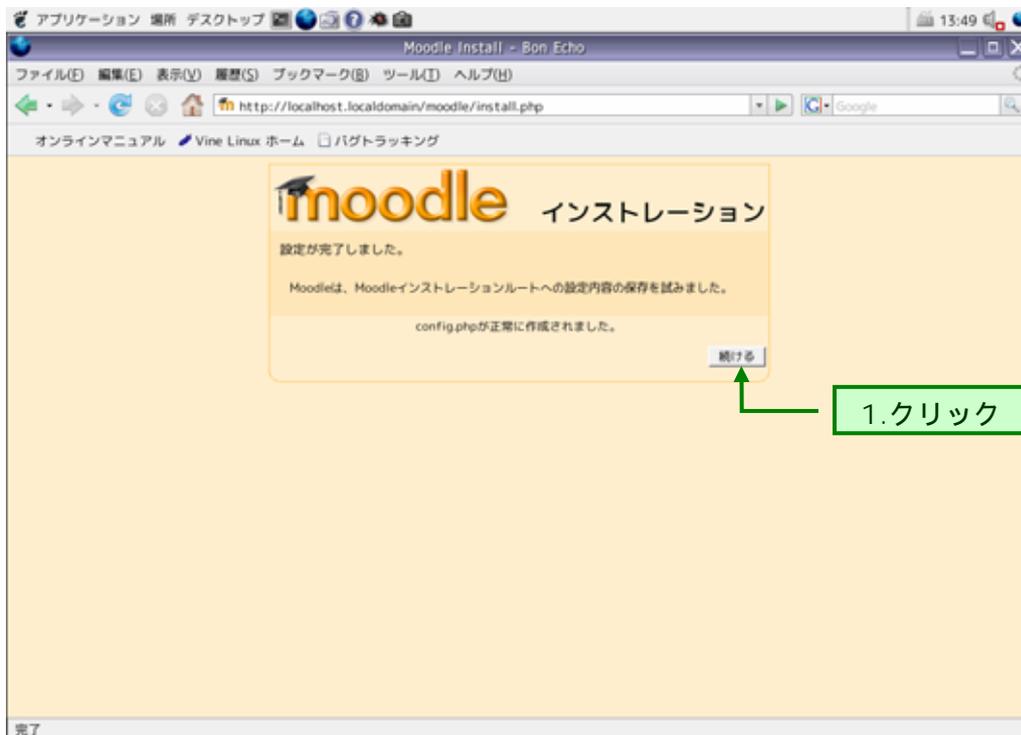


- 11 日本語言語パックが正常にインストールされたことが表示される。  
確認後、[次へ]をクリックする。

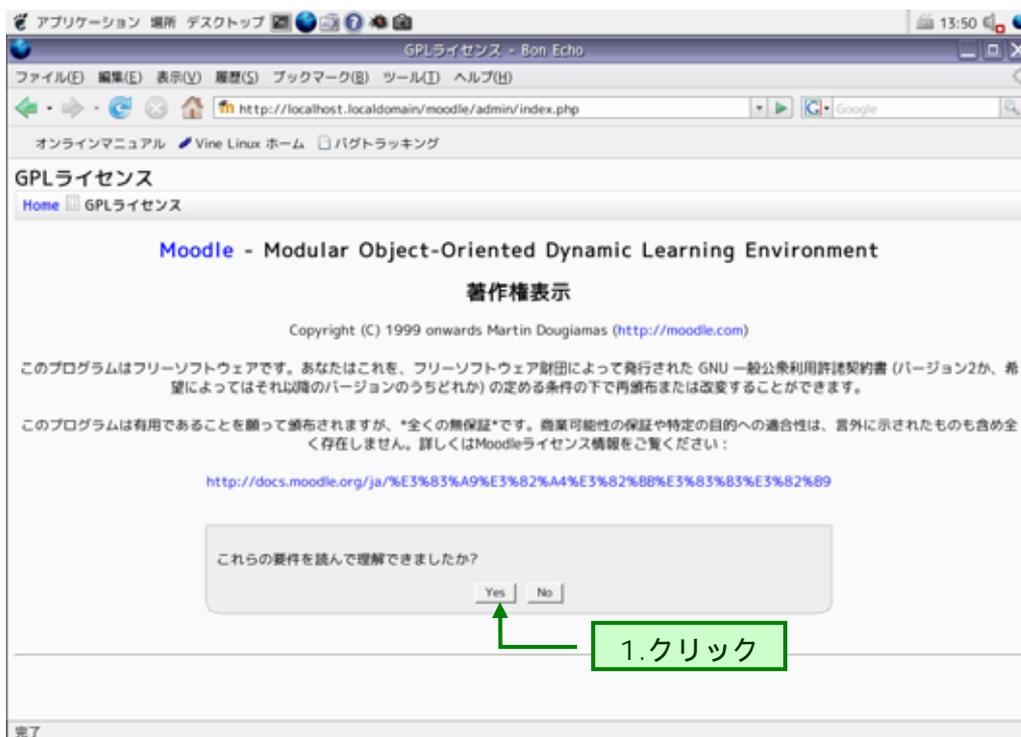


## 第3章 Moodle サーバの設定

**12** 設定完了画面が表示される。  
[続ける]をクリックする。

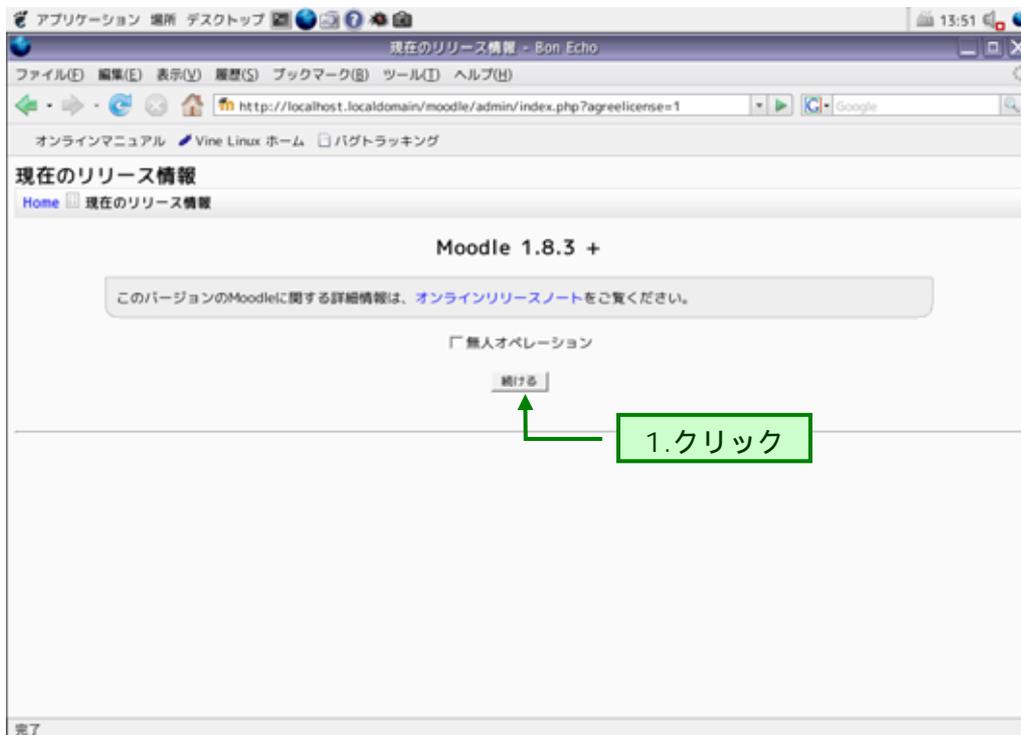


**13** 著作権表示画面が表示される。  
同意する場合は[Yes]をクリックする。

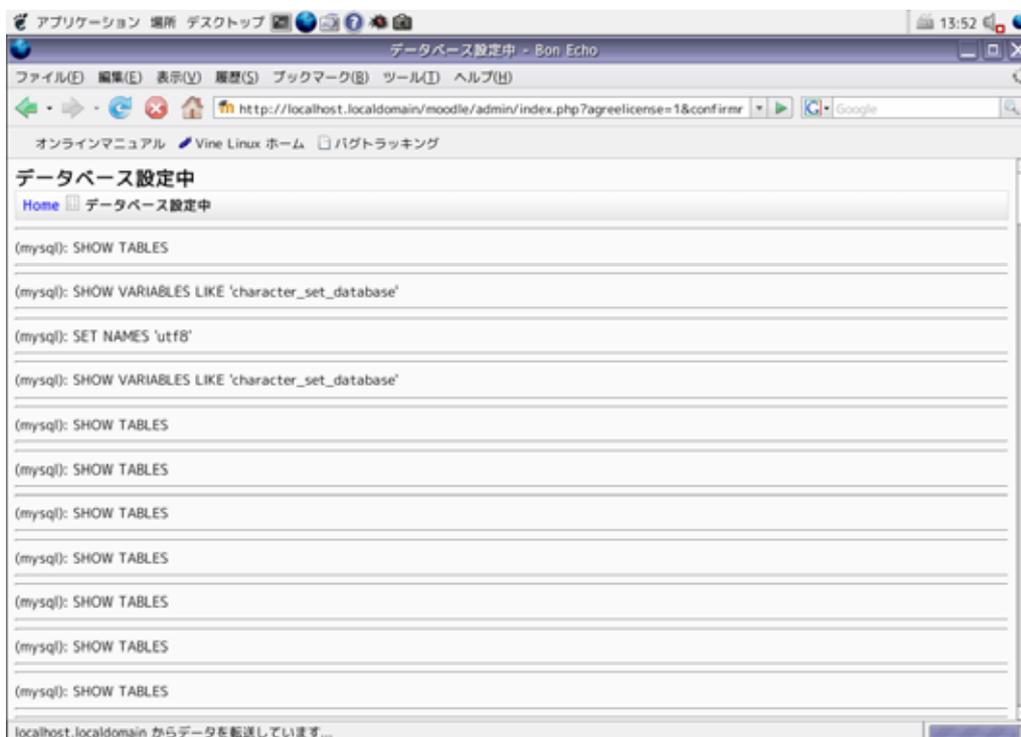


## 第3章 Moodle サーバの設定

- 14 現在のリリース情報が表示される。  
[続ける]をクリックする。

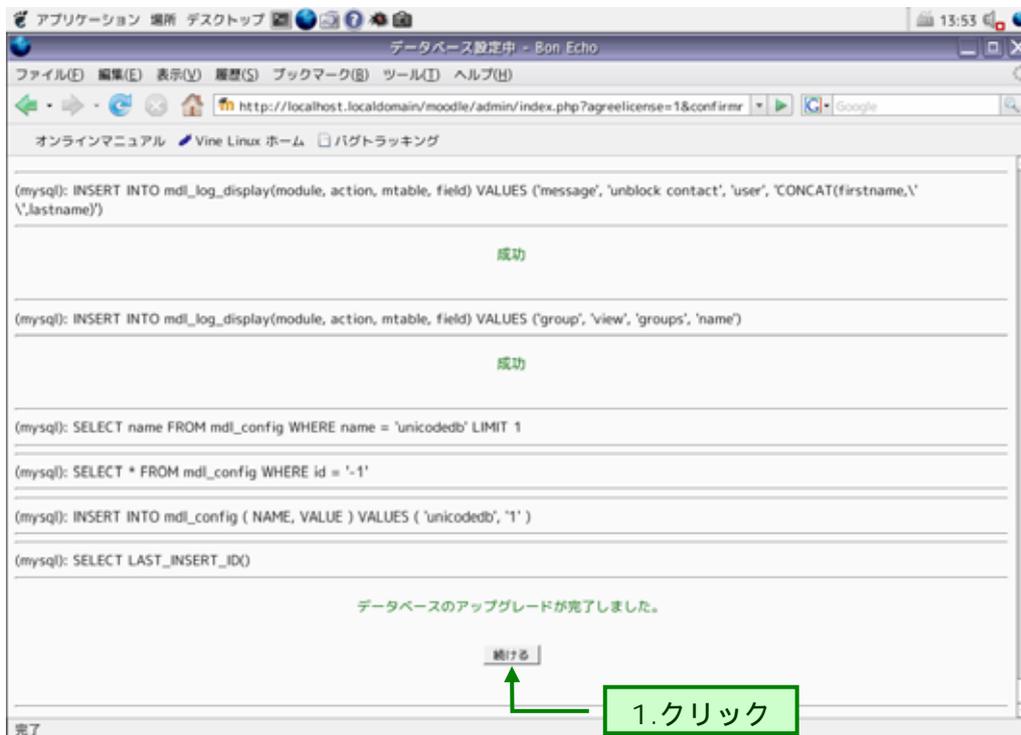


- 15 各種データベースが自動的に作成される。  
作成完了まで待機する。

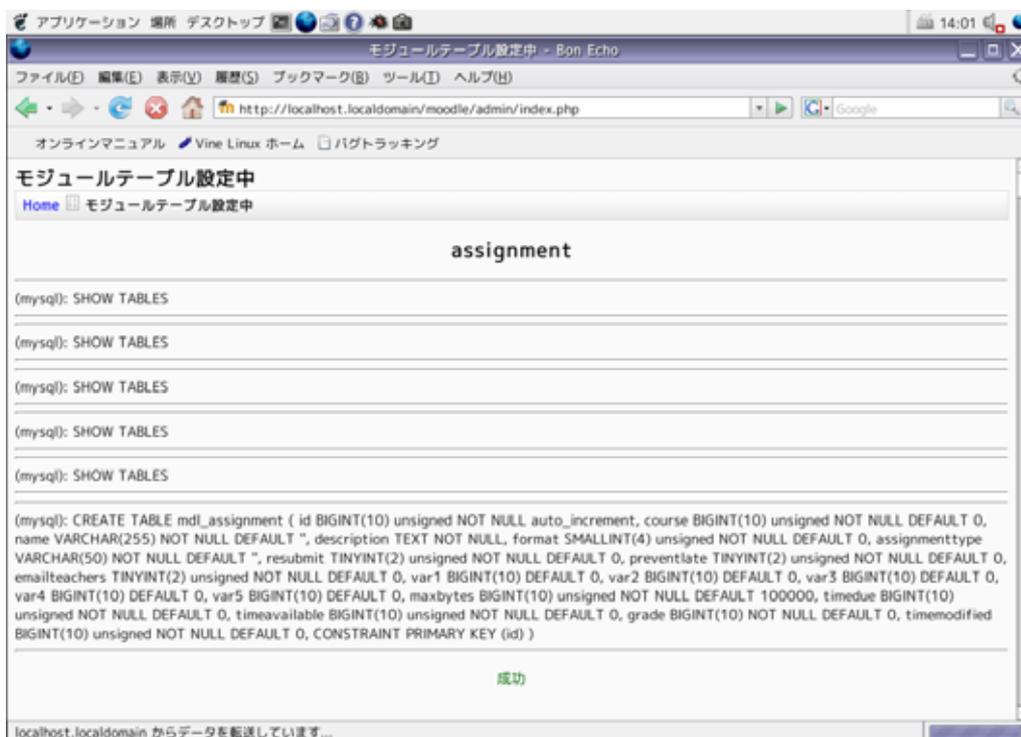


## 第3章 Moodle サーバの設定

**16** データベース作成が完了する。  
[続ける]をクリックする。

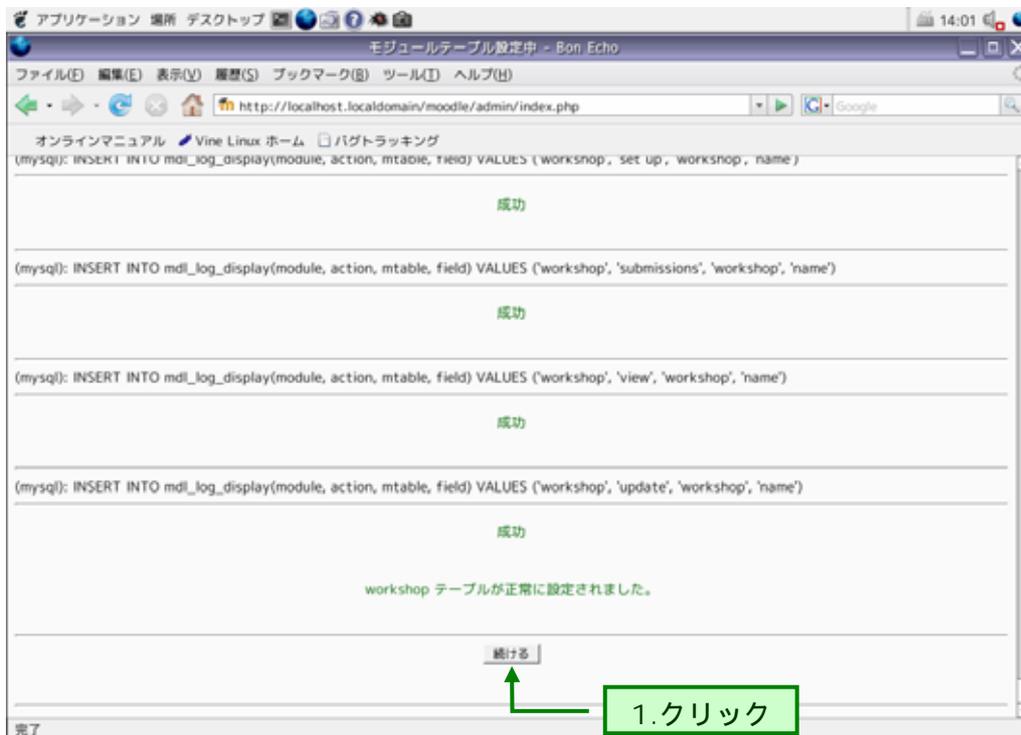


**17** 続いてモジュールテーブルが自動的に作成される。  
設定完了まで待機する。

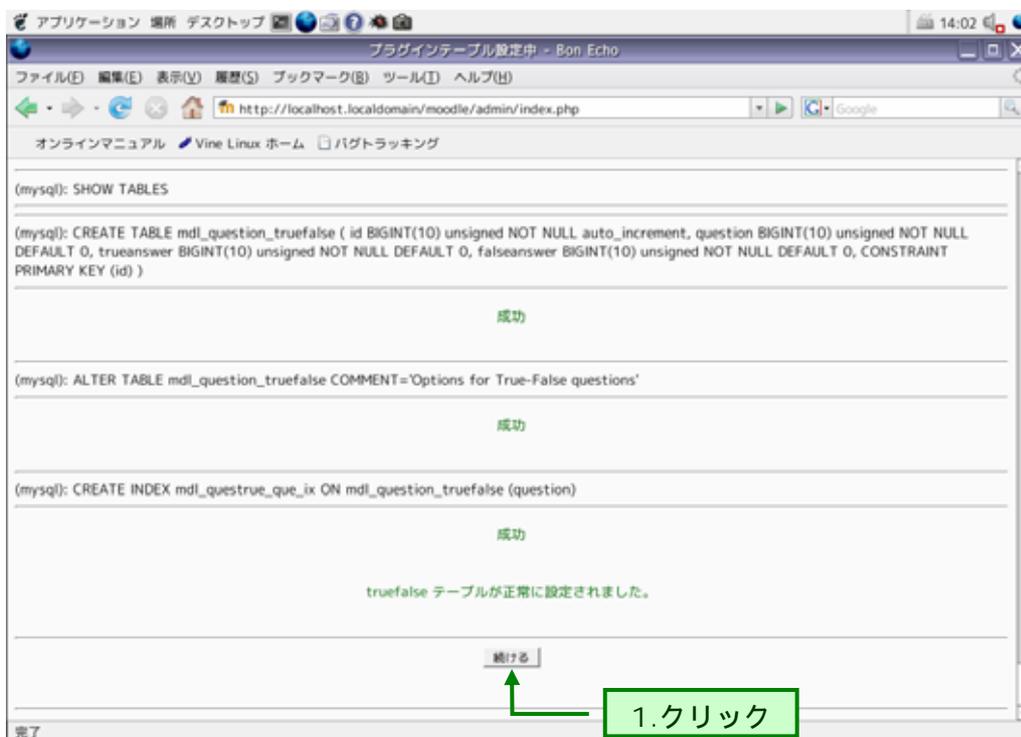


## 第3章 Moodle サーバの設定

**18** モジュールテーブル作成が完了する。  
[続ける]をクリックする。

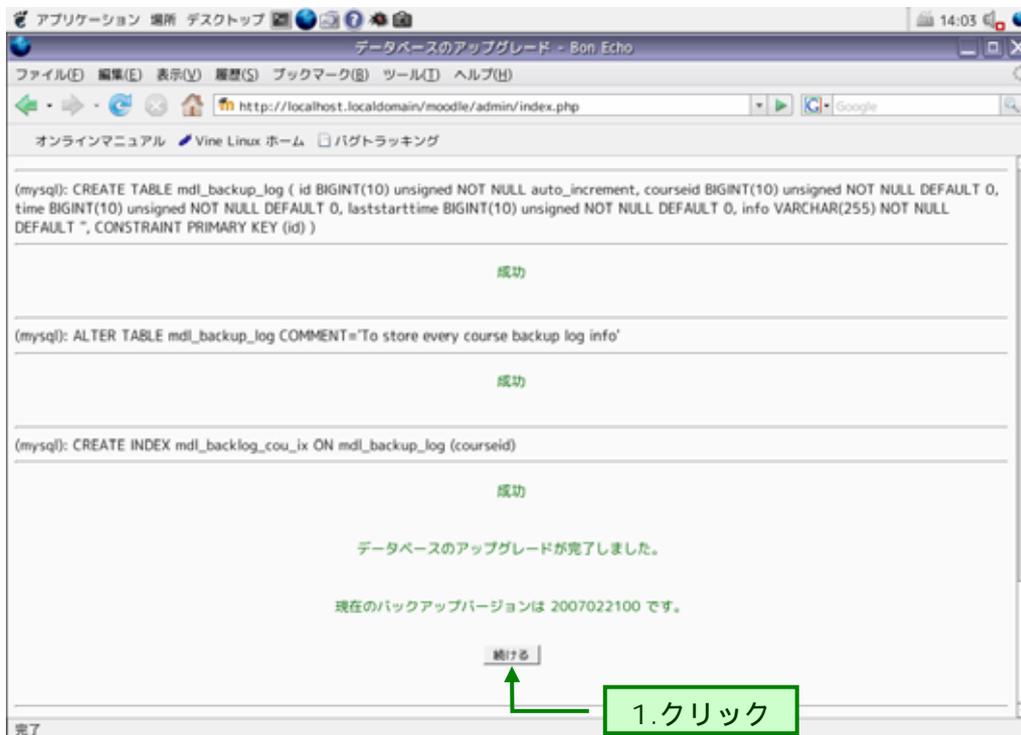


**19** さらにモジュールテーブルが自動的に作成される。  
作成完了後、[続ける]をクリックする。

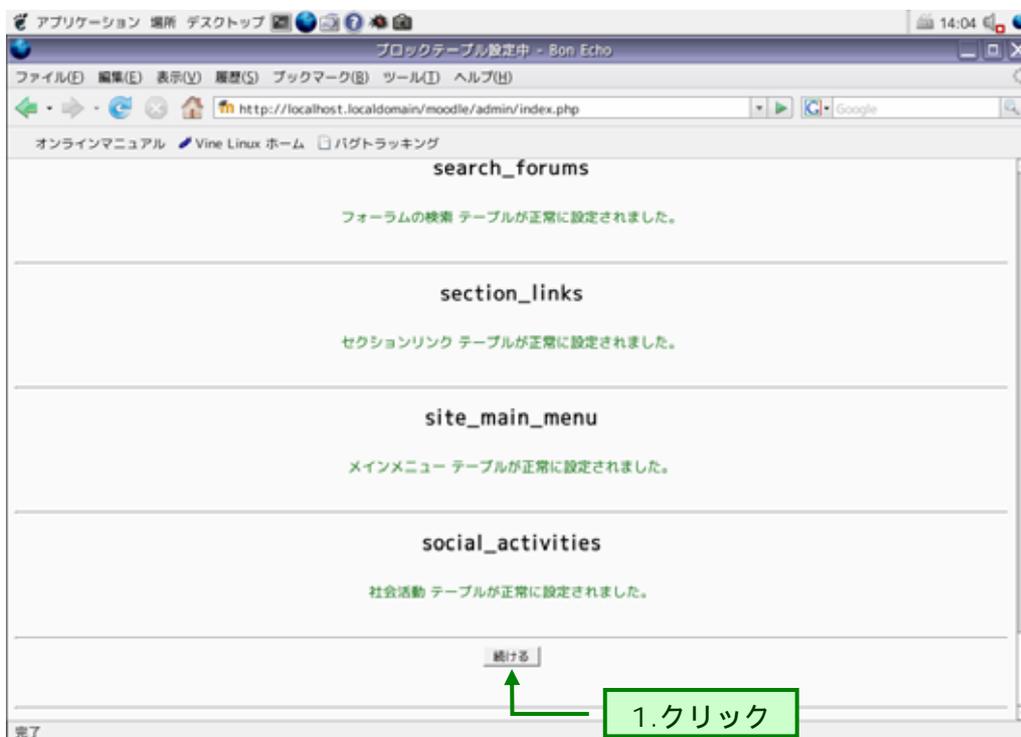


## 第3章 Moodle サーバの設定

**20** データベースのアップグレードが完了する。  
[続ける]をクリックする。

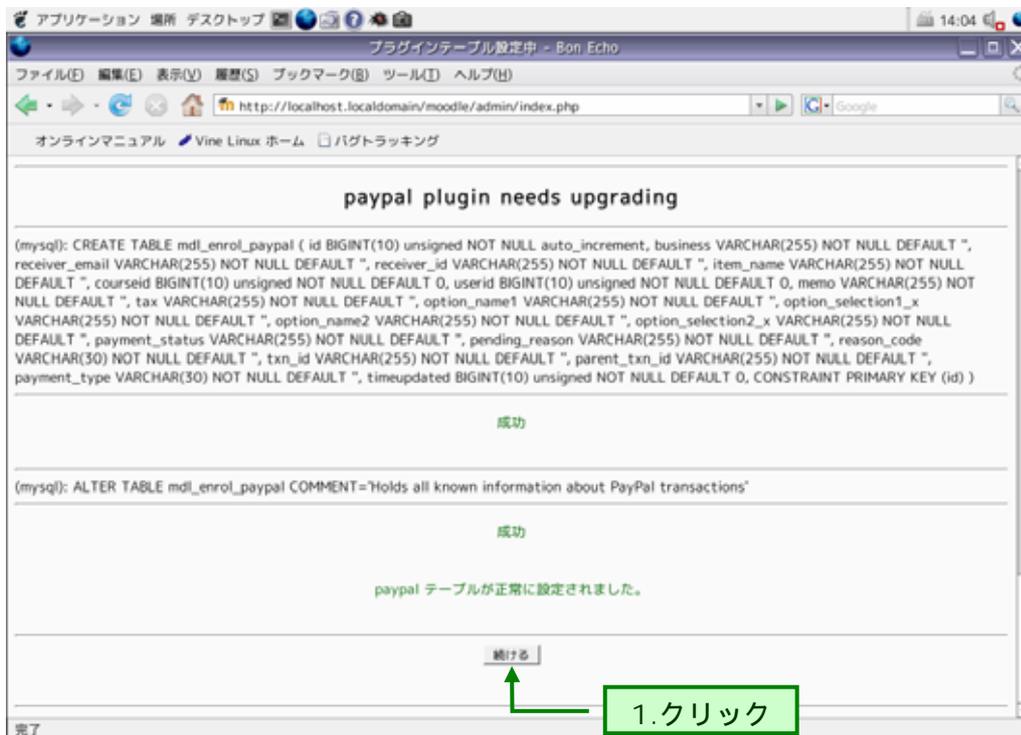


**21** つづいて活動テーブル等が自動的に作成される。  
作成完了後、[続ける]をクリックする。

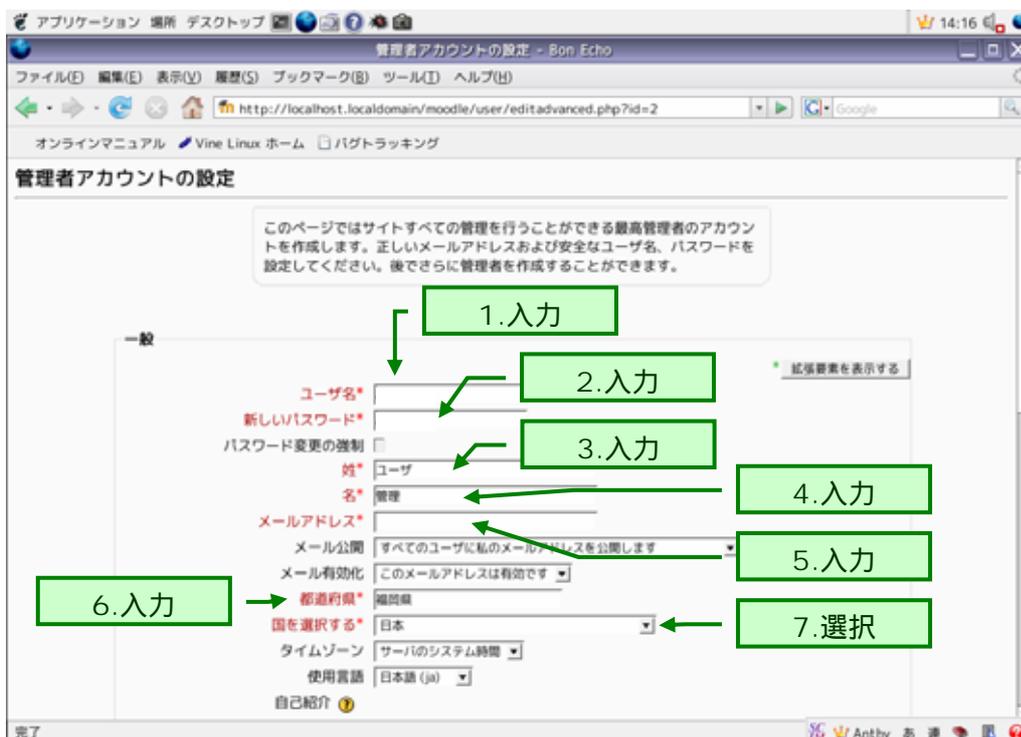


## 第3章 Moodle サーバの設定

- 22** つづいて paypal テーブルが自動的に作成される。  
作成完了後、[続ける]をクリックする。



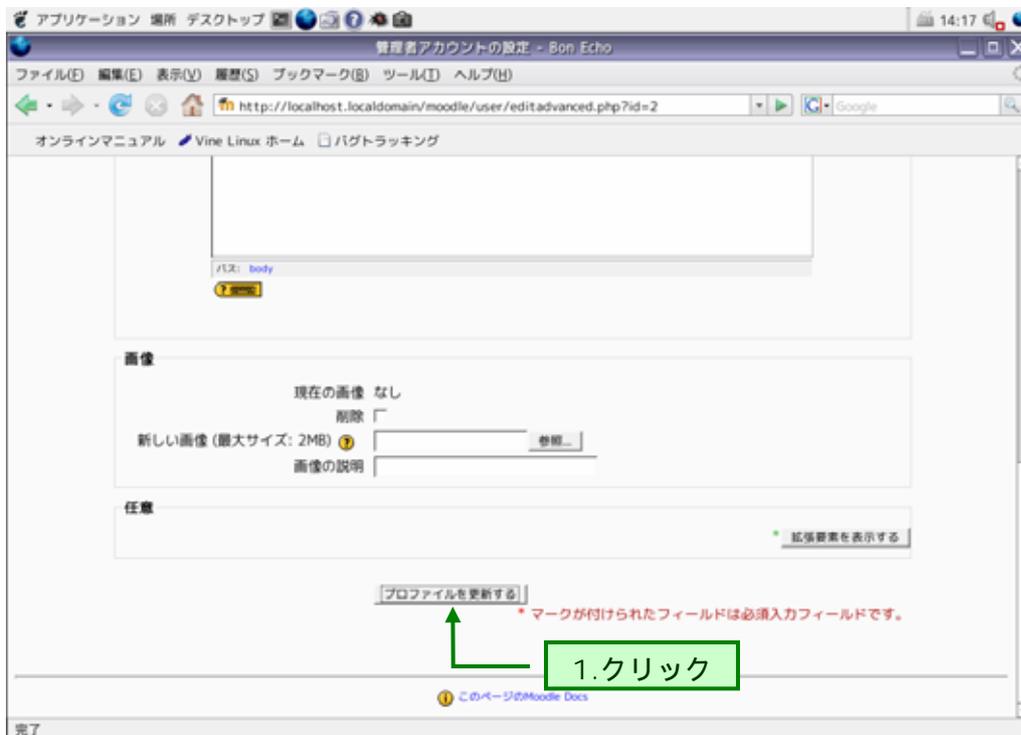
- 23** 管理者アカウントの設定画面が表示される。  
ログイン画面で入力する管理者権限のユーザ名、パスワード、姓名、メールアドレス、都道府県、国を設定する。



## 第3章 Moodle サーバの設定

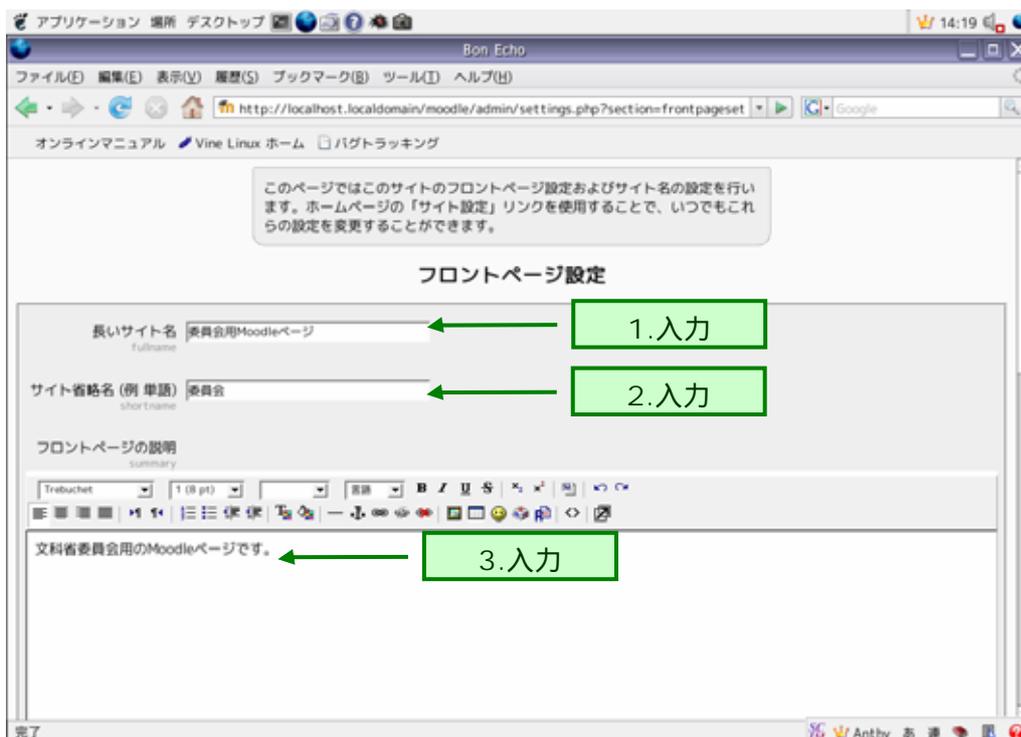
24

必須項目の入力完了後、[プロフィールを更新する]をクリックする。  
管理者アカウントの項目は、後ほど編集可能である。



25

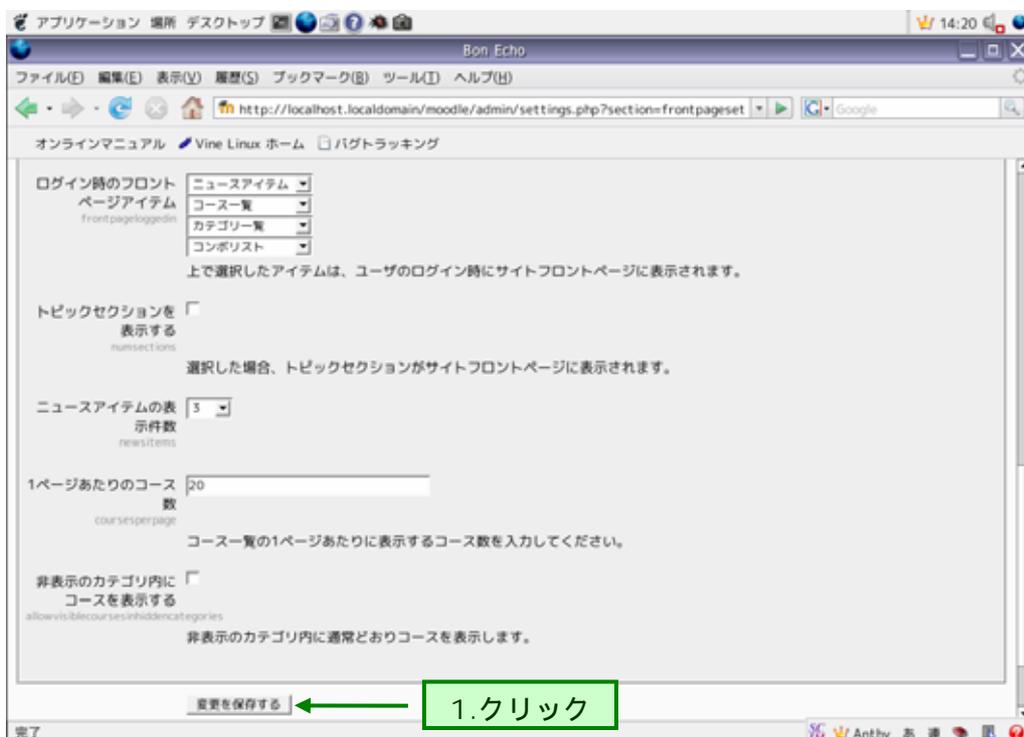
ログイン後最初に表示されるページである、フロントページの設定画面が表示される。ページ上部に大きく表示される[長いサイト名]、切り替えタブ等に表示される[サイト省略名]、フロントページ右上に表示されるフロントページの説明文を入力する。



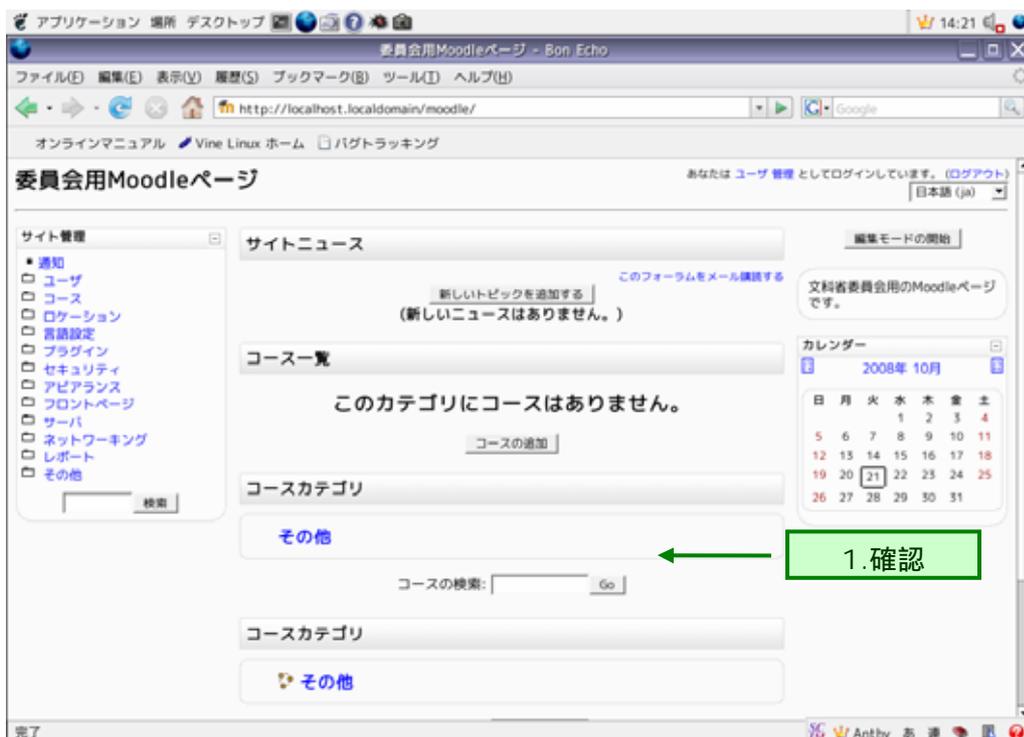
## 第3章 Moodle サーバの設定

**26** 長いサイト名、サイト省略名、フロントページの説明を入力後、[変更を保存する]をクリックする。

フロントページ設定は、後ほど編集可能である。



**27** 作成されたフロントページが表示される。



---

## 第 3 章 Moodle サーバの設定

### (5) 補足：Moodle パッケージのダウンロード

DVD を使用しない場合は、Web サイトより Moodle パッケージをダウンロードする。

Moodle のパッケージは、様々な Web サイトで配布されている。

ここでは例として、RPM( Red Hat Package Manager あるいは RPM Package Manager ) 形式のパッケージについて解説を行う。

RPM 形式での配布は、熊本大学の喜多先生の RPM パッケージ

( <http://t-kita.net/rpm/moodle/> ) 等でダウンロード可能である。

2009 年 1 月 20 日現在で、最新版として

- moodle-1.8.4-0v11.noarch.rpm
- moodle-mysqladmin-1.8.4-0v11.noarch.rpm
- moodle-quizreport-detail-1.8.4-0v11.noarch.rpm

が配布されている。

本テキストでは、上記の URL より

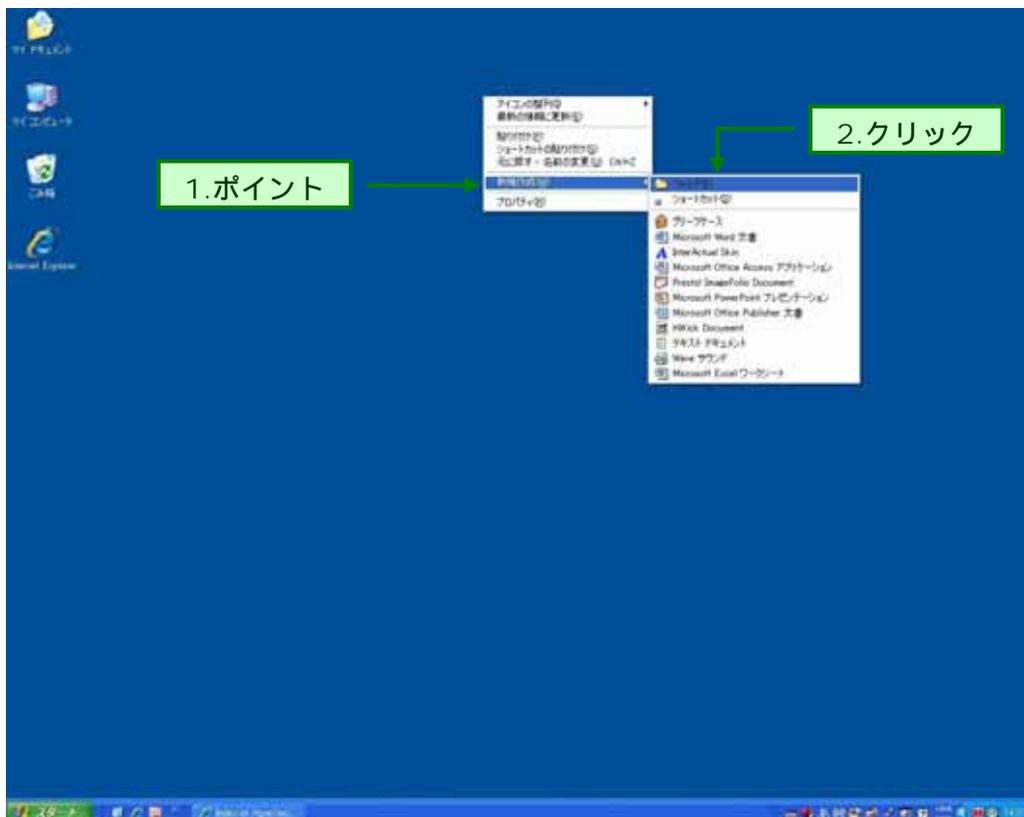
- moodle-1.8.3-0v11.noarch.rpm
- moodle-mysqladmin-1.8.3-0v11.noarch.rpm
- moodle-quizreport-detail-1.8.3-0v11.noarch.rpm

をダウンロードしてインストールを行う方法を解説する。

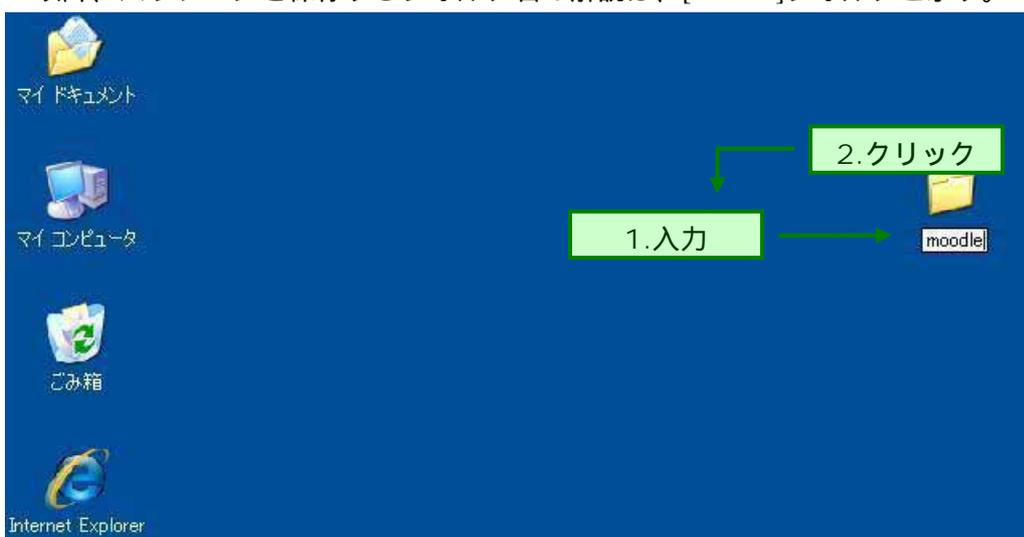
ダウンロード方法を、次ページに示す。

## 第3章 Moodle サーバの設定

- 1 デスクトップに、ダウンロードした各パッケージを保存するフォルダを作成する。デスクトップ内で右クリックし、ショートカットメニューの中から[新規作成][フォルダ]をクリックする。



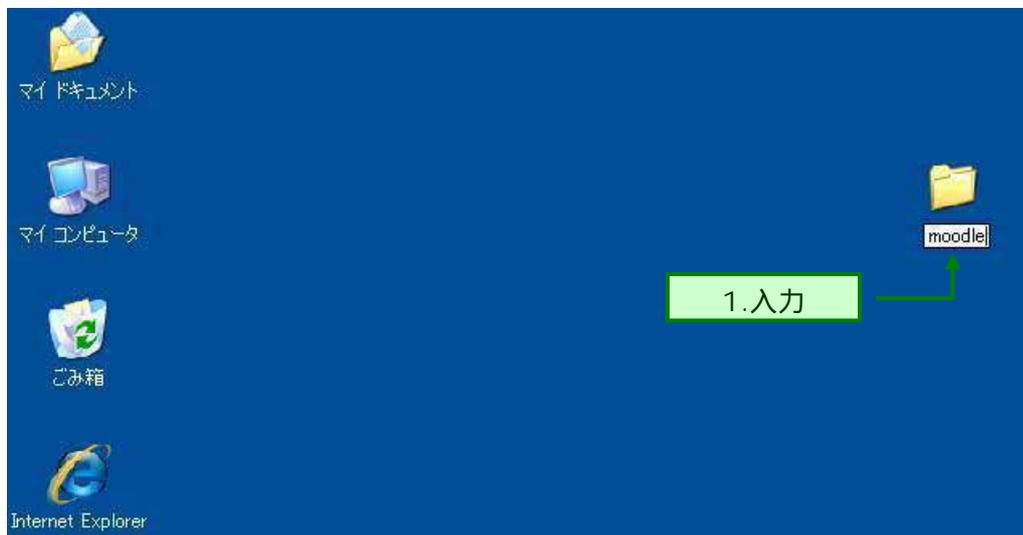
- 2 フォルダが作成され、フォルダ名の入力状態になる。任意のフォルダ名を入力する。本テキストでは[moodle]と入力する。以降、パッケージを保存するフォルダ名の解説は、[moodle]フォルダと示す。



### 第3章 Moodle サーバの設定

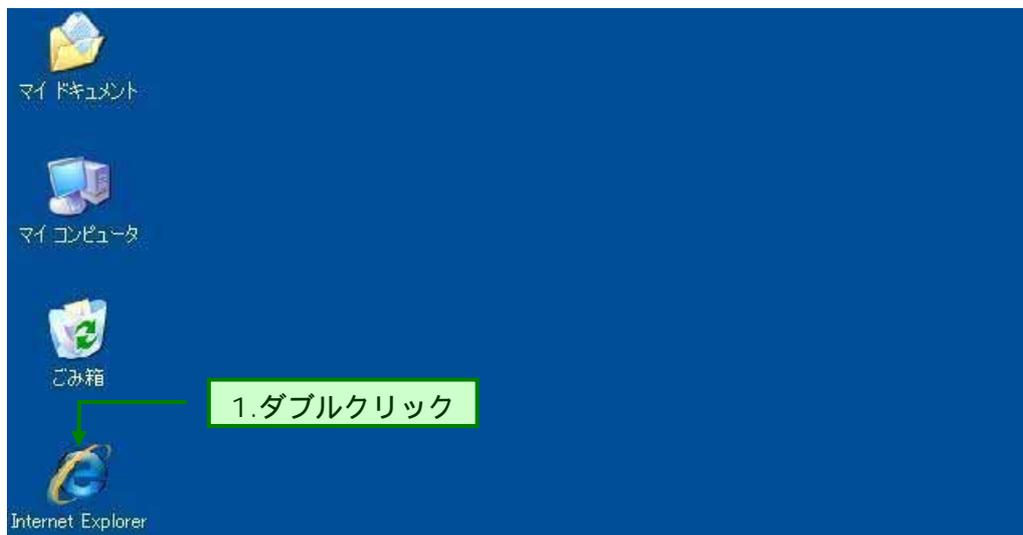
3

フォルダが作成され、フォルダ名の入力状態になる。  
任意のフォルダ名を入力する。本テキストでは[moodle]と入力する。  
以降、パッケージを保存するフォルダ名の解説は、[moodle]フォルダと示す。  
入力後、[Enter]キーで確定する。



4

Internet Explorer のアイコンをダブルクリックし、ブラウザを起動する。



5

アドレスバー内に、[http://t-kita.net/rpm/moodle/]と入力し、[移動]をクリックする。

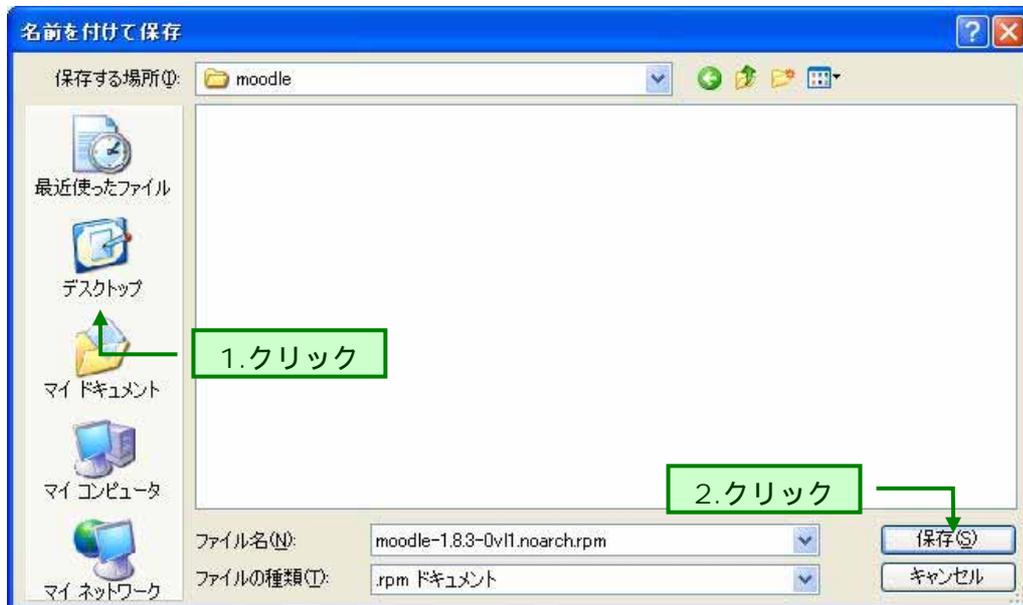




## 第3章 Moodle サーバの設定

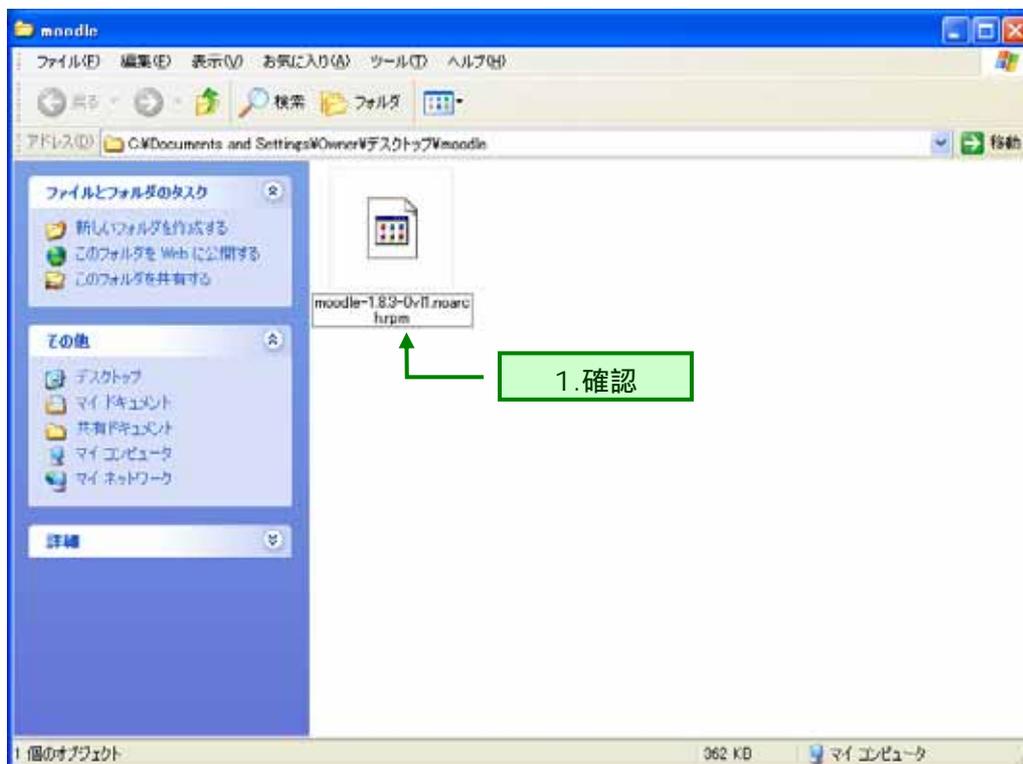
8

- [名前を付けて保存]ダイアログボックスが表示される。
- [保存する場所]から[デスクトップ]をクリックする。
- [デスクトップ]から[moodle]フォルダを選択する。
- [保存]をクリックする。



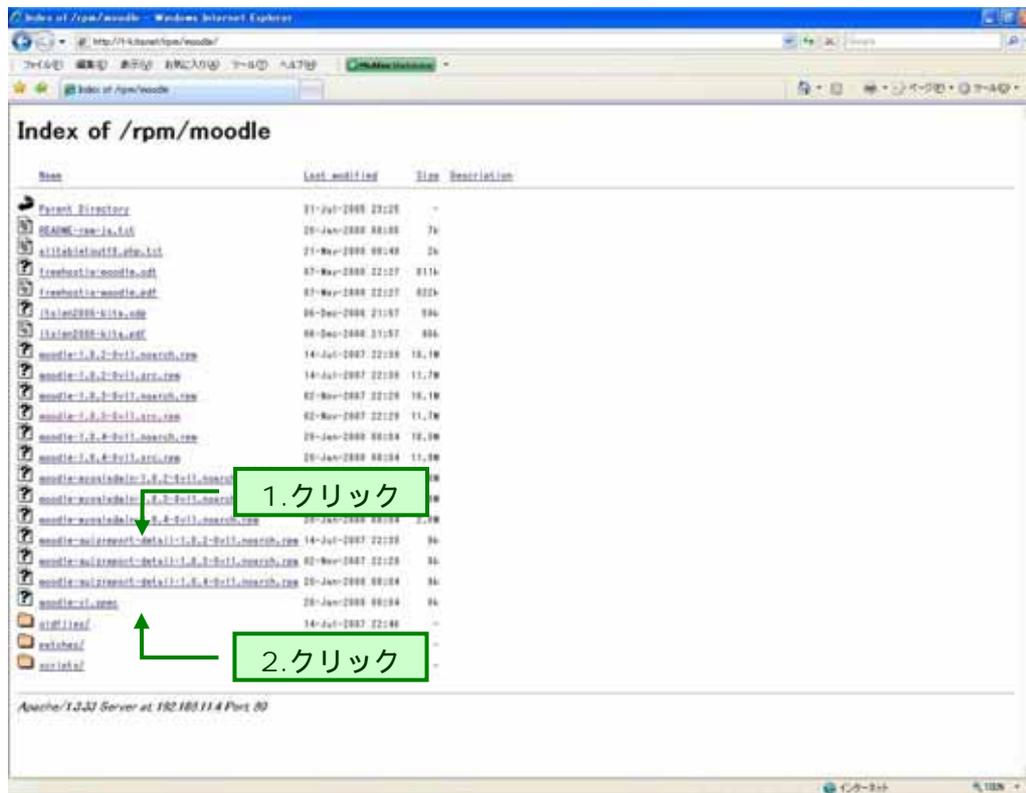
9

- デスクトップ内の[Moodle]フォルダをダブルクリックで開く。
- フォルダ内にパッケージファイル[moodle-1.8.3-0v11.noarch.rpm]が格納されていることを確認する。

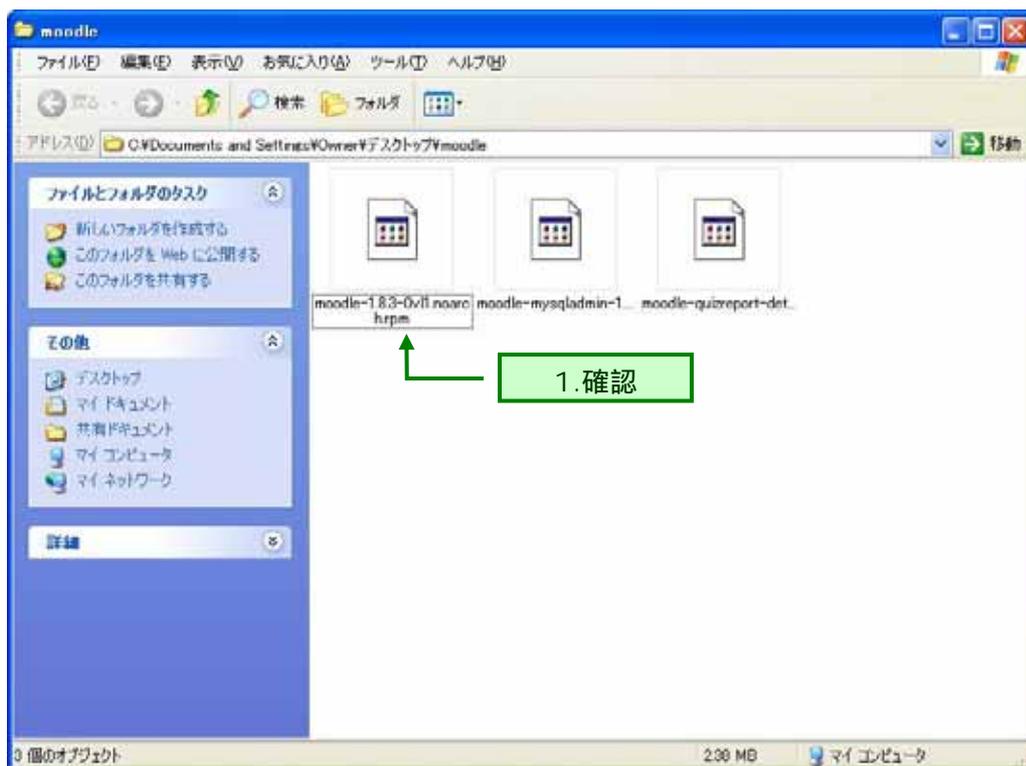


## 第3章 Moodle サーバの設定

- 10 同様に、[moodle-mysqldadmin-1.8.3-0v11.noarch.rpm]、  
[moodle-quizreport-detail-1.8.3-0v11.noarch.rpm]をダウンロードする。



- 11 ダウンロード完了後、デスクトップ内の[Moodle]フォルダをダブルクリックで開く。フォルダ内にダウンロードした 3 つのパッケージファイルが格納されていることを確認する。



## 第3章 Moodle サーバの設定

### (6) 補足：Apache、PHP、MySQL パッケージのダウンロード

DVD を使用しない場合は、同様に Web サイトより Apache、PHP、MySQL パッケージをダウンロードする。

これらのパッケージも様々なサイトで配布されているが、ここでは Moodle パッケージと同じく RPM 形式でのパッケージについて解説を行う。

Vine Linux のパッケージ集である Vine Plus (<http://www.vinelinux.org/vineplus.html>) 等の Web サイトや各種書籍の付属 CD-ROM、DVD-ROM 等での入手が可能である。

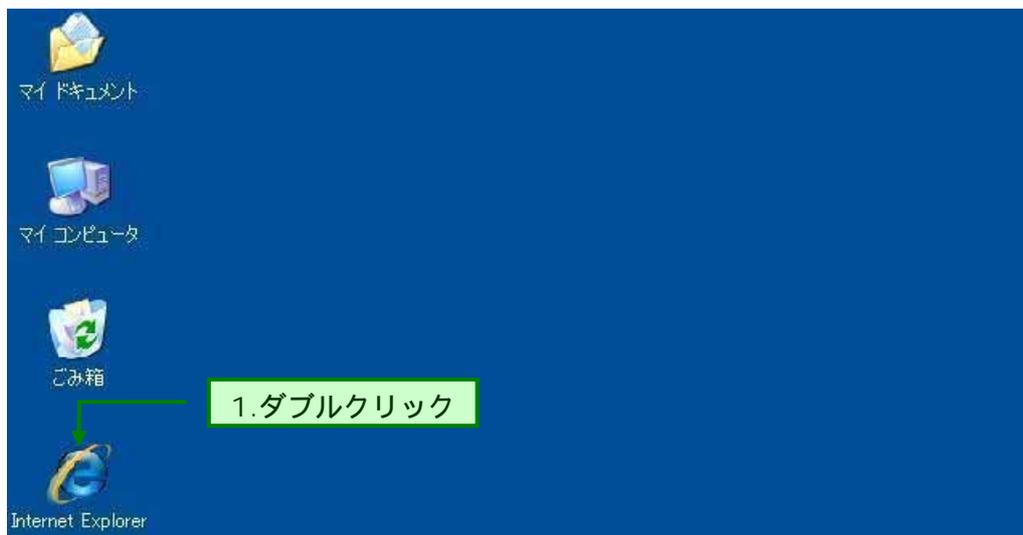
本テキストでは、上記の URL より、2009 年 1 月 21 日現在公開されている

- ・ `libsablotron0-0.97-0v14.i386.rpm`
- ・ `MySQL-client-5.0.27-0v16.i386.rpm`
- ・ `MySQL-server-5.0.27-0v16.i386.rpm`
- ・ `MySQL-shared-5.0.27-0v16.i386.rpm`
- ・ `perl-DBI-1.53-0v11.i386.rpm`
- ・ `php-4.4.8-0v11.i386.rpm`
- ・ `php-apache2-4.4.8-0v11.i386.rpm`
- ・ `php-mysql-4.4.8-0v11.i386.rpm`
- ・ `php-pear-4.4.8-0v11.i386.rpm`
- ・ `gmp-4.1.4-6v11.i386.rpm`

をダウンロードしてインストールを行う方法を解説する。  
ダウンロード方法を以下に示す。

1

Internet Explorer のアイコンをダブルクリックし、ブラウザを起動する。



## 第3章 Moodle サーバの設定

2

Vine Plus の Web サイトへ移動する。

アドレスバー内に、[http://www.vinelinux.org/vineplus.html]と入力し、[移動]をクリックする。



3

ミラーサイトよりパッケージをダウンロードする。

本文中のリンク[各ミラーサイト]をクリックする。



4

入手方法ページが表示される。

[ダウンロード] [ミラーサイト]一覧より、ダウンロードに使用する任意のミラーサイトををクリックする。

本テキストでは、[ftp://core.ring.gr.jp/pub/linux/Vine/]を使用する。

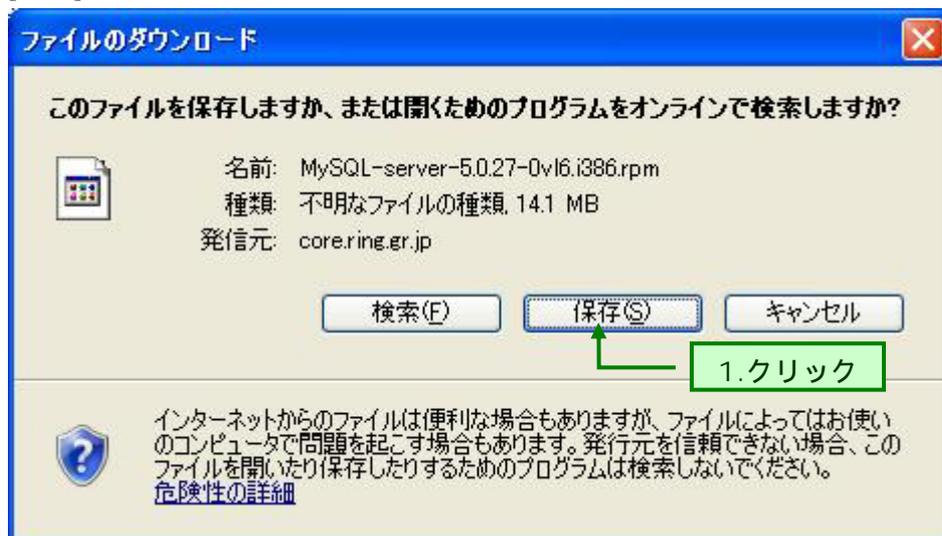




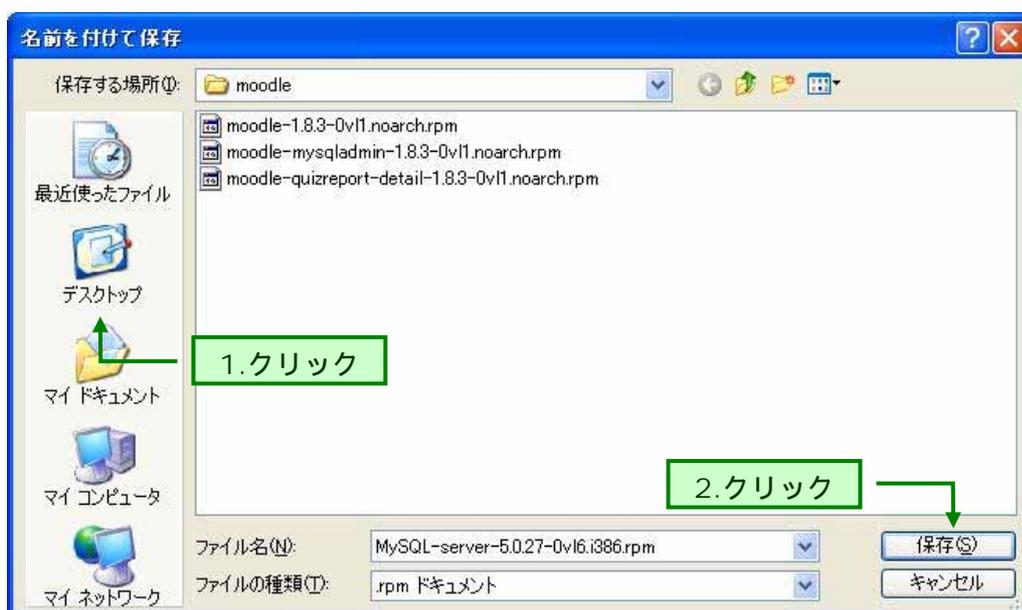


## 第3章 Moodle サーバの設定

- 10 [ファイルのダウンロード]ダイアログボックスが表示される。  
[保存]をクリックする。

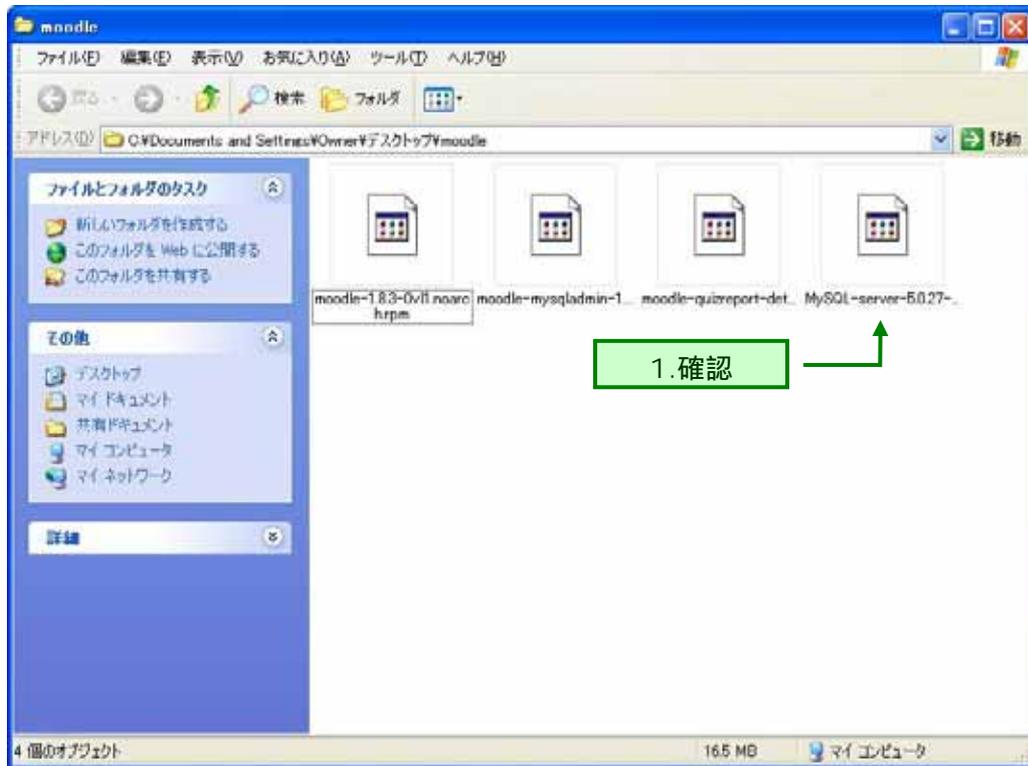


- 11 [名前を付けて保存]ダイアログボックスが表示される。  
[保存する場所]から[デスクトップ]をクリックする。  
[デスクトップ]から[moodle]フォルダを選択する。  
[保存]をクリックする。

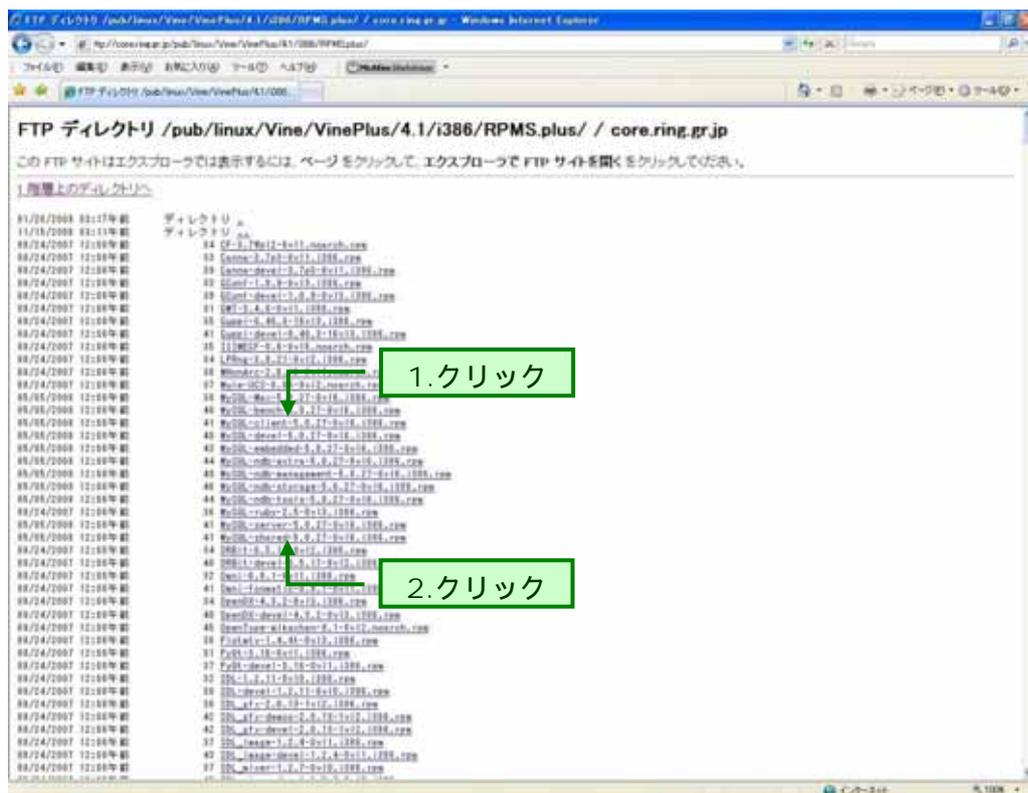


## 第3章 Moodle サーバの設定

- 12** デスクトップ内の[Moodle]フォルダをダブルクリックで開く。  
フォルダ内にパッケージファイル[MySQL-server-5.0.27-0vl6.i386.rpm]が格納されていることを確認する。



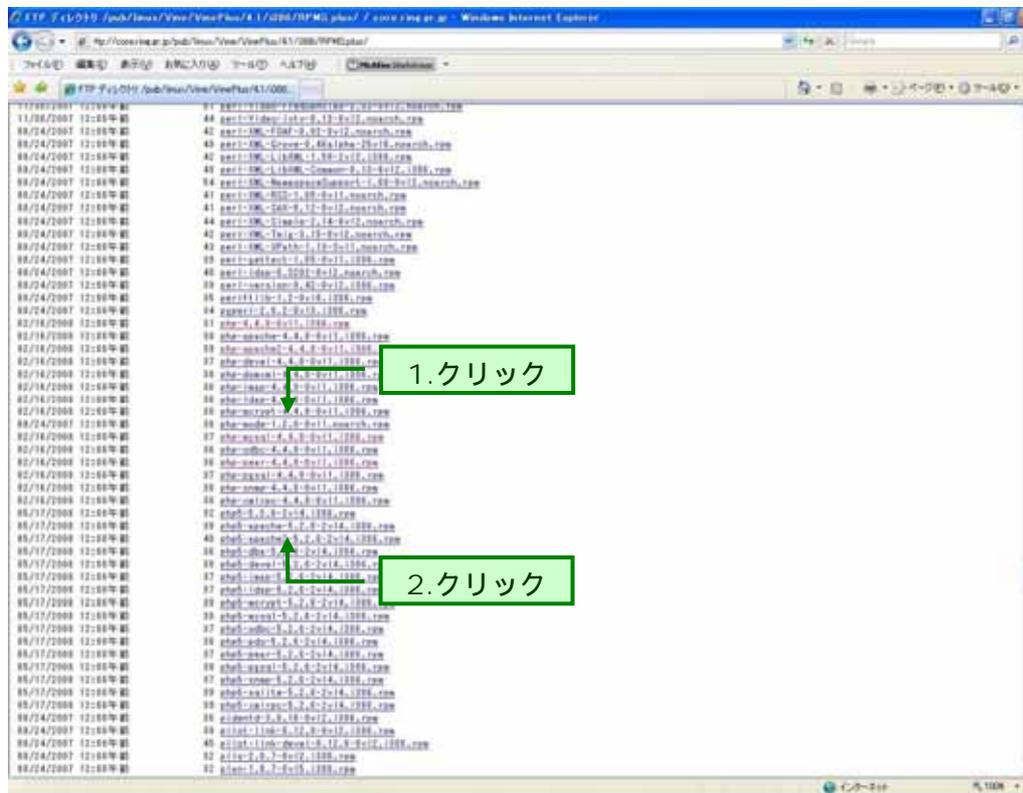
- 13** 同様に、[MySQL-client-5.0.27-0vl6.i386.rpm]、  
[MySQL-shared-5.0.27-0vl6.i386.rpm]をダウンロードする。



## 第3章 Moodle サーバの設定

14

同様に、[libsablotron0-0.97-0v1.4.i386.rpm]、[perl-DBI-1.53-0v1.1.i386.rpm]、[php-4.4.8-0v1.1.i386.rpm]、[php-apache2-4.4.8-0v1.1.i386.rpm]、[php-mysql-4.4.8-0v1.1.i386.rpm]、[php-pear-4.4.8-0v1.1.i386.rpm]、[gmp-4.1.4-6v1.1.i386.rpm]をダウンロードする。

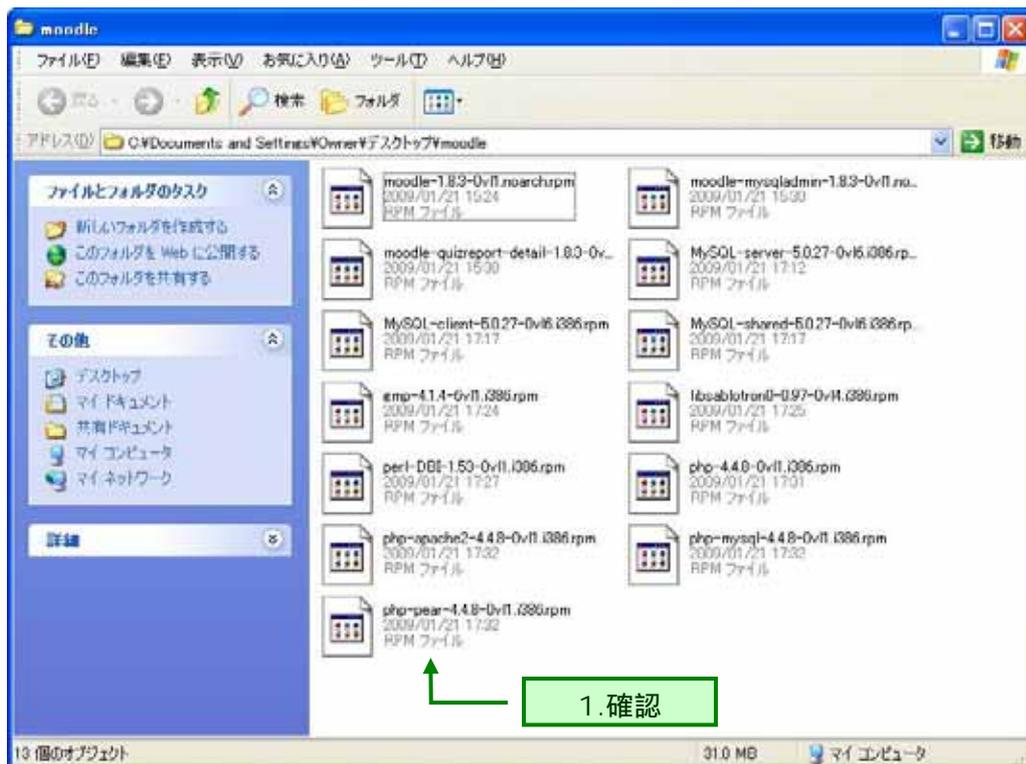


## 第3章 Moodle サーバの設定

**15** ダウンロード完了後、デスクトップ内の[Moodle]フォルダをダブルクリックで開く。

フォルダ内にダウンロードした10個のパッケージファイルが格納されていることを確認する。

Moodle のパッケージファイルと合わせて 13 個のパッケージファイルが格納されている。



## 第3章 Moodle サーバの設定

### 3.2 各種ファイルの設定

#### (1) PHP ファイルの設定

各パッケージのインストール、および Moodle のインストールが完了すると、ローカルな環境（インストールしたサーバマシン）での閲覧が可能になった。

次は、PHP ファイルの設定を変更し、ローカルな環境以外からの閲覧を可能にする。

設定変更の手順を以下に示す。

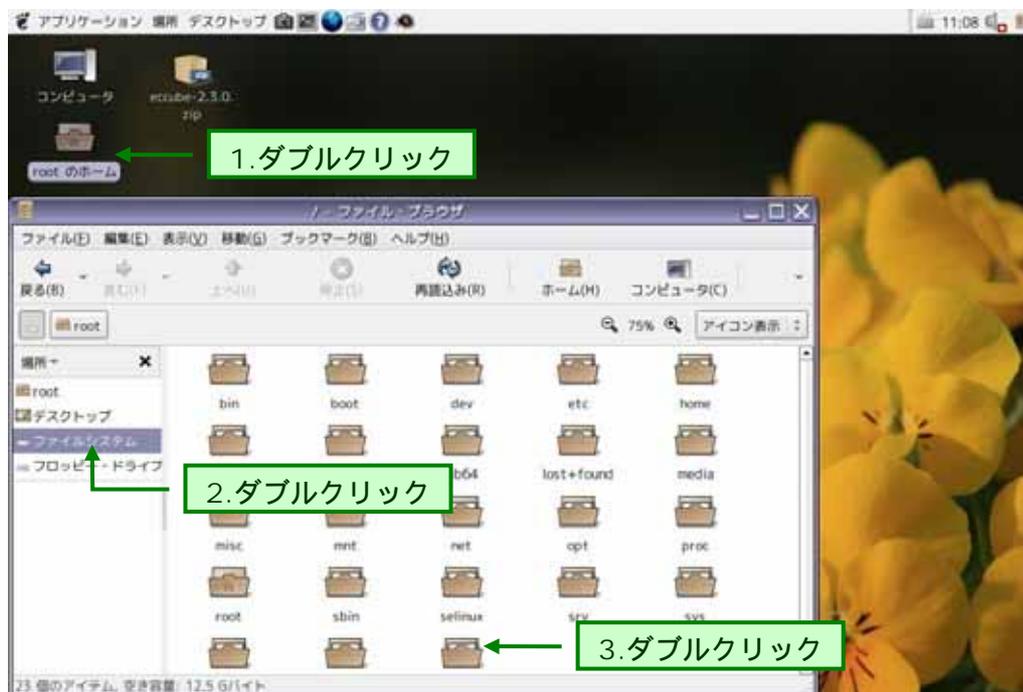
なお、本テキストでは、Vine Linux のファイルシステムにおいて、`/var/www/html` フォルダ内に Moodle をインストールしている事を想定して解説を行う。

1

デスクトップにある[root のホーム]アイコンをダブルクリックで開く。  
ファイルブラウザが起動する。

[場所]サイドフレーム [ファイルシステム]をダブルクリックする。  
ファイルシステムのフォルダ一覧が表示される。

[var]フォルダをダブルクリックで開く。



## 第3章 Moodle サーバの設定

2

さらに[www]フォルダ [html]フォルダ [moodle]フォルダの順にダブルクリックしてフォルダを開く。

[moodle]フォルダ内のファイル[config.php]をダブルクリックで開く。



3

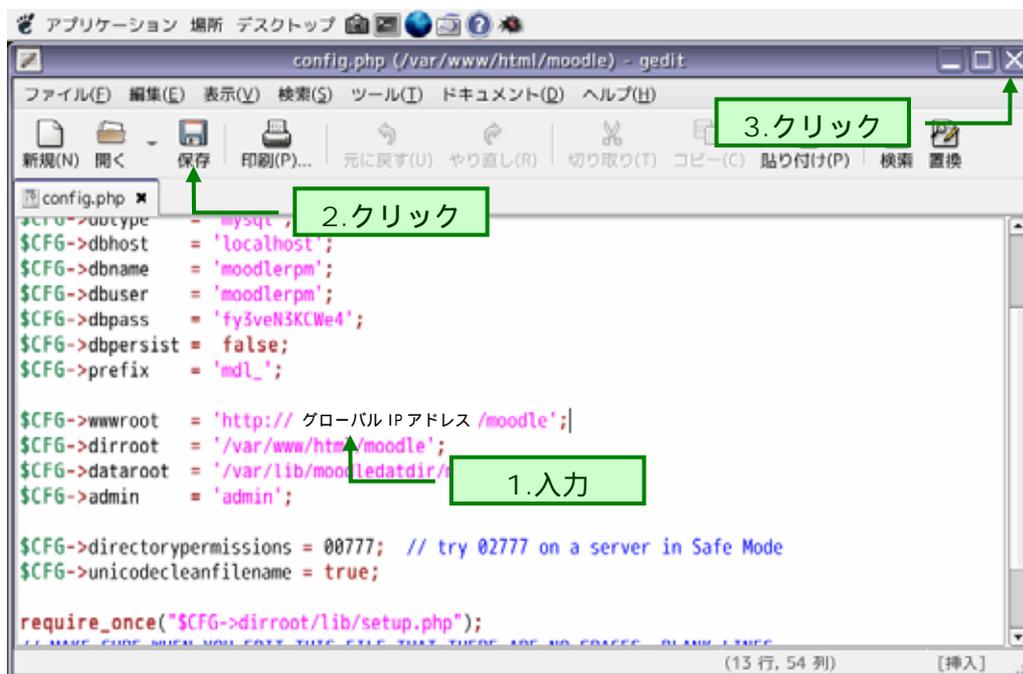
テキストエディタが開き、ファイル[config.php]の内容が表示される。

13行目あたりの[wwwroot]の値を、

「http://[サーバマシンのグローバルIPアドレス]/moodle;」に変更する。

変更後、[ツールバー] [保存]をクリックし、上書き保存を行う。

保存完了後、[閉じる]をクリックし、ファイル[config.php]を閉じる。



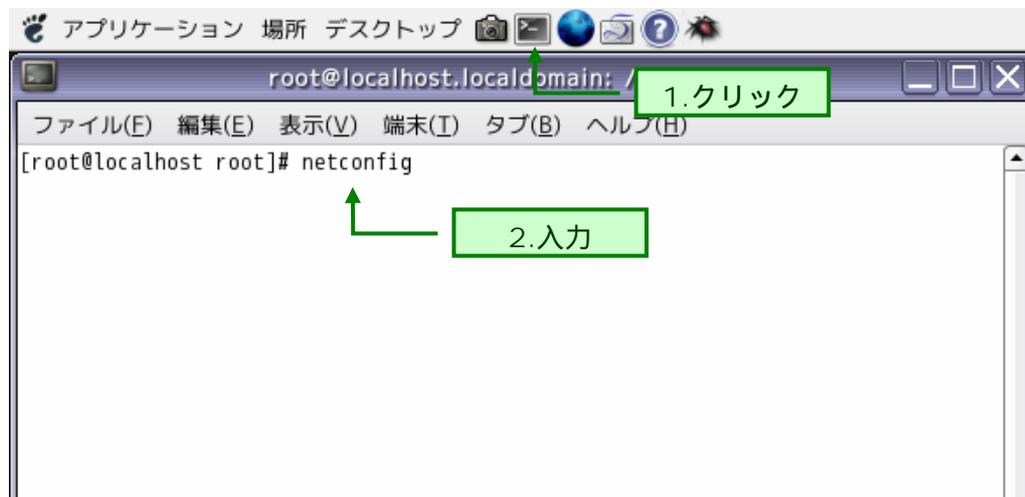
## 第3章 Moodle サーバの設定

4

つづいて、moodle のインストールを行ったサーバマシンのローカル IP アドレスを固定する。

[パネル] [GNOME 端末]をクリックする。

[netconfig]と入力し、[Enter]キーで確定する。



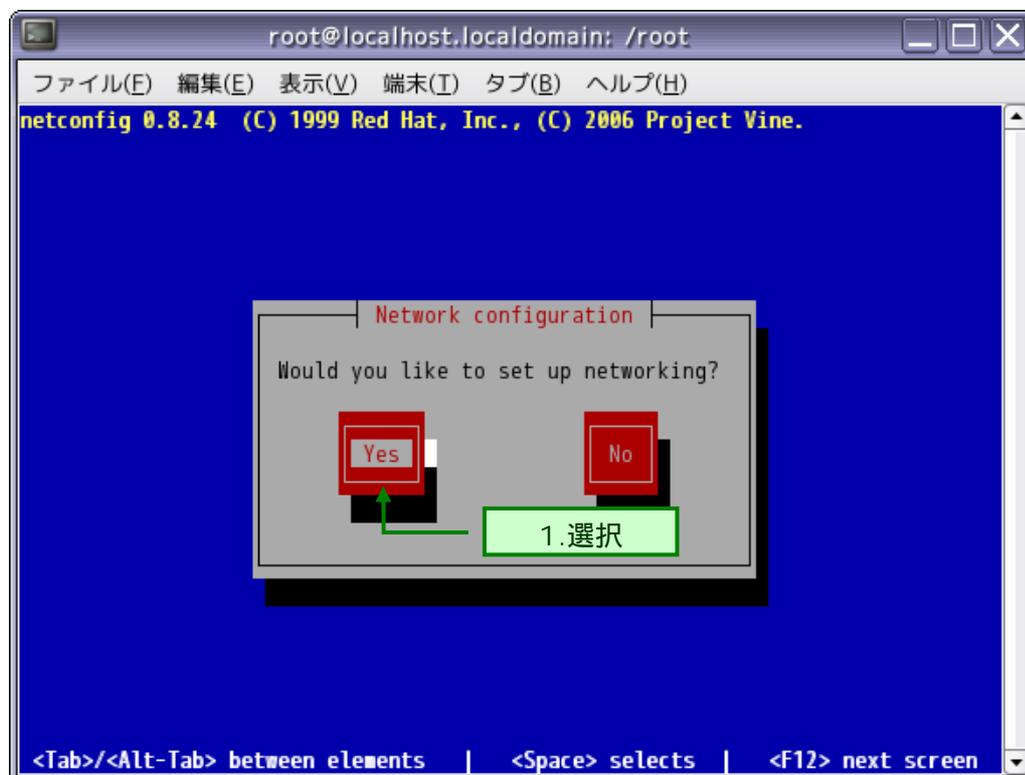
5

「Network configuration」が起動する。

セットアップ開始の確認画面が表示される。

以降、矢印キーで選択し、[Enter]キーで確定する。

[Yes]を選択し、確定する。



## 第3章 Moodle サーバの設定

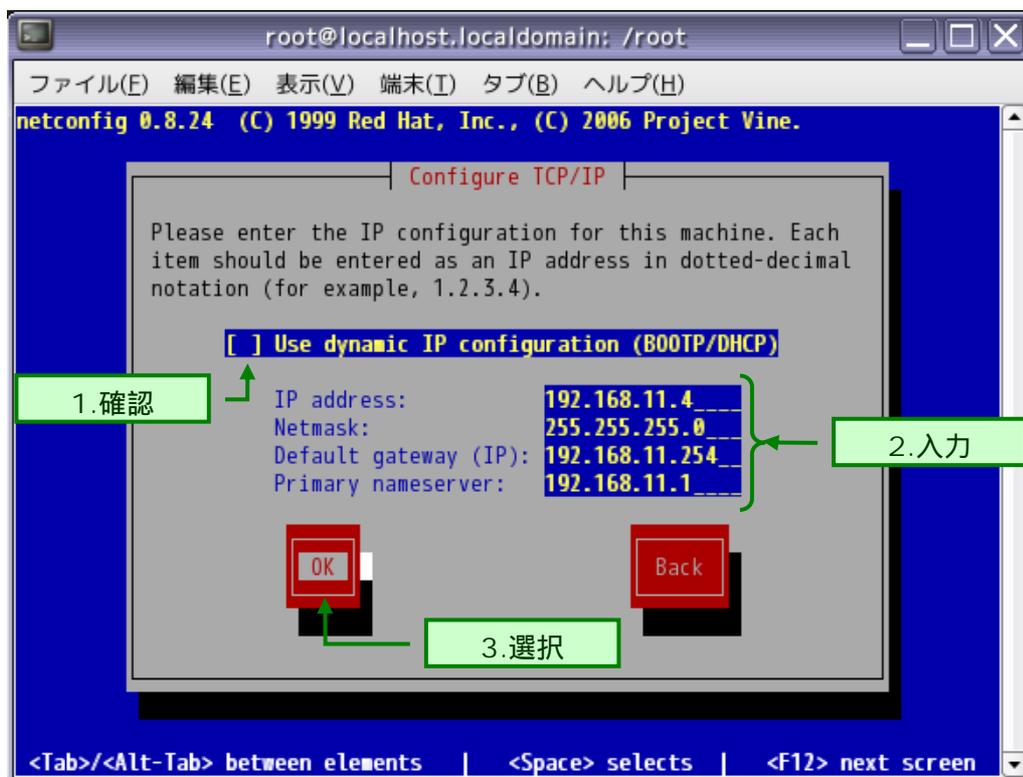
### 6

TCP/IP の詳細設定画面が表示される。

[ ] Use dynamic IP configuration (BOOTP/DHCP)にチェックが入っている場合は、[スペース]キーを押してチェックをはずす。

サーバマシンのローカル IP アドレス、ネットマスク、デフォルトゲートウェイ、プライマリネームサーバ(ルータのローカル IP アドレス)を入力する。

ローカル IP アドレスを固定する必要がある場合は、6章の「付録：固定 IP の設定」を参照する。



## 第3章 Moodle サーバの設定

7

GNOME 端末画面に戻る。

ローカル固定 IP 等、先ほどの設定を確認する場合は、[ifconfig]と入力し、[Enter]キーで確定する。

なお、「inet アドレス」は「ローカル IP アドレス」、「マスク」は「ネットマスク」を表している。

```
root@localhost.localdomain: /root
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) 端末(T) タブ(B) ヘルプ(H)
RX bytes:13988 (13.6 Kb) TX bytes:13988 (13.6 Kb)
[root@localhost root]# netconfig
[root@localhost root]# ifconfig
eth0   リンク方法:イーサネット   ハードウェアアドレス 00:B0:D0:FC:8B:F4
       inetアドレス:192.168.11.4   ブロードキャスト:192.168.11.255   マスク:255.
       255.255.0
       inet6アドレス: fe80::2b0:d0ff:fe80:8bf4/64   範囲:リンク
       UP BROADCAST NOTRAILERS RUNNING MULTICAST MTU:1500 Metric:1
       RX/パケット:10436 エラー:0 損失:0 オーバラン:0 フレーム:0
       TX/パケット:6729 エラー:0 損失:0 オーバラン:0 キャリア:0
       衝突(Collision):0 TXキュー長:1000
       RX bytes:8294893 (7.9 Mb) TX bytes:740059 (722.7 Kb)

lo     リンク方法:ローカルループバック
       inetアドレス:127.0.0.1   マスク:255.0.0.0
       inet6アドレス: ::1/128   範囲:ホスト
       UP LOOPBACK RUNNING MTU:16436 Metric:1
       RX/パケット:274 エラー:0 損失:0 オーバラン:0 フレーム:0
       TX/パケット:274 エラー:0 損失:0 オーバラン:0 キャリア:0
       衝突(Collision):0 TXキュー長:0
       RX bytes:14088 (13.7 Kb) TX bytes:14088 (13.7 Kb)

[root@localhost root]#
```

8

設定を反映する為、ネットワークの再起動を行う。

[/sbin/service network restart]と入力し、[Enter]キーで確定する。

再起動のプロセスが表示され、問題なければ[OK]と表示される。

確認後、[閉じる]をクリックし、GNOME 端末を閉じる。

```
root@localhost.localdomain: /root
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) 端末(T) タブ(B) ヘルプ(H)
[root@localhost root]# /sbin/service network restart
インターフェイス eth0を停止中: [ OK ]
ループバックインターフェイスを停止中: [ OK ]
ネットワークパラメータを設定中: [ OK ]
ループバックインターフェイスを活性化中: [ OK ]
インターフェイス eth0を活性化中: [ OK ]
[root@localhost root]#
```

## 第3章 Moodle サーバの設定

### (2) Apache2 および Vine Linux の再起動

設定変更後、つづいて Web サーバソフトウェアである Apache2 および Vine Linux の再起動を行い、設定を確実に反映する。

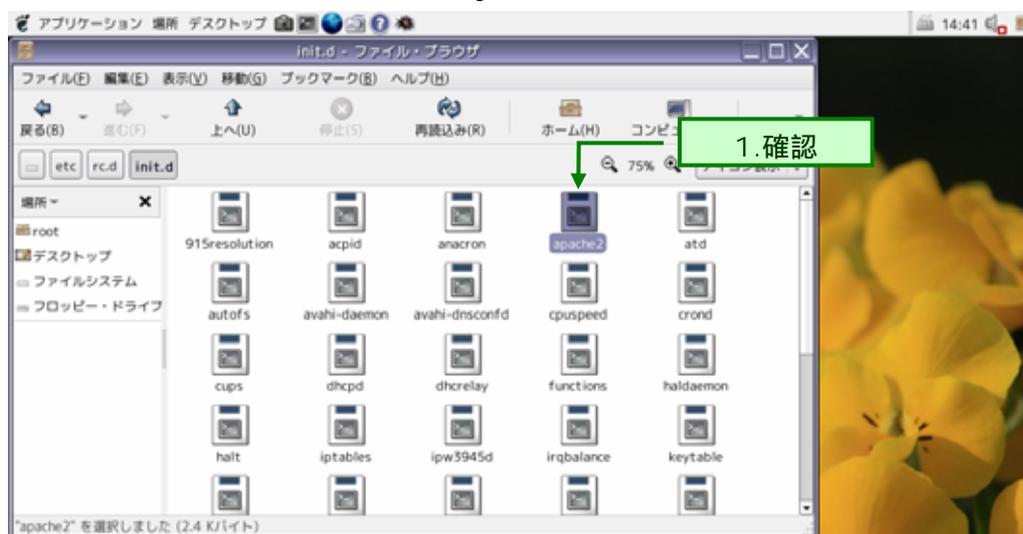
再起動の手順を以下に示す。

なお、本テキストでは、GUI (グラフィカル ユーザ インターフェイス) 環境で Vine Linux をインストールしている事を想定して解説を行う。

1

まず、Apache2 の起動ファイルの場所を確認する。

/etc/rc.d/init.d フォルダ内にファイル[apache2]が格納されている。



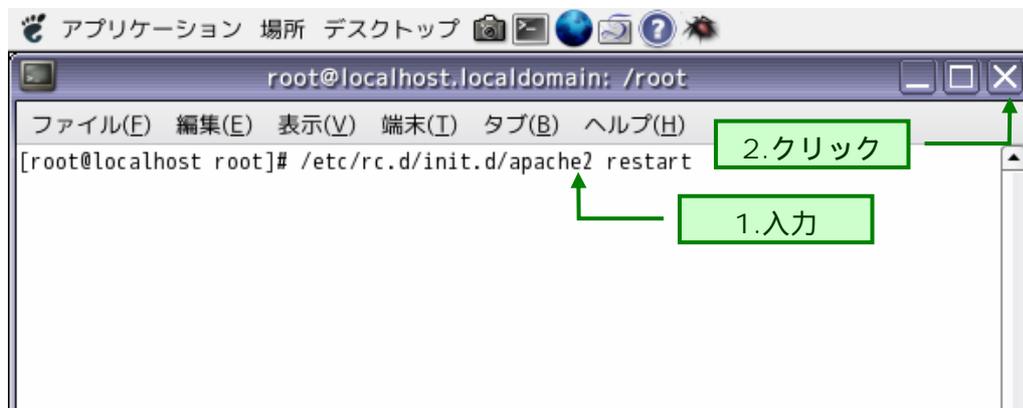
2

次に、Apache2 の再起動を行う。

[パネル] [GNOME 端末]をクリックする。

[/etc/rc.d/init.d/apache2 restart]と入力し、[Enter]キーで確定する。

再起動後、[閉じる]をクリックし、GNOME 端末を閉じる。



## 第3章 Moodle サーバの設定

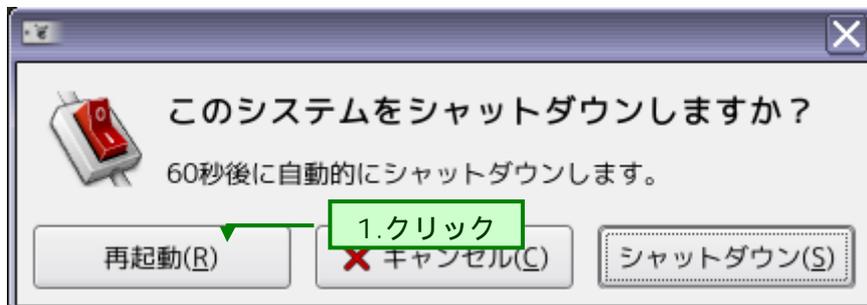
3

つづいて、Vine Linux の再起動を行う。

[パネル] [デスクトップ] [シャットダウン]をクリックする。

シャットダウンに関するダイアログボックスが表示される。

[再起動]をクリックする。



### (3) グローバルな環境での閲覧確認

つづいて、Moodle をインストールしたサーバマシン以外で、Moodle が閲覧できるかどうか、確認を行う。

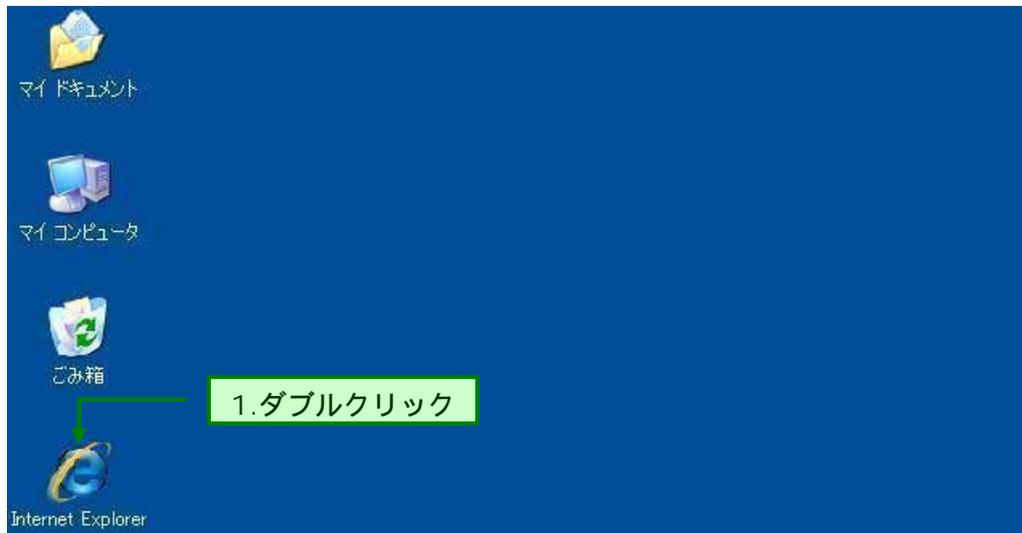
本テキストでは、Windows マシンを使用して確認する事を想定して解説を行う。

確認の手順を以下に示す。

1

サーバマシン以外の PC を起動し、デスクトップを表示する。

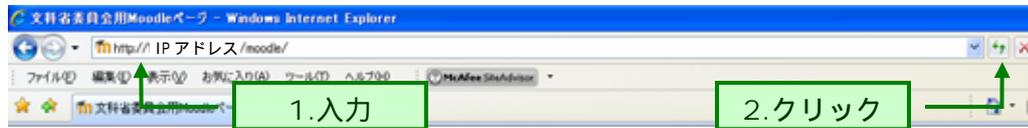
Internet Explorer のアイコンをダブルクリックし、ブラウザを起動する。



## 第3章 Moodle サーバの設定

2

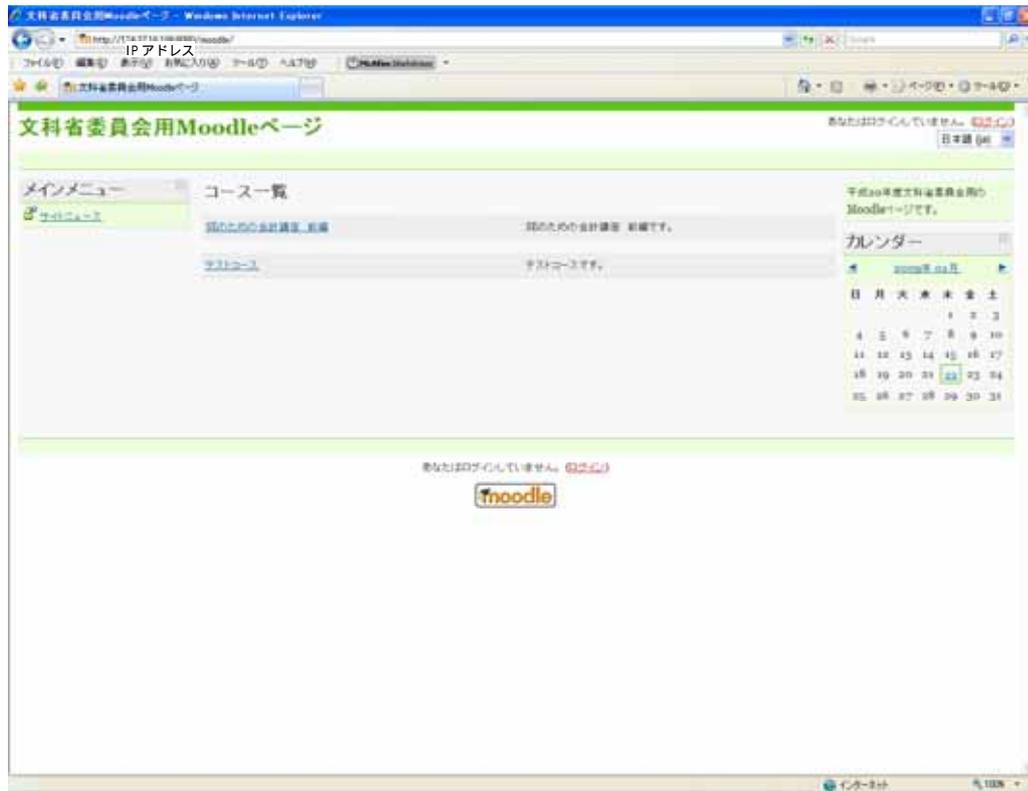
アドレスバー内に、[http://[グローバル IP アドレス]/moodle]と入力し、[移動]をクリックする。



3

Moodle サイトが表示される。

ログイン前の為、サイトの説明文、コース一覧等のみが表示される。



## 第3章 Moodle サーバの設定

### 3.3 ユーザの作成

#### (1) ログイン・ログアウト

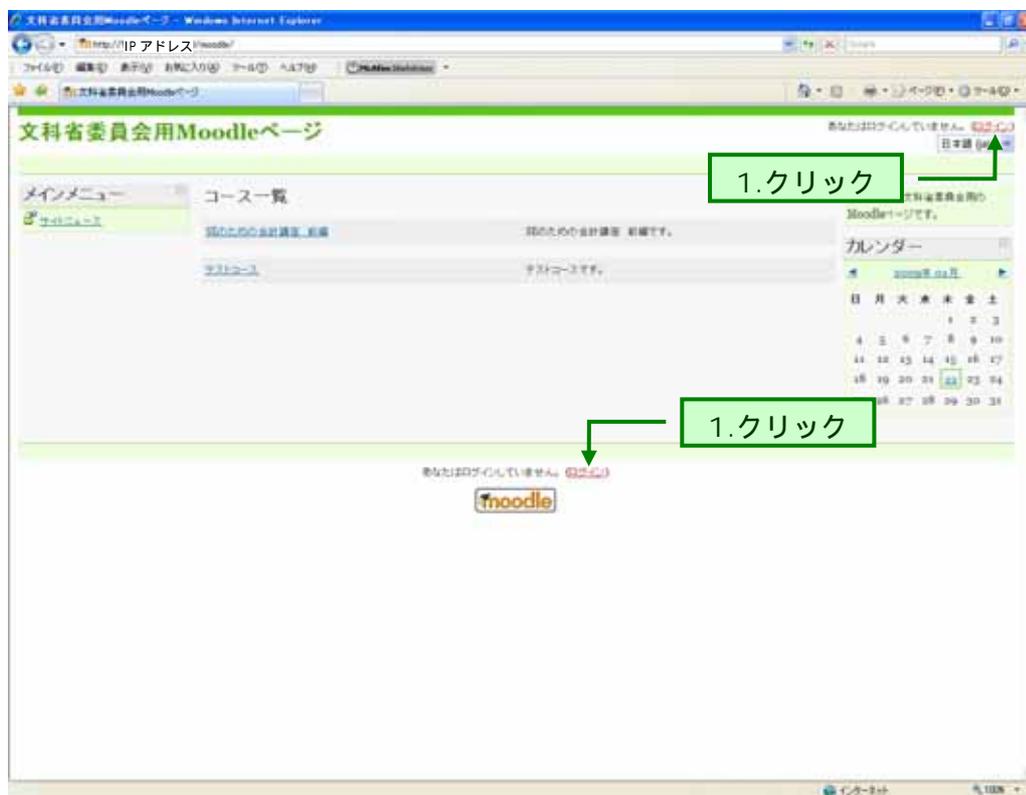
グローバルな環境での Moodle サイトの閲覧確認後、ログインを行い Moodle サイト内の情報を設定する。

まずは、ログインを行い、管理者や教師、学生等のユーザの作成を行う。

最初に、ログイン・ログアウトの手順を以下に示す。

1

Moodle サイトのログイン前のページを表示する。  
画面右上または下中央の[ログイン]をクリックする。



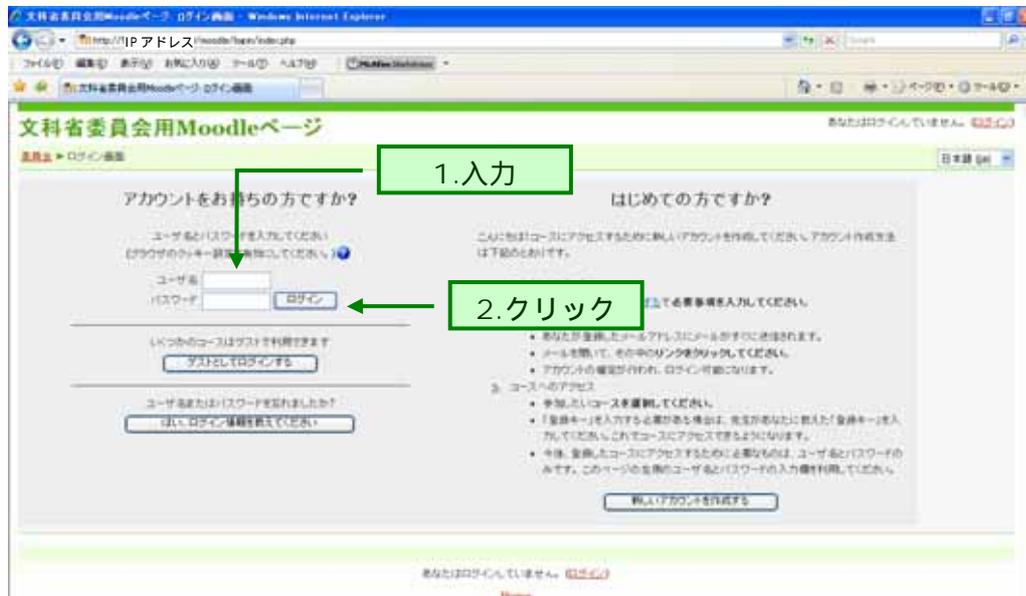
## 第3章 Moodle サーバの設定

2

ログイン画面が表示される。

今回は3章1節の「(4)Moodleのインストール」の手順23にて設定した[ユーザ名]および[パスワード]を入力し、確認を行う。

[ユーザ名]および[パスワード]入力後、[ログイン]をクリックする。



3

ログイン後、フロントページが表示されたことを確認する。

つづいてログアウトを行う。

画面右上または下中央の[ログアウト]をクリックする。



## 第3章 Moodle サーバの設定

4

ログイン前のページが表示されたことを確認する。



### (2) ユーザの追加

つづいて、Moodle インストール時に設定を行った管理者の権限でログインした状態で、ユーザの追加を行う。

同等の権限を持つ管理者や、教材やコースを作成できる教師、または受講のみ行うことができる学生など、さまざまな「ロール」と呼ばれる種類のユーザを作成することができる。

「ロール」については、「(4)ロールの割当て」で詳しく述べる。

ユーザ追加の手順を次ページに示す。

## 第3章 Moodle サーバの設定

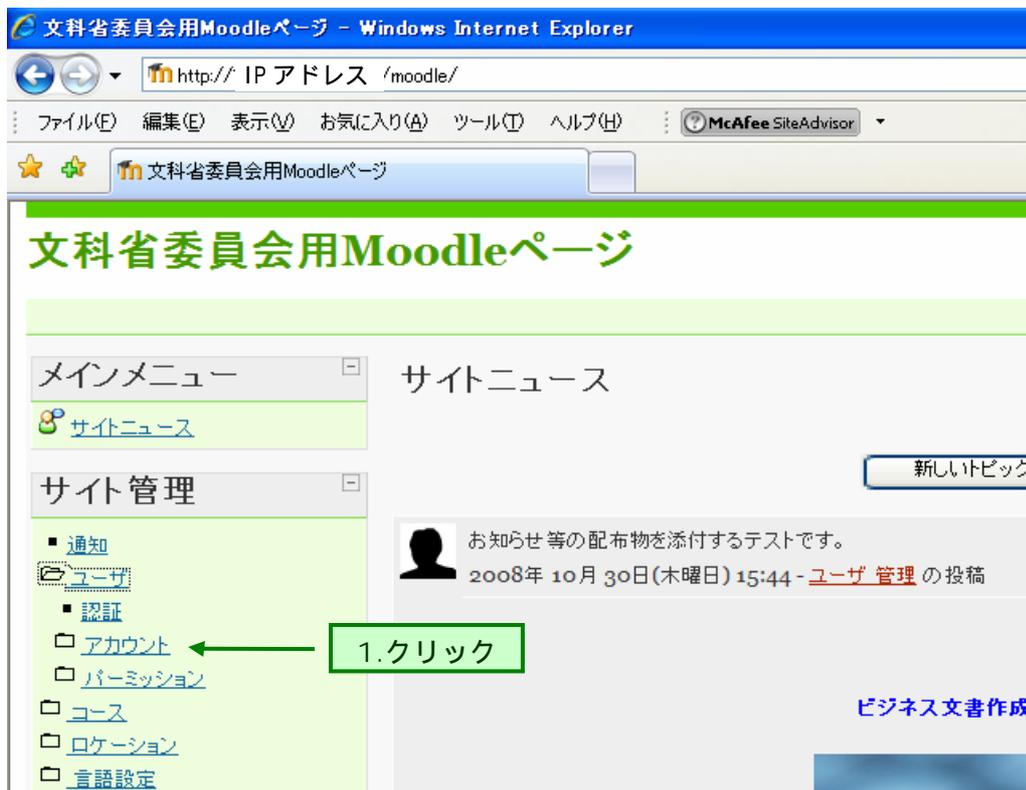
1

ログインを行い、フロントページを表示する。  
[サイト管理]ブロック [ユーザ]をクリックする。



2

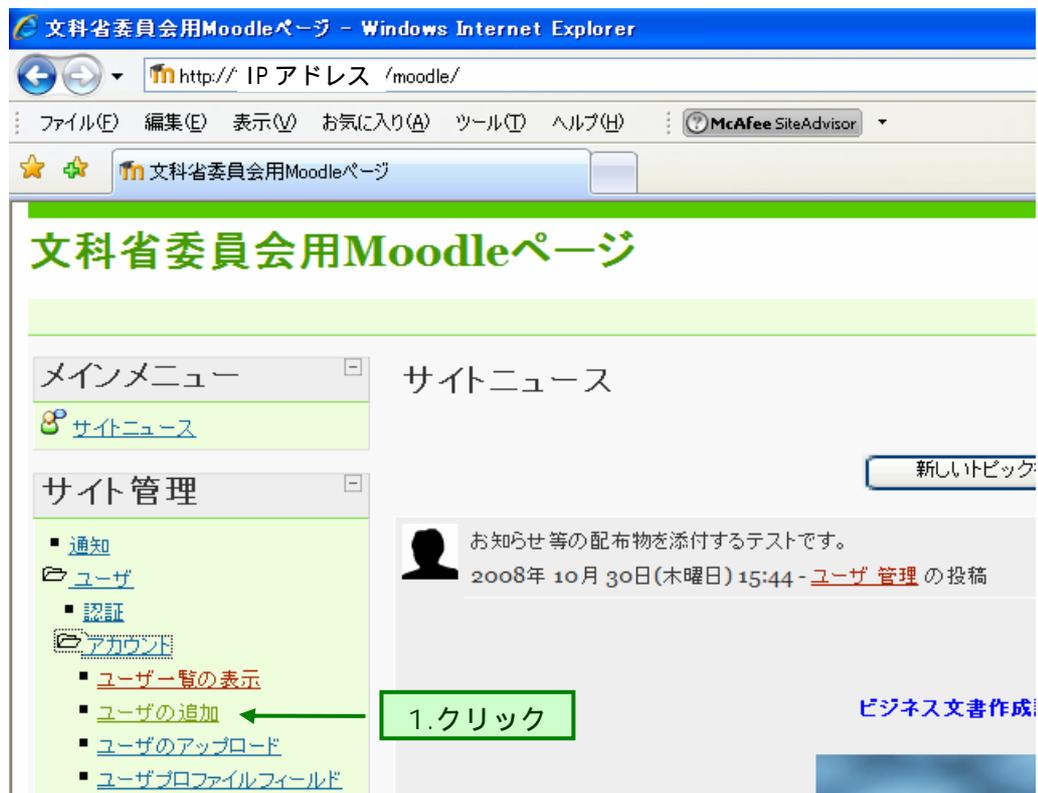
[ユーザ]メニュー内の詳細メニューがツリー状に表示される。  
詳細メニューの中から[アカウント]をクリックする。



## 第3章 Moodle サーバの設定

3

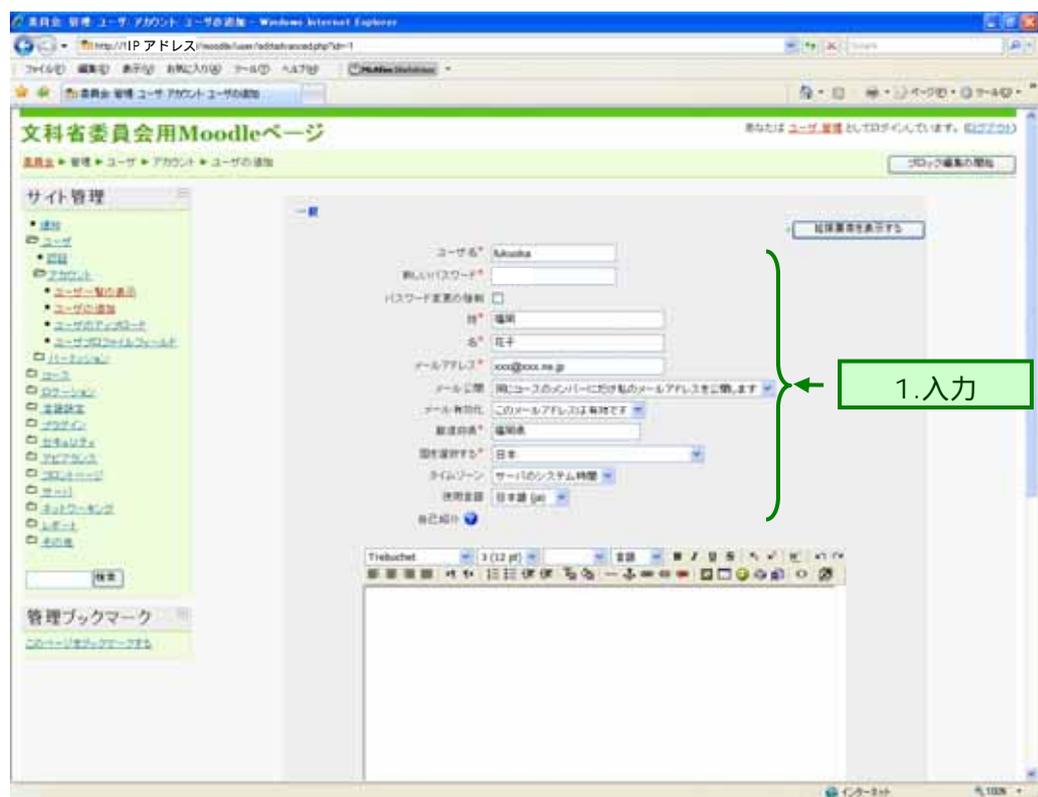
さらに[アカウント]メニュー内の詳細メニューがツリー状に表示される。  
詳細メニューの中から[ユーザの追加]をクリックする。



4

ユーザの追加画面が表示される。

\*印のついている項目は、必須項目である。それぞれ必須項目を入力する。  
これらの項目は、管理者およびユーザ自身が後ほど変更可能である。



## 第3章 Moodle サーバの設定

5

入力完了後、画面を下へスクロールする。  
[プロフィールを更新する]をクリックする。



6

自動的にユーザー一覧の表示画面が表示される。  
追加したユーザが、一覧に表示されていることを確認する。



## 第3章 Moodle サーバの設定

### 7

フロントページへ戻る場合は、[サイト省略名]をクリックする。

サイト省略名は、画面左上に表示されている。

なお、サイト省略名は、3章1節「(4)Moodleのインストール」の手順25で設定したサイト省略名である。

本テキストでは、[委員会]という名前のサイト省略名を設定している。

[サイト省略名]をクリックする。



## 第3章 Moodle サーバの設定

### (3) ユーザの修正

一度登録を行ったユーザの情報は、管理者あるいはユーザ自身が修正を行うことができる。

ユーザ修正の手順を以下に示す。

1

ユーザー一覧の表示画面を表示する。

[サイト管理]ブロック [ユーザ] [アカウント] [ユーザー一覧の表示]をクリックする。

修正を行いたいユーザの右側にある[編集]をクリックする。

| 名 / 姓  | メールアドレス       | 登録日時  | 国  | 最終アクセス    | 編集 | 削除 |
|--------|---------------|-------|----|-----------|----|----|
| 学生1    |               | 2008年 | 日本 | 03月 6 14時 | 編集 | 削除 |
| ユーザ 管理 |               | 2008年 | 日本 | 3月        | 編集 | 削除 |
| 高橋 文部  | xxx@xxx.ac.jp | 2008年 | 日本 | なし        | 編集 | 削除 |

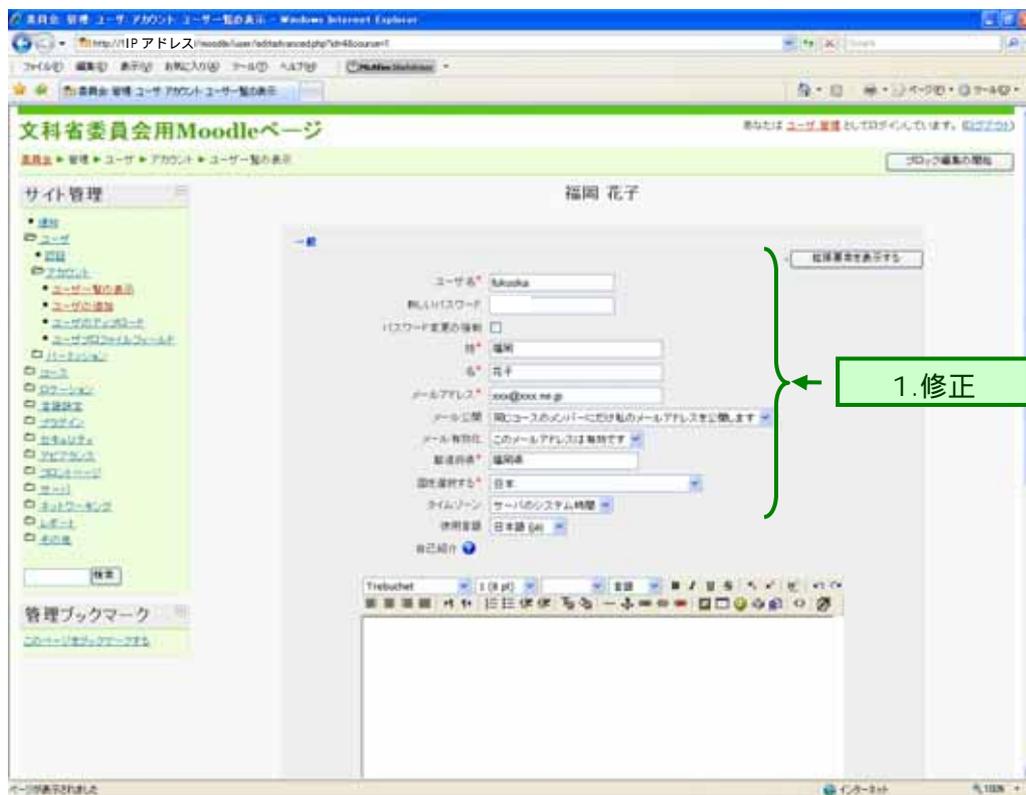
## 第3章 Moodle サーバの設定

2

修正画面が表示される。

修正および追加したい項目を入力する。

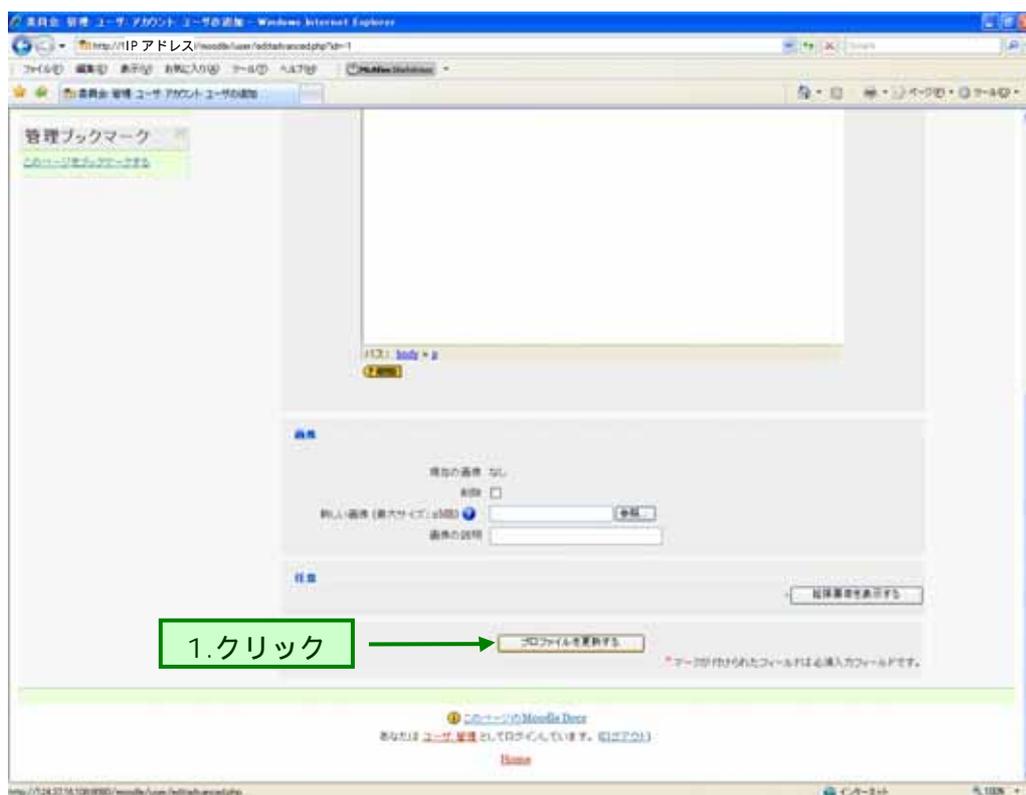
なお、[新しいパスワード]は、パスワードを変更しない場合は空白のままでよい。



3

入力完了後、画面を下へスクロールする。

[プロフィールを更新する]をクリックする。



## 第3章 Moodle サーバの設定

### (4) ロールの割り当て

登録したユーザに対して、それぞれ「ロール」を割り当てる必要がある。

「ロール」とは、Moodle サイト内で閲覧やコースおよび教材の作成、サイト管理など、どこまでの機能を利用できるかという権限のランクのようなものである。

ロールの一覧を以下の表に示す。

表 3-4 ロール一覧

| ロールの種類    | 説明   |
|-----------|--|
| 管理者       | 管理者のロールが割り当てられたユーザは、サイトの中であらゆる作業を行うことができ、どこにでもアクセスすることができる。また、管理者は複数割り当てることができるが、主管理者のみが、他のユーザに対して管理者権限を割り当てまたは削除することができる。                                   |
| コース作成者    | コース作成者のロールが割り当てられたユーザは、コースを作成することができる、作成したコースに教師として割り当てられる（割り当てないことも可能）。また、非表示のコースを閲覧することもできる。   |
| 教師        | 教師のロールが割り当てられたユーザは、コース内で活動の変更、および学生の評定を含むどのような作業でも行うことができる。また、教師のロールが割り当てられたユーザは、重複して学生のロールを割り当てることができない。  |
| 編集権限のない教師 | 編集権限のない教師のロールが割り当てられたユーザは、コース内でのコースの編集の権限はないが、それ以外の作業は教師ロールのユーザと同様の作業を行うことができる。また、編集権限のない教師が割り当てられたユーザは、重複して学生のロールを割り当てることができない。                             |
| 学生        | 学生のロールが割り当てられたユーザは、コースに受講登録を行い、受講することができる。また、管理者および教師は、学生の受講登録方法、何を閲覧できるか、何を行うことができるかを決定することができる。  |
| ゲスト       | Moodle にログインする際、[ゲストとしてログインする]をクリックして、ゲストログインすることが可能である。ゲストは通常、投稿などのテキストの入力に関する作業ができない。管理者は、認証オプションでゲストログインを無効にすることもできる。また、各コースでは、教師はゲストアクセスを許可するかどうかを設定できる。 |

出所：「MoodleDocs」<http://docs.moodle.org/ja/>

また、ロール割り当ての手順を次ページに示す。

## 第3章 Moodle サーバの設定

1

ユーザー一覧の表示画面を表示する。

[サイト管理]ブロック [ユーザ] [パーミッション]

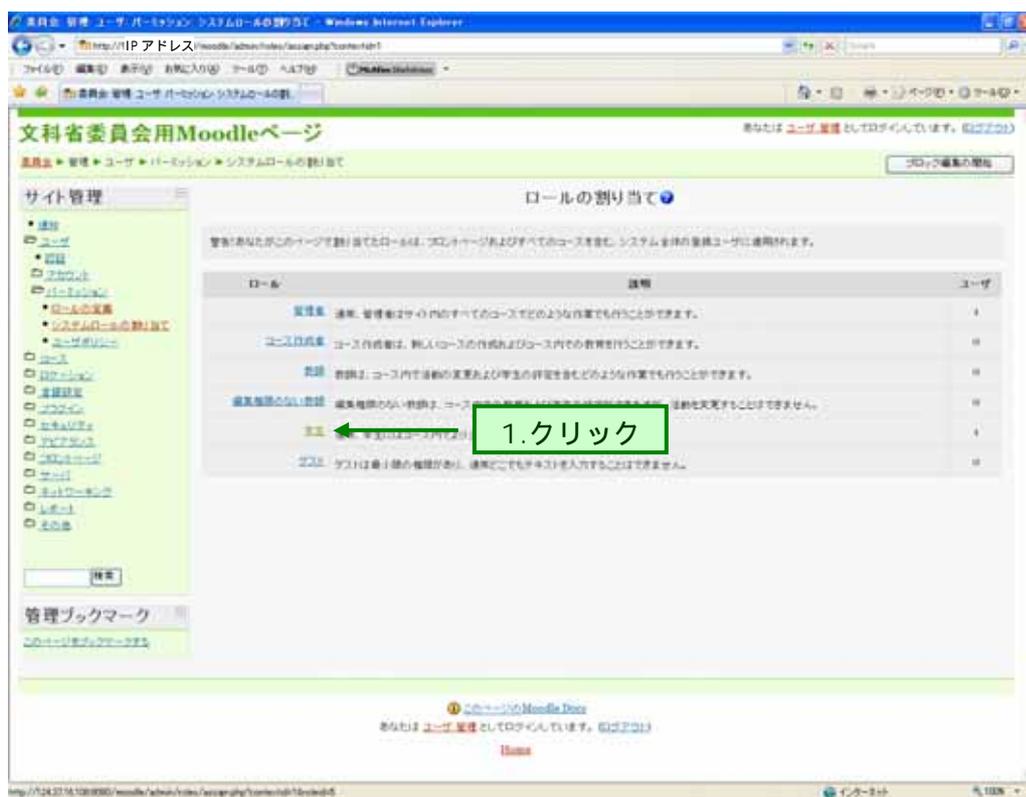
[システムロールの割り当て]をクリックする。



2

システムロールの割り当て画面が表示される。

今からユーザに割り当てるロールをクリックする。



## 第3章 Moodle サーバの設定

3

選択したロールの割り当て画面が表示される。

左側の[割り当て済みユーザ]ボックスには、すでに選択したロール（下の例では、学生ロール）を割り当てているユーザが一覧で表示される。

右側の[潜在的なユーザ]ボックスには、選択したロールをまだ割り当てていないユーザが表示される。

右側の[潜在的なユーザ]ボックスの中から、ロールを割り当てたいユーザをクリックする。



## 第3章 Moodle サーバの設定

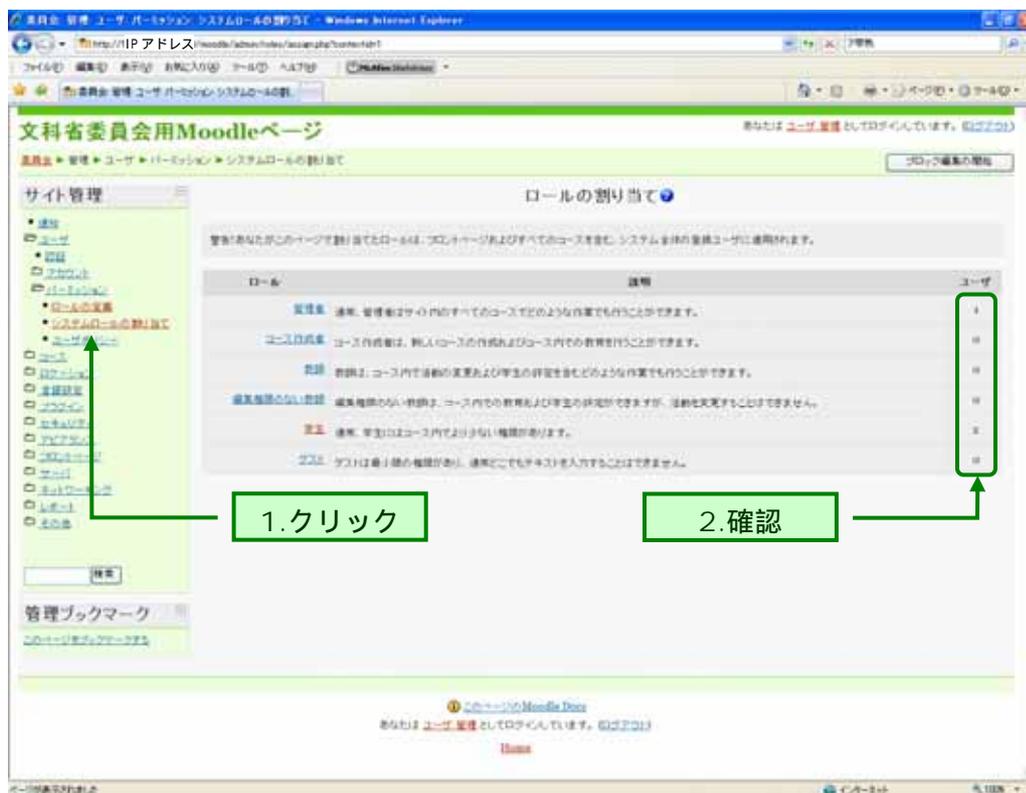
4

[追加]ボタンをクリックする。  
選択したユーザが[割り当て済みユーザ]ボックスへ移動したことを確認する。



5

ロール割り当て後の各ロールのユーザ数は、[サイト管理]ブロック [ユーザ] [パーミッション] [システムロールの割り当て]にて確認できる。



## 第3章 Moodle サーバの設定

### 3.4 コースサイトの作成

#### (1) コースサイトとは

Moodle では、履修者等の登録メンバーのみアクセスが可能な「コースサイト」を作成する。

コースサイトは授業の「科目」にあたる。

コースサイト上では、コース作成の権限を持った教員等が、講義ノートやテスト、チャットや掲示板等を掲載可能である。

また、コース作成権限を持ったユーザは、成績管理を行うことが可能である。

さらに、サイト上の各ページへのアクセス制限を行うことも可能である。

従来は、htaccess を用いたパスワード制限等、専門的な知識が必要であったが、Moodle では、特別な知識を習得する必要なく設定を行うことが可能である。

#### (2) カテゴリの登録

それぞれのコースサイトは、「カテゴリ」という大きな分類に所属する。

カテゴリは「年度」や「学科」等、分類したいカテゴリの単位を設定するとコースサイトを分類しやすい。

カテゴリ登録の手順を以下に示す。

1

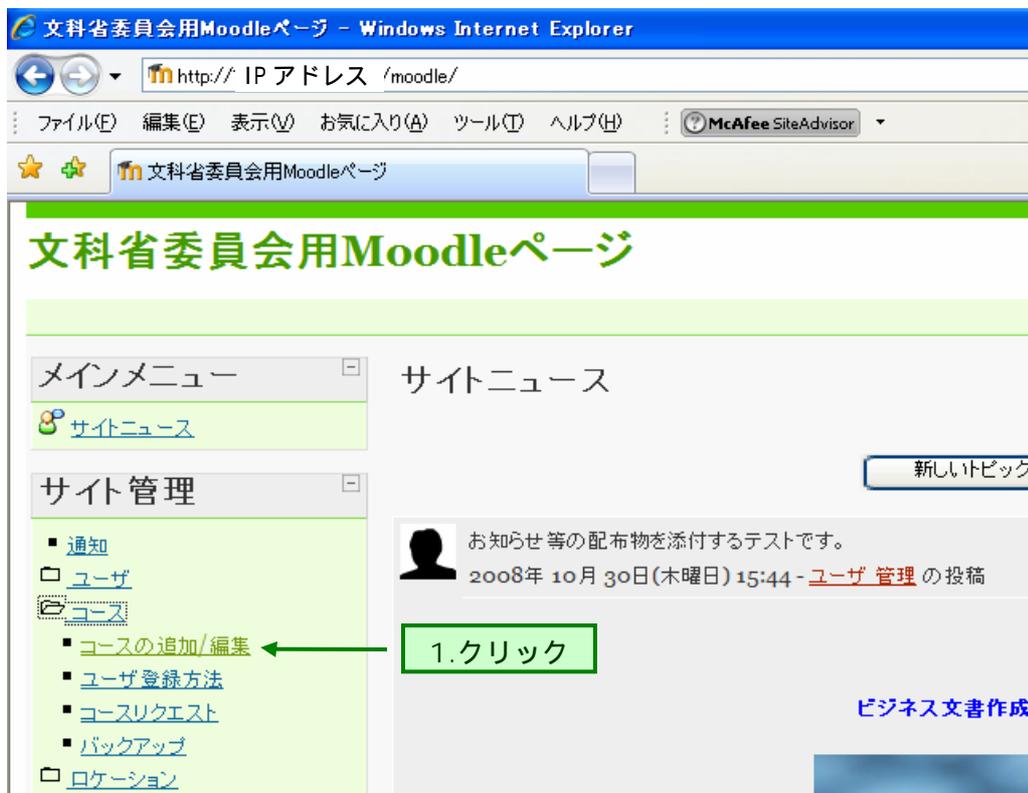
[サイト管理]ブロック [コース]をクリックする。



## 第3章 Moodle サーバの設定

2

[コース]メニュー内の詳細メニューがツリー状に表示される。  
詳細メニューの中から[コースの追加 / 編集]をクリックする。



3

コースの追加 / 編集画面が表示される。  
[テキストボックス]内に作成するカテゴリ名を入力する。  
入力後、[カテゴリの追加]をクリックする。



## 第3章 Moodle サーバの設定

4

入力したカテゴリが追加されたことを確認する。



5

追加したカテゴリの削除、表示 / 非表示の切り替え、上下の順番の入れ替えを行う場合は、各種編集ボタンから操作を行う。



## 第3章 Moodle サーバの設定

6

入力したカテゴリが追加されたことを確認する。



7

カテゴリを修正する場合は、修正するカテゴリ名をクリックする。



## 第3章 Moodle サーバの設定

8

カテゴリの修正画面が表示される。

カテゴリ名を修正する場合は、テキストボックス内の文字列を編集後、[リネーム]をクリックする。



9

カテゴリの中にさらにサブカテゴリを作成する場合は、テキストボックス内の文字列を編集後、[サブカテゴリを追加する]をクリックする。



## 第3章 Moodle サーバの設定

- 10 フロントページへ戻る。  
[サイト省略名]をクリックする。



### (3) コースの登録

カテゴリ登録後、今度は、カテゴリの中に収録するコースの登録を行う。

「コース」とは、実際に学生が学ぶ「授業」に相当する。

コース作成後は、実際の授業に使用する「教材」に相当する「リソース」を追加することができる。

コース登録の手順を次ページに示す。

## 第3章 Moodle サーバの設定

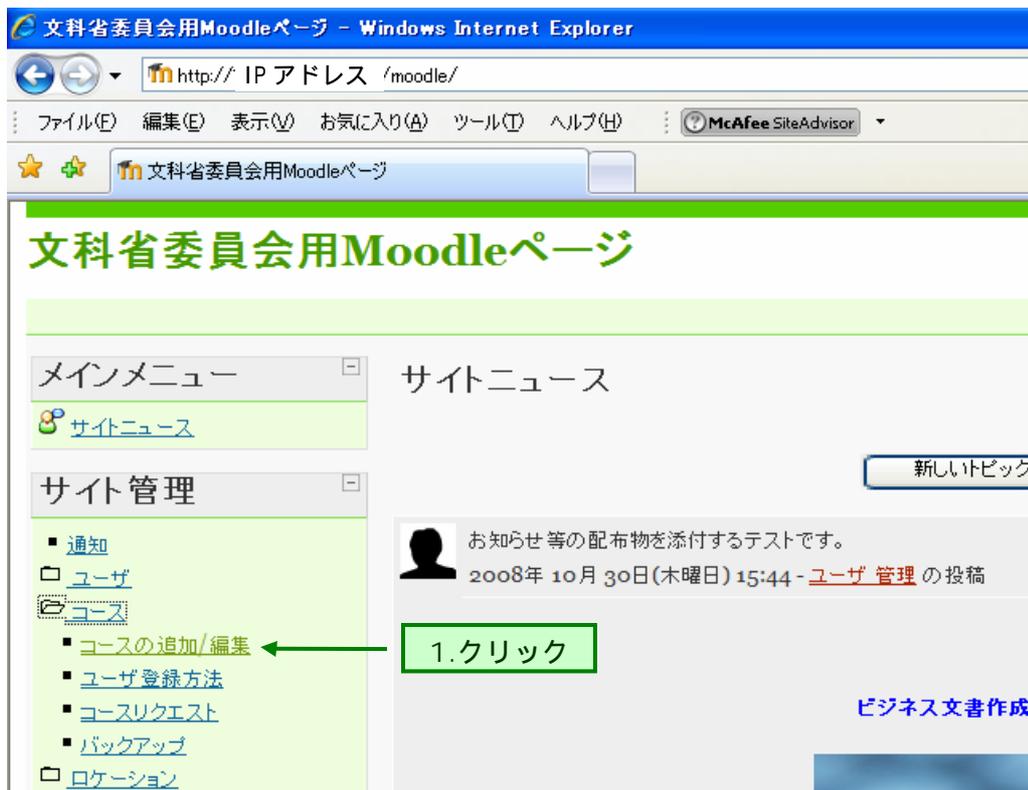
1

[サイト管理]ブロック [コース]をクリックする。



2

[コース]メニュー内の詳細メニューがツリー状に表示される。  
詳細メニューの中から[コースの追加 / 編集]をクリックする。



## 第3章 Moodle サーバの設定

3

コースの追加 / 編集画面が表示される。  
コースカテゴリの一覧から、コースを追加するカテゴリ名をクリックする。



4

選択したカテゴリの編集画面が表示される。  
[コースの追加]をクリックする。



## 第3章 Moodle サーバの設定

5

コースの追加画面が表示される。  
それぞれのボックスに入力を行う。

[カテゴリ]ボックスには、選択したカテゴリ名が表示される。

[名称]ボックスには、作成するコース名を入力する。(必須入力)

[省略名]ボックスには、コース選択時にナビゲーションバーに表示される省略名を入力する。(必須入力)

科目コードがある場合は、コードを入力する、ない場合は、科目を判別する任意の英数字を入力する。省略名は後から変更可能である。

[コース ID ナンバー]ボックスは、他にコードなどがある場合に入力する。特になければ省略可能である。

[要約]ボックスには、コース一覧に表示される、コースの概要を入力する。(必須入力)

[フォーマット]ボックスは、プルダウンメニューから、[ウィークリーフォーマット]または[トピックフォーマット]を選択する。

[週/トピックの数]ボックスは、プルダウンメニューから、週の数およびトピックの数を選択する。

The screenshot shows the Moodle course creation form in a browser window. The page title is "文科省委員会用Moodleページ" and the sub-header is "コース設定の編集". The form contains several input fields and dropdown menus. Green boxes with numbers 1 through 7 and arrows point to specific elements:

- 1. 確認: Points to the "カテゴリ" (Category) dropdown menu.
- 2. 入力: Points to the "名称" (Name) text input field.
- 3. 入力: Points to the "省略名" (Short name) text input field.
- 4. 確認: Points to the "コースIDナンバー" (Course ID number) text input field.
- 5. 入力: Points to the "要約" (Summary) text area.
- 6. 選択: Points to the "フォーマット" (Format) dropdown menu.
- 7. 選択: Points to the "週/トピックの数" (Weeks/topics) dropdown menu.

Other visible elements include a "ナビゲーションバー" (Navigation bar) at the top, a "5%のための会計講座" (Accounting course for 5%) title, and various settings for course sections and user roles.

## 第3章 Moodle サーバの設定

[ウィークリーフォーマット]は以下のとおりである。

ウィークリーフォーマットでは、コース内を指定した週に分けることができる。



The screenshot shows a web browser window displaying a Moodle course page titled "SEのための会計講座1". The browser's address bar shows the URL "http://IP アドレス /moodle/course/view.php?id=3". The page content includes a sidebar with navigation options like "参加者", "活動", and "フォーラムの検索". The main content area is titled "ウィークリーアウトライン" and lists three weekly periods with their respective activities: 11/1 - 11/7 (会計の目的を知る<テキストページ>), 11/8 - 11/14 (会計とは? <Webページ>), and 11/15 - 11/21 (まとめ<ファイルまたはWebサイトにリンク>).

[トピックフォーマット]は以下のとおりである。

トピックフォーマット：コース内を指定した回数に分けることができる。



The screenshot shows a web browser window displaying a Moodle course page titled "SEのための会計講座1". The browser's address bar shows the URL "http://IP アドレス /moodle/course/view.php?id=3". The page content is similar to the previous screenshot, but the main content area is titled "トピックアウトライン" and lists three topics in a numbered list: 1. 会計の目的を知る<テキストページ>, 2. 会計とは? <Webページ>, and 3. まとめ<ファイルまたはWebサイトにリンク>.

## 第3章 Moodle サーバの設定

6

コースの追加画面の続きを入力する。  
それぞれのボックスに入力を行う。

[開講日]ボックスには、開講する日付を設定する。デフォルトでは作成日が開講日に設定される。

ウィークリーフォーマットでは、開校日より7日毎に週の単位が設定される。

[コースセクションの非表示]ボックスは、[非表示のコースセクションを折りたたんで表示する]または[非表示のコースセクションを完全に見えなくする]を選択する。

通常は、[非表示のコースセクションを折りたたんで表示する]が良い。

[ニュースアイテムの表示件数]ボックスは、学生への連絡などを掲示するニュースアイテムを、新しい順にいくつまで表示するか、プルダウンメニューより選択する。

[学生に表定評を表示する]ボックスは、評定を設定し、学生に評定を表示するかどうか、プルダウンメニューより選択する。

評定を非表示にした状態でも、評定は使用することができる。

[活動レポートを表示する]ボックスは、ユーザのアクセスログ等を参照できる活動レポートを参照するかどうか、プルダウンメニューより選択する。

通常はサーバの負荷が大きい為、NO に設定されている。

The screenshot shows the Moodle course settings page in Japanese. The page title is "文科省委員会用Moodleページ" and the sub-page is "コース設定の編集". The settings are organized into sections. Five green boxes with arrows point to specific options:

- 1. 選択: Points to the "コースセクションの非表示" (Hide course sections) dropdown menu, which is currently set to "非表示のコースセクションを折りたたんで表示する".
- 2. 選択: Points to the "ニュースアイテムの表示件数" (Number of news items to display) dropdown menu, which is currently set to "5".
- 3. 選択: Points to the "学生に表定評を表示する" (Show grades to students) dropdown menu, which is currently set to "Yes".
- 4. 選択: Points to the "活動レポートを表示する" (Show activity reports) dropdown menu, which is currently set to "No".
- 5. 選択: Points to the "最大アップロードサイズ" (Maximum upload size) dropdown menu, which is currently set to "2MB".

## 第3章 Moodle サーバの設定

### 7

画面を下にスクロールし、コースの追加画面の続きを入力する。  
それぞれのボックスに入力を行う。

[最大アップロードサイズ]ボックスでは、それぞれの学生が、どのくらいの大きさのファイルまでアップロードできるかを設定する。

プルダウンメニューより、[2MB]、[1MB]、[500kB]、[100kB]、[50kB]、[10kB]の中から選択する。

[このコースはメタコースですか?]ボックスでは、現在のコースを他のコースの子コース(メタコース)にしたい場合、プルダウンメニューの中から[Yes]を選択する。

[Yes]を選択すると、親コースに登録した学生が、自動的に子コースにも登録される。

[デフォルトロール]ボックスは、受講生に割り当てるロールを選択する。通常は、[サイトデフォルト(学生)]のまま使用する。

[コース登録可能]ラジオボタンでは、受講者によるコース登録が可能かどうか、また登録できる期間を設定するかを選択する。

登録できる期間を設定する場合は、開始日と終了日を指定する。

[利用有効期間]ボックスでは、コース登録を行った後、何日間利用可能かをプルダウンメニューより選択する。[1]~[365]日、および[無制限]が選択可能である。



## 第3章 Moodle サーバの設定

### 8

コースの追加画面の続きを入力する。  
それぞれのボックスに入力を行う。

[通知]ボックスは、学生がコースから受講登録解除される前、教師にメールで通知するかどうかを選択する。

[学生に通知]ボックスは、学生がコースから受講登録解除される前、学生にメールで通知するかどうかを選択する。

[閾値]ボックスは、学生がコースから受講登録解除される何日前にメールで通知するかを選択する。

[グループモード]ボックスでは、グループを設定するか否か、またグループ外の活動を閲覧できるかどうかを設定する。

[グループなし]、[分離グループ]、[可視グループ]の中から選択する。

[分離グループ]は、作業をグループ内で行い、グループ外の作業は閲覧することができない。

[可視グループ]は、作業はグループ内で行うが、グループ外の作業も閲覧することができる。

[強制]ボックスでは、強制グループモードにするかどうかを設定する。ここで強制グループモードを設定した場合は、活動ごとに設定したグループモードは無視される。

The screenshot shows the Moodle course settings page in Internet Explorer. The page is titled 'コースの追加' (Add Course) and contains several sections for configuration. The following table summarizes the settings shown in the image, with green boxes and arrows indicating the specific settings mentioned in the text:

| Section              | Setting                 | Value              | Annotation |
|----------------------|-------------------------|--------------------|------------|
| 通知 (Notification)    | 通知 (Notify)             | No                 | 1. 選択      |
| 通知 (Notification)    | 学生に通知 (Notify students) | No                 | 2. 選択      |
| 通知 (Notification)    | 閾値 (Threshold)          | 10 日               | 3. 選択      |
| グループモード (Group Mode) | グループモード (Group mode)    | グループなし (No groups) | 4. 選択      |
| グループモード (Group Mode) | 強制 (Enforce)            | No                 | 5. 選択      |

## 第3章 Moodle サーバの設定

9

画面を下にスクロールし、コースの追加画面の続きを入力する。  
それぞれのボックスに入力を行う。

[コース利用]ボックスでは、このコースを学生が利用できるかどうかを設定する。

[このコースを学生は利用できません]を選択すると、コースが学生からは見えなくなる。

(URL を直接指定しても見えない。)

[登録キー]ボックスでは、部外者のユーザにコースを登録させたくない場合など、設定したキーを入力した場合のみ登録できるようにすることができる。なにも設定しなければ、すべてのユーザが登録可能となる。

[ゲストアクセス]ボックスでは、ログインページで[ゲストとしてログインする]をクリックした Moodle サイトの閲覧のみ可能なゲストが、このコースも閲覧可能かどうかを設定する。

またゲストを許可する場合、登録キーを持っている場合のみ許可するかどうかも設定できる。

[言語の強制]ボックスは、インストールした言語パックの中から強制的に表示させたい言語を指定する場合のみ選択する。

設定完了後、[変更を保存する]をクリックする。



## 第3章 Moodle サーバの設定

- 10 設定したコースの一覧がフロントページ下部に表示される。  
コースの確認の為、設定したコースをクリックする。



- 11 設定したコースが表示され、アウトラインが作成されていることを確認する。  
また、ナビゲーションバーに、手順 5 で設定したコースの省略名が表示されていることも確認する。



## 第3章 Moodle サーバの設定

- 12 また、コースカテゴリの中にも作成したコースが登録されたことを確認する。  
フロントページに戻り、ページ下部の、作成したカテゴリをクリックする。



- 13 カテゴリの編集画面が表示される。  
作成したコースが登録されていることを確認する。



## 第3章 Moodle サーバの設定

### 3.5 コース参加ユーザの登録

#### (1) コース参加ユーザの登録方法

コース作成完了後、コースに参加するユーザの登録を行う。  
登録方法には以下のものがある。

- ・ 学生による自己登録
- ・ 教員による手動登録
- ・ システム管理者による手動登録
- ・ データ連携による自動登録

今回は基本的な登録方法である「・学生による自己登録」および「・教員による手動登録」について紹介する」

#### (2) 学生による自己登録

まずは、学生による自己登録の手順を以下に示す。

なお、すでにログアウトしている場合や、ログイン前の状態の場合は、手順1はスキップする。

1

ログアウトを行う。

画面右上または下中央の[ログアウト]をクリックする。



## 第3章 Moodle サーバの設定

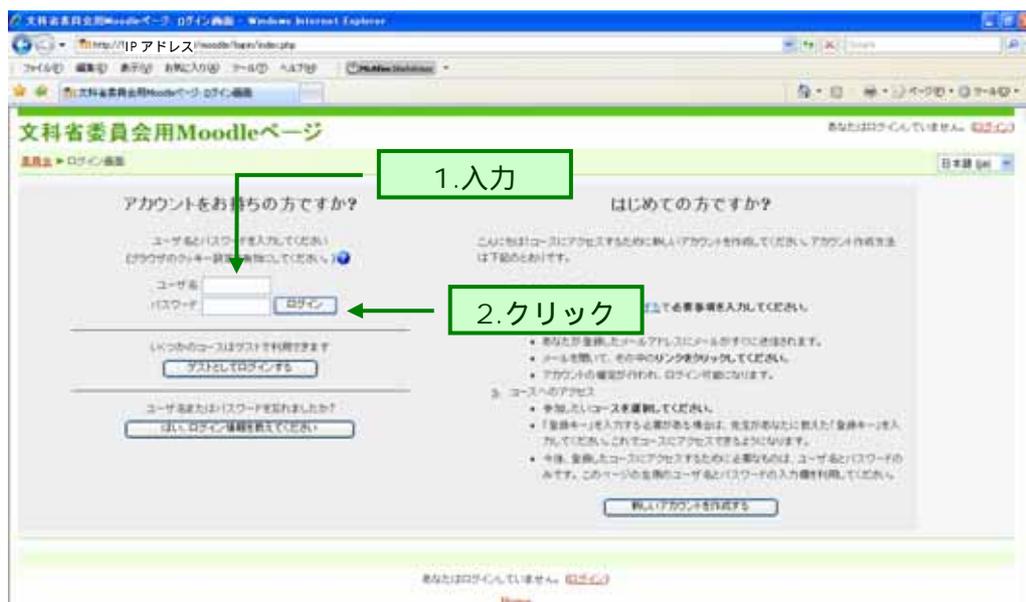
2

Moodle サイトのログイン前のページが表示される。  
画面右上または下中央の[ログイン]をクリックする。



3

ログイン画面が表示される。  
今回は3章3節の「(2)ユーザの追加」の手順4にて設定した[ユーザ名]および[パスワード]を入力し、確認を行う。  
[ユーザ名]および[パスワード]入力後、[ログイン]をクリックする。



## 第3章 Moodle サーバの設定

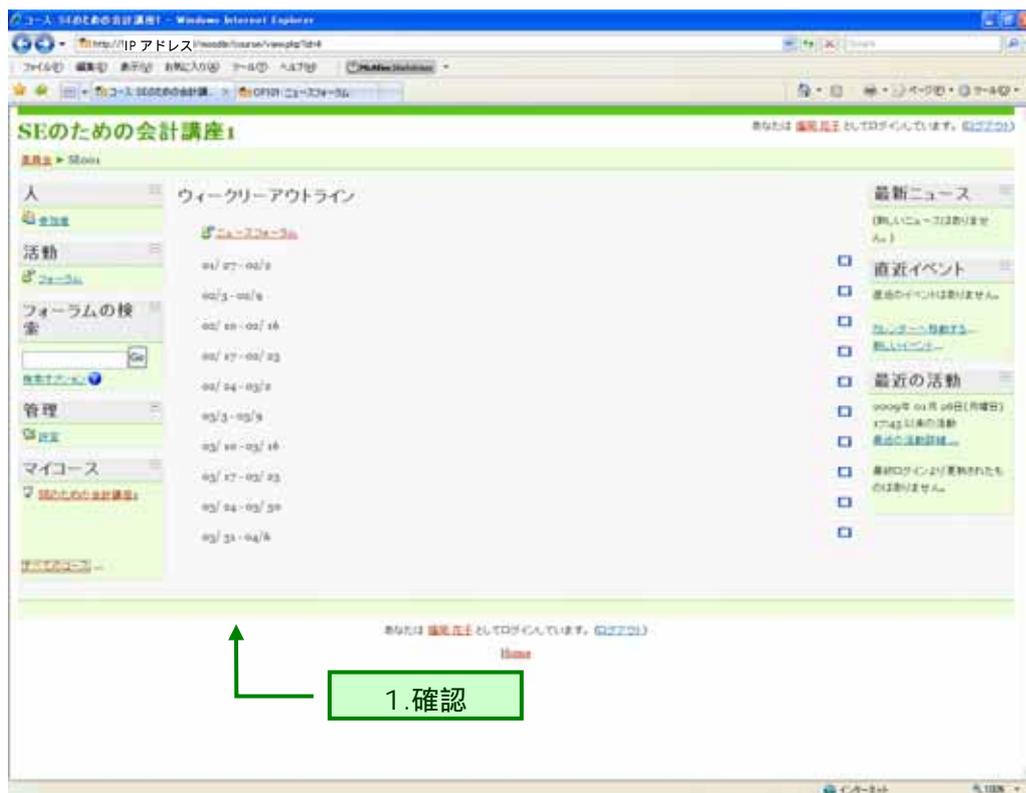
4

学生権限でのフロントページが表示される。  
レイアウトが管理者権限と異なることを確認する。  
画面下部の[マイコース]の中から、ユーザ登録を行うコース名をクリックする。



5

選択したコースのユーザとして登録され、コース画面が表示されたことを確認する。



## 第3章 Moodle サーバの設定

### (3) 教員による手動登録

つづいて、教員による手動登録の手順を以下に示す。

なお、すでにログアウトしている場合や、ログイン前の状態の場合は、手順1はスキップする。

1

ログアウトを行う。

画面右上または下中央の[ログアウト]をクリックする。



2

Moodle サイトのログイン前のページが表示される。

コースに教師のロールが割り当てられている場合、教師名が表示される。

画面右上または下中央の[ログイン]をクリックする。

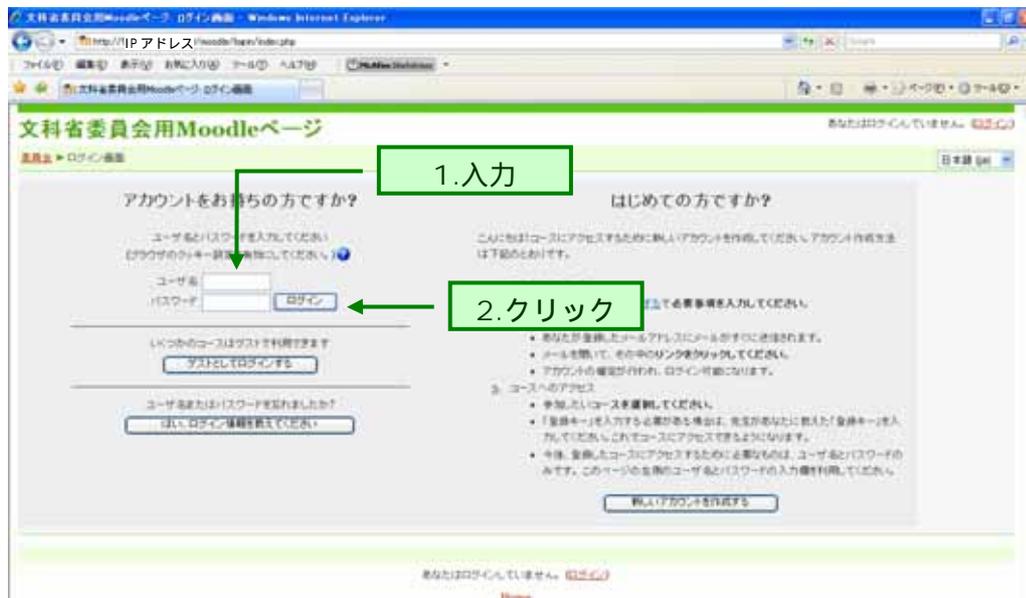


## 第3章 Moodle サーバの設定

3

ログイン画面が表示される。

教師の[ユーザ名]および[パスワード]入力後、[ログイン]をクリックする。



4

フロントページが表示される。

学生を登録するコース名をクリックする。

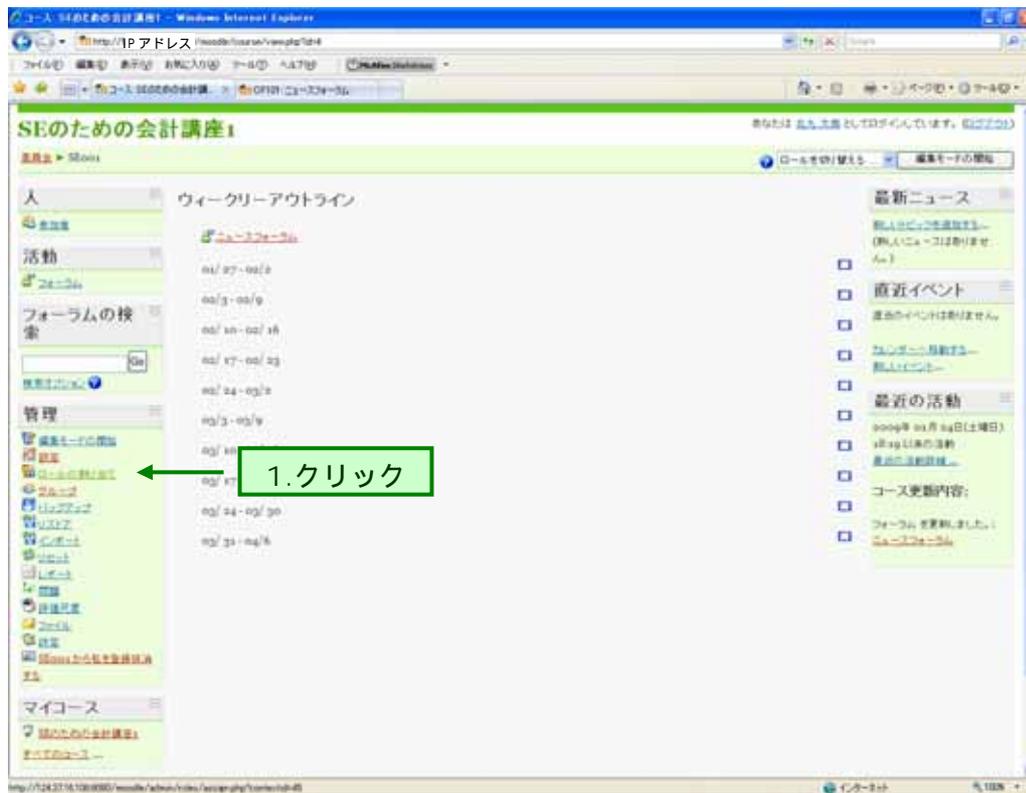


## 第3章 Moodle サーバの設定

5

選択したコース画面が表示される。

学生を登録する為に、[管理]ブロック [ロールの割り当て]をクリックする。



6

このコース内でのロールの割り当て画面が表示される。

教師の権限を持つユーザは、[編集権限のない教師]、[学生]、[ゲスト]のロールを割り当てることができる。

学生を登録する為、ロールの一覧の中から、[学生]をクリックする。



## 第3章 Moodle サーバの設定

### 3.6 リソースの追加

#### (1) リソースとは

コース作成完了後、コースに参加するユーザの登録とともに、コース内に「リソース」を配置する。

リソースとは、授業の「教材」や「資料」にあたるものである。

リソースは、Word や Excel、PowerPoint などの office 系のファイルから、メモ帳、画像ファイル、音声・動画ファイルなど、さまざまなファイルをアップロードすることが可能である。

今回は、リソースの追加方法のうち、基本的な「テキストページの作成」、「ウェブページの作成」、「ファイルまたはウェブサイトへのリンク」について解説を行う。

また、リソースの追加に関して、教師のロールを持ったユーザがリソースを追加することを想定して解説を行う。

#### (2) 編集モード

リソースを追加する際、まずは通常モードから編集モードへ切り替える必要がある。編集モードへの切り替える手順を以下に示す。

1

教師のロールを持ったユーザでログインを行う。

フロントページより、リソースを追加するコースをクリックする。



## 第3章 Moodle サーバの設定

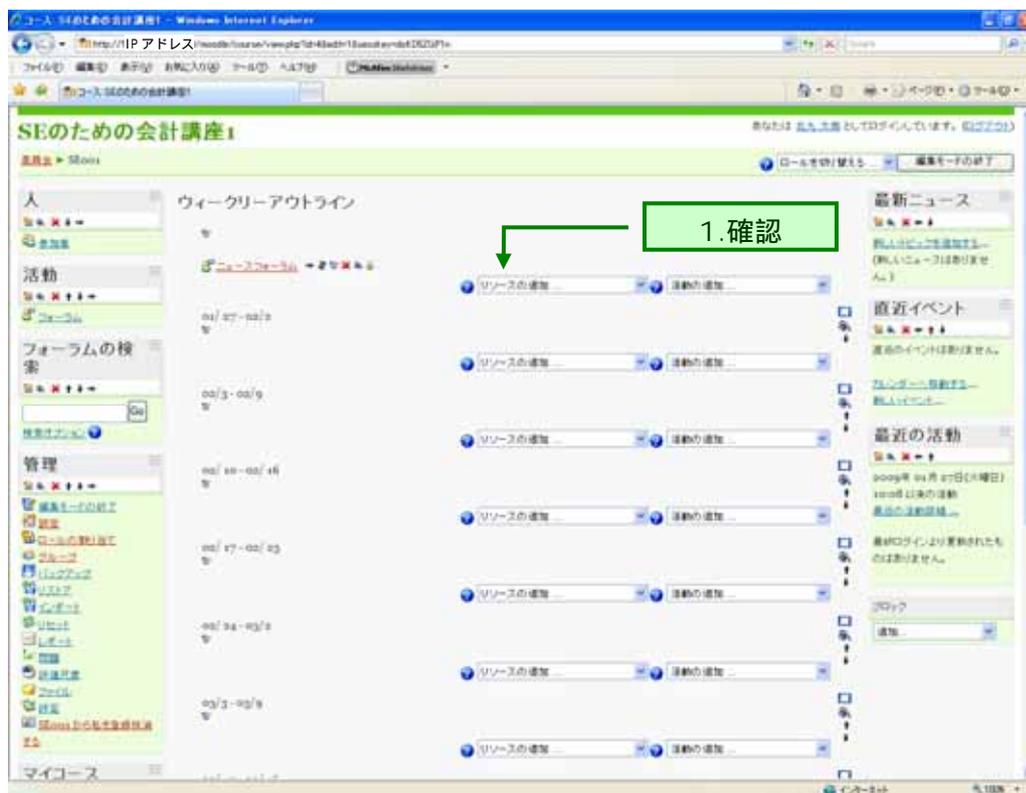
2

選択したコース画面が表示される。  
画面右上の[編集モードの開始]をクリックする。



3

コース画面が編集モードに切り替わり、リソースを追加できる状態になっていることを確認する。



## 第3章 Moodle サーバの設定

### (3) テキストページの作成

文字入力みのシンプルな教材でページを作成する場合は、「テキストページの作成」を使用する。

「テキストページの作成」の場合は、実際に Moodle 内で文字入力を行い、教材を表示するページを作成していく。

画像等を表示させたい場合は、次に紹介する「ウェブページの作成」を使用する。

テキストページの作成方法を以下に示す。

1

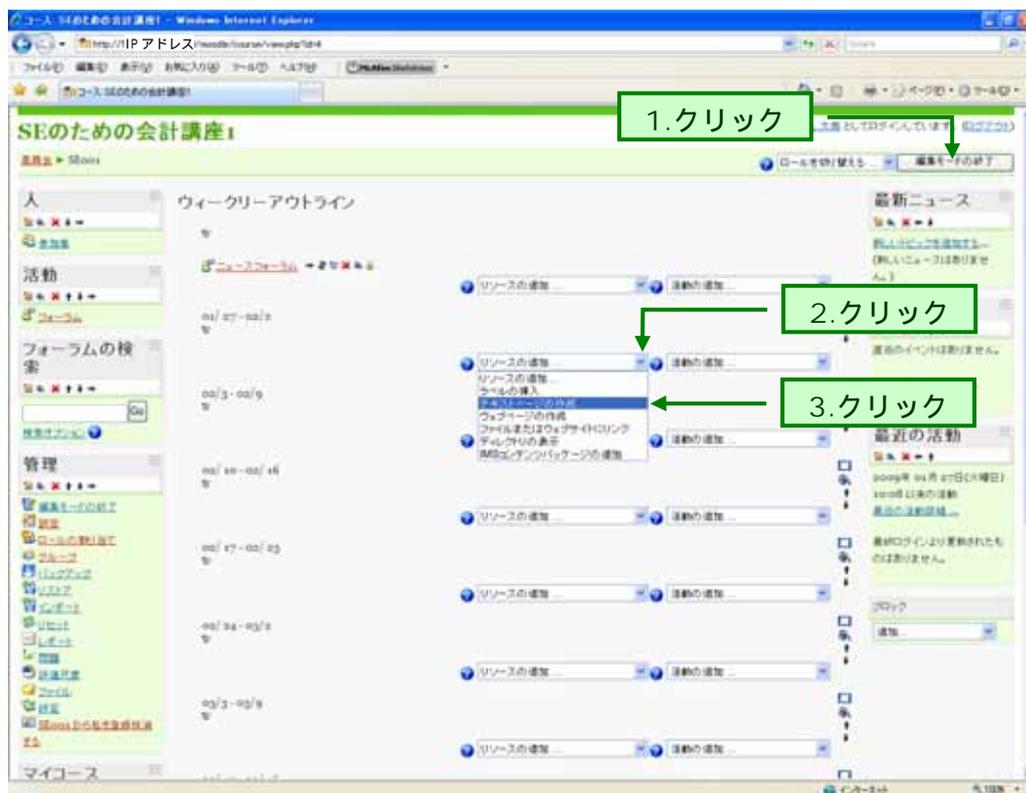
コース画面を表示し、編集モードに切り替える。

ウィークリーアウトラインの場合は、追加したい週の[リソースの追加]ボックス右側 ボタンをクリックする。

(トピックアウトラインの場合は、追加したい回の[リソースの追加]ボックス右側 ボタンをクリックする。)

プルダウンメニューの中から、[テキストページの作成]をクリックする。

最上部の[ニュースフォーラム]は、通常はコース全体のお知らせ等に使用する為、ここではニュースフォーラム以外の部分にテキストページを作成する。



## 第3章 Moodle サーバの設定

2

リソースの追加画面が表示される。  
以下の項目について、入力を行う。

[名称]ボックスには、追加するリソースのタイトルを記入する。

入力した名称は、コース画面およびリソース一覧画面に表示される。

[要約]ボックスには、追加するリソースの概要を入力する。

入力した要約は、リソース一覧画面に表示される。

なお、要約は HTML エディタを用いて、太字やフォント色の変更など編集を行うことができる。

[フルテキスト]ボックスには、実際に教材に使用する本文を入力する。

フルテキストでは、文字の直接入力のほか、HTML タグを使用してフォント色の変更などを行うことができる。



## 第3章 Moodle サーバの設定

3

画面を下にスクロールし、リソースの追加画面の続きを入力する。  
以下の項目について、入力を行う。

[フォーマット]ボックスは、[プレインテキストフォーマット]の状態、テキスト入力および HTML タグの入力ができる。

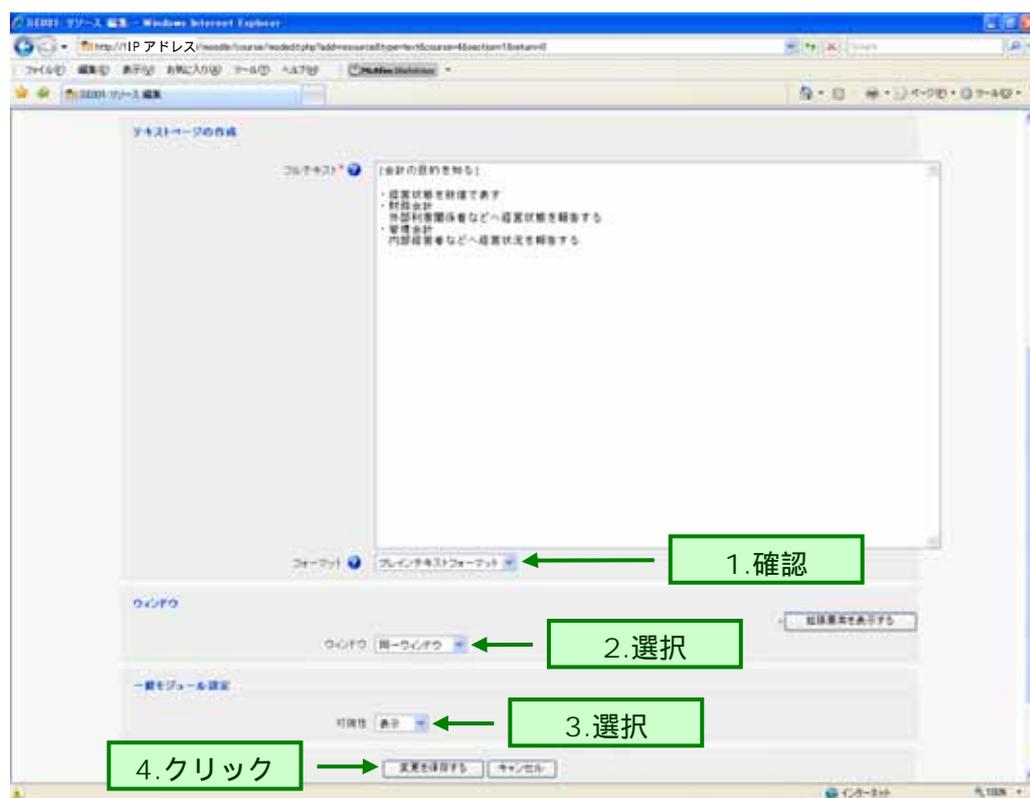
通常は[プレインテキストフォーマット]のままにしておく。

[ウィンドウ]ボックスでは、リソースをクリックした際、同一ウィンドウに表示するか、別ウィンドウに表示するかを選択する。

[可視性]ボックスは、デフォルトでは[表示]が選択されている。

何らかの理由で、リソースを一時的に学生から見えなくするには[非表示]を選択する。

入力完了後、[変更を保存する]をクリックする。



## 第3章 Moodle サーバの設定

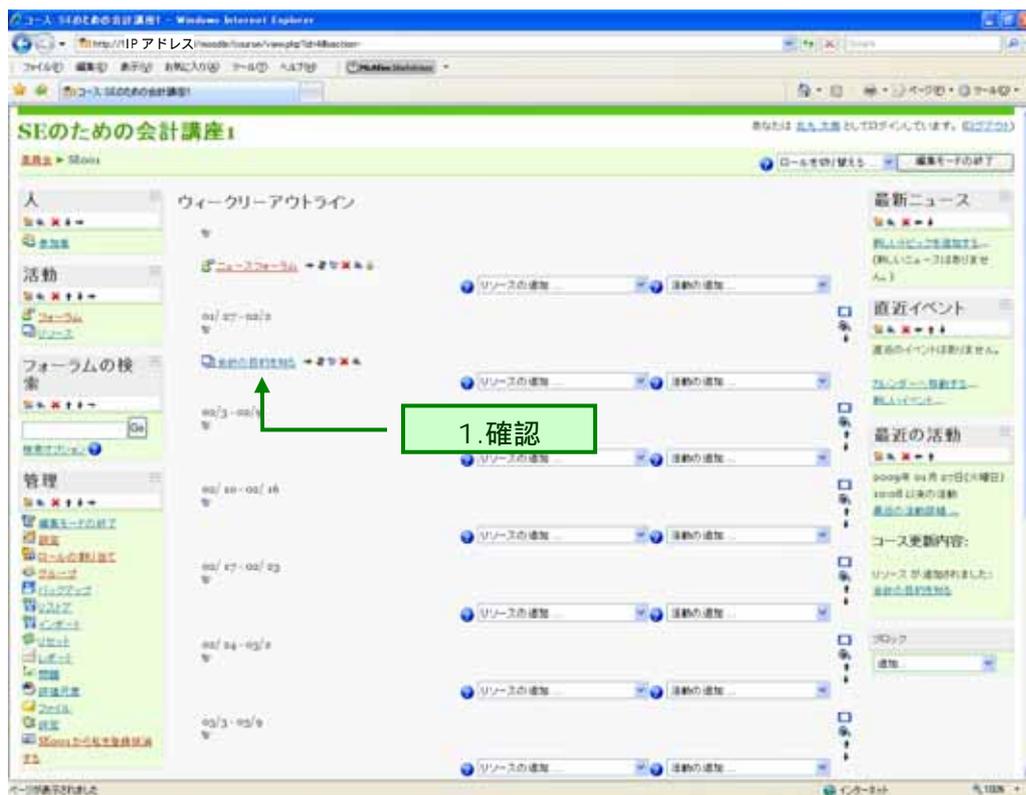
4

追加したリソースが表示されたことを確認する。  
再度変更する場合は、[このリソースを更新する]をクリックする。  
問題なければ[ナビゲーションバー] [コースの省略名]をクリックする。



5

コース画面が表示される。  
作成したリソースが追加されていることを確認する。



## 第3章 Moodle サーバの設定

### (4) リソースの編集

リソースを追加すると、作成したリソースの右側に編集のための各種ボタンが表示される。

各ボタンの機能を以下に示す。

1

[右へ / 左へ]：リソース同士の大小関係を設定する時など、リソースにインデントをかけ、ずらして表示を行う際に使用する。

[移動]：ウィークリーアウトラインの場合は、別の週にリソースを移動する際に使用する。

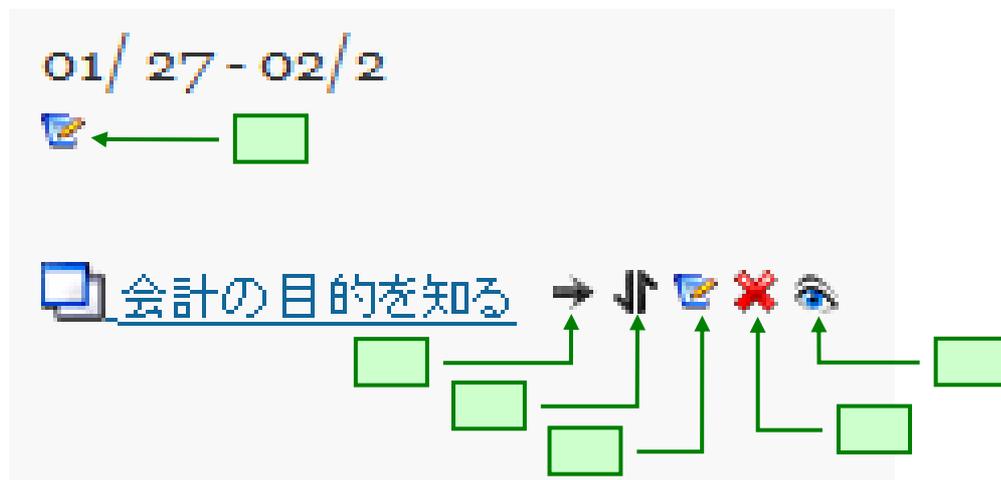
トピックアウトラインの場合は、別の回にリソースを移動する際に使用する。

[更新]：リソースを再度変更する際に使用する。

[削除]：不要になったリソースを削除する際に使用する。

[表示 / 非表示]：一時的に学生にリソースを見せたくない場合に使用する。非表示の場合は、目を閉じたアイコンが表示される。

[要約の編集]：リソースの作成時に作成した要約を編集する場合に使用する。要約の確認方法については、次項で解説する。



## 第3章 Moodle サーバの設定

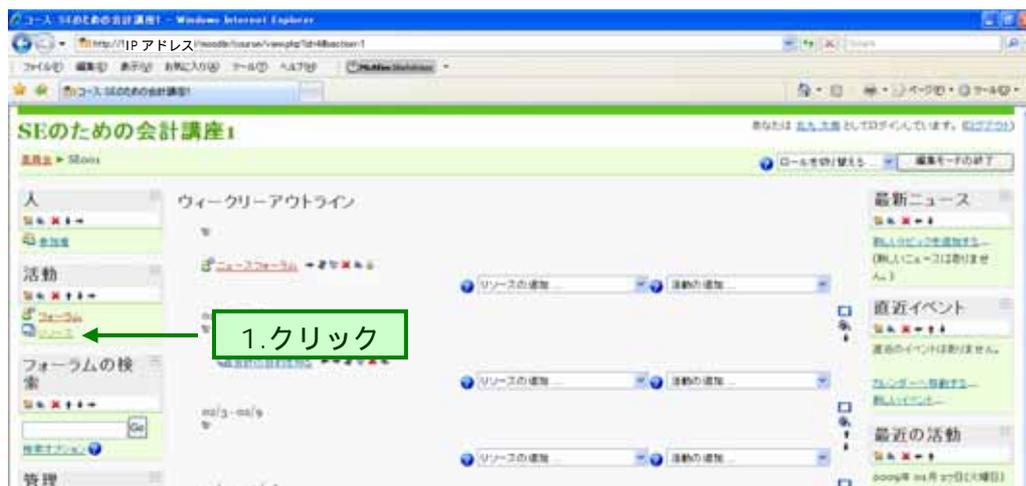
### (5) 要約の確認

リソース時に作成した要約は、コース画面には表示されていない。  
リソースの一覧を表示した際に、要約が表示される。

リソースの一覧および要約の確認方法を以下に示す。

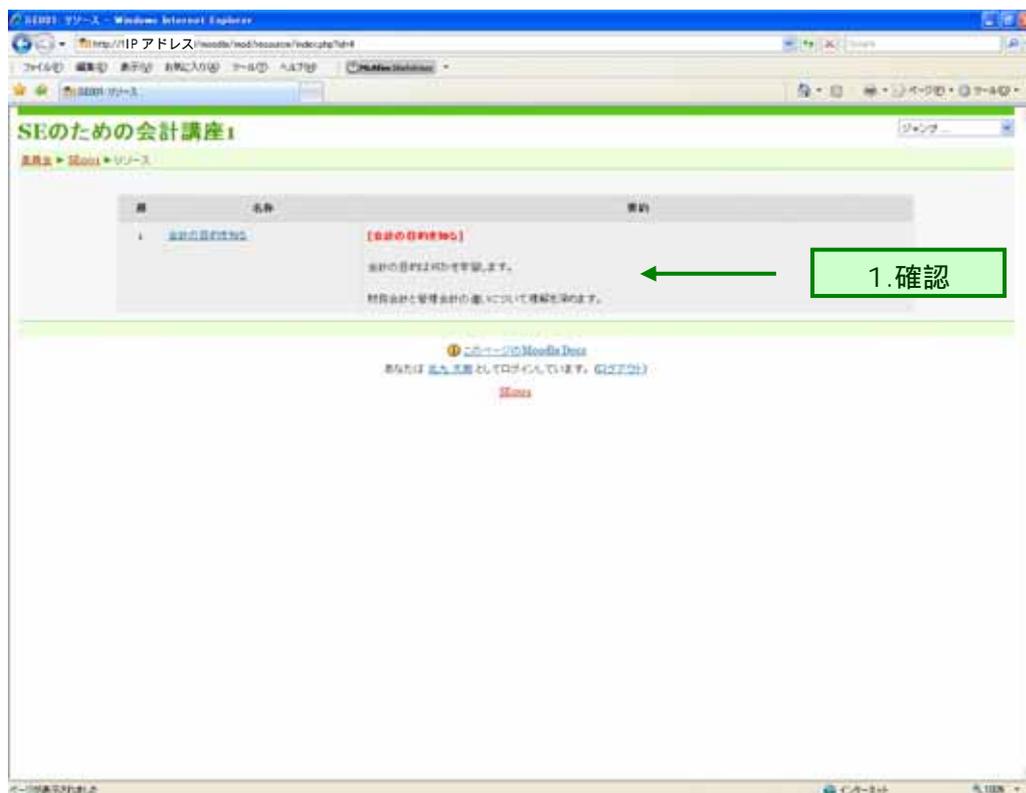
1

コース画面を表示する。  
画面左側の[活動]ブロック [リソース]をクリックする。



2

作成したリソースの一覧および要約が表示されたことを確認する。



## 第3章 Moodle サーバの設定

### (6) ウェブページの作成

Moodle では、文字色や太字・斜体など、文字の装飾、箇条書きや文字番号、表組みなど、さまざまな書式あるいは画像などを組み合わせて、ウェブページとして教材を作成することができる。

「ウェブページの作成」を用いると、HTML タグ等の知識が無い場合でも、Moodle に標準装備されている HTML エディタを用いて、ワープロ感覚でウェブページの作成が可能である。

ウェブページの作成方法を以下に示す。

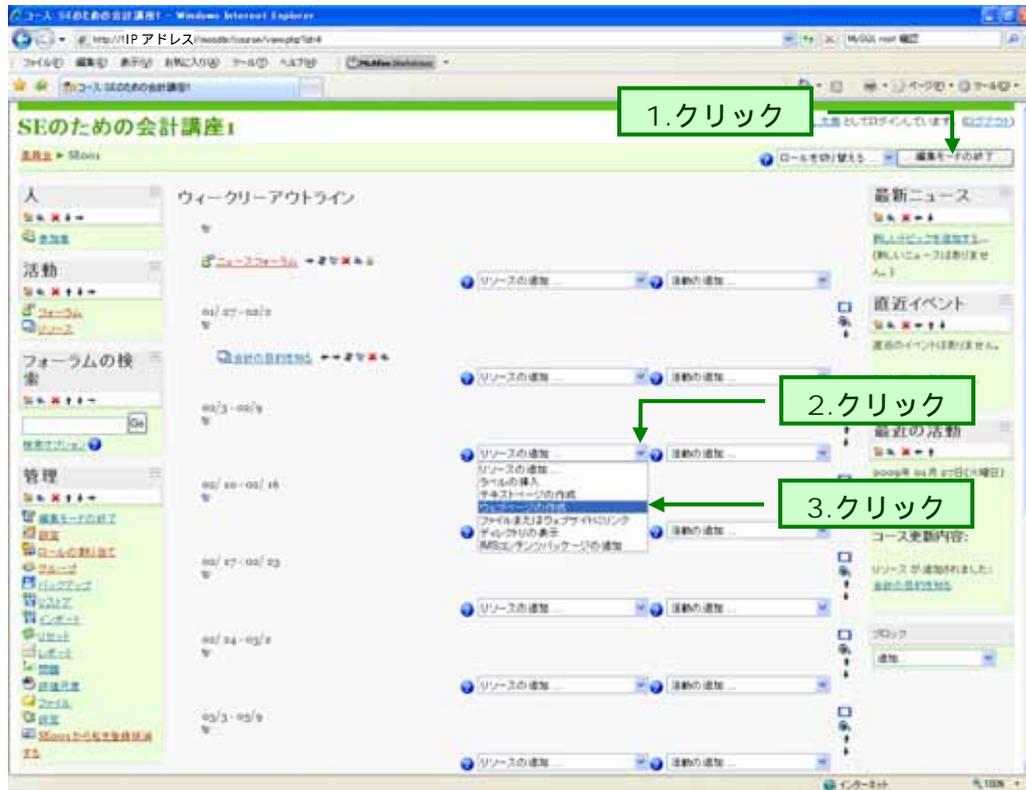
1

コース画面を表示し、編集モードに切り替える。

ウィークリーアウトラインの場合は、追加したい週の[リソースの追加]ボックス右側 ボタンをクリックする。

(トピックアウトラインの場合は、追加したい回の[リソースの追加]ボックス右側 ボタンをクリックする。)

プルダウンメニューの中から、[ウェブページの作成]をクリックする。



## 第3章 Moodle サーバの設定

2

リソースの追加画面が表示される。  
以下の項目について、入力を行う。

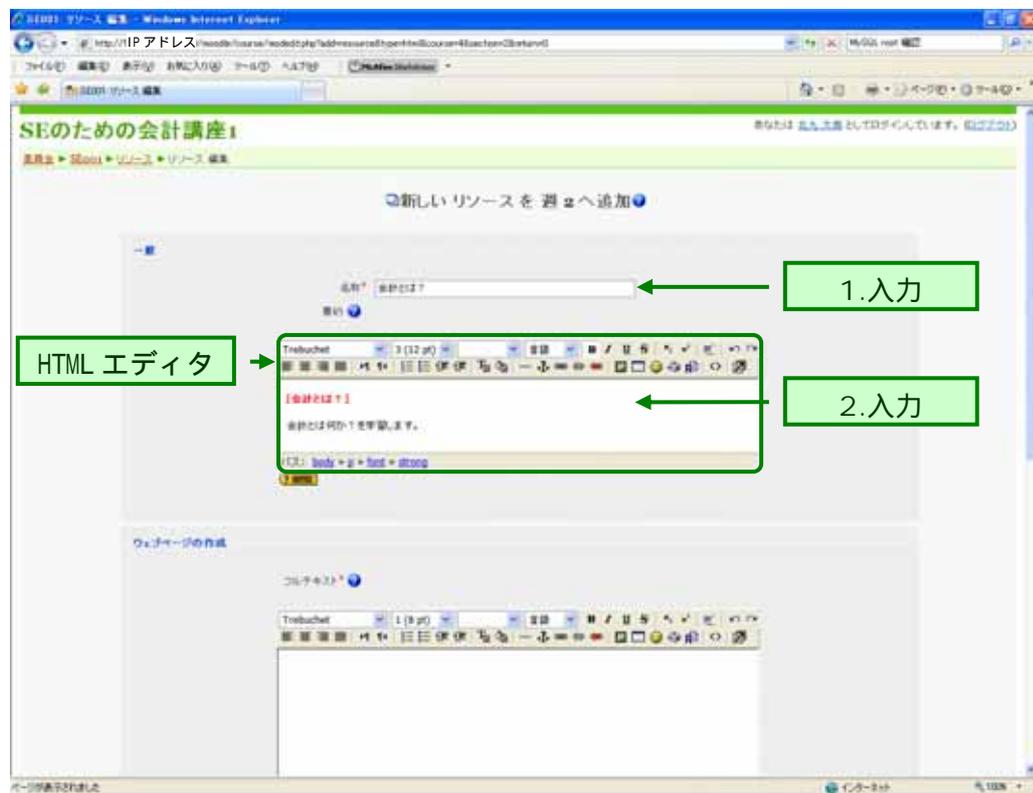
[名称]ボックスには、追加するリソースのタイトルを記入する。

入力した名称は、コース画面およびリソース一覧画面に表示される。

[要約]ボックスには、追加するリソースの概要を入力する。

入力した要約は、リソース一覧画面に表示される。

なお、要約は HTML エディタを用いて、太字やフォント色の変更など編集を行うことができる。

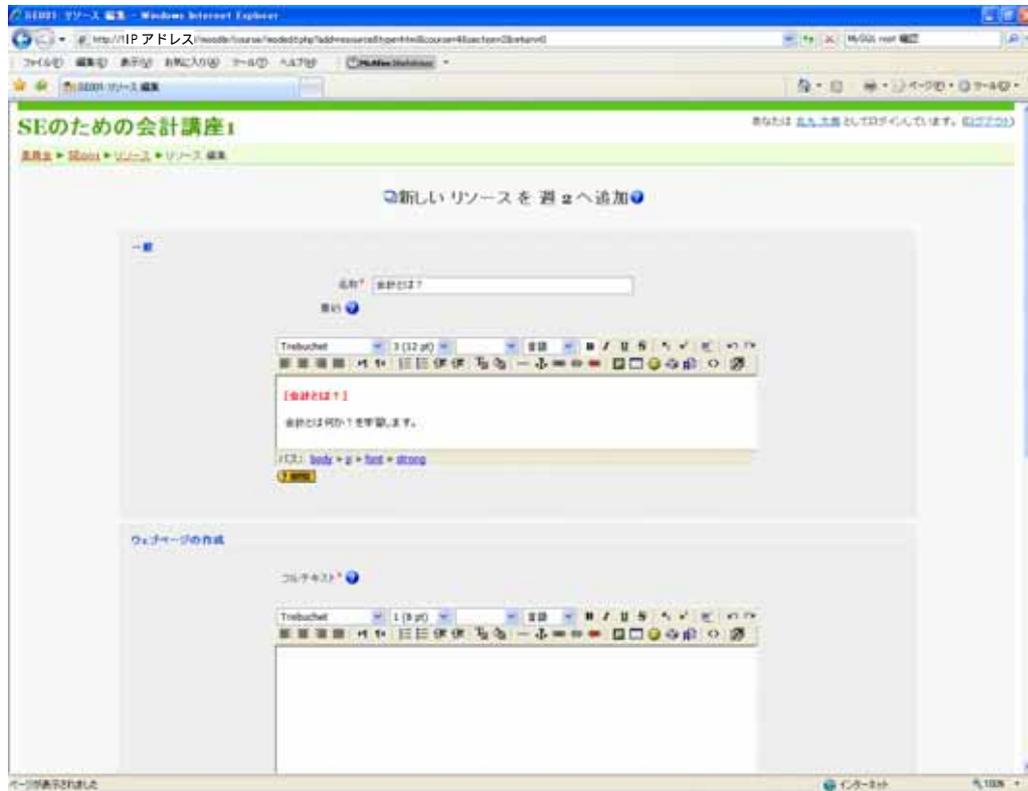


## 第3章 Moodle サーバの設定

3

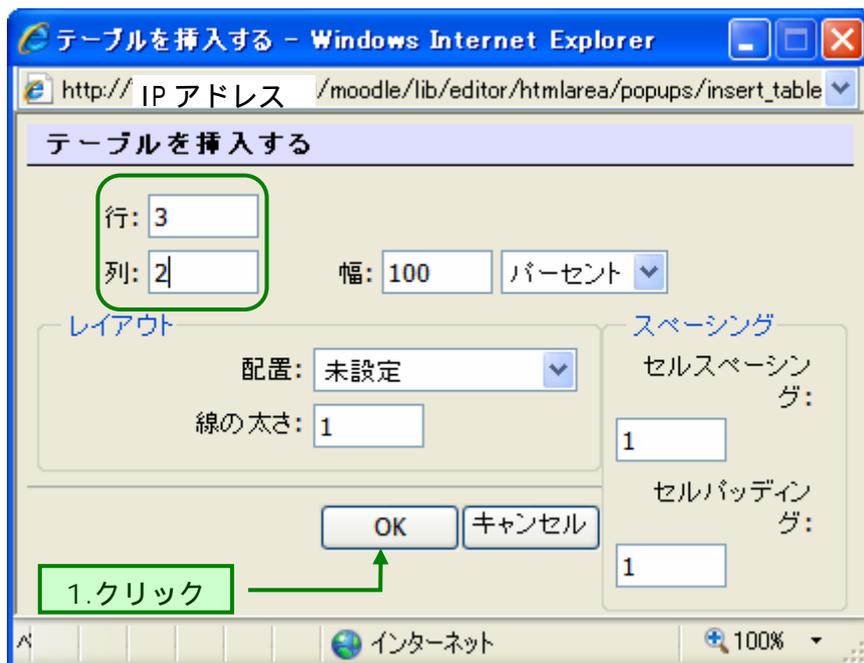
つづいて、ウェブページの本文を作成する。

[HTML エディタ]を用いて文字の装飾を行うことができる。  
表を作成する場合は、[テーブルを作成する]をクリックする。



4

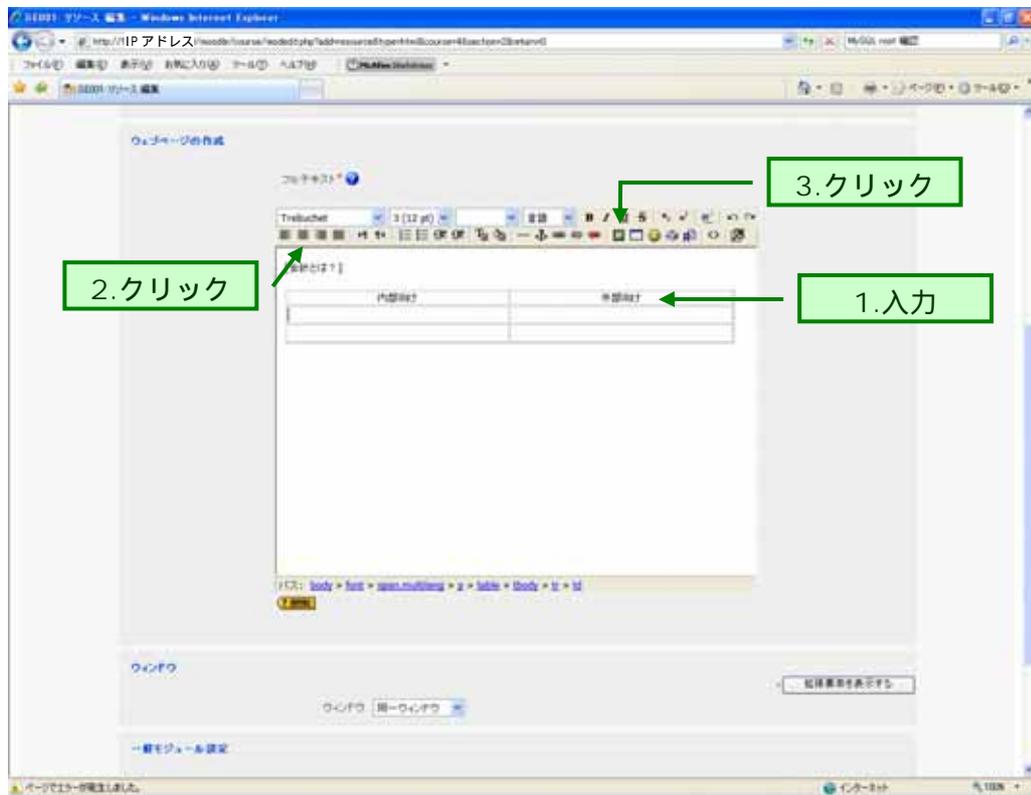
「テーブルを挿入する」ウィンドウが開く。  
行数や列数、幅やスペーシング等を設定する。  
設定後、[OK]をクリックする。



## 第3章 Moodle サーバの設定

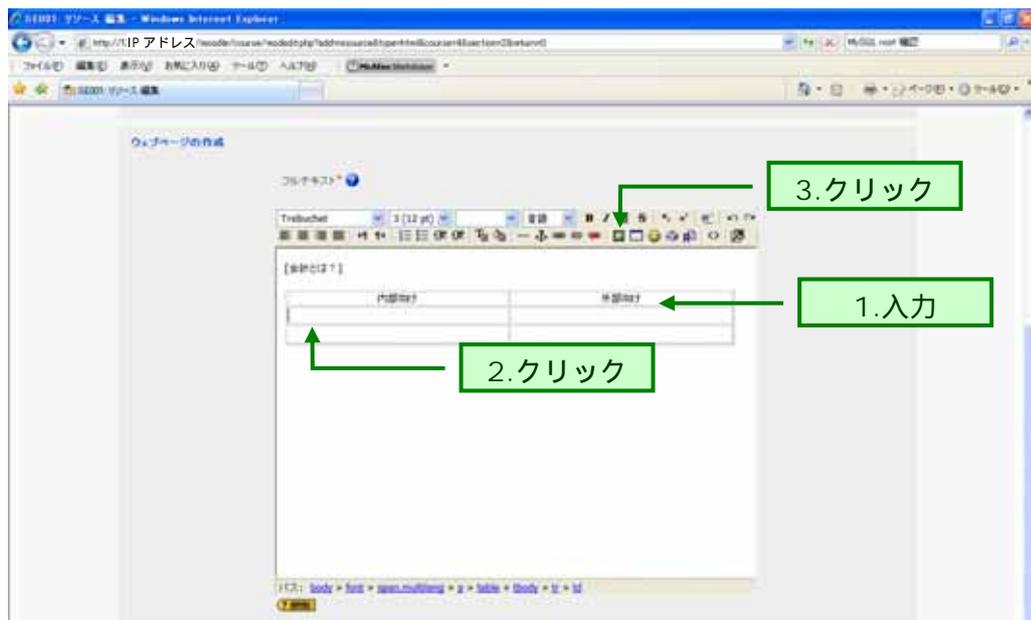
5

指定した表が挿入される。  
文字を入力するセルをクリックし、入力を行う。  
文字を中央揃えにする場合は、文字揃えの中から[中央寄せ]をクリックする。



6

指定した表が挿入される。  
文字を入力するセルをクリックし、入力を行う。  
画像を挿入する場合は、挿入したいセルをクリックし、[イメージを挿入する]をクリックする。



## 第3章 Moodle サーバの設定

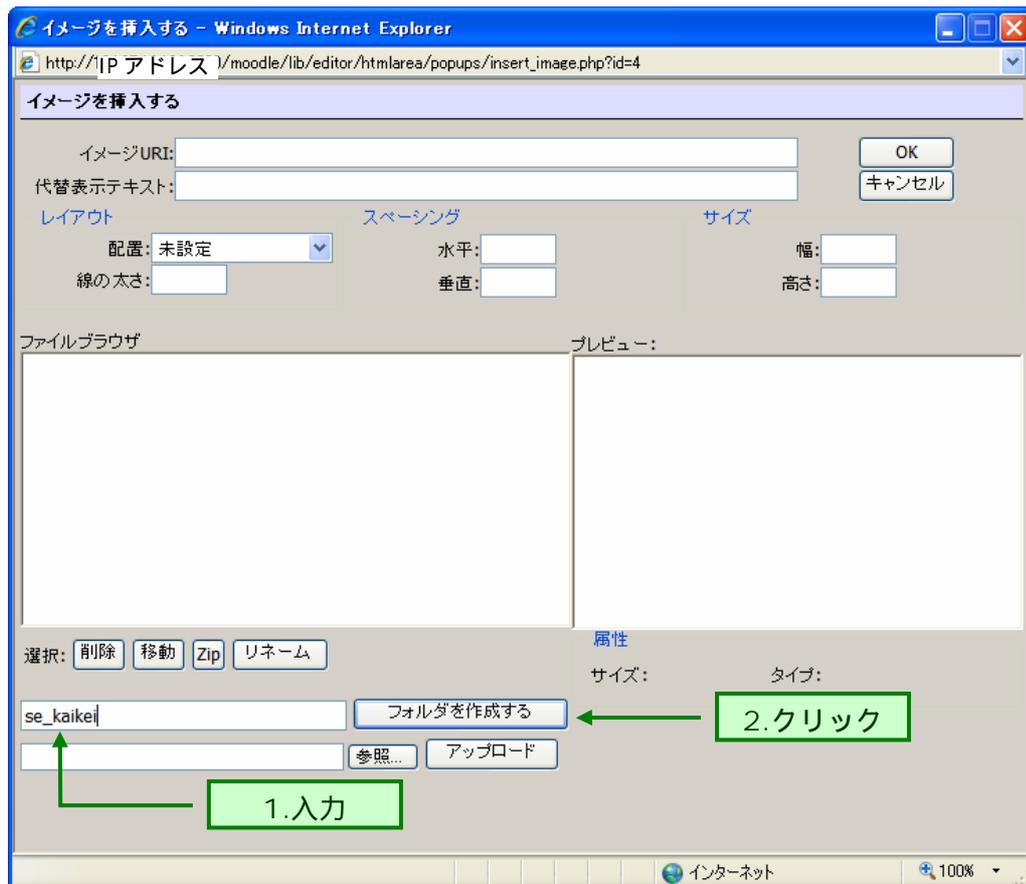
7

「イメージを挿入する」ダイアログボックスが開く。

まずは、挿入する画像ファイルを、Moodle サーバへアップロードする。

画像ファイルを整理して格納するためのフォルダを作成することもできる。

フォルダを作成する場合は、フォルダ名を入力し、[フォルダを作成する]をクリックする。



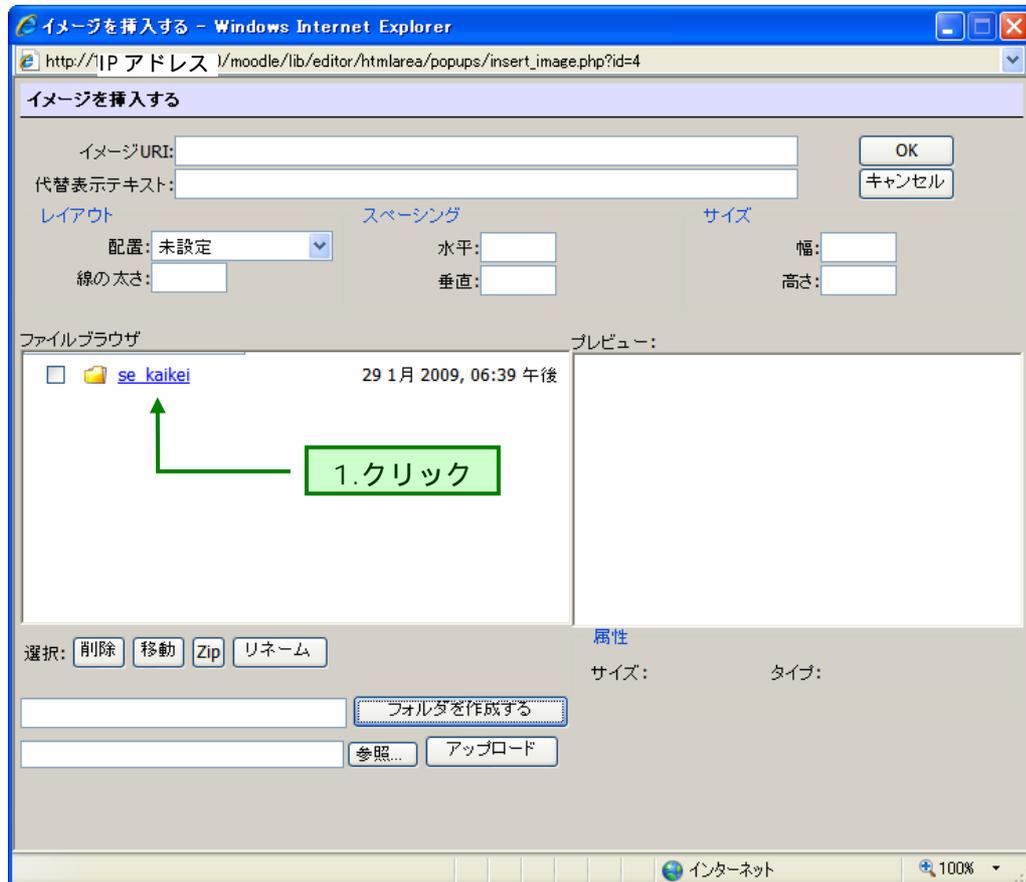
## 第3章 Moodle サーバの設定

8

フォルダが作成され、[ファイルブラウザ]に表示される。

つづいて、作成したフォルダを開く

フォルダ名(またはフォルダアイコン)をクリックする。



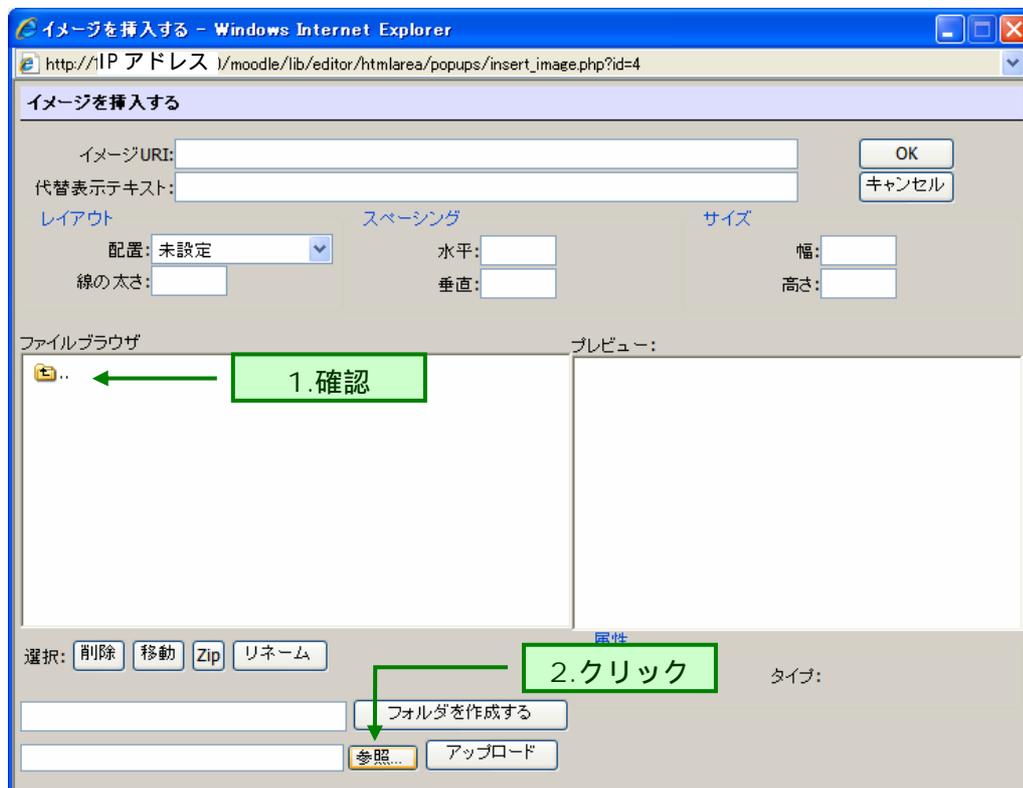
## 第3章 Moodle サーバの設定

9

作成したフォルダが開いたことを確認する。

つづいて、開いたフォルダ内に、画像ファイルをアップロードする。

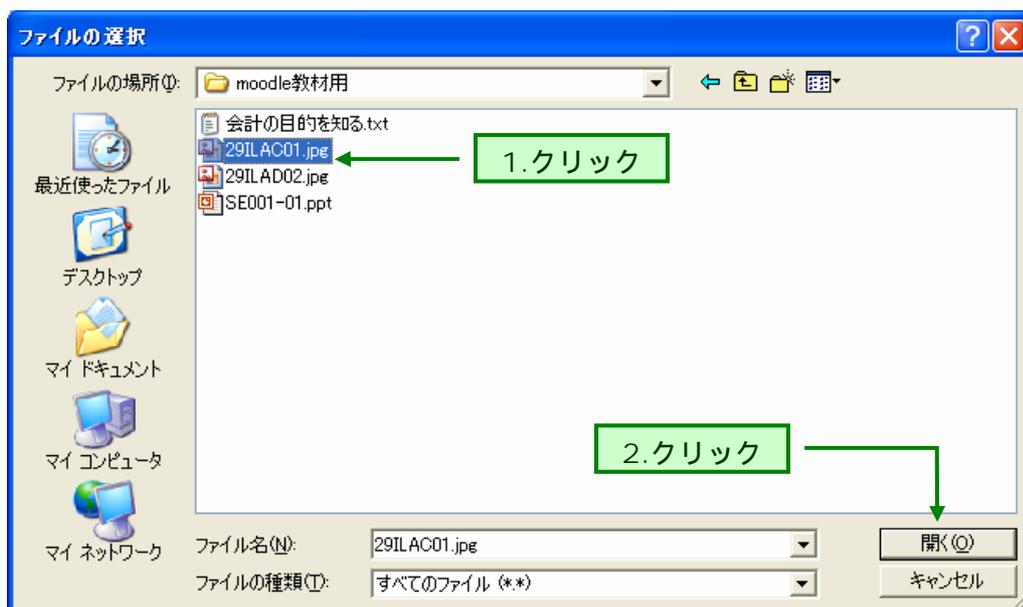
[参照]をクリックする。



10

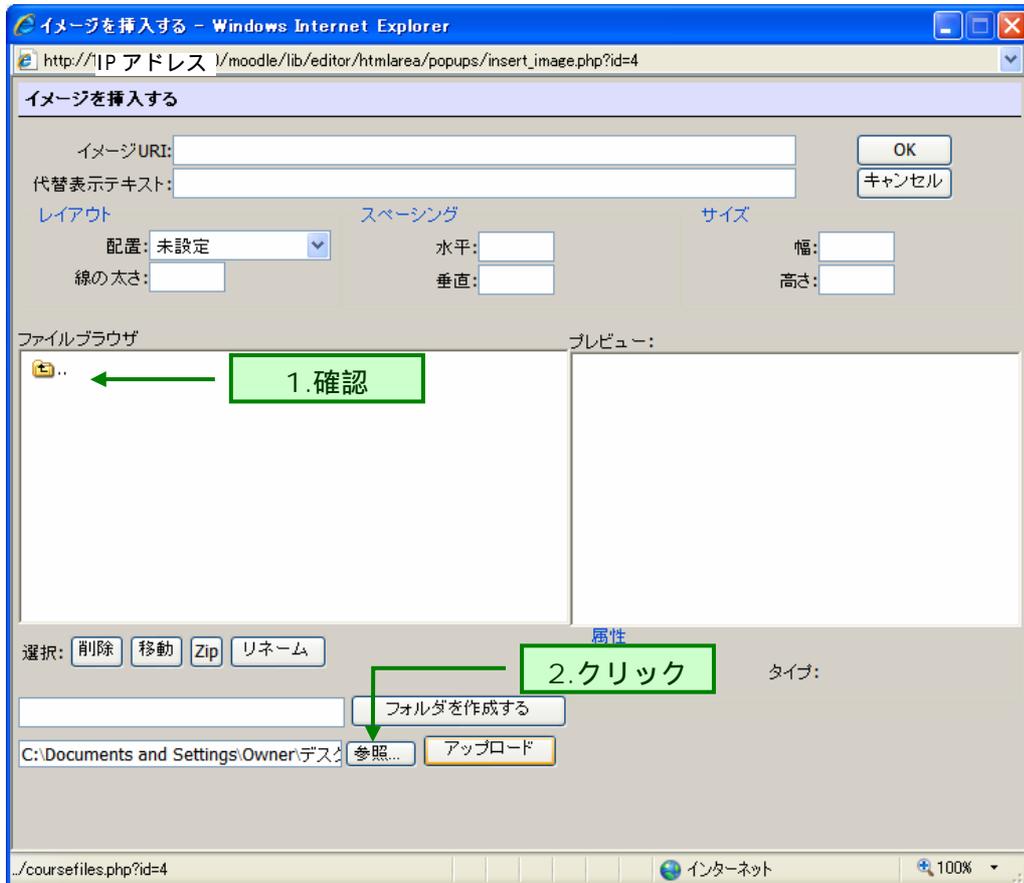
「ファイルの選択」ダイアログボックスが開く。

アップロードする画像ファイルを選択し、[開く]をクリックする。

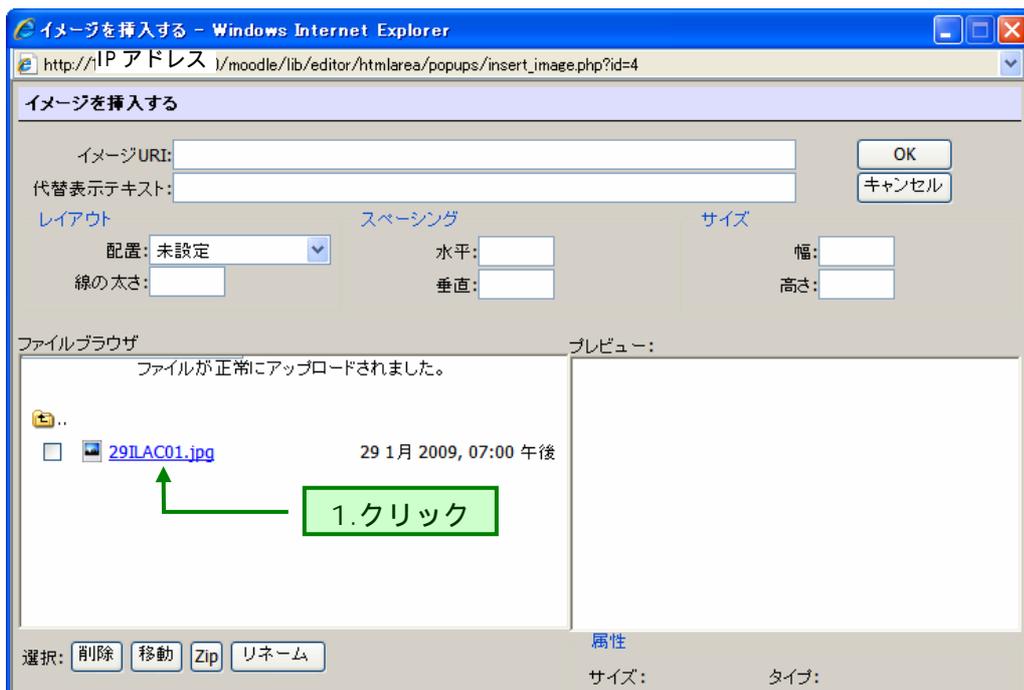


## 第3章 Moodle サーバの設定

- 11 「イメージを挿入する」ダイアログボックスに戻る。  
[アップロード]をクリックする。



- 12 「イメージを挿入する」ダイアログボックスに戻る。  
挿入する画像ファイル名（または画像ファイルのアイコン）をクリックする。



## 第3章 Moodle サーバの設定

**13** [ファイルブラウザ]上部に、ファイルが正常にアップロードされたことが表示される。

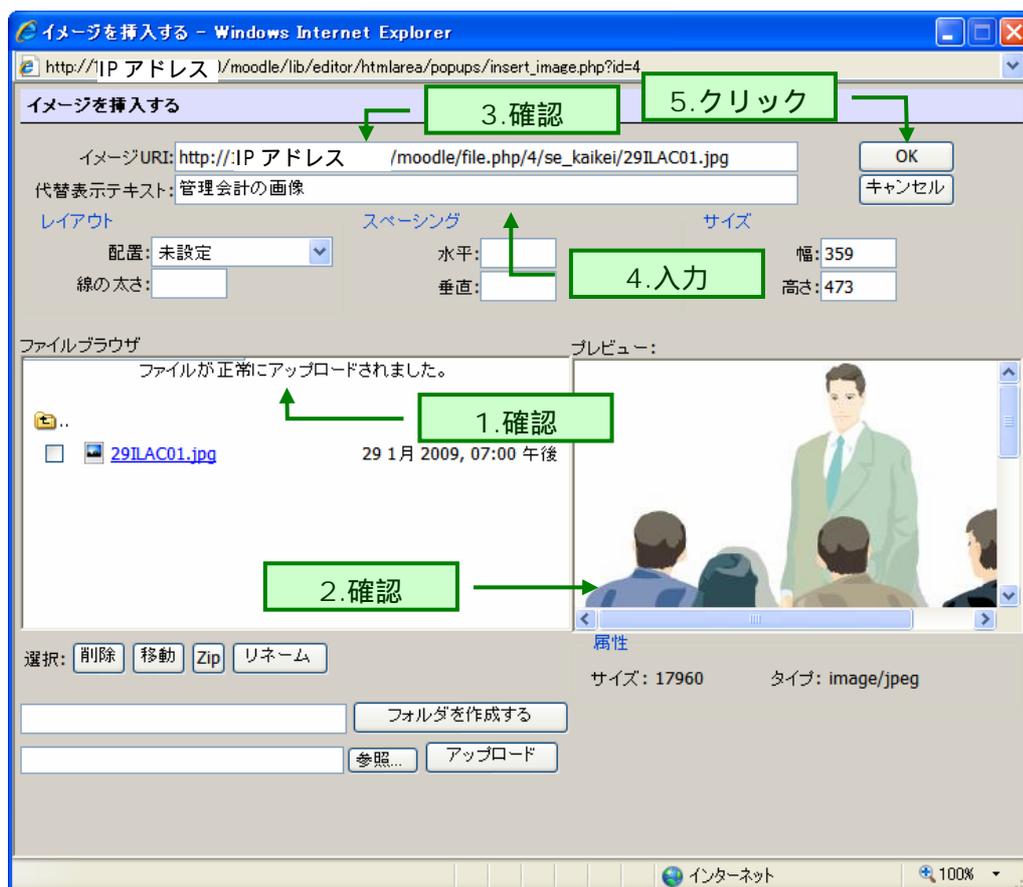
同時に、[プレビュー]に選択した画像のプレビューが表示される。  
プレビュー下にはサイズやファイルタイプなどの属性が表示される。

また、[イメージ URI]ボックスに挿入した画像ファイルのパスが表示される。

代替表示テキストには、画像が表示されない場合に代わりに表示される文字列を入力する。

さらに、必要がある場合は、レイアウト、スペーシング、サイズの幅や高さを調節する。

確認後、[OK]をクリックする。



## 第3章 Moodle サーバの設定

14

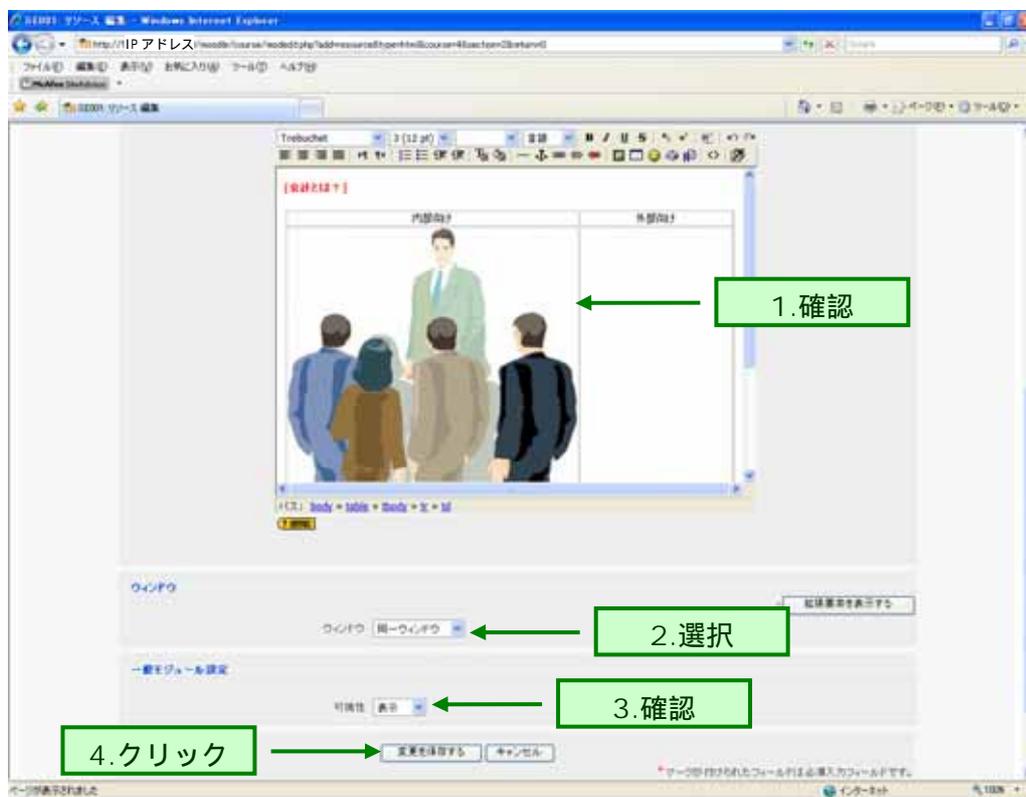
選択した画像が挿入される。

つづいて、[ウィンドウ]ボックスの設定を行う。

コースからリソース名をクリックした場合、リソースが同一ウィンドウに表示されるか、新規ウィンドウでポップアップ表示されるかを選択する。

[一般モジュール設定]は、通常[可視性]ボックスは[表示]のままでよい。  
何らかの理由で作成したリソースを学生に表示したくない場合は、[非表示]を選択する。

設定後、[変更を保存する]をクリックする。

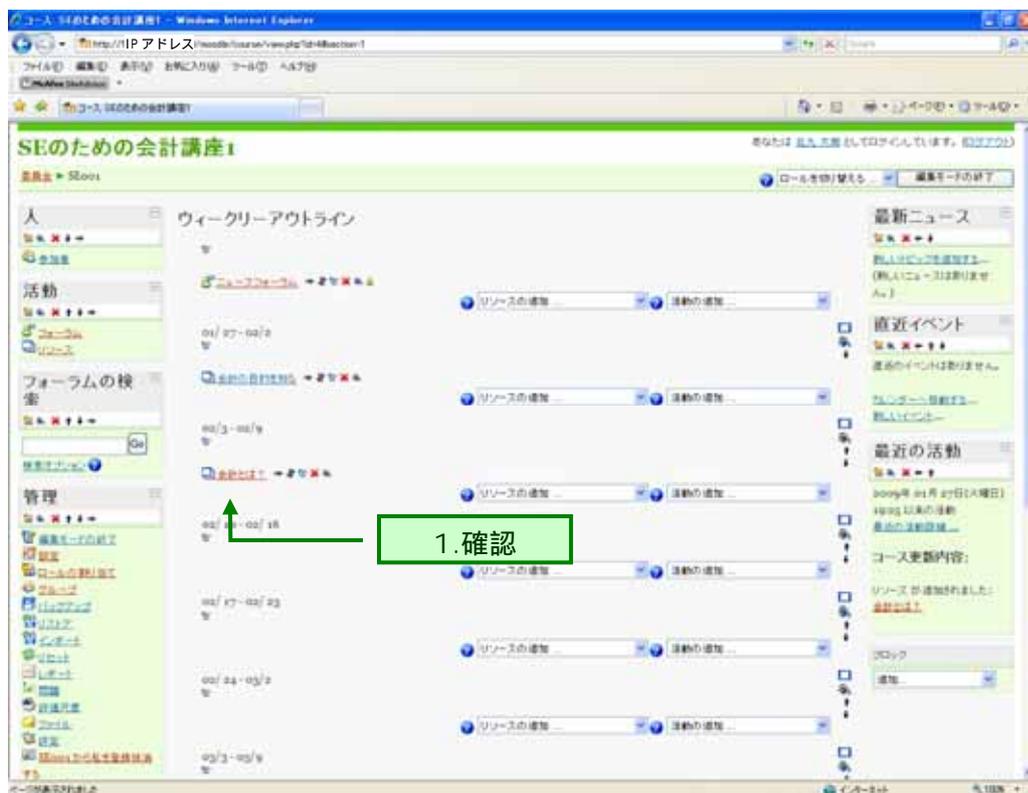


## 第3章 Moodle サーバの設定

- 15 作成したリソースが表示される。  
[ナビゲーションバー] [コースの省略名]をクリックする。



- 16 コースに作成したウェブページのリソースが追加されたことを確認する。



## 第3章 Moodle サーバの設定

### (7) ファイルまたはウェブサイトへリンク

「ファイルまたはウェブサイトへリンク」を使用してリソースを追加することにより、あらかじめ Moodle 以外で作成した Word、Excel や PowerPoint などの資料、また動画・音声のコンテンツなどをリソースとして使用することができる。

ファイルをリソースとして使用する場合、学生はファイルを直接開くことができるため、ダウンロードすることが可能である。

また、あらかじめウェブサイトとして作成したコンテンツを、リソースとしてリンクし、直接ウェブサイトを開いて学習させることも可能である。

まずは、既存のファイルを使用したリソースの作成方法を以下に示す。

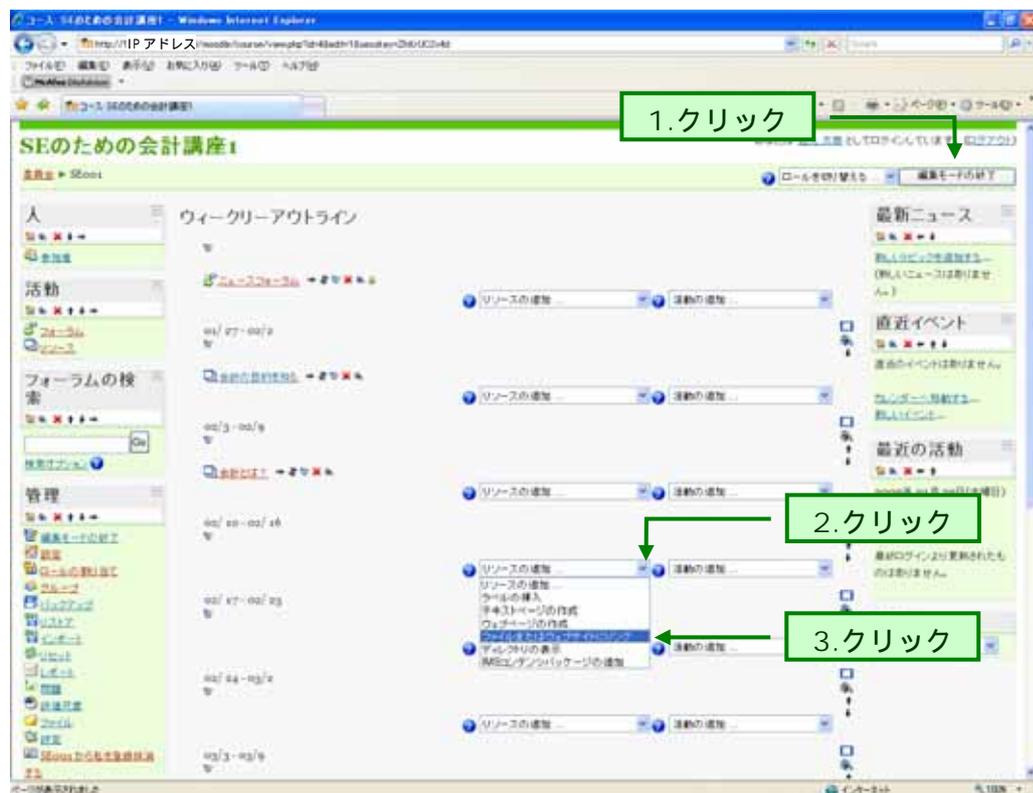
1

コース画面を表示し、編集モードに切り替える。

ウィークリーアウトラインの場合は、追加したい週の[リソースの追加]ボックス右側 ボタンをクリックする。

(トピックアウトラインの場合は、追加したい回の[リソースの追加]ボックス右側 ボタンをクリックする。)

プルダウンメニューの中から、[ファイルまたはウェブサイトへリンク]をクリックする。



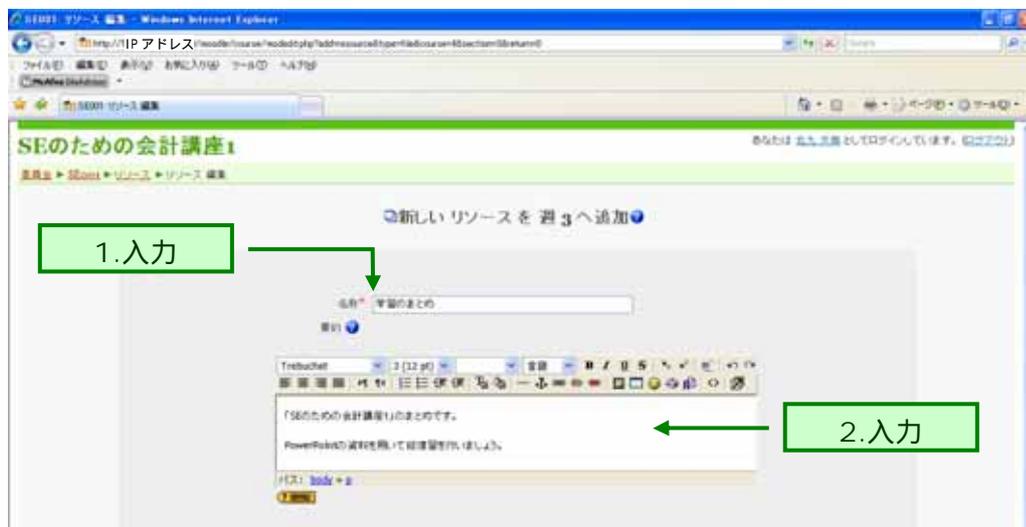
## 第3章 Moodle サーバの設定

2

リソースの追加画面が表示される。

[名称]ボックスに、追加するリソースのタイトルを記入する。

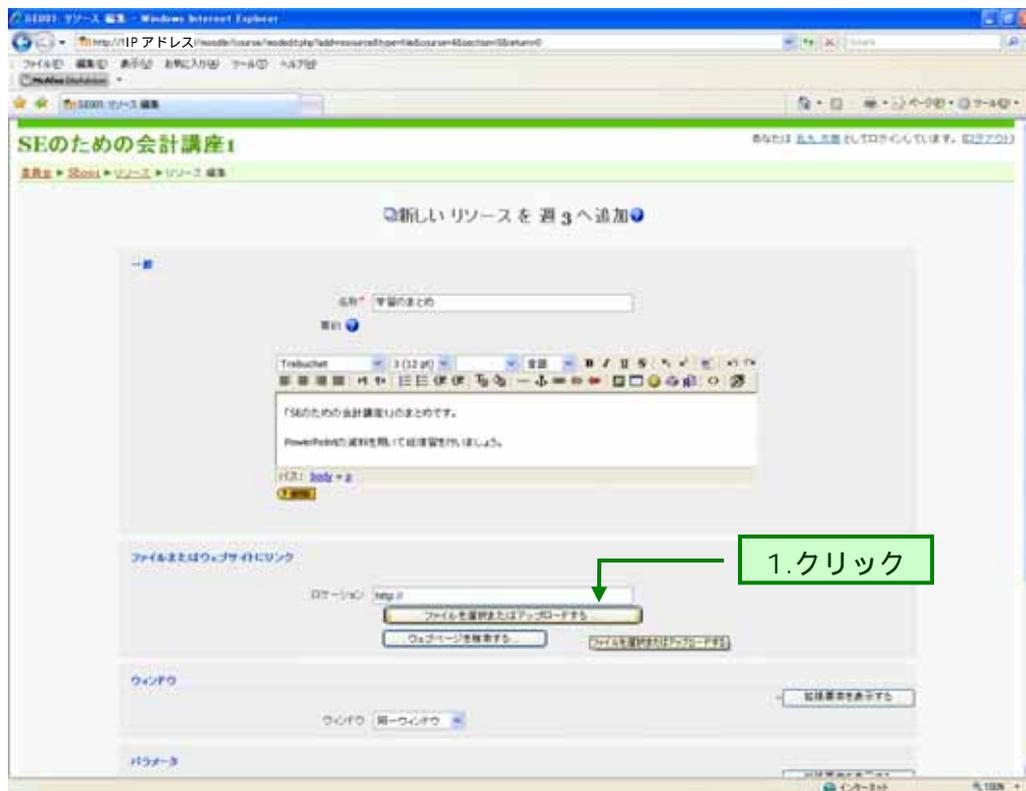
[要約]ボックスに、追加するリソースの概要を入力する。



3

入力完了後、リソースとして追加するファイルのアップロードを行う。

[ファイルを選択またはアップロードする]をクリックする。

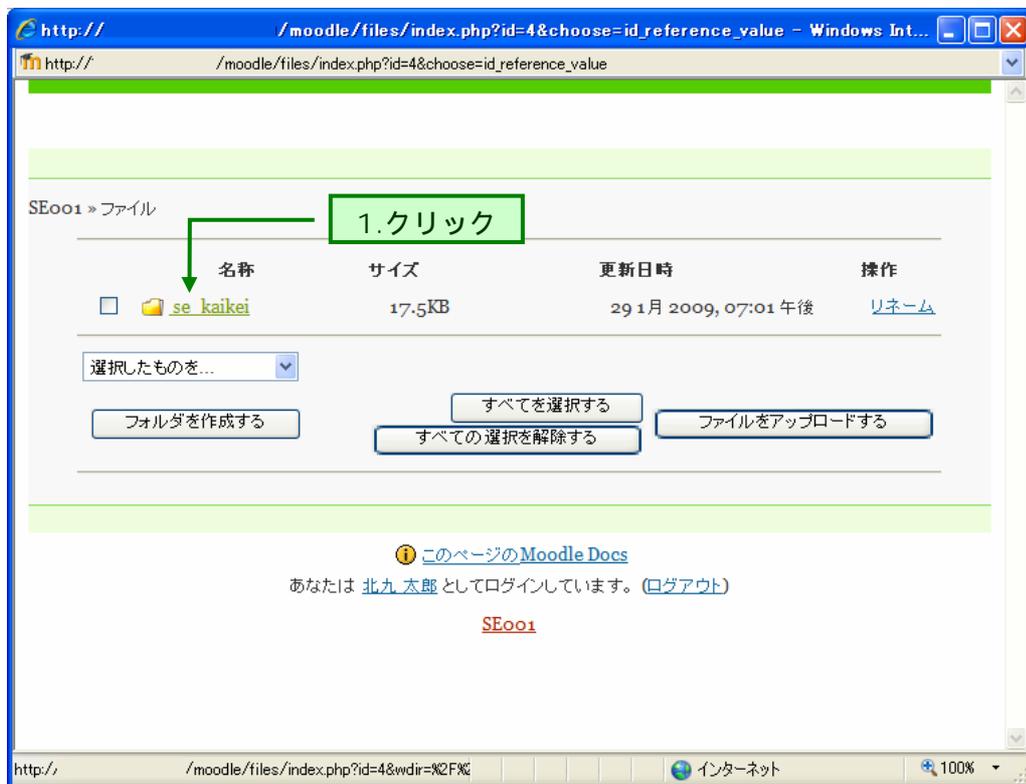


## 第3章 Moodle サーバの設定

4

ファイルのアップロード画面がポップアップ表示される。  
すでにコース内で作成されているフォルダ、およびアップロードされているファイルの一覧が表示される。

フォルダを作成する場合は、[フォルダを作成する]をクリックする。  
アップロードするフォルダを選択する。



5

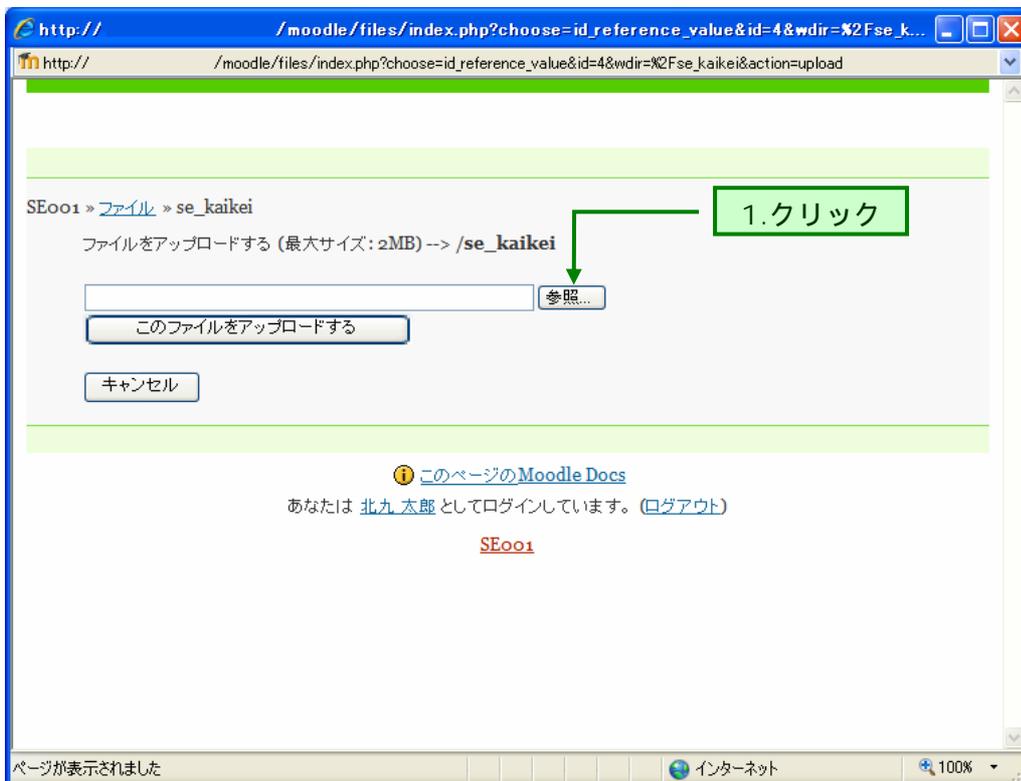
選択したフォルダが開き、フォルダの内容が表示される。  
[ファイルをアップロードする]をクリックする。



## 第3章 Moodle サーバの設定

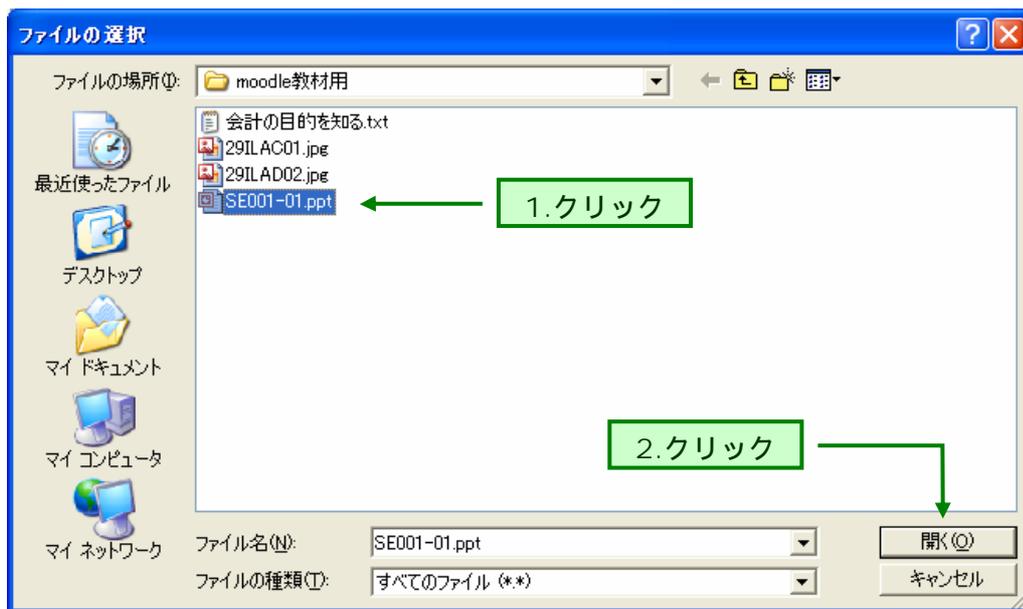
6

ファイルのアップロード画面が表示される。  
[参照]をクリックする。



7

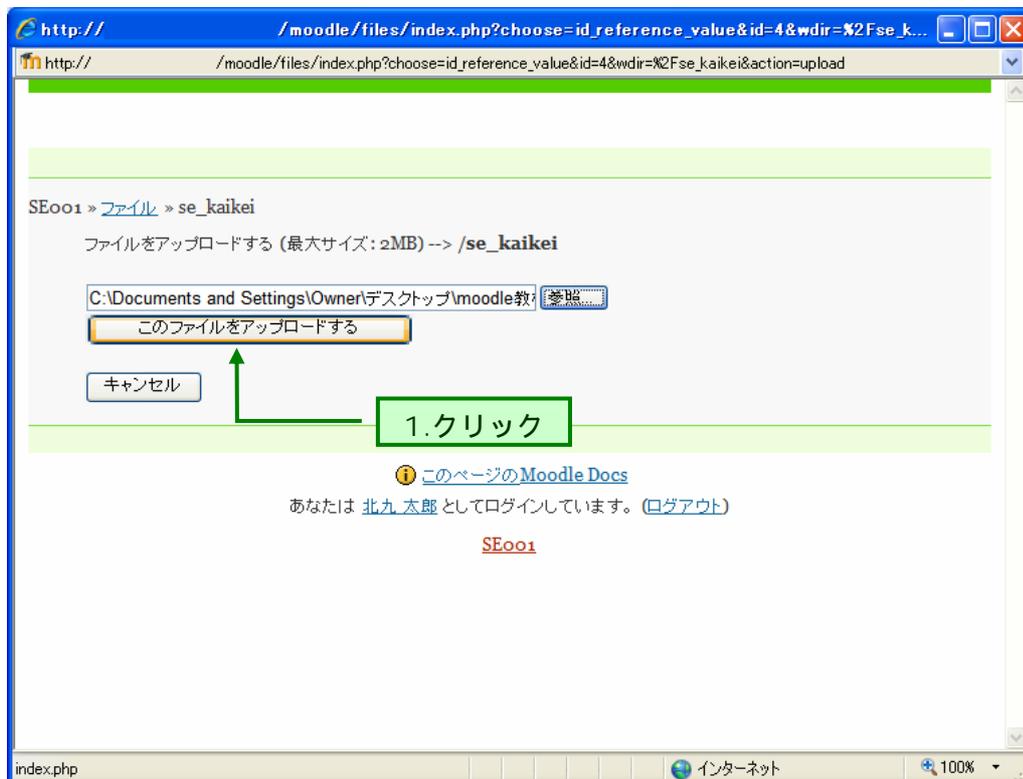
「ファイルの選択」ダイアログボックスが開く。  
アップロードするファイルを選択する。  
ファイル選択後、[開く]をクリックする。



## 第3章 Moodle サーバの設定

8

選択したファイルが参照ボックスに表示される。  
[このファイルをアップロードする]をクリックする。



9

選択したファイルがフォルダ内へアップロードされる。  
[操作]フィールドの中から、アップロードしたファイルの[選択]をクリックする。



## 第3章 Moodle サーバの設定

10

選択したファイルが[ロケーション]ボックスに表示されたことを確認する。

つづいて、[ウィンドウ]ボックス右側 ボタンをクリックし、プルダウンメニューの中から、[同一ウィンドウ]または[新しいウィンドウ]を選択する。

[同一ウィンドウ]を選択した場合は、学生がアップロードしたファイルを開覧する際、ブラウザ上に表示される。

[新しいウィンドウ]を選択した場合は、学生がアップロードしたファイルを開覧する際、新規ウィンドウが開き、ポップアップ表示される。

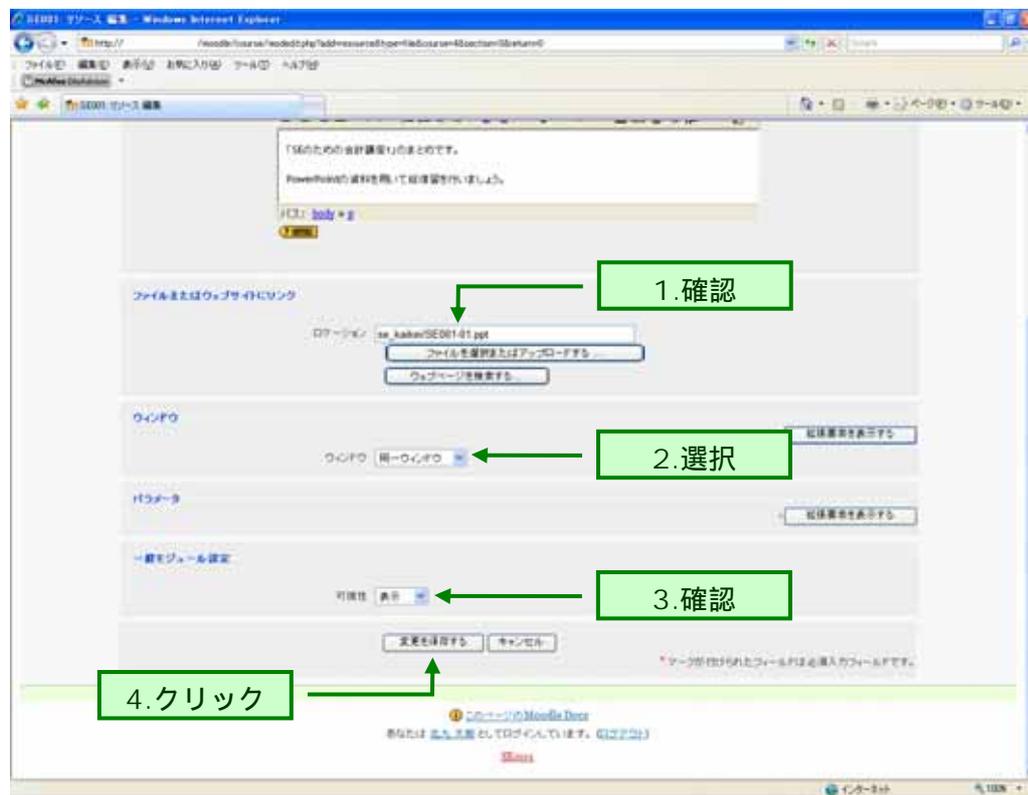
いずれの場合も、リソースをクリックした際、「ファイルのダウンロード」ダイアログボックスが表示され、リソースをダウンロードするか、ブラウザで表示するかを選択できる。

ウィンドウ設定後、一般モジュール設定を行う。

通常は[表示]のままにしておく。

何らかの理由で、リソースを一時的に学生に見せたくない場合は[非表示]を選択する。

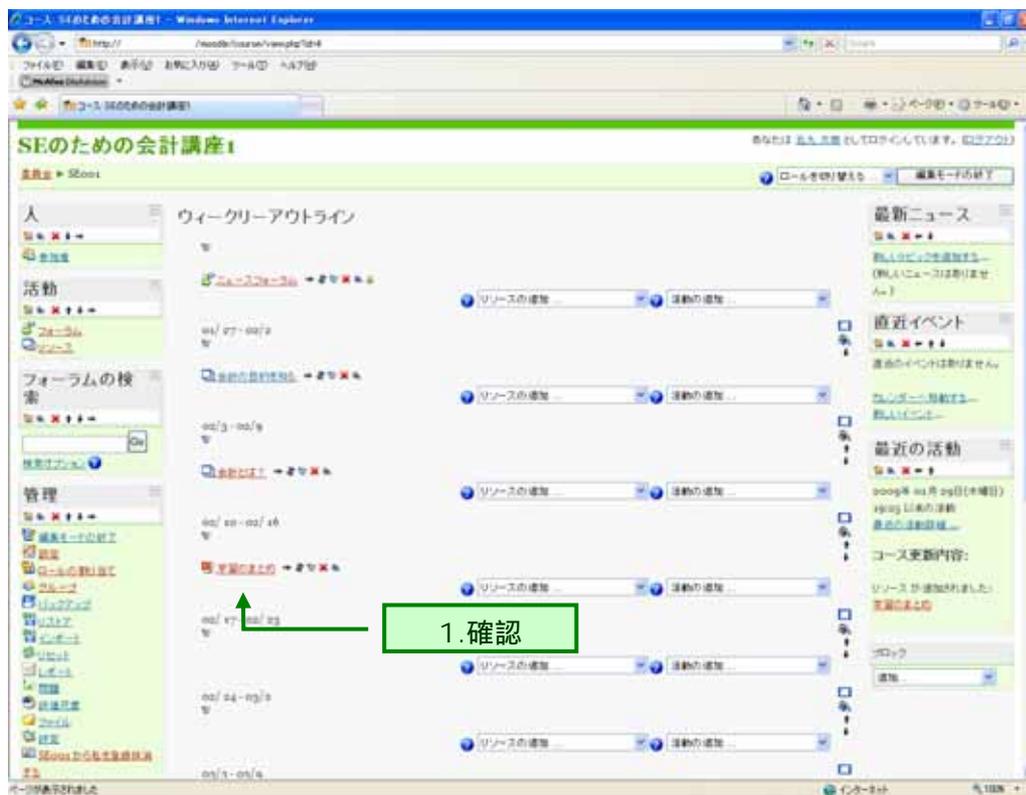
すべての設定が完了後、[変更を保存する]をクリックする。



## 第3章 Moodle サーバの設定

### 11

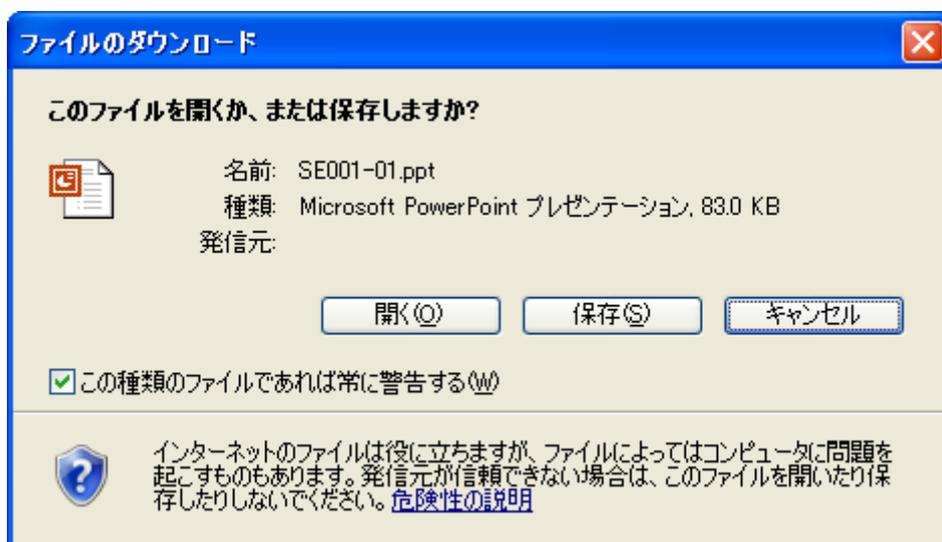
アップロードしたファイルがリソースとして追加されたことを確認する。



ファイルのアップロードを行ったリソースは、学生がコースを受講する際、リソース名をクリックすると、「ファイルのダウンロード」ダイアログボックスが表示される。

[開く]をクリックすると、選択したリソースが同一ウィンドウ、またはポップアップ表示される。

[保存]をクリックすると、リソースとしてアップロードしたファイルを保存できる。



## 第3章 Moodle サーバの設定

つづいて、あらかじめ作成したウェブサイトを用いてリソースを作成する。

ウェブサイトの場合、Moodle 外に公開しているウェブサイトに対して、そのままリンクを作成するため、Moodle 内にアップロードする必要なく、リソースを作成することが可能である。

既存のウェブサイトを使用したリソースの作成方法を以下に示す。

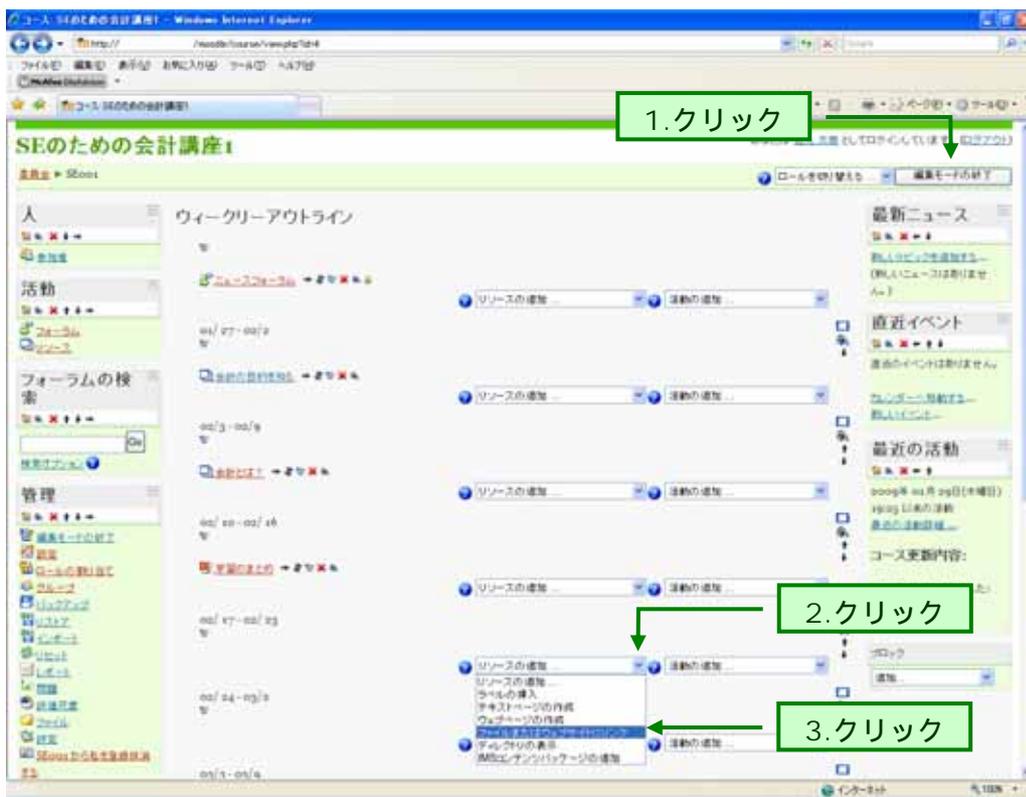
1

コース画面を表示し、編集モードに切り替える。

ウィークリーアウトラインの場合は、追加したい週の[リソースの追加]ボックス右側 ボタンをクリックする。

(トピックアウトラインの場合は、追加したい回の[リソースの追加]ボックス右側 ボタンをクリックする。)

プルダウンメニューの中から、[ファイルまたはウェブサイトにリンク]をクリックする。



## 第3章 Moodle サーバの設定

2

リソースの追加画面が表示される。

[名称]ボックスに、追加するリソースのタイトルを記入する。

[要約]ボックスに、追加するリソースの概要を入力する。

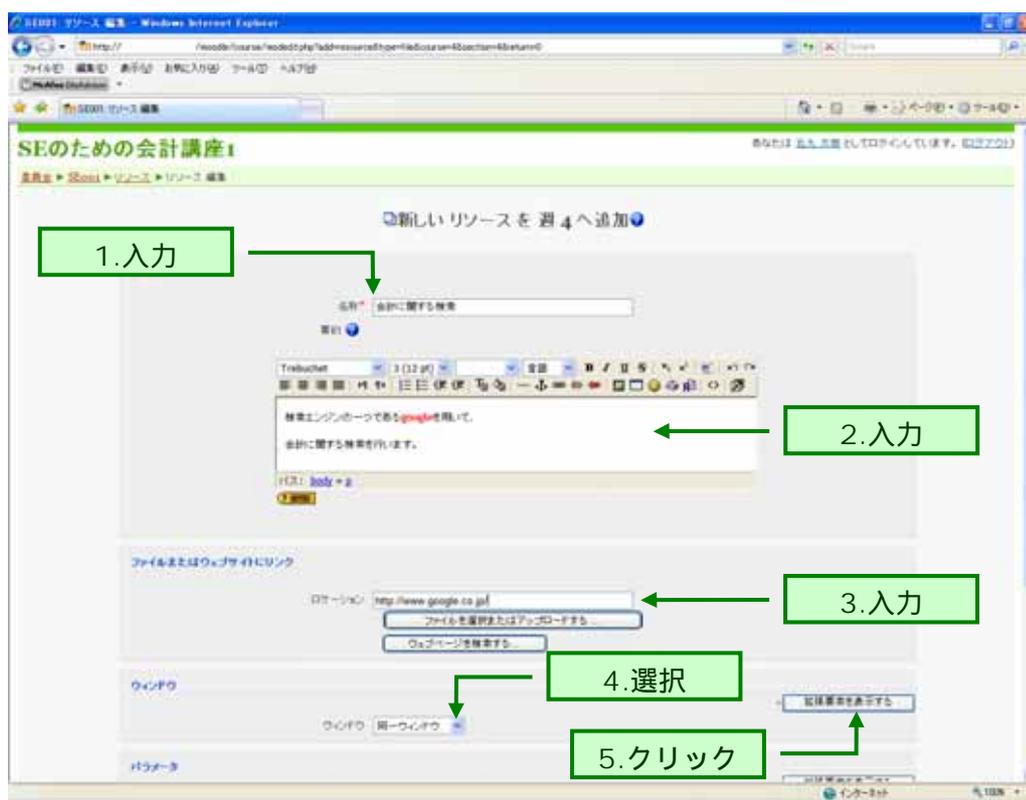
[ロケーション]ボックスに、表示させたいウェブページの URL を入力する。

[ウィンドウ]ボックス右側 ボタンをクリックし、プルダウンメニューの中からリソースの表示方法を選択する。

表示方法の中から[同一ウィンドウ]を選択した場合は、そのままではリソースをクリックした場合、リンク先に完全に画面が切り替わってしまう。

リソースを Moodle サイト内に表示する為に、フレーム表示する設定を行う。

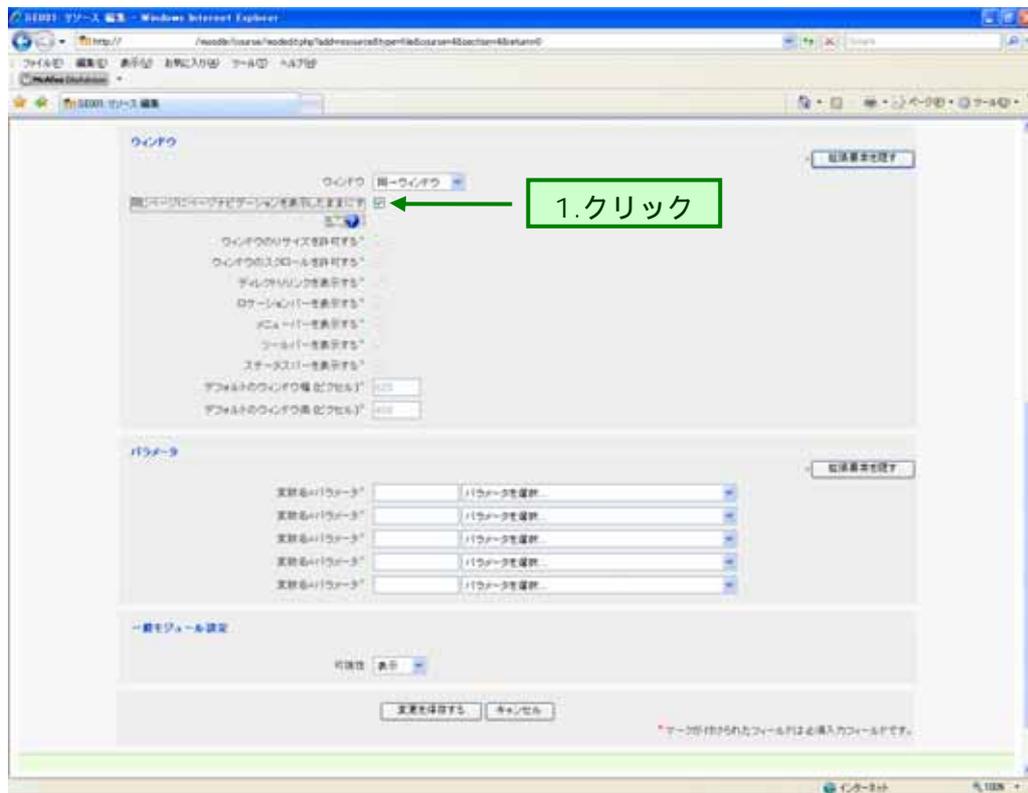
[ウィンドウ]右側の[拡張要素を表示する]をクリックする。



## 第3章 Moodle サーバの設定

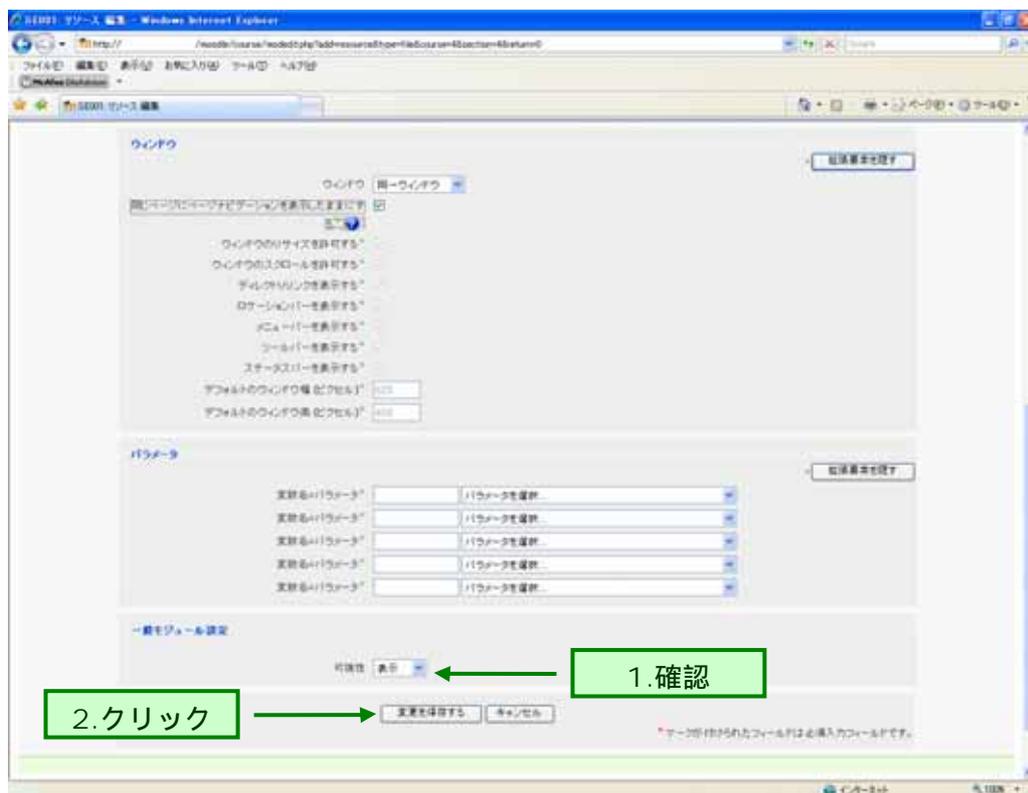
3

[同じページにページナビゲーションを表示したままにする]チェックボックスをクリックし、チェックを入れる。



4

[一般モジュール設定]は、通常は[表示]のままにしておく。すべての設定が終了後、[変更を保存する]をクリックする。



## 第3章 Moodle サーバの設定

### 5

Moodle サイトがフレームで分割される。

上のフレームには、リソースの要約が表示される。

同時に、下のフレームには、リソースに設定したウェブサイトが Moodle サイトの一部として表示されたことを確認する。

フレームの境界線は、境界線にマウスポインタを合わせ、ドラッグすると上下に位置を変更できる。



## 第3章 Moodle サーバの設定

### (8) その他のリソース

「テキストページの作成」、「ウェブページの作成」、「ファイルまたはウェブサイトへのリンク」以外にも、リソースの追加メニューがある。

その他のリソースの追加メニューは以下のとおりである。

#### ・ラベルの表示

コースサイトのメイン画面で、各リソースの補足説明などを表示する場合に用いることができるリソースである。

#### ・ディレクトリの表示

コースサイト内でアップロードしたファイルが大量に増えた場合、閲覧したいファイルがコースのどこに配置されているかわかりづらくなる。

ディレクトリの表示を用いることにより、コース内のファイル構成を表示し、目的のファイルを選択することができる。

コースサイト内にファイルがどれだけあるかを把握する際にも役立つ。

#### ・IMS コンテントパッケージの設置

IMS Global Learning Consortium Inc.という非営利団体が策定する e ラーニングの技術標準規格を用いた教材をアップロードする際に使用する。

## 第3章 Moodle サーバの設定

### 3.7 活動の追加

#### (1) 活動とは

Moodle では、リソースとは別に、「テスト」や「簡易投票」、「出欠確認」などを行うことができる「活動モジュール」が準備されている。

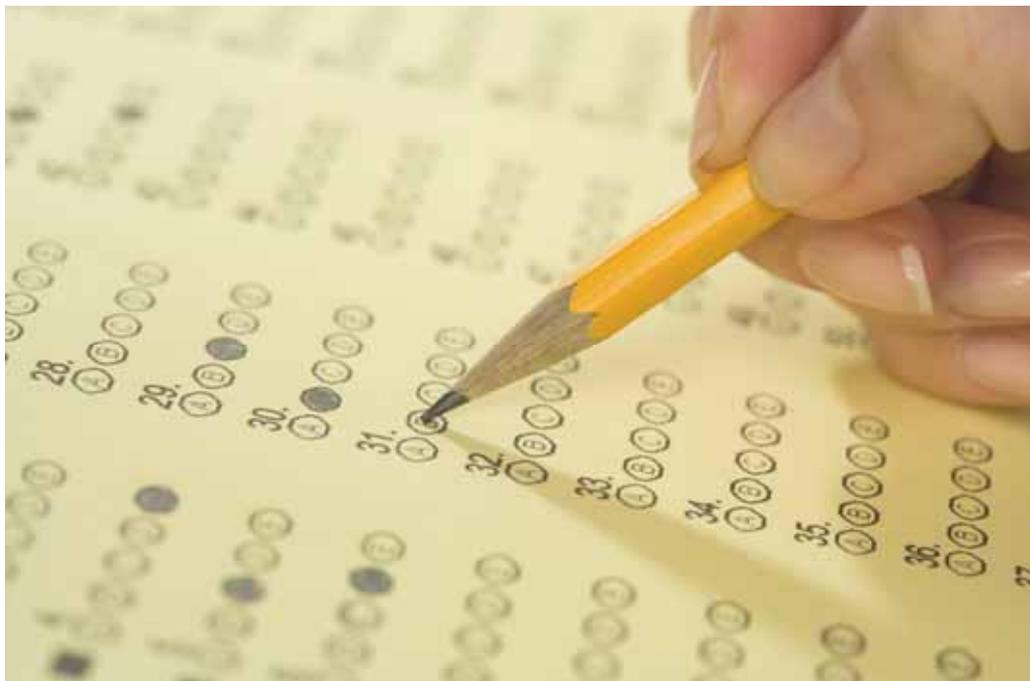
また、教員と学生、あるいは学生同士、教師同士がコミュニケーションをとるための「掲示板」や「チャット」が準備されている。

掲示板やチャットを用いることにより、教師や学生が質問や議論等を行うことが可能である。

他にも、教師や学生が自由に用語を登録・閲覧できる「用語集」や「Wiki」なども準備されている。

今回は、様々なモジュールのうち、学生がリソースを用いて学習を行った後に、テストを行うためのテスト問題を作成することができる基本的なモジュールである、「小テスト」モジュールについて解説を行う。

また、活動の追加に関して、教師のロールを持ったユーザが活動を追加することを想定して解説を行う。



## 第3章 Moodle サーバの設定

### (2) 小テストの作成

小テストモジュールでは、多様な形式のテスト問題を作成することができる。

まず、小テストの概要について設定を行う。

その後テスト問題を追加していく。

小テストでは、複数のテスト問題を組み合わせ、一つの小テストを構築していくことが可能である。

小テストモジュールで作成することができる問題タイプを、以下の表に示す。

表 3-5 小テストに使用できる問題タイプ

| 問題タイプ             | 説明   |
|-------------------|--|
| 計算問題              | 計算問題では、小テスト実施時に値と置き換えられるワイルドカードを使用した数値問題を作成できる。  |
| 説明                | 説明は、実際の問題ではない。<br>答えを要求されず、単にテキストや画像等のイメージが表示される。<br>例えば、次に続く問題の前提としての説明を付加する場合などに使用する。                          |
| 作文問題              | 作文問題では、(画像等イメージを含む)問題に対して解答者が作文形式の答えを書き込む。   |
| 組み合わせ問題           | 答えのリストとともに、小問題のリストが表示される。解答者は、それぞれの問題に対して正しい答えを「一致させる」必要がある。   |
| 穴埋め問題             | 穴埋め問題は、テキスト内に多肢選択問題、記述問題、数値問題を埋め込むことができる。  |
| 多肢選択問題            | 問題(画像等イメージを含む場合もある)に対して、解答者が複数の答えの中から解答を選択する。<br>一つの正解を選択する単一解答、および複数の正解を選択する複数解答を作成できる。                         |
| 記述問題              | 問題(画像等イメージを含む場合もある)に対して、解答者が言葉またはフレーズを入力する。<br>異なる評定において、多くの正しい答えが存在する可能性がある。<br>また、答えの入力に関して、大文字小文字を区別することができる。 |
| 数値問題              | 連続した数値の範囲の答えを、正解として設定できる。解答者には、記述問題と同じように見える。  |
| ランダム記述<br>組み合わせ問題 | 現在作成している記述問題を用いて、ランダムに小問題を出題することができる。  |
| / × 問題            | 問題(画像等イメージを含む場合もある)に対して、解答者は 2 つの選択肢(または ×)から答えを選択する。  |

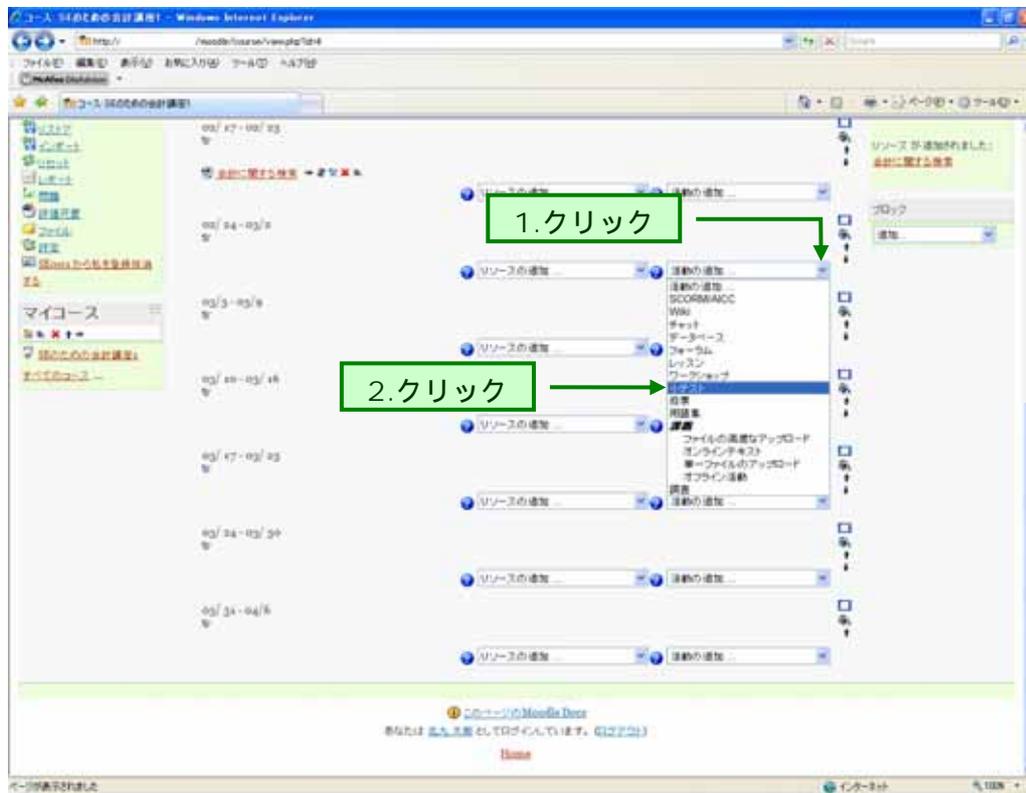
出所:「MoodleDocs」<http://docs.moodle.org/ja/>

## 第3章 Moodle サーバの設定

つづいて、小テストの作成方法を以下に示す。

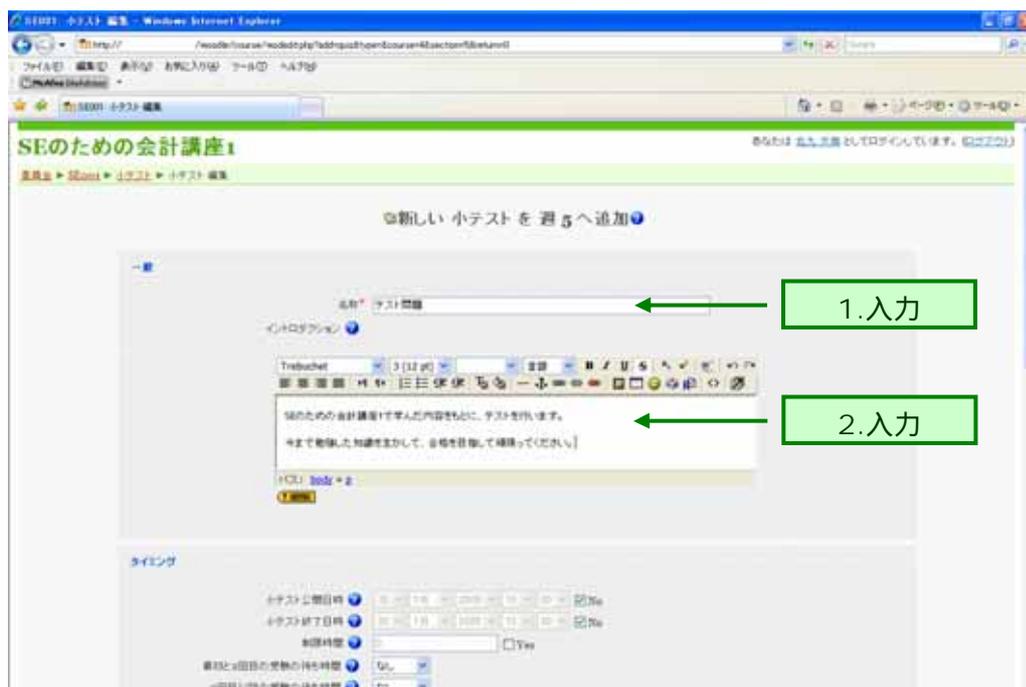
1

コース画面を表示し、編集モードに切り替える。  
追加したい週または回のプルダウンメニューの中から[小テスト]をクリックする。



2

小テストの追加画面が表示される。  
[名称]および小テスト開始時に表示されるイントロダクションを入力する。



## 第3章 Moodle サーバの設定

### 3

つづいて[タイミング]の設定を行う。

小テストを実施する際に期間を設ける場合は、[小テスト公開日時]および[小テスト終了日時]の[No]チェックボックスをクリックし、チェックをはずした後、日付の設定を行う。

次に、小テストに制限時間を設ける場合は、[Yes]チェックボックスをクリックし、チェックを入れた後、制限時間を入力する。

つづいて、テスト問題を複数受験する際に設ける待ち時間について設定を行う。

[最初と2回目の受験の待ち時間]は、2回目の小テストを受ける際、1回目のテストのあとに、一定時間間隔を置き、すぐに再テストを受けることができないようにする場合に選択する。

[2回目以降の受験の待ち時間]は、3回目以降の小テストを受ける際、前回のテストのあとに、一定時間間隔を置き、すぐに再テストを受けることができないようにする場合に選択する。

どちらの待ち時間も、通常は、すぐに再テストを受けることができるように[なし]が選択されている。

The screenshot shows the Moodle 'テスト問題' (Test Question) settings page. The 'タイミング' (Timing) section is highlighted with three green boxes and arrows labeled '1. 選択', '2. 選択', and '3. 選択'. The first box points to the '小テスト公開日時' (Test question start date) and '小テスト終了日時' (Test question end date) 'No' checkboxes. The second box points to the '制限時間' (Time limit) 'Yes' checkbox. The third box points to the '最初と2回目の受験の待ち時間' (Waiting time between first and second attempts) and '2回目以降の受験の待ち時間' (Waiting time between subsequent attempts) dropdown menus.

## 第3章 Moodle サーバの設定

### 4

つづいて[表示]の設定を行う。

[1 ページあたりの問題数]は、通常[無制限]が選択されている。

問題数が多い場合など、複数のページに分割して問題を掲載したい場合は、プルダウンメニューの中から問題数を選択する。

[問題をシャッフルする]は、問題の出題順を小テスト受験のたびに入れ替えることで、学生同士の問題のコピー防止低減などに使用する。

通常[No]が選択されており、作成した順番に問題が出題される。

問題が表示される順番を変更する場合は[Yes]を選択する。

[問題内部をシャッフルする]は、多肢選択問題や組み合わせ問題等、選択肢が表示される問題にのみ反映される。

選択肢の順番を小テスト受験のたびに入れ替えることで、同じく学生同士の問題のコピー防止低減などに使用する。

通常[Yes]が選択されており、変更しない場合は[No]を選択する。



## 第3章 Moodle サーバの設定

### 5

つづいて[受験]の設定を行う。

[受験可能回数]は、通常[無制限]が選択されている。

受験回数に制限を設ける場合は、1 受験から 6 受験までの範囲で選択できる。

[直近の解答内容を反映させる]は、通常[No]が選択されており、毎回新たな問題が表示される。

前回の解答内容を反映する場合は[Yes]を選択する。

[アダプティブモード]は、小テストを受験している最中に、再度解答を行うことができるかどうかを選択する。

通常[Yes]が選択されており、一度間違えても再度受験することができる。

なお、再度受験した場合にペナルティとして減点を設定できる。  
設定方法は次ページの手順 6 にて紹介する。

一度間違えた場合に再度受験させない場合は[No]を選択する。



## 第3章 Moodle サーバの設定

6

つづいて[評定]の設定を行う。

[評定方法]は、複数回の受験が許可されている場合に、評定を計算する方法を選択する。

[最高評定]を選択した場合、複数受験した中での最高点が評点となる。

[平均評点]を選択した場合、すべての受験での点数を単純平均した値が評点となる。

[最初の受験]を選択した場合、1回目の受験の点数が評点となる。

[最新の受験]を選択した場合、直近に受験した最新の点数が評点となる。

[ペナルティを適用する]は、学生が再受験できる場合、最終評定からペナルティ分の点数を差し引くかどうかを選択する。

通常[Yes]が選択されており、問題作成時に点数を設定可能である。

何度受験してもペナルティとして点数を差し引かない場合は[No]を選択する。



## 第3章 Moodle サーバの設定

### 7

つづいて[学生はレビューできる]および[セキュリティ]の設定を行う。

[学生はレビューできる]では、それぞれのタイミングで受験者が「解答」、「得点」、「フィードバック」、「正解」、「全般に対するフィードバック」を行うことができるかどうかを選択する。

[小テストにセキュアウィンドウを表示する]は、通常[No]が選択されている。

[Yes]を選択すると、小テスト時にブラウザがフルスクリーン表示になり、別のページを閲覧しながらの解答などを行いにくくすることができる。

[パスワード]は、任意項目である。

パスワードを設定した場合は、小テストを受験する前にパスワードを入力する必要がある。

[ネットワークアドレス]は、特定の IP アドレスからのアクセスした場合のみテストを行えるようにする場合に設定する。

The screenshot shows the Moodle test settings page in a browser window. The page is divided into several sections: 表示 (Display), 受験 (Exam), 評定 (Grading), 学生はレビューできる (Students can review), and セキュリティ (Security). The '学生はレビューできる' section has three rows of checkboxes for '解答' (Answer), '得点' (Score), and 'フィードバック' (Feedback). The 'セキュリティ' section has a dropdown for '小テストがセキュアウィンドウに表示する' (Show test in secure window) set to 'No', a text input for 'パスワード' (Password), and another text input for 'ネットワークアドレス' (Network address). Three green boxes with arrows point to these settings: '1. 選択' points to the '学生はレビューできる' section, '2. 選択' points to the '小テストがセキュアウィンドウに表示する' dropdown, and '3. 入力' points to the 'パスワード' text input.

## 第3章 Moodle サーバの設定

8

つづいて[一般モジュール設定]および[全体のフィードバック]の設定を行う。

[グループモード]では、通常グループなしが選択されている。

コースサイト同様、グループごとに閲覧の制限を行う場合のみ設定を変更する。

[可視性]では、通常[表示]のままでよい。

何らかの理由で作成した小テストを学生に表示したくない場合は、[非表示]を選択する。

[全体のフィードバック]では、小テストを受験終了後、評点の結果によって異なるテキストを表示する際に、何点から何点までの範囲の場合にはどのようなテキストを表示するか、といった設定を行う。

評点境界には、パーセント入力および数値での入力を行うことができる。

すべての設定完了後、[変更を保存する]をクリックする。

The screenshot shows the Moodle 'General Module Settings' page. The 'Group Mode' dropdown is set to 'Group None' (グループなし), and the 'Visibility' dropdown is set to 'Show' (表示). A green box labeled '1. 選択' (1. Selection) points to these dropdowns. Below, the 'Individual Feedback' section contains several rows, each with a 'Score Boundary' (評点境界) and a 'Feedback' (フィードバック) text field. The boundaries are 100%, 100%, 75%, 50%, and 0%. A green box labeled '2. 入力' (2. Input) points to these text fields. At the bottom, there is a 'Save Changes' (変更を保存する) button and a 'Cancel' (キャンセル) button. A green box labeled '3. クリック' (3. Click) points to the 'Save Changes' button.

## 第3章 Moodle サーバの設定

9

小テストの活動が追加され、テスト編集画面が表示される。  
[問題バンク]の中から[問題作成]ボックス右側 ボタンをクリックする。  
プルダウンメニューの中から、作成する問題の種類を選択する。  
本テキストでは、例として[ / ×問題]を作成する。



10

/ ×問題の編集画面が表示される。  
[カテゴリ]ボックスは、小テストでカテゴリを作成した場合のみ選択する。  
[問題名]ボックスに、表示する問題名を入力する。



## 第3章 Moodle サーバの設定

### 11

[問題テキスト]テキストボックスに、問題文を入力する。

HTML エディタを使用して、文字の装飾等を行うことができる。

[表示イメージ]ボックスは、問題文に表示させたい画像がある場合、右側 ボタンをクリックし、一覧からすでにアップロード済みの画像を選択する。

[評点のデフォルト値]は、この問題の評点の最大値を入力する。

[ペナルティ要素]は、受験者が再度受験する場合のペナルティが設定されている場合、0~1の間で設定することができる。

本テキストの例では、ペナルティが設定されていないため、確認のみ行う。

ここで設定した値に、評点を掛け算した数値が、評点からマイナスされる。

[全体に対するフィードバック]では、受験後に全員に表示されるテキストを入力する。

問題テキスト同様、HTML エディタを使用して、文字の装飾等を行うことができる。



## 第3章 Moodle サーバの設定

12

画面下部へスクロールする。

[正解]ボックス右側 ボタンをクリックし、[ ]または[×]を選択する。

[解答「 」に対するフィードバック]ボックスに、[ ]を選択した場合に表示される文章を入力する。

[解答「×」に対するフィードバック]ボックスに、[×]を選択した場合に表示される文章を入力する。

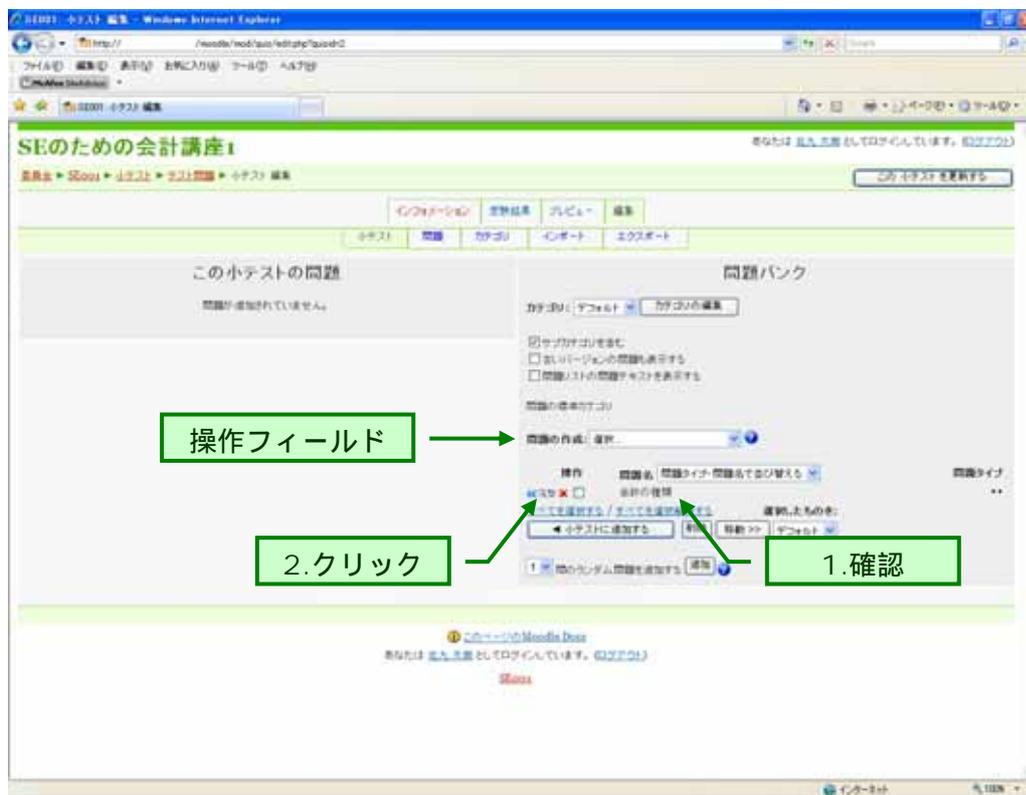
[解答「 」に対するフィードバック]および[解答「×」に対するフィードバック]は、問題テキスト同様、HTML エディタを使用して、文字の装飾等を行うことができる。

すべての入力完了後、[変更を保存する]をクリックする。



## 第3章 Moodle サーバの設定

- 13** 再びテスト編集画面が表示され、作成した問題が追加される。  
問題のプレビューを確認する場合は、作成した問題名の左側の[操作]フィールドより、[プレビュー]をクリックする。



- 14** 作成した問題がプレビュー表示される。  
フィードバックを確認するには、答えを選択し、[送信]をクリックする。



## 第3章 Moodle サーバの設定

**15** それぞれの解答のフィードバックが、答えの下に表示されたことを確認する。

解答の結果に合わせて、それぞれの解答のフィードバックの下に、解答の評点が表示される。

全般に対するフィードバックがさらに下に表示される。

確認後、[プレビューを閉じる]をクリックする。



## 第3章 Moodle サーバの設定

16

再びテスト編集画面が表示される。

[操作]フィールドのチェックボックスにチェックを入れ、[小テストに追加する]をクリックする。



17

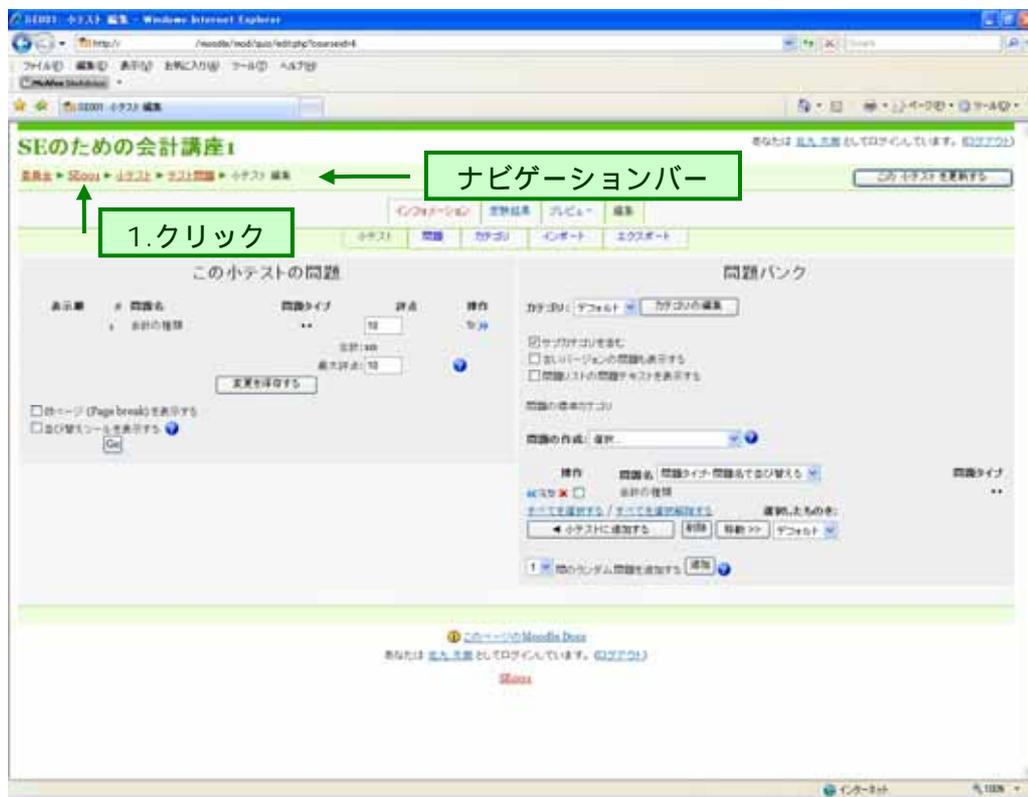
選択した問題が、[この小テストの問題]に追加される。

必要があれば評点を変更し、[変更を保存する]をクリックする。



### 第3章 Moodle サーバの設定

**18** 変更が保存される（画面は切り替わらない）  
[ナビゲーションバー] [コースの省略名]をクリックし、コースサイトへ切り替える。



**19** 作成した週（または回）に、小テストが追加されたことを確認する。



## 第3章 Moodle サーバの設定

### (3) その他の活動

「小テスト」以外にも、活動の追加メニューがある。

その他の活動モジュールは以下のとおりである。

#### ・ SCORM/AICC モジュール

SCORM および AICC は、ベンダーに関係なく、あらゆる学習システム上で教材が機能するための国際標準規格である。

これらの規格に準拠した形式で教材を作成することにより、Moodle 内で使用している教材を、同じくこれらの国際標準規格に準拠している他の LMS にエクスポートしたり、逆に他の LMS から教材をインポートすることができる。

#### ・ Wiki モジュール

Wiki( ウィキ )とは、不特定の人物が自由に書き込むことができる Web ページのことで、ハワイ語で「早く」という意味を持つ。

オンライン百科事典の「Wikipedia ( ウィキペディア )」のように、コースに参加する学生や教員が、自由に書き込むことができるモジュールである。

全員が参加するプロジェクトや討論などにも使用できる。

また、Wiki モジュールに書き込むことができるロールを教師や学生に限定したり、グループ毎に限定したりすることも可能である。

#### ・ チャットモジュール

チャットモジュールを使用すると、教師と学生、あるいは教師同士、学生同士がリアルタイムでディスカッションを行うことができる。

議論や進行中プロジェクトの意見交換、オフィスアワーの代替手段として使用することができる。

## 第3章 Moodle サーバの設定

### ・データベースモジュール

データベースモジュールを用いて、Access を用いたテーブルを作成する感覚でデータベースを作成することができる。

フィールド名、フィールドタイプ、フィールドの説明等を指定し、レコードを入力し、データベースとして表示することができる。

また、データベースとして、テキスト入力の外、画像イメージや各ファイル、URL のリンクなど、多くのフォーマットを用いることができる。

### ・フォーラムモジュール

フォーラムモジュールを用いて、電子掲示板を設置することができる。

フォーラムでは、テキスト入力の外、ファイルを添付し、他の学生や教師が自由に閲覧することができる。

フォーラムの形式は、ネスト表示やツリー表示、投稿日時順の表示など、様々な形式に対応している。

### ・レッスンモジュール

レッスンモジュールでは、様々な問題を追加し、解説やテスト、および「クスタ」を用いて順番を複雑に構成することができるモジュールである。

小テストモジュールでは、比較的簡単にテストを作成することができるが、レッスンモジュールを用いると、正誤によって次に出現する問題を変更したり、解答を書かずに説明だけを表示したりすることもできる。

### ・ワークショップモジュール

ワークショップとは「研究集会」あるいは「参加型講習会」という意味がある。

ワークショップモジュールでは、ある学生が提出した課題について、他の学生や教師が評価することができるモジュールである。

大学等のゼミや、市民講座・オープンカレッジ等での使用が考えられる。

## 第 3 章 Moodle サーバの設定

### ・投票モジュール

投票モジュールでは、複数の選択肢を作成し、択一式の投票を行うことができる。

トピックに関する理解度の測定や、リサーチを行うためのアンケート等に使用することが可能である。

### ・用語集モジュール

用語集モジュールでは、教師や学生が、辞書のようなリストを作成することができる。

用語集モジュールは、見た目はフォーラムモジュールと似ているが、インデックスやキーワードを利用して用語を検索することや、並び替えを行うことができる。

### ・課題モジュール

課題モジュールは、課題の提出期間や評点、ファイルサイズ等を設定し、さまざまな種類のファイルを提出することができるモジュールである。

教師は、提出された課題を採点し、コメントを添付することができる。学生は、採点された評点およびコメント、提出日時等を、ログとして閲覧することができる。また、ログを用いると、教師は学生が課題を提出した証拠として利用することもできる。

また課題モジュールは、「ファイルの高度なアップロード」、「オンラインテキスト」、「単一ファイルのアップロード」、「オフライン活動」から選択する。

「ファイルの高度なアップロード」は、学生は 1 つまたは複数のファイルをアップロードすることができる。

学生は、提出したファイルに関する進捗状況などの情報を記述することが可能である。

また、完成していない課題に関しては、下書きを設定することも可能である。

このタイプの課題の提出は、学生が手動で行う必要がある。

「オンラインテキスト」は、Moodle 上で、テキストの編集を行い、提出をする形式の課題を課すことができる。

「単一ファイルのアップロード」は、ワード文書や画像イメージ、圧縮ファイル、音楽ファイルなど、あらゆる形式の中から指定された形式のファイルをアップロードすることができる。

「オフライン活動」は、Moodle 外で課題を課す場合に使用する。Moodle 外の Web サイトや対面による課題を課す際に、課題の説明や、評定に使用することができる。

---

## 第3章 Moodle サーバの設定

### ・調査モジュール

調査モジュールは、COLLES あるいは ATTLS という調査方法を用いて、学生に調査を行うことが可能である。

COLLES は、6 つに分類された 24 の簡単な質問で構成される。

また、ATTLS は、協力的な「関連認識」、批判的な「分離認識」の測定のために考案され、学習スタイルの測定に使用される。

## 第4章 ナレッジデリの設定

### 4.1 動作環境

ナレッジデリは、株式会社デジタル・ナレッジが開発した e ラーニング統合 ASP サービスである。

ASP (Application Service Provider : アプリケーションサービスプロバイダ) を使用することにより、ユーザがソフトウェアをインストールする必要なく、ブラウザ上で操作を行うことができる。

ナレッジデリを使用するにあたり、教材を作成するために必要とされている推奨環境および受講者がコンテンツを閲覧するために必要とされているパソコン環境が、それぞれ公開されている。

#### (1) 教材作成環境

管理者権限を持つユーザが、ナレッジデリ内で教材を作成するにあたり、必要である環境を以下の表に示す。

表 4-1 教材作成環境

| 分類  | 必要環境                                   |
|---|--|
| CPU   | Intel Pentium 1GHz 相当以上                |
| メモリ   | 512MB 以上                               |
| ハードディスク   | 20GB 以上                                |
| ディスプレイ  | 16bit カラー12 インチ以上・解像度 1024×768 ドット以上   |
| マウス   | 必須                                     |
| マイク   | 必須 ( DAT 等の他媒体から音声取り込みの場合はその機材 )       |
| スピーカー   | 必須 ( イヤホン、ヘッドホンでも可 )                   |
| ネットワーク  | 1Mbps 以上推奨                             |
| ブラウザ  | Microsoft Internet Explorer 5.5 SP2 以降 |
| ソフトウェア  | Microsoft Windows Media Player 7.1 以降  |
| OS  | Microsoft Windows 98 / 2000 ( ) / XP   |
| PowerPoint ファイルからコンテンツを作成する場合は、PowerPoint2000 / 2002 または 2003 が必要になる。 |  |
| Word ファイルからコンテンツを作成する場合は、Word2000 / 2002 / または 2003 が必要になる。           |  |
| 初めて教材を制作する際には、ActiveX を Web 上から自動的にインストールする為、ActiveX を登録できる環境が必要となる。  |  |

出所 : 「大塚商会」 [https://www.otsuka-shokai.co.jp/products/edu/elndeli\\_action.html](https://www.otsuka-shokai.co.jp/products/edu/elndeli_action.html)

## 第4章 ナレッジデリの設定

### (2) 受講者環境

つづいて、受講者権限を持つユーザが、ナレッジデリ内でコースを受講するにあたり、必要である環境を以下の表に示す。

表 4-2 受講者環境

| 分類                          | 必要環境                                   |
|-----------------------------|--|
| CPU                         | Intel MMX Pentium 200MHz 相当以上          |
| メモリ                         | 64MB 以上                                |
| ディスプレイ                      | 16bit カラー12 インチ以上・解像度 1024×768 ドット以上   |
| マウス                         | 必須                                     |
| スピーカー                       | 必須（イヤホン、ヘッドホンでも可）                      |
| ネットワーク                      | 56kbps 以上 音声のエンコード方式に依存                |
| ブラウザ                        | Microsoft Internet Explorer 5.5 SP2 以降 |
| ソフトウェア                      | Microsoft Windows Media Player 6.4 以降  |
| OS                          | Microsoft Windows 98 / 2000 ( ) / XP   |
| プラグインや専用アプリケーションなど特殊なソフトは不要 |  |

出所：「大塚商会」[https://www.otsuka-shokai.co.jp/products/edu/eln/deli\\_action.html](https://www.otsuka-shokai.co.jp/products/edu/eln/deli_action.html)

## 4.2 ユーザの作成

### (1) ログイン・ログアウト

ナレッジデリでは、申込み後、ID およびパスワードが発行される。

まずはログインを行い、各ユーザの作成を行う。

申込みによって、ログイン画面の URL は異なるが、本テキストでは、「Study.jp スクール会員」からのログイン方法について解説を行う。

（ 「Study.jp スクール会員」 URL : <http://study.jp/biz/> ）

ログイン・ログアウトの手順を、次ページに示す。

## 第4章 ナレッジデリの設定

1

前ページに表示されている URL を入力する。

「Study.jp スクール会員ログインページに切り替わる。

[会員用 e ラーニングログイン]右側の[ID]ボックスおよび[PASS]ボックスに、支給された ID およびパスワードを入力する。

入力後、[ログイン!]をクリックする。

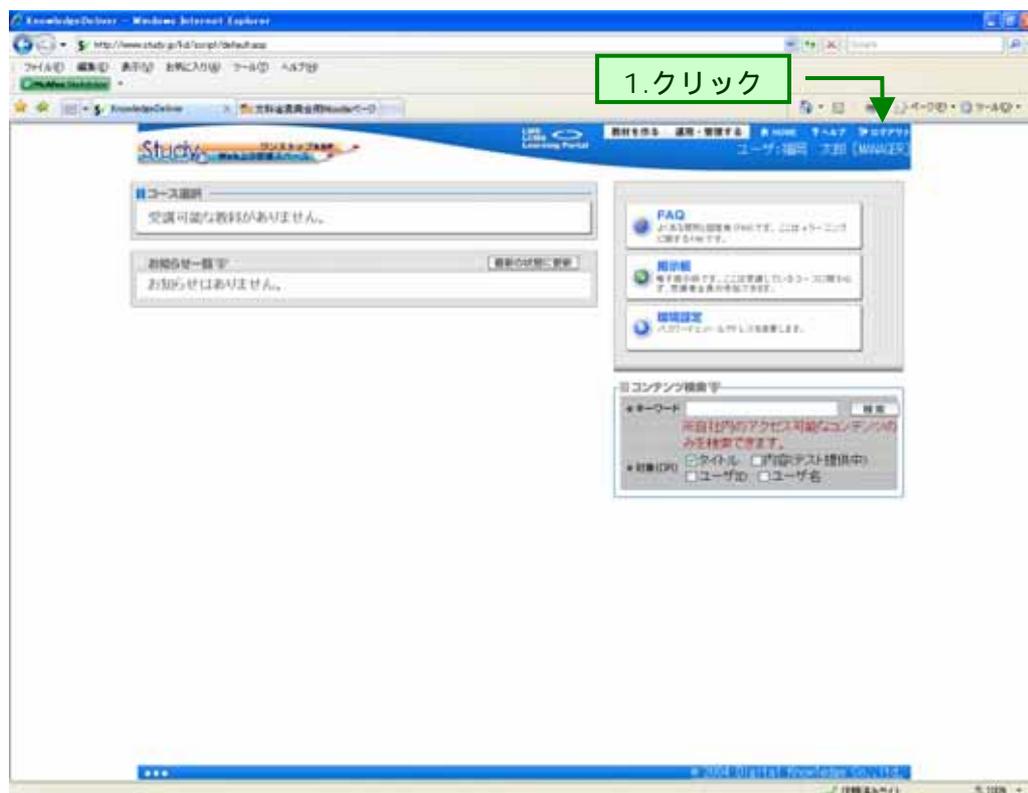


2

HOME 画面が表示されたことを確認する。

つづいてログアウトを行う。

画面右上のメニューより[ログアウト]をクリックする。



## 第4章 ナレッジデリの設定

3

ログイン前のページが再び表示されたことを確認する。



### (2) ユーザ登録

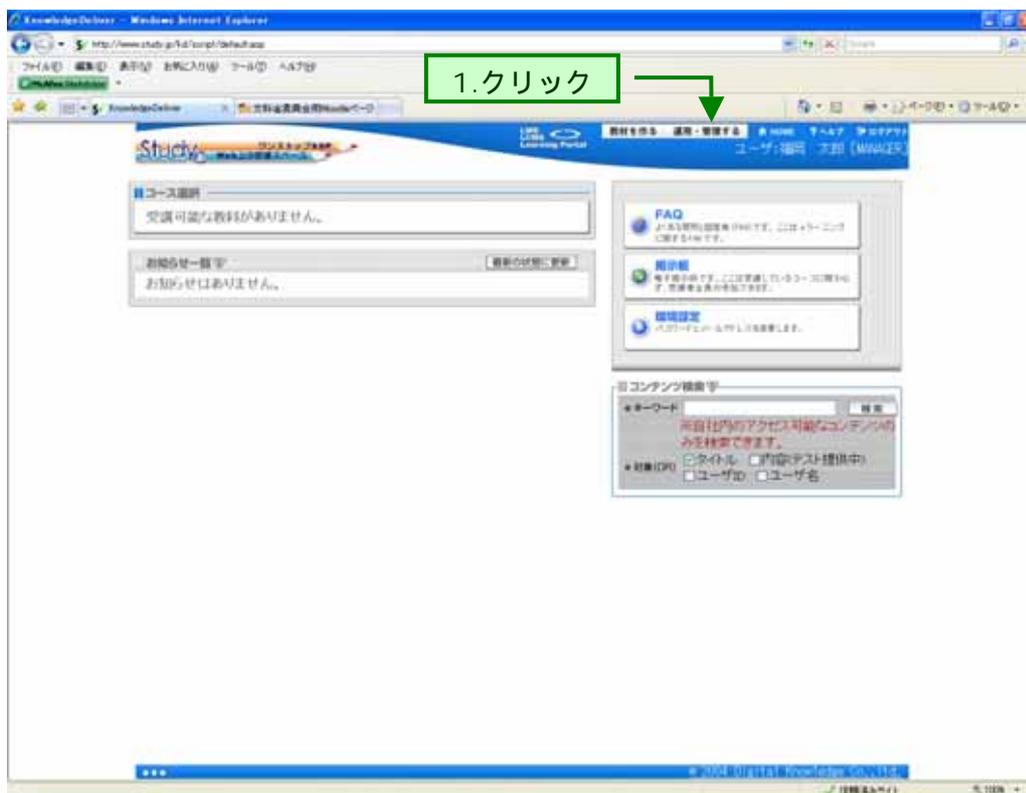
ナレッジデリでは、最初に管理者権限で ID が発行されている。

ナレッジデリのユーザ権限は、大きく分けて「MANAGER (管理者)」と「USER (その他利用者)」に大別される。

つづいて、ユーザの追加手順を以下に示す。

1

ログインを行い、HOME 画面が表示する。  
メニューの中から[運用・管理する]をクリックする。



## 第4章 ナレッジデリの設定

2

運用・管理画面が表示される。  
[登録] [ユーザ登録]をクリックする。



3

ユーザ登録画面が表示される。  
任意で部門を作成し、クラス別・学科別などでユーザを分けることもできる。  
部門を作成する場合は、[部門作成]をクリックする。



## 第4章 ナレッジデリの設定

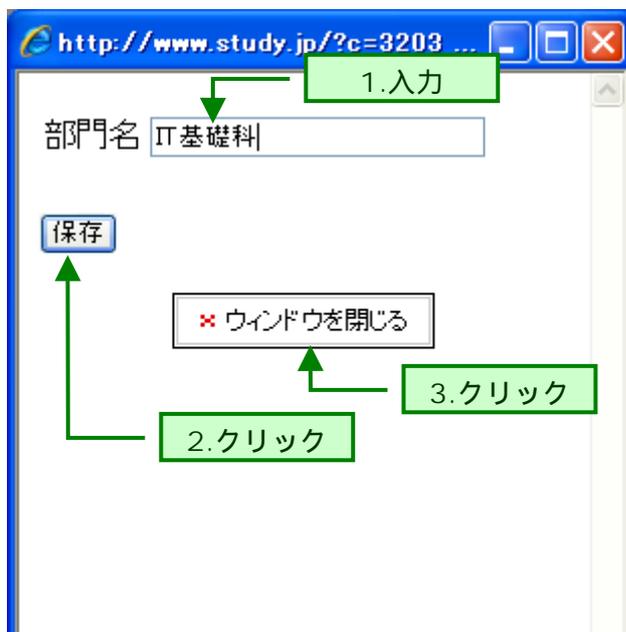
4

「新規部門」という名前で部門が作成される。  
部門は黄色く塗りつぶし表示され、同時に ID の左に赤いフラッグが表示される。  
部門名を変更する場合は、[操作]フィールド [プロパティ]をクリックする。



5

プロパティがポップアップ表示される。  
[部門名]ボックスに、任意の部門名を入力する。  
[保存]をクリックする。  
変更が反映されるが、プロパティはポップアップ表示され続ける。  
[ウィンドウを閉じる]をクリックする。



## 第4章 ナレッジデリの設定

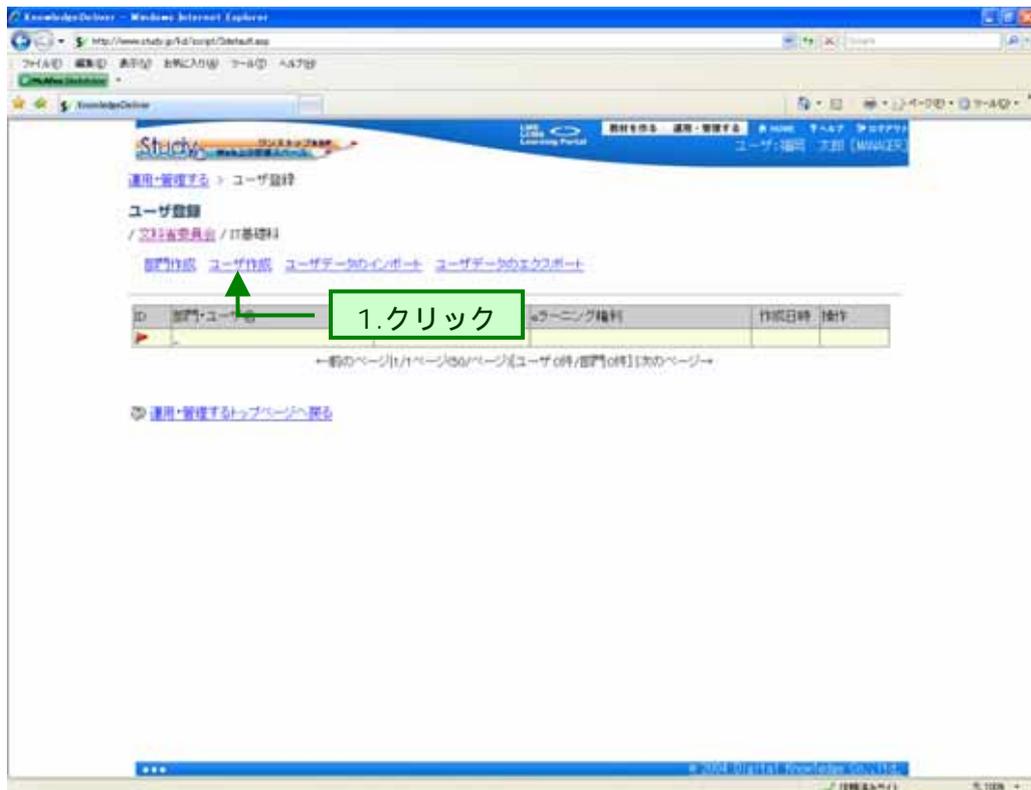
6

ユーザ登録画面に戻る。  
変更した部門名をクリックする。



7

部門内のユーザー一覧が表示される。  
ユーザを作成するには[ユーザ作成]をクリックする。



## 第4章 ナレッジデリの設定

8

ユーザ情報の追加画面が表示される。

ユーザID、氏名、eメールアドレス、パスワードは必須項目である。

また、作成するユーザに与えたいユーザ権限・eラーニング権利を選択する。

なお、属性およびランクは初期設定のままにしておく。

入力完了後、[登録]をクリックする。

Knowledge Online - Windows Internet Explorer

http://www.study.gr.jp/portal/Default.asp

Knowledge Online

ユーザ情報管理 > ユーザ定義 > ユーザ情報の追加

ユーザ情報の追加  
\*必須の項目は入力必須です。

1. クリック

2. 選択

3. 選択

4. 入力

ユーザID  
\*半角英数字、半角のハイフン「-」、アンダーバー「\_」、ドット「.」、アットマーク「@」での文字以上50文字以内  
\*ユーザIDの先頭には、決められた「企業ID」が付けられます。

所属TOP部門 000  
現在の所属部門 0200  
コンテンツBOX  
ユーザ権限 0000

eラーニング権利  
教材設計 運用管理 モニター 受講状況閲覧

氏名 氏名 姓子  
eメールアドレス  
パスワード

会社名  
部署名  
役職  
郵便番号  
都道府県  
住所1  
住所2  
属性  
ランク

備考

ユーザ作成日時  
メール送信 ユーザにユーザ登録完了メールを送信する

[登録]

ユーザ定義へ戻る

## 第4章 ナレッジデリの設定

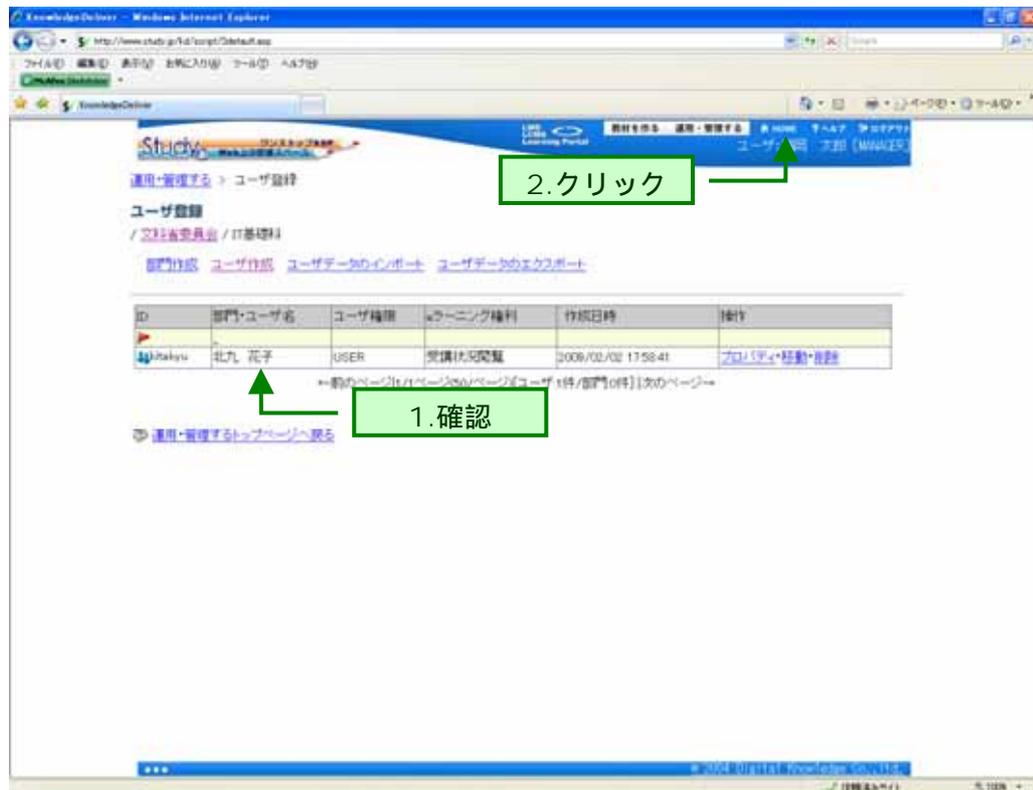
9

ユーザ作成が完了し、「ユーザを作成しました。」と表示されたことを確認する。  
ユーザ定義画面へ戻る為、[ユーザ定義]をクリックする。



10

作成したユーザが、部門内に追加されたことを確認する。  
確認後、メニューの中から[HOME]をクリックする。



## 第4章 ナレッジデリの設定

ID 左側のアイコンで、権限を識別可能である。

MANAGER 権限のユーザは赤い人型のアイコンが表示される。

また、USER 権限のユーザは青い人型のアイコンが表示される。

|   | ID  | 部門・ユーザ名               | ユーザ権限   |
|---|---|-----------------------|---------|
|   | 3203  | <a href="#">IT基礎科</a> |         |
| 赤 |  hukuoka | 福岡 太郎                 | MANAGER |

|   | ID  | 部門・ユーザ名 | ユーザ権限 |
|---|---|---------|-------|
|   |          |         |       |
| 青 |  kitakyu | 北九 花子   | USER  |

### 4.3 コンテンツの作成

#### (1) コンテンツの作成

ナレッジデリでは、作成した教材は自動的に「コンテンツ BOX」に保存される。

また、コンテンツを作成する場合も、コンテンツ BOX から作成を始める。

コンテンツ BOX では、あらかじめ準備した PowerPoint や Word、HTML ファイル、Web ページ、または動画などさまざまなファイルを教材として使用できる。

また、その場でテキストを入力し、コンテンツを作成することもできる。

さらに、PowerPoint および Word を使用した教材をアップロードする場合は、音声やテロップなどの指示動作を付加し、動的な教材を作成することができる。

教材作成後、コースにコンテンツを追加し、コース教材としてユーザに見せることができる。

本テキストでは、コンテンツ BOX から PowerPoint ファイルを用いてコンテンツを作成する方法を以下に示す。

## 第4章 ナレッジデリの設定

1

ログインを行い、HOME 画面が表示する。  
メニューの中から[教材を作る]をクリックする。



2

教材作成画面が表示される。  
[コンテンツ BOX]をクリックする。



## 第4章 ナレッジデリの設定

3

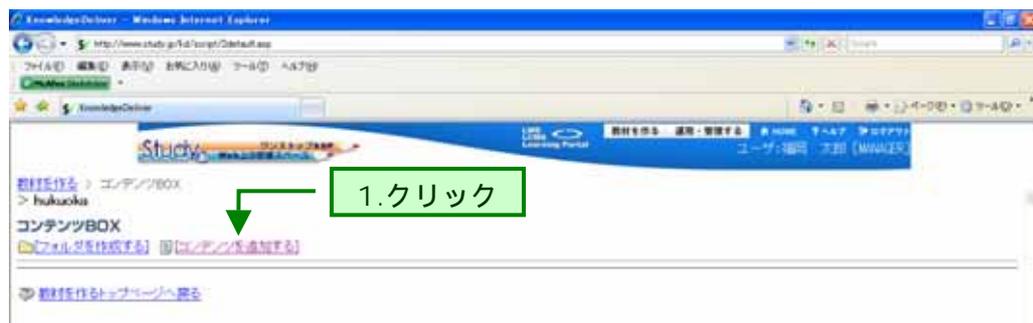
教材作成画面が表示される。  
[コンテンツBOX]をクリックする。



4

コンテンツBOXが表示される。  
[コンテンツを追加する]をクリックする。

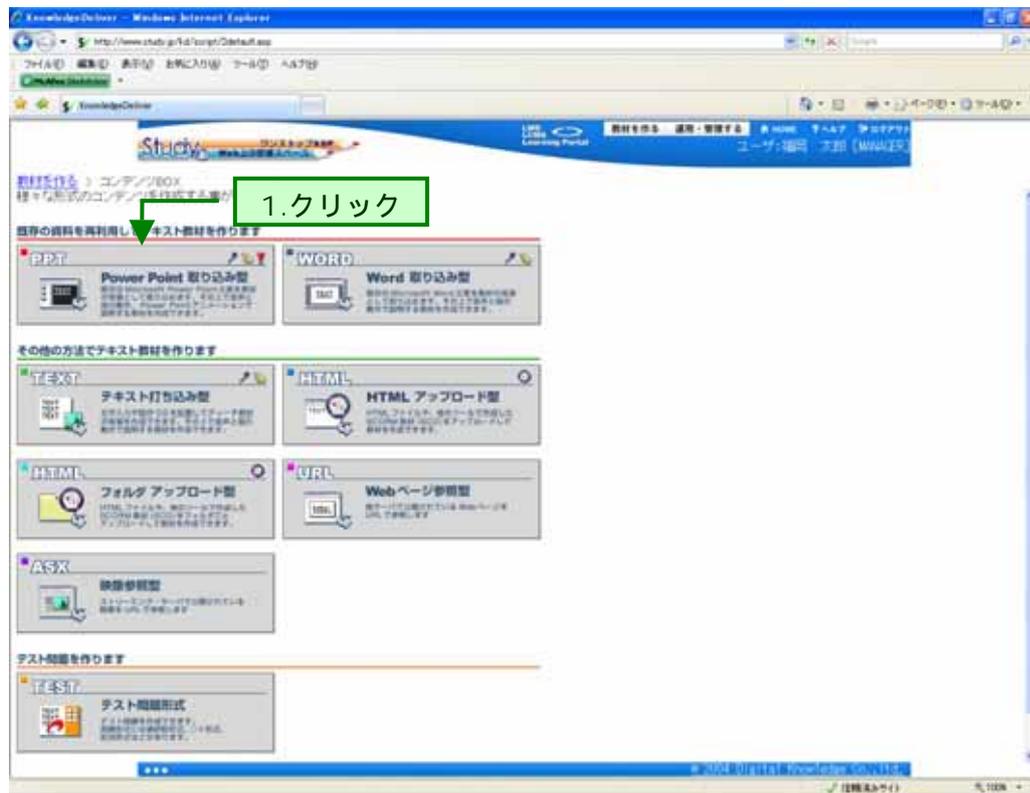
コンテンツを大量に作成する場合などは、フォルダを作成し、コンテンツを整理することも可能である。



## 第4章 ナレッジデリの設定

5

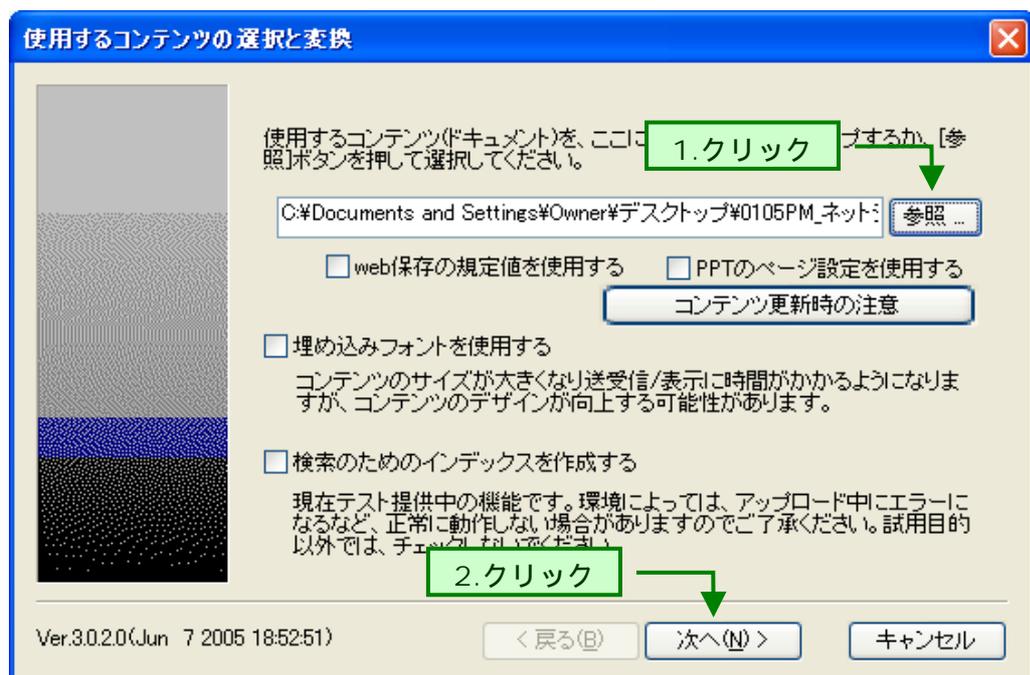
教材の形式選択画面が表示される。  
[PowerPoint 取り込み型]をクリックする。



6

「使用するコンテンツの選択と変換」ダイアログボックスが表示される。  
[参照]をクリックし、教材に使用する PowerPoint ファイルを選択する。

「web 保存の規定値を使用する」および「PPT のページ設定を使用する」は、2004 年 4 月 6 日以前に作成したコンテンツの更新を行う場合のものである為、チェックを入れる必要はない。



## 第4章 ナレッジデリの設定

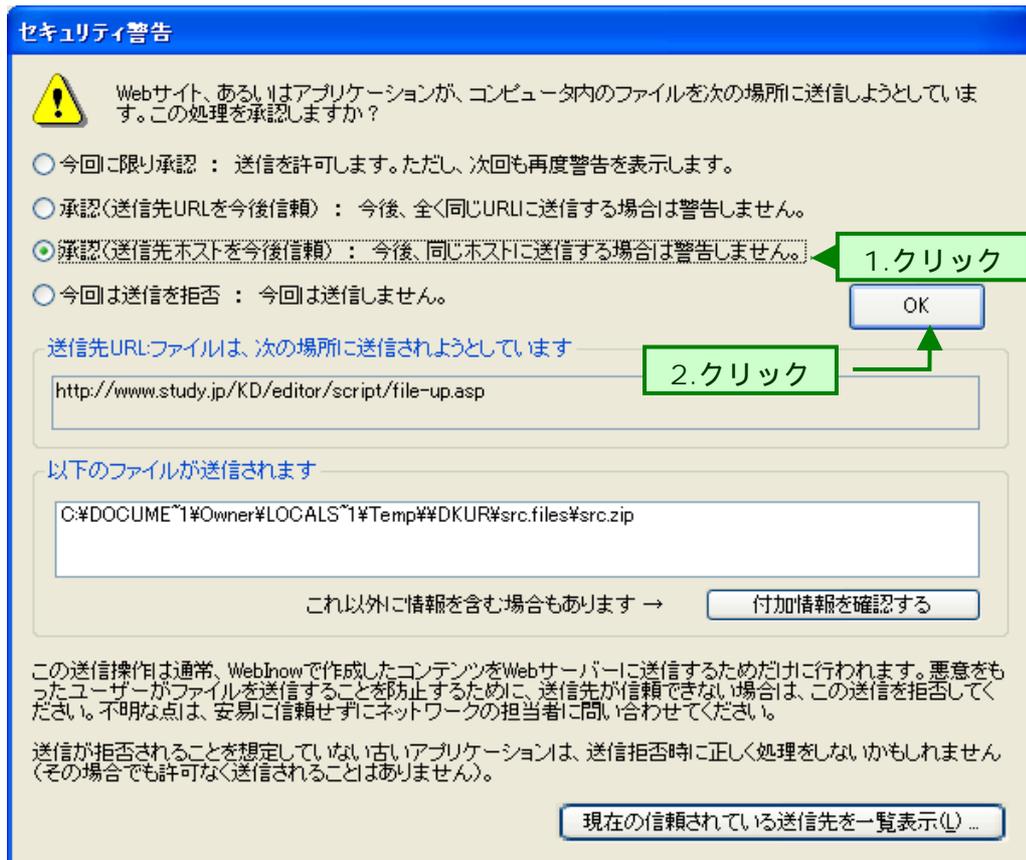
7

アップロードの途中で、「セキュリティ警告」が表示される。

上から3番目の[承認(送信先ホストを今後信頼)]にチェックを入れる。

上から3番目を選択することにより、以降のアップロード時には警告を表示せずにアップロードすることができる。

選択後、[OK]をクリックする。



8

アップロード完了後、アップロードしたスライドおよび指示動作の選択画面が表示される。

[新規作成]タブをクリックする。

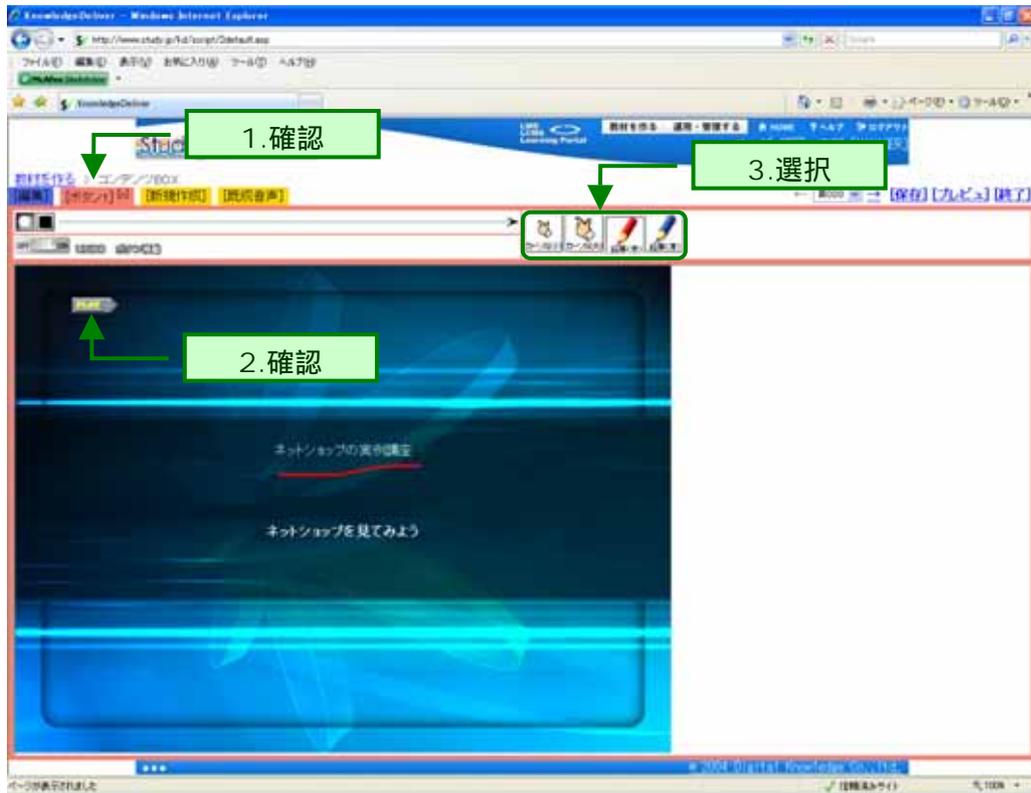
また、画面右上のページ選択ボックスをクリックし、指示動作を付加するスライドを選択できる。



## 第4章 ナレッジデリの設定

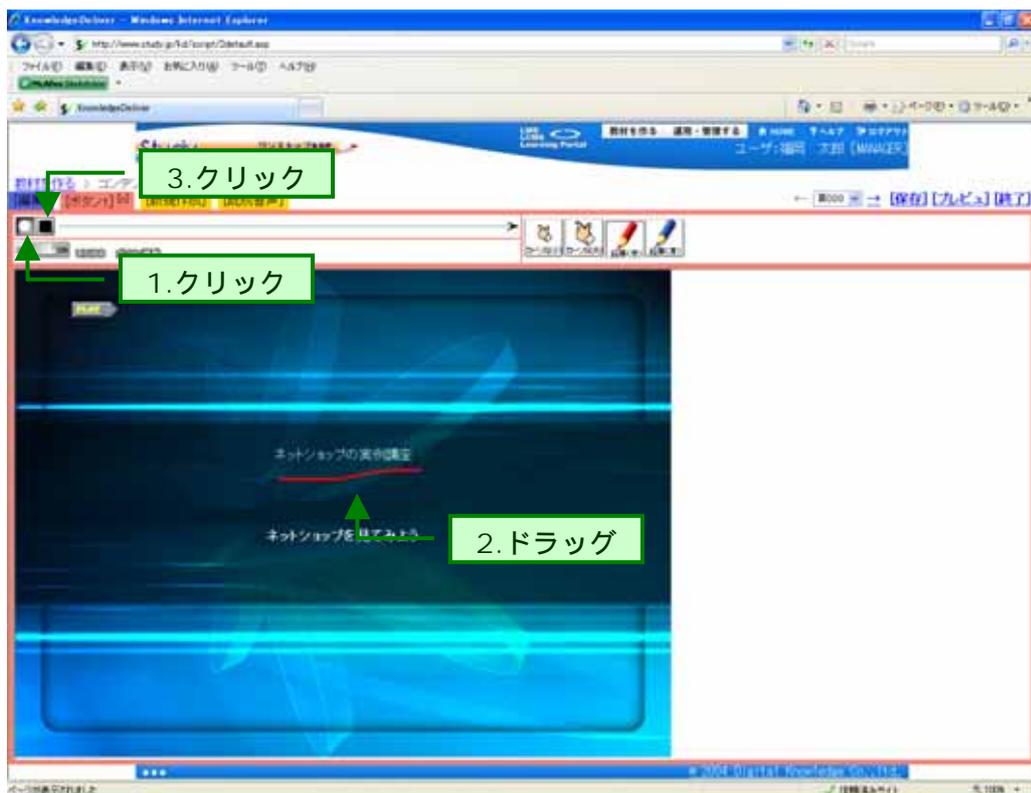
9

[ボタン1]タブが付加され、スライド上に「PLAY」ボタンが表示される。指示動作を付きたいカーソルまたは鉛筆を選択する。



10

[録画]をクリックする。マウスをドラッグしたタイミングで、指示動作を付加することができる。また、マイクを使用して、同時にナレーションを付加できる。終了したいタイミングで[停止]をクリックする。

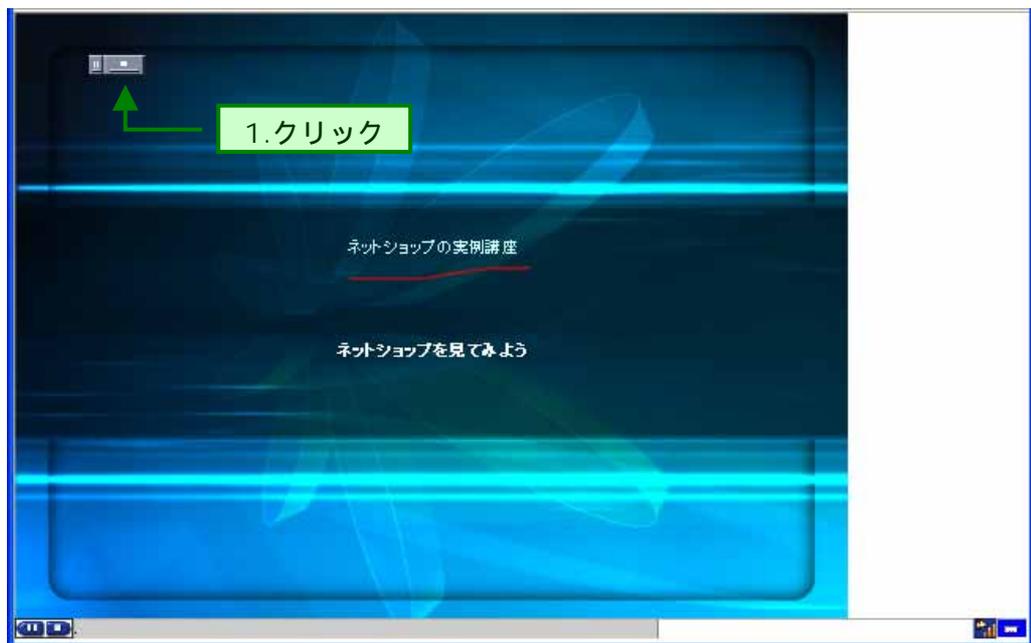


## 第4章 ナレッジデリの設定

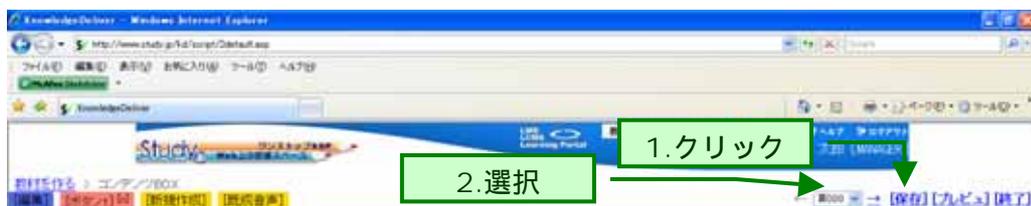
- 11** プレビューを確認する場合は、画面右上の[プレビュー]をクリックする。別ウィンドウでプレビュー画面が表示される。



- 12** 「PLAY」ボタンをクリックすると、録画した指示動作が開始される。確認後、[×]ボタンをクリックし、ウィンドウを閉じる。

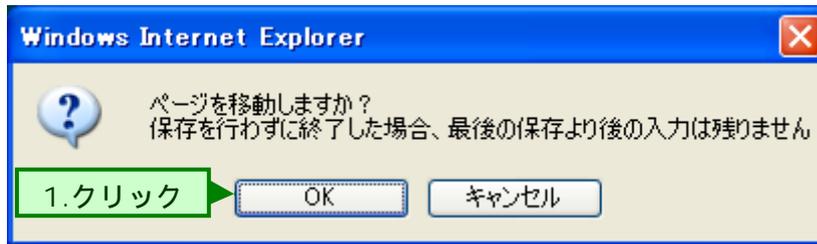


- 13** つづいて、他のページのスライドに指示動作をつける。他のページのスライドに切り替える場合や指示動作の編集を終了する場合は、必ず先に保存を行う。画面右上の[保存]をクリックする。保存後、ページ選択ボックスより、目的のスライドを選択する。



## 第4章 ナレッジデリの設定

- 14** 保存を行った場合も、ページを移動するかどうか、確認ダイアログが表示される。保存を行った場合は、[OK]をクリックする。



- 15** [新規作成]タブをクリックする。

[ボタン 1]タブが追加され、同時に[PLAY]ボタンがスライド上に追加される。

[詳細 / シンプルメニューの変更]スイッチをクリックする。

[詳細 / シンプルメニューの変更]スイッチを切り替えると、[PLAY]ボタンの移動や、指示動作の移動・削除、指示動作の色や大きさを選択できる。また、より多くの指示動作を選択できる。

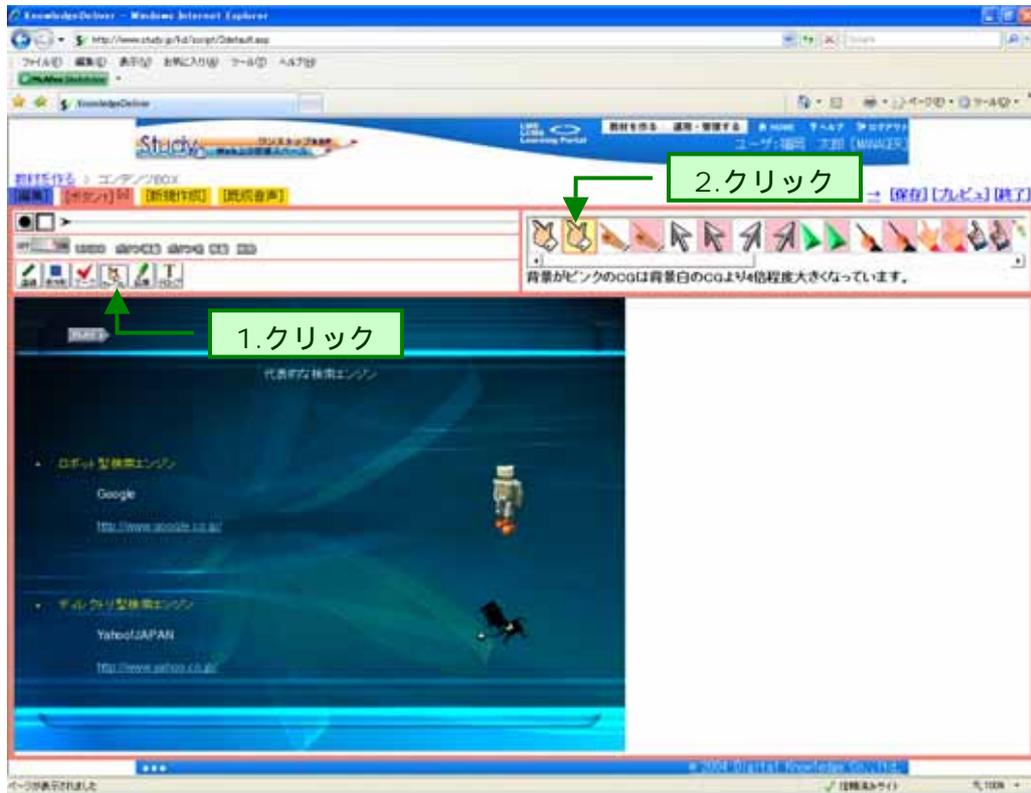
本テキストでは、大きな指のカーソルを使用して指示動作をつける。



## 第4章 ナレッジデリの設定

16

指示動作の一覧より[カーソル]をクリックする。  
右側のカーソル一覧より左から2番目の大きな指のカーソルを選択する。



17

[録画]ボタンをクリックする。  
指示動作をつけたタイミングで、ドラッグで指示動作を付加する。  
マイクがある場合は、同時にナレーションを付加することもできる。  
指示動作付加後、[停止]ボタンをクリックする。

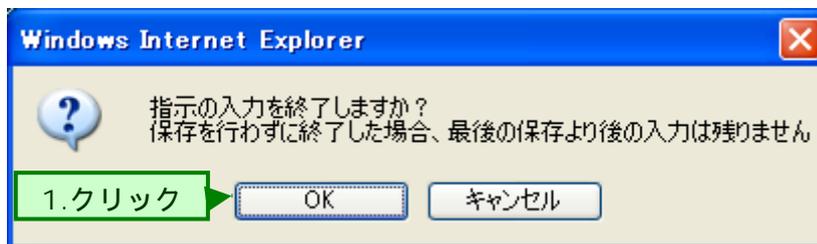


## 第4章 ナレッジデリの設定

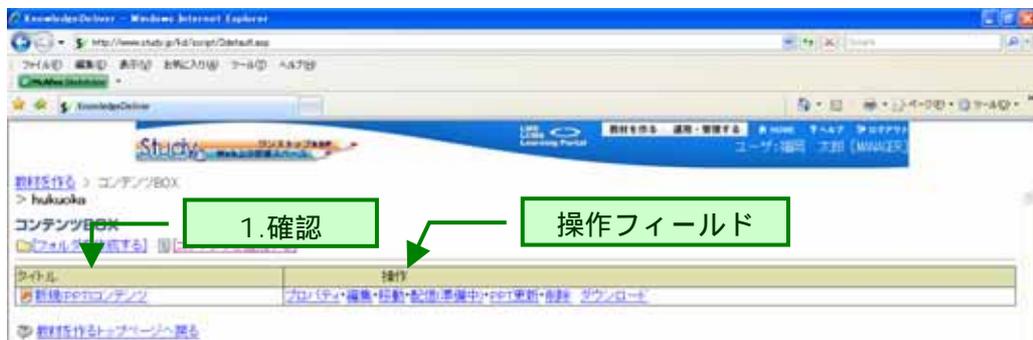
- 18** [保存]をクリックする。  
 プレビューを確認する場合は、[プレビュー]をクリックする。  
 すべての指示動作付加後、[終了]ボタンをクリックする。



- 19** 終了するかどうかの確認ダイアログが表示される。  
 先に保存を行った場合は、[OK]をクリックし、編集を終了する。



- 20** コンテンツ BOX 画面に戻る。  
 作成した PowerPoint ファイルのコンテンツが追加されていることを確認する。



また、一度作成したコンテンツは、操作フィールドの各メニューを用いて編集を行うことが可能である。

各メニューの働きを、以下の表に示す。

表 4-2 受講者環境

| 操作メニュー | 働き                             |
|--------|--------------------------------|
| プロパティ  | タイトル名を変更する                     |
| 編集     | コンテンツの指示動作を再編集する               |
| 移動     | コンテンツが配置されているフォルダから他のフォルダへ移動する |
| PPT 更新 | ほかの PowerPoint のファイルに変更する      |
| 削除     | 作成したコンテンツを削除する                 |
| ダウンロード | コンテンツをダウンロードする                 |

## 第4章 ナレッジデリの設定

### (2) テスト教材の作成

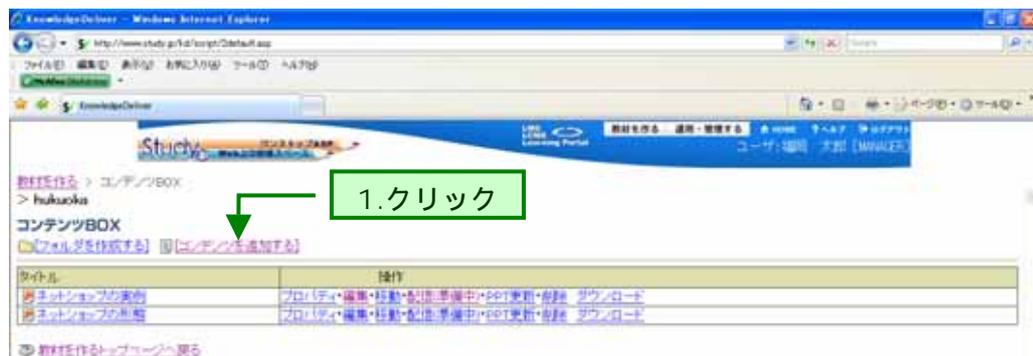
「コンテンツ BOX」では、学習を行うためのコンテンツの作成の他、テスト教材を作成することもできる。

あらかじめ PowerPoint で作成した問題のスライドを使用して、テスト問題を作成することができる。

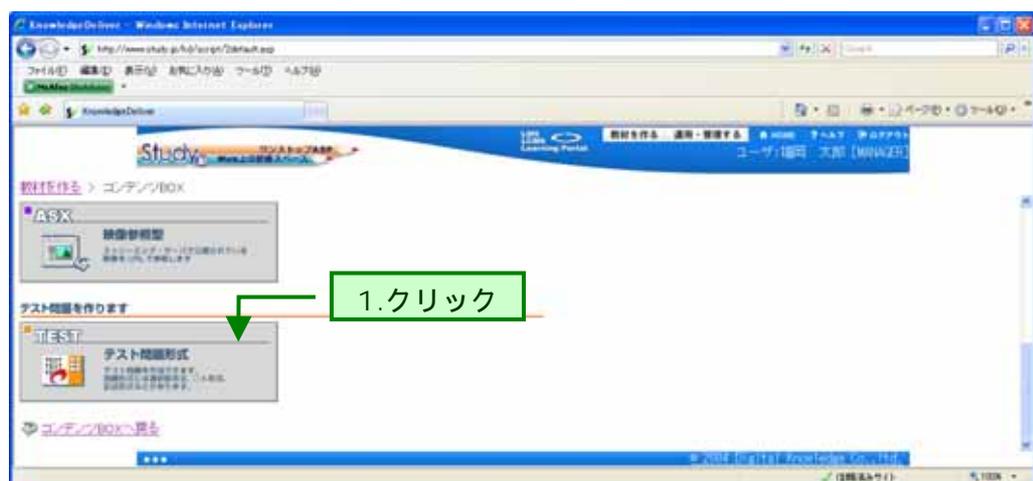
また、ブラウザ上で直接テキスト入力を行い、問題を作成することも可能である。

本テキストでは、コンテンツ BOX から PowerPoint ファイルを用いてテスト教材を作成する方法を以下に示す。

**1** コンテンツ BOX 画面より、[コンテンツを追加する]をクリックする。



**2** 教材の形式選択画面が表示される。  
[テスト問題形式]をクリックする。



## 第4章 ナレッジデリの設定

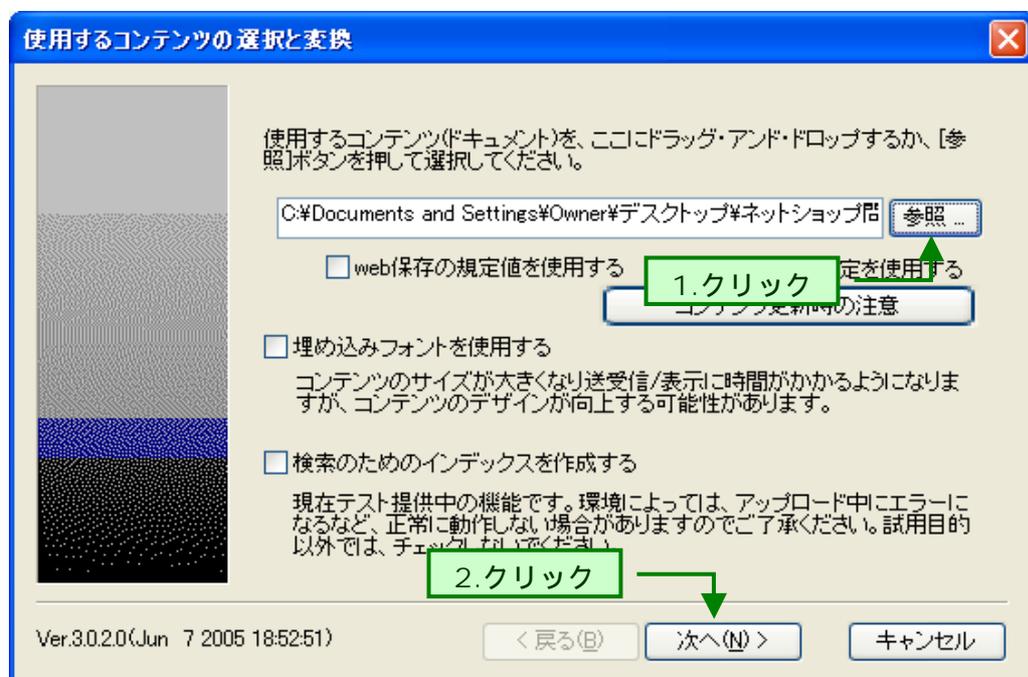
3

テスト教材に PowerPoint を使用するかどうかの確認ダイアログが表示される。  
[OK]をクリックする。



4

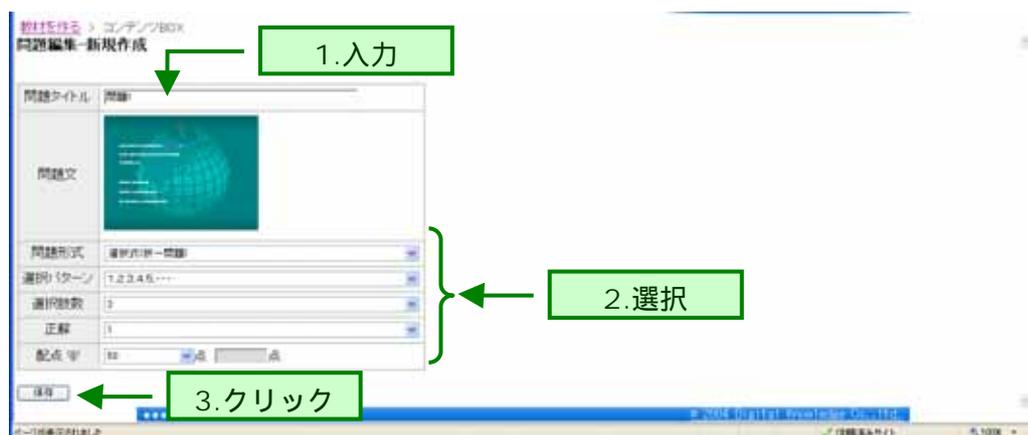
「使用するコンテンツの選択と変換」ダイアログボックスが表示される。  
[参照]をクリックし、使用する PowerPoint ファイルを選択する。  
ファイル選択後、[次へ]をクリックする。



5

問題編集画面が表示される。問題タイトルを入力し、問題形式、正解、配点等を選択する。

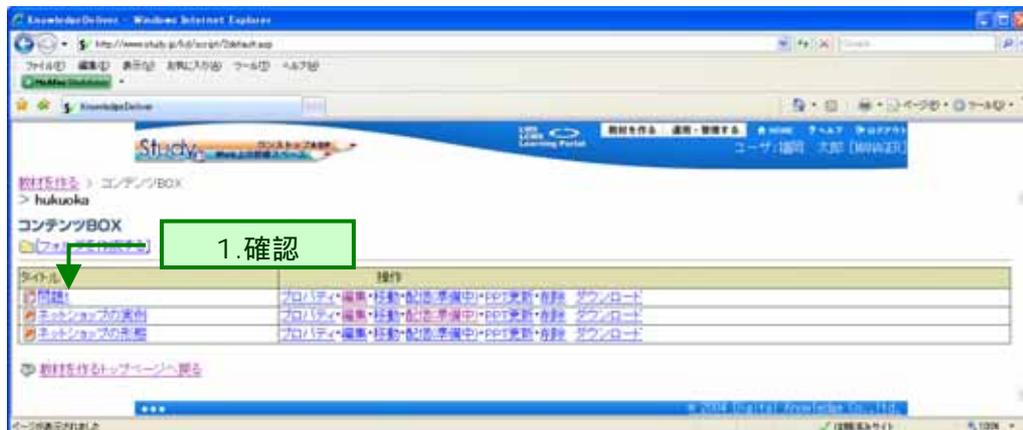
選択後、[保存]をクリックする。



## 第4章 ナレッジデリの設定

6

コンテンツBOXに、作成した問題が追加されたことを確認する。



### 4.4 コース教材の作成

#### (1) コンテンツおよびテスト教材の登録

ナレッジデリでは、「コース」の中にコンテンツおよび教材を登録することで、受講者が学習できるコースが作成される。

コース作成後、コースをシステムに反映することにより、受講者が実際に学習することができる。

まずは、コンテンツおよび教材の登録方法を以下に示す。

1

HOME画面上部メニューの中から[教材を作る]をクリックする。

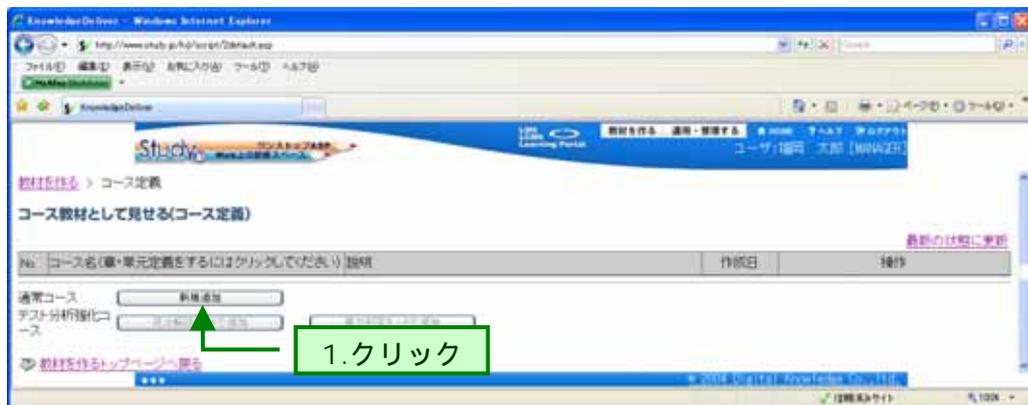
教材作成画面の中から[コース教材として見せる]をクリックする。



## 第4章 ナレッジデリの設定

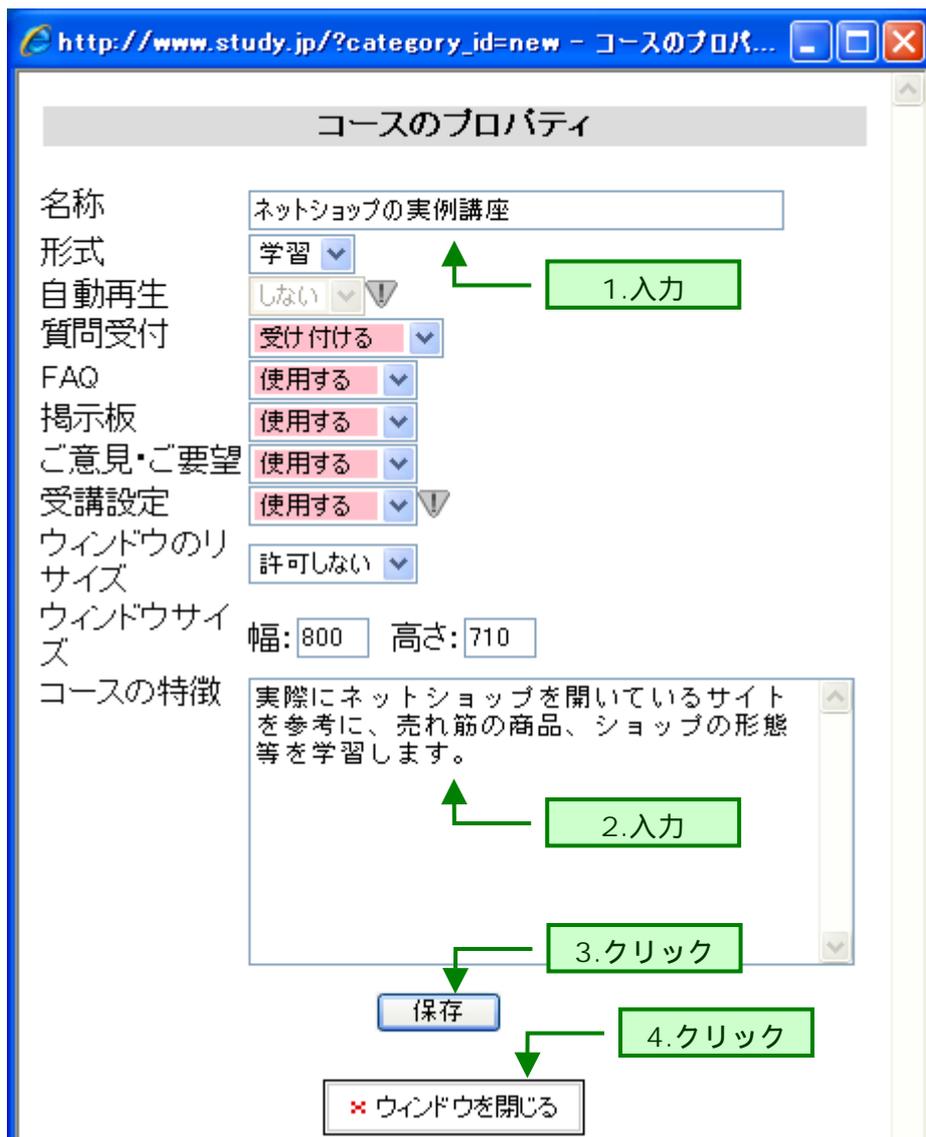
2

コース定義画面が表示される。  
コースを作成する為、[新規追加]をクリックする。



3

コースのプロパティがポップアップ表示される。  
[名称]および[コースの特徴]を入力する。  
入力後、[保存]をクリックする。保存後、[ウィンドウを閉じる]をクリックする。



## 第4章 ナレッジデリの設定

4

作成したコースが一覧に追加されたことを確認する。  
つづいて、コースにコンテンツを追加する為、コース名をクリックする。



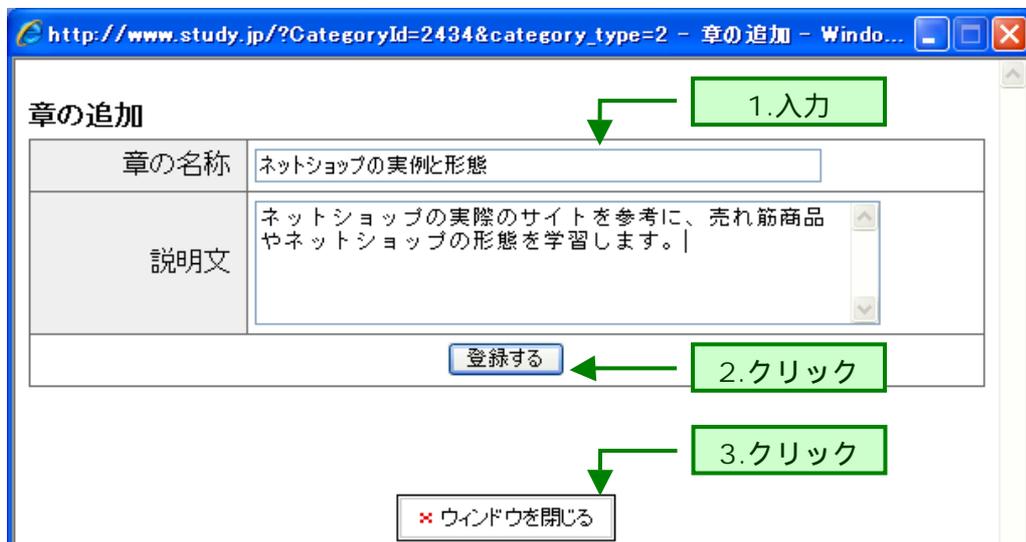
5

章・単元定義画面が表示される。章の中に単元を定義する。  
まずは章を定義する。[章を追加]をクリックする。



6

「章の追加」ダイアログボックスが表示される。  
[章の名称]、[説明文]を入力後、[登録する]をクリックし、ウィンドウを閉じる。



## 第4章 ナレッジデリの設定

7

作成した章が追加されたことを確認する。  
つづいて、作成した章の中に単元を追加する。[単元を追加]をクリックする。



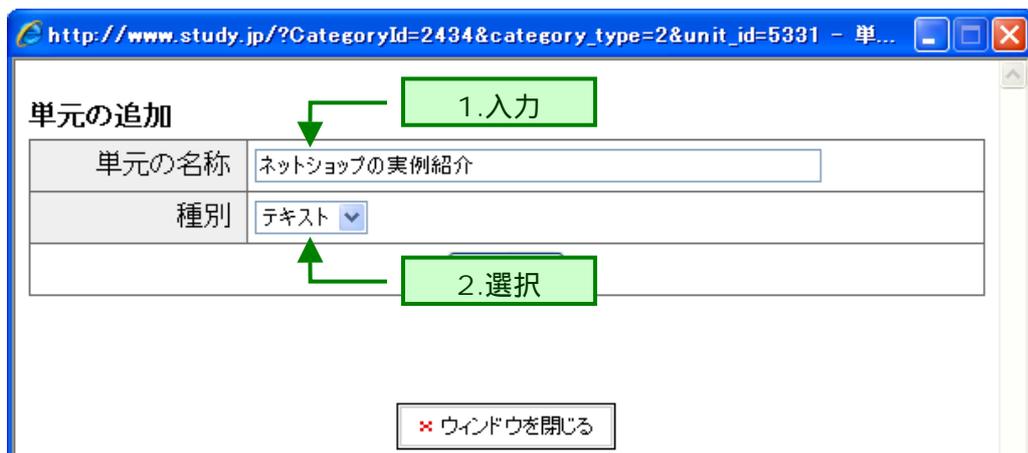
8

作成した章が追加されたことを確認する。  
つづいて、作成した章の中に単元を追加する。[単元を追加]をクリックする。



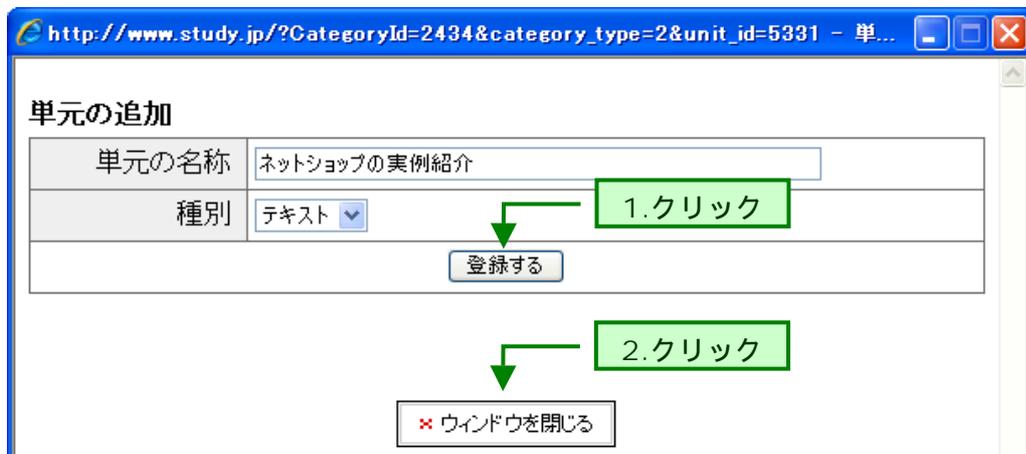
9

「単元の追加」ダイアログボックスが表示される。  
[単元の名称]を入力する。  
[種別]から[テキスト]と[テスト]のどちらを追加するかを選択する。

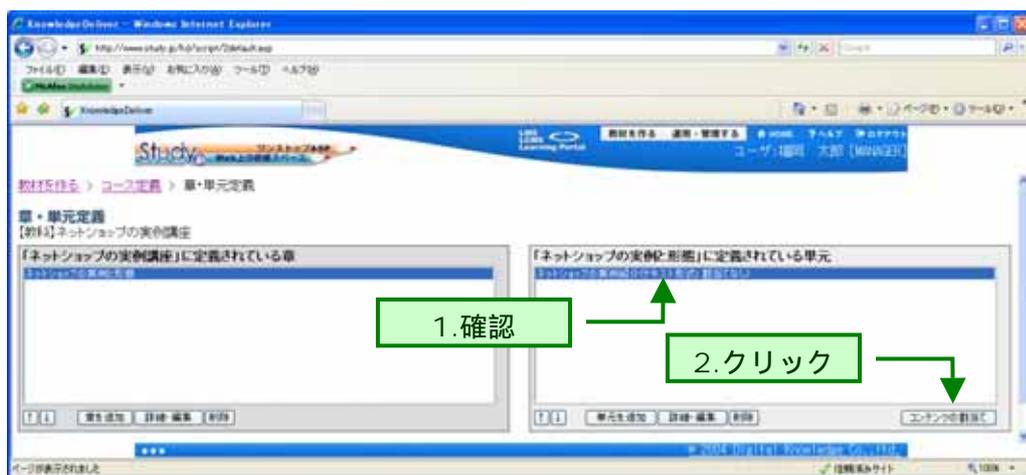


## 第4章 ナレッジデリの設定

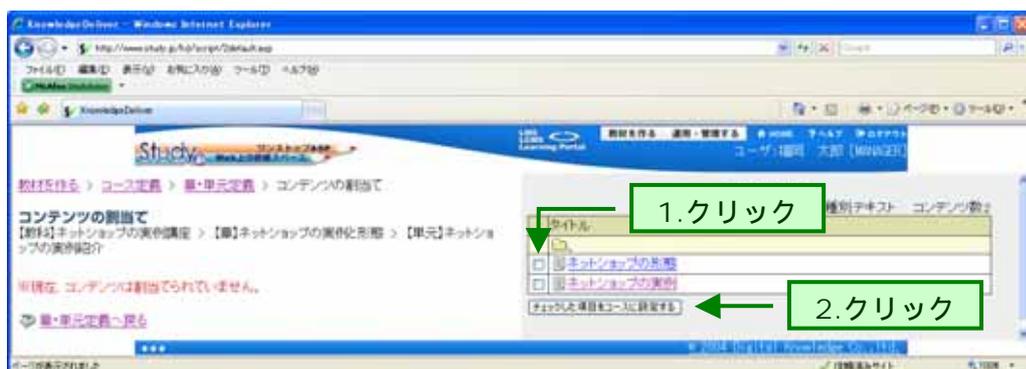
- 10** それぞれの項目を設定後、[登録する]をクリックする。  
登録完了後、[ウィンドウを閉じる]をクリックする。



- 11** 章の中に作成した単元が追加されたことを確認する。  
コンテンツを割り当てる前は「割り当てなし」と表示されている。  
コンテンツを割り当てる為に、[コンテンツの割り当て]をクリックする。

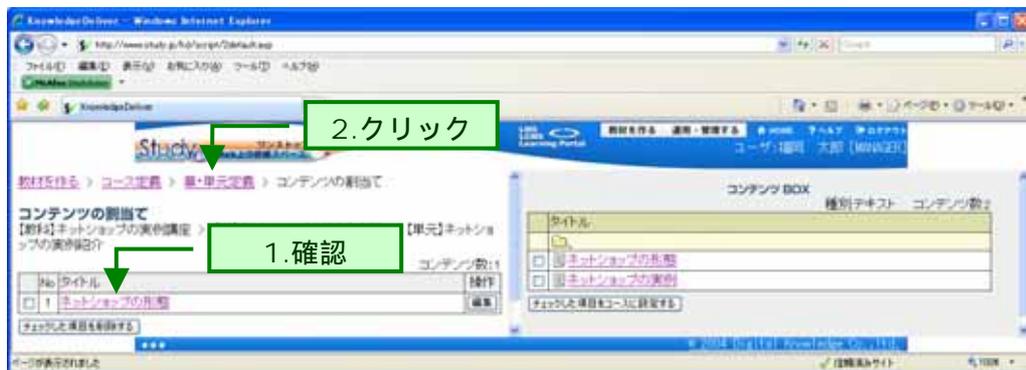


- 12** コンテンツの割当て画面が表示される。  
作成した単元に割り当てるコンテンツにチェックを入れる。  
[チェックした項目をコースに設定する]をクリックする。

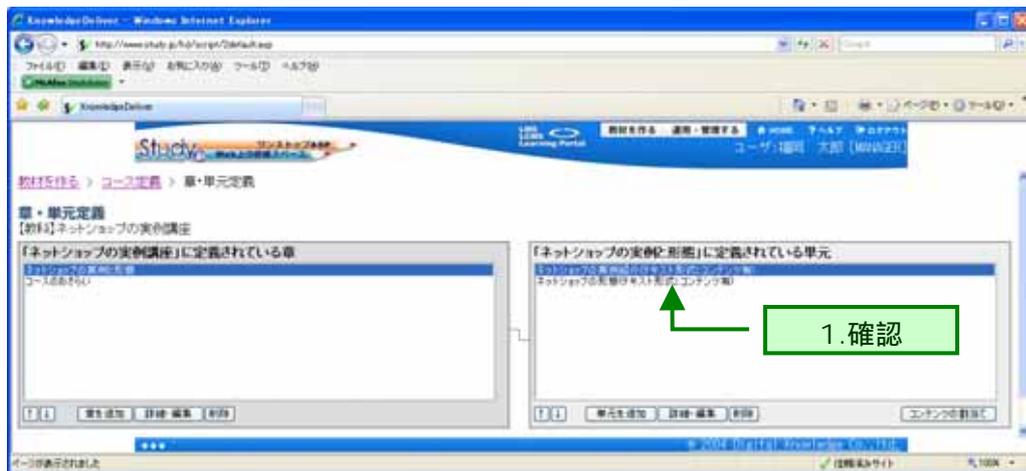


## 第4章 ナレッジデリの設定

- 13** 画面左側に、割当てたコンテンツが表示されたことを確認する。  
章・単元定義に戻る為、[章・単元定義]をクリックする。



- 14** 作成した単元にコンテンツが追加され、「コンテンツ有」と表示されたことを確認する。同様に章や単元をさらに追加していく。



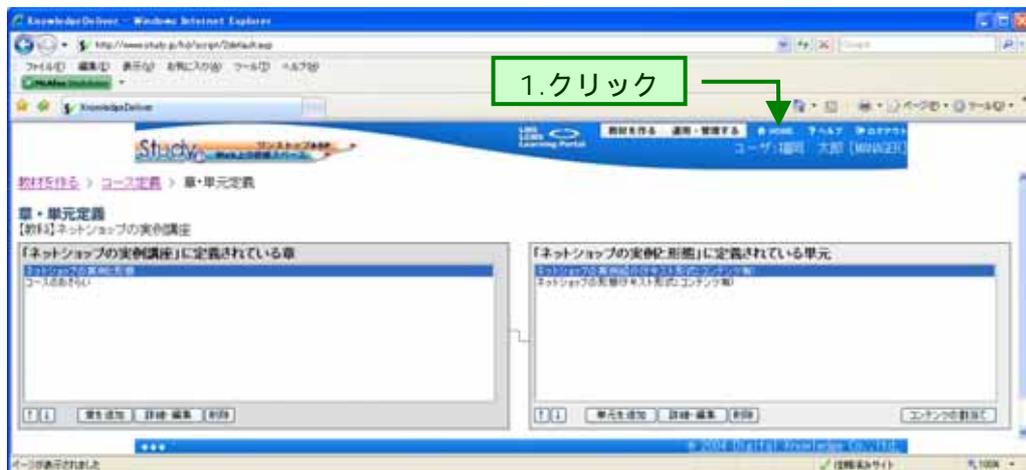
### (2) コースのシステムへの反映および受講者登録

コースを作成した時点では、まだユーザはコースを学習することができない。  
コースをシステムへ反映し、受講者登録を行うことで、初めてHOME画面にコースが表示される。

コースのシステムへの反映および受講者の登録方法を、次ページに示す。

## 第4章 ナレッジデリの設定

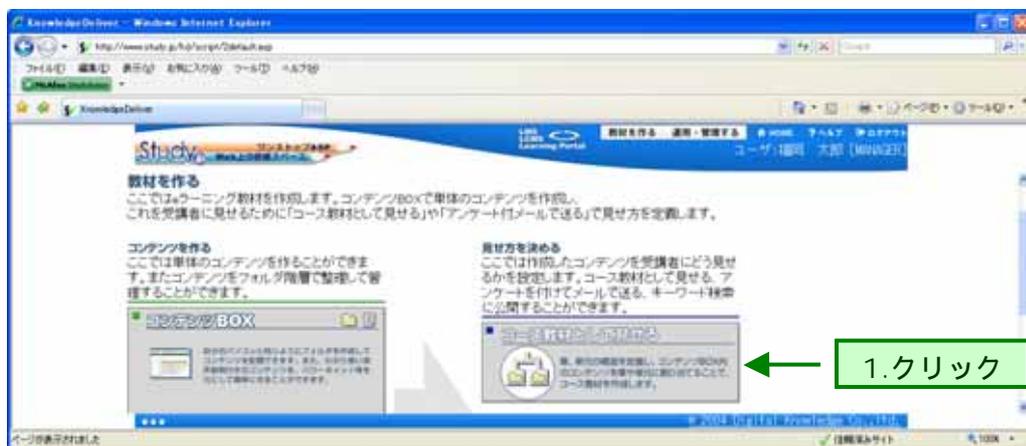
- 1 まずは、現在の HOME 画面の状態を確認する。  
メニューの中から[HOME]をクリックする。



- 2 HOME 画面のコース選択一覧に、コースがまだ反映されていないことを確認する。  
つづいて、コースを反映する。[教材を作る]をクリックする。



- 3 教材作成画面が表示される。  
[コース教材として見せる]をクリックする。



## 第4章 ナレッジデリの設定

4

コース定義画面が表示される。

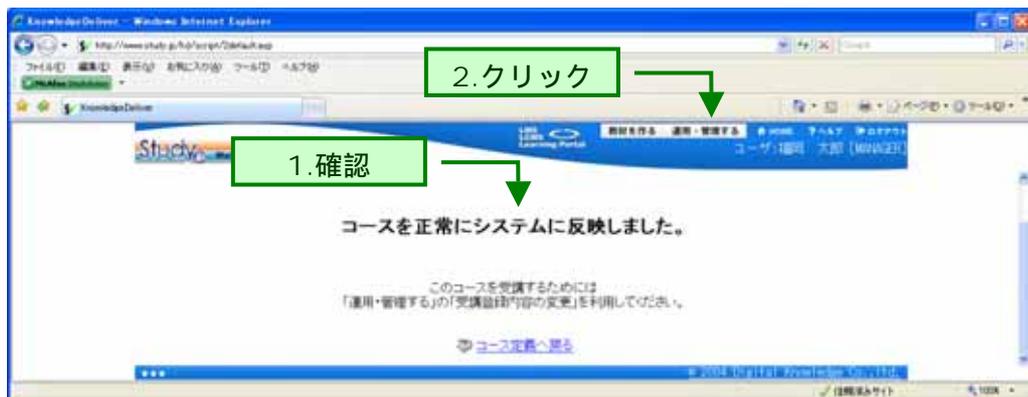
[操作]フィールドの中から[コースをシステムに反映する]をクリックする。



5

コースがシステムに反映されたことを確認する。

つづいて、受講者の登録を行う為、[運用・管理する]をクリックする。



6

運用・管理画面が表示される。

[受講登録内容の変更]をクリックする。



## 第4章 ナレッジデリの設定

7

受講登録内容の変更画面が表示される。

まず、コース作成者自身も登録を行うまでは、コースが表示されない為、作成者本人の登録変更を行う。

本人のユーザ名右側の[登録変更]をクリックする。



8

登録変更画面が表示される。

受講するコースの[受講]フィールドチェックボックスにチェックを入れる。

[開始予定日]および[終了予定日]に日付を入力する。

「YYYYMMDD (西暦4桁、月2桁、日2桁)」の形式で入力する。

入力後、他のボックスに移動すると、「YYYY/MM/DD」の形式に自動変換される。

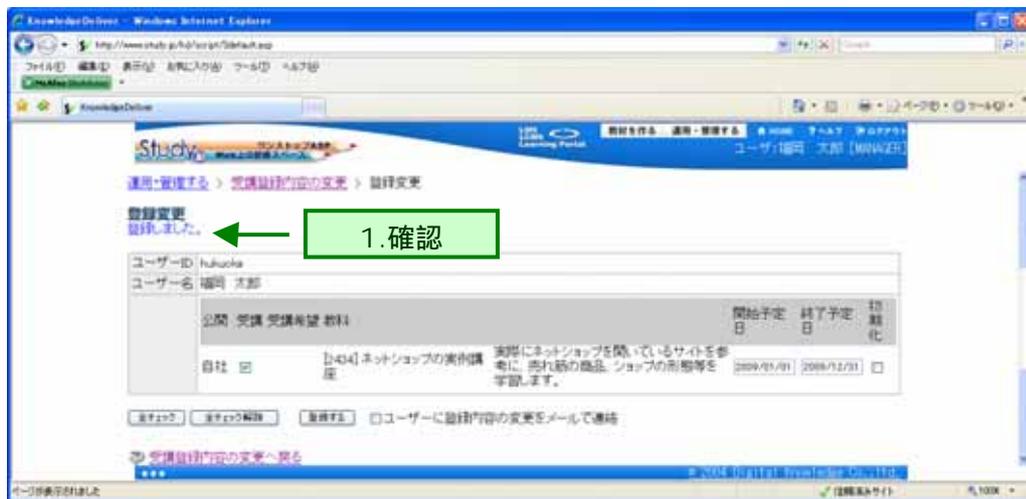
入力完了後、[登録する]をクリックする。



## 第4章 ナレッジデリの設定

9

選択したコースが登録されたことを確認する。  
同様に、他のユーザも受講登録を行う。



10

本人の受講登録完了後、HOME画面に戻る。  
コース選択に受講登録を行ったコースが表示されていることを確認する。





## 第 5 章 付録：Vine Linux のインストール

### 5.1 サーバの設定

本テキストでは、Moodle をインストールするサーバとして、Vine Linux を用いている。  
Vine Linux をインストールする必要がある場合は、本章を参考としていただければ幸いです。  
ある。

#### (1) インストール用 CD の作成

##### Vine Linux の入手方法

Vine Linux はさまざまな方法で入手が可能である。  
無料で配布されているもの、および商用アプリケーションやサポート等が付属している  
製品版がある。

Vine Linux の公式サイトにて紹介されている入手方法を以下に示す。

表 5-1 Vine Linux の入手方法

| 方 法         | 詳 細   |
|-------------|---|
| 製品版を購入      | 「Vine Linux 4.2 Commercial Release」(以下、Vine Linux 4.2CR)は、かな漢字変換システムに Wnn8 for Vine Linux を標準システム(Intel 版のみ)として採用し、商用フォントには業界標準のリコートウルタイプフォント 8 書体及びダイナフォント 5 書体を採用した商用パッケージである。また、本製品は、Intel PC, PowerPC の両アーキテクチャに対応している。 |
| カスタム製品を購入   | Vine Linux ベースのカスタムシステムは、ヴァインカーブ社で提供している。教育機関(大学)向けは、Vine Linux をベースにカスタマイズされた Vine Linux Educational Edition を用意している。  |
| ダウンロード      | Vine Linux は、次表の Web サイトや FTP ミラーサイトから無償でダウンロードすることができる。(2009 年 2 月 4 日現在)  |
| 書籍や雑誌付録から入手 | 各種書籍・雑誌の付録として CD あるいは DVD が付属している。  |

出所：「Vine Linux 公式サイト」<http://www.vinelinux.org/>

また、Vine Linux 公式サイトにて紹介されている Vine Linux のダウンロード先を、次ページに示す。

## 第5章 付録：Vine Linux のインストール

表 5-2 Vine Linux のダウンロード先一覧 (2009年2月4日現在)

| ダウンロード先             | 詳細   |
|---------------------|--|
| Ring Server Project | <a href="http://www.ring.gr.jp/pub/linux/Vine/">http://www.ring.gr.jp/pub/linux/Vine/</a><br><a href="ftp://ftp.ring.gr.jp/pub/linux/Vine/">ftp://ftp.ring.gr.jp/pub/linux/Vine/</a><br><a href="ftp://core.ring.gr.jp/pub/linux/Vine/">ftp://core.ring.gr.jp/pub/linux/Vine/</a><br><a href="ftp://ring.asahi-net.or.jp/pub/linux/Vine/">ftp://ring.asahi-net.or.jp/pub/linux/Vine/</a> |
| KDDI 研究所            | <a href="http://ftp.kddilabs.jp/Linux/packages/Vine/">http://ftp.kddilabs.jp/Linux/packages/Vine/</a><br><a href="ftp://ftp.kddilabs.jp/Linux/packages/Vine/">ftp://ftp.kddilabs.jp/Linux/packages/Vine/</a>   |
| 北陸先端科学技術大学院大学       | <a href="http://ftp.jaist.ac.jp/pub/Linux/Vine/">http://ftp.jaist.ac.jp/pub/Linux/Vine/</a><br><a href="ftp://ftp.jaist.ac.jp/pub/Linux/Vine/">ftp://ftp.jaist.ac.jp/pub/Linux/Vine/</a><br><a href="rsync://ftp.jaist.ac.jp/pub/Linux/Vine">rsync://ftp.jaist.ac.jp/pub/Linux/Vine</a>  |
| 奈良先端科学技術大学院大学       | <a href="http://ftp.nara.wide.ad.jp/pub/Linux/Vine/">http://ftp.nara.wide.ad.jp/pub/Linux/Vine/</a><br><a href="ftp://ftp.nara.wide.ad.jp/pub/Linux/Vine/">ftp://ftp.nara.wide.ad.jp/pub/Linux/Vine/</a><br><a href="rsync://ftp.nara.wide.ad.jp/Vine">rsync://ftp.nara.wide.ad.jp/Vine</a>  |
| 大阪大学                | <a href="ftp://ftp.ics.es.osaka-u.ac.jp/pub/mirrors/Vine/">ftp://ftp.ics.es.osaka-u.ac.jp/pub/mirrors/Vine/</a>  |
| 名古屋大学               | <a href="ftp://ftp.nuie.nagoya-u.ac.jp/pub/Linux/Vine">ftp://ftp.nuie.nagoya-u.ac.jp/pub/Linux/Vine</a>  |
| 神戸大学                | <a href="ftp://ftp.kobe-u.ac.jp/pub/Linux/packages/Vine/">ftp://ftp.kobe-u.ac.jp/pub/Linux/packages/Vine/</a>  |
| 東京大学                | <a href="http://ftp.ecc.u-tokyo.ac.jp/VINELINUX/">http://ftp.ecc.u-tokyo.ac.jp/VINELINUX/</a>  |
| 理化学研究所              | <a href="ftp://ftp.riken.go.jp/pub/Linux/vine/">ftp://ftp.riken.go.jp/pub/Linux/vine/</a>  |
| 山形大学                | <a href="ftp://ftp.yz.yamagata-u.ac.jp/pub/linux/Vine/">ftp://ftp.yz.yamagata-u.ac.jp/pub/linux/Vine/</a><br><a href="http://ftp.yz.yamagata-u.ac.jp/pub/linux/Vine/">http://ftp.yz.yamagata-u.ac.jp/pub/linux/Vine/</a>   |

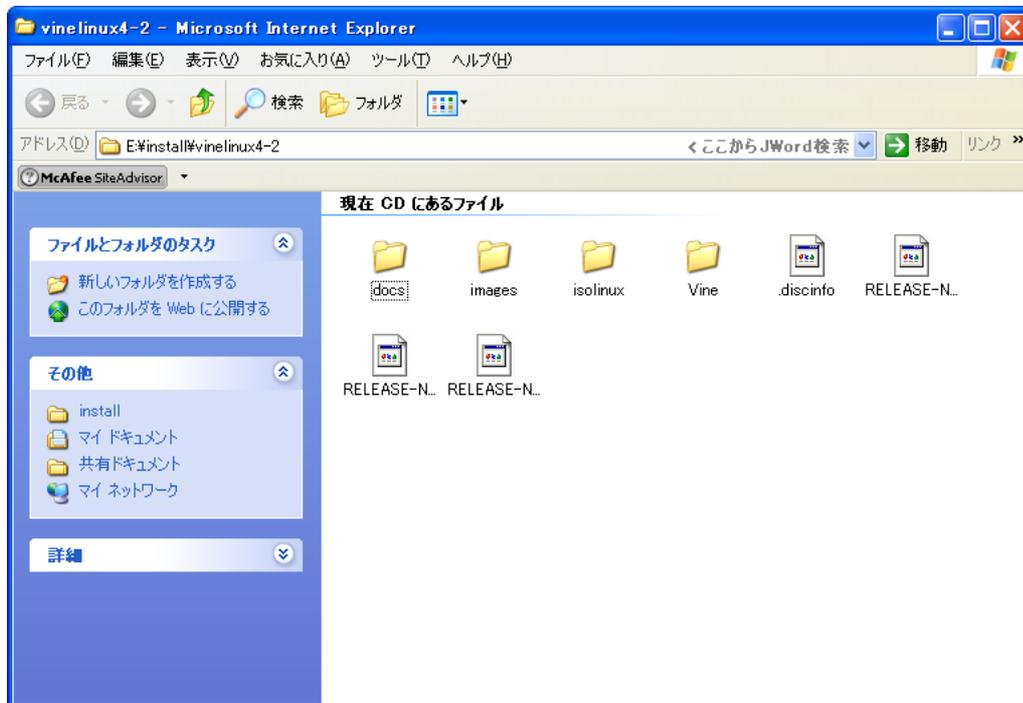
出所：「Vine Linux 公式サイト」<http://www.vinelinux.org/>

なお、本テキストでは、DVD に収録している、Vine Linux のインストール用 CD の作成による導入方法を解説する。

## 第5章 付録：Vine Linux のインストール

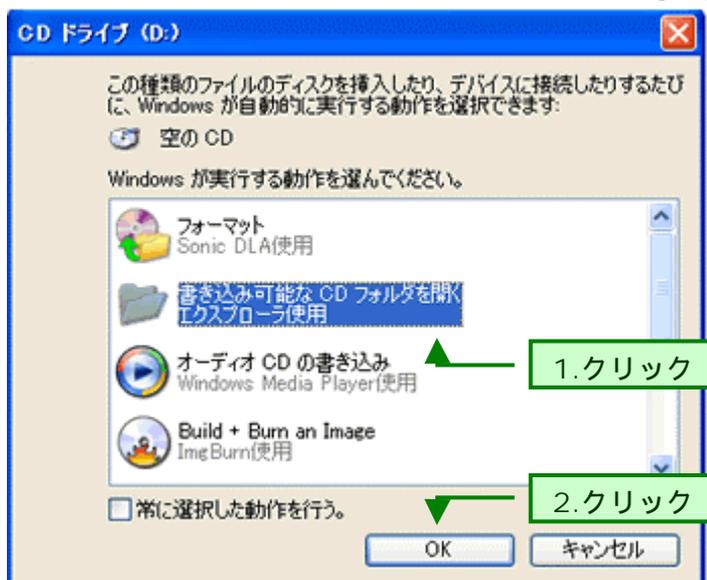
1

付属 DVD 中の[vinlinux]フォルダを開く。  
さらにブランク CD-R をドライブに挿入する。  
CD/DVD ドライブが1つのみのパソコンを使用している場合は、[vinlinux]フォルダごとデスクトップ等へコピーし、DVD を取り出した後、ブランク CD-R を挿入する。



2

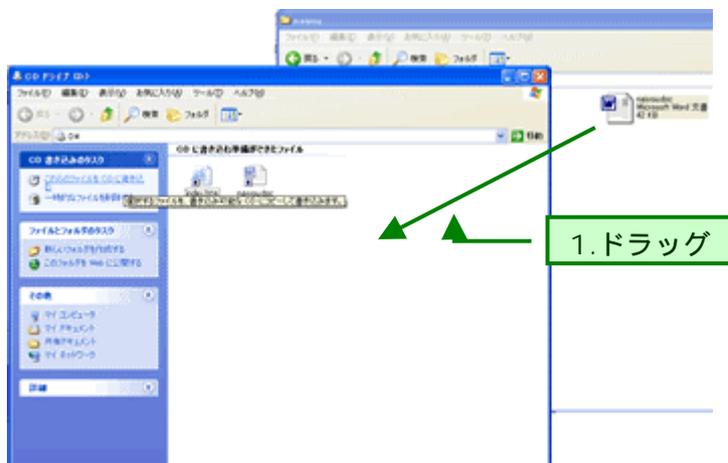
CD 挿入後、ダイアログが自動的に表示される。  
「書き込み可能な CD フォルダを開く」を選択し、[OK]をクリックする。



## 第5章 付録：Vine Linux のインストール

3

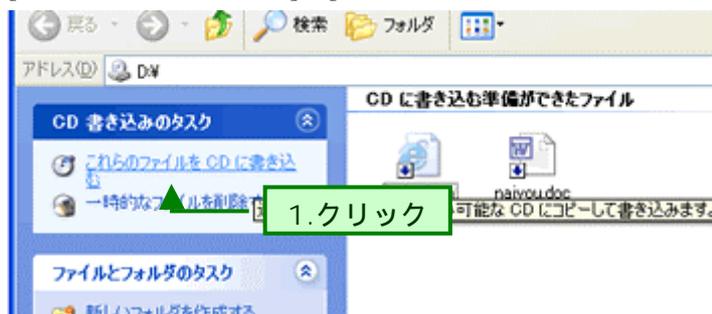
[書き込み可能な CD]フォルダが開く。  
[vinelinux]フォルダ内のファイルをすべて[書き込み可能な CD]フォルダ内へドラッグする。



4

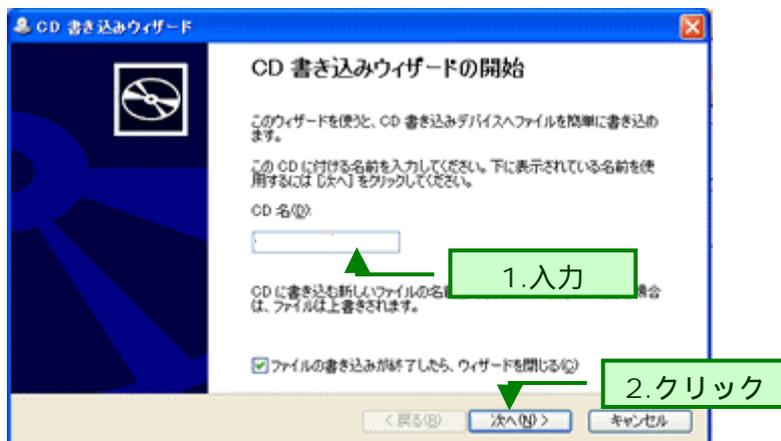
ドラッグしたファイルが、[CD に書き込む準備ができたファイル]一覧に追加される。

[CD 書き込みのタスク] [これらのファイルを CD に書き込む]をクリックする。



5

[CD 書き込みウィザード]が起動する。  
任意の CD 名を入力後、[次へ]をクリックし、書き込みを開始する。



## 第 5 章 付録：Vine Linux のインストール

### (3) Vine Linux のインストール

CD-R への書き込み完了後、つづいてインストールを行う。

Vine Linux は、以下の方法でインストールを行うことができる。

- ・インストール用 CD からのインストール
- ・インストーラ起動用ファイルのみの CD からのインストール
- ・USB メモリ等からのインストール
- ・PEX によるインストール

本テキストでは、通常良く使用される、インストール用 CD からのインストールについて解説を行う。

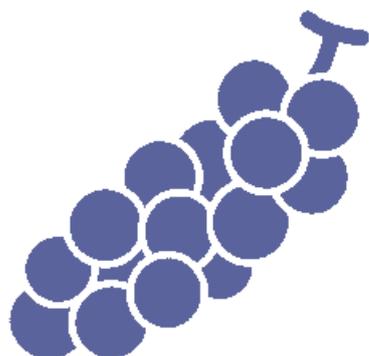
また、インストールを行う PC は、OS を一旦削除し、Vine Linux 専用の PC として設定する方法を解説する。

あらかじめ必要なデータ等は全てバックアップを取ってあることを想定しているので、操作を行う場合は、データ等のバックアップを全て行った後に操作を進めるよう十分に注意する。



Vine Linux のインストール用 CD を挿入し、パソコンの再起動を行う。

インストーラ起動画面が表示され、boot : のプロンプト表示後、[Enter]キーを押す。



# Vine Linux

```
- To install or upgrade in graphical mode, press the <ENTER> key.  
- To install or upgrade in text mode, type: linux text <ENTER>.  
- Use the function keys listed below for more information.  
[F1-Main] [F2-Options] [F3-General] [F4-Kernel] [F5-Rescue]  
boot: _
```



## 第5章 付録：Vine Linux のインストール

2

オープニング画面が表示され、その後ようこそ画面が表示され、[次へ]をクリックする。言語の選択画面が表示される。日本語を選択し、[次へ]をクリックする。



3

キーボード設定では、キーボードの種類を選択し、[次へ]をクリックする。



## 第5章 付録：Vine Linux のインストール

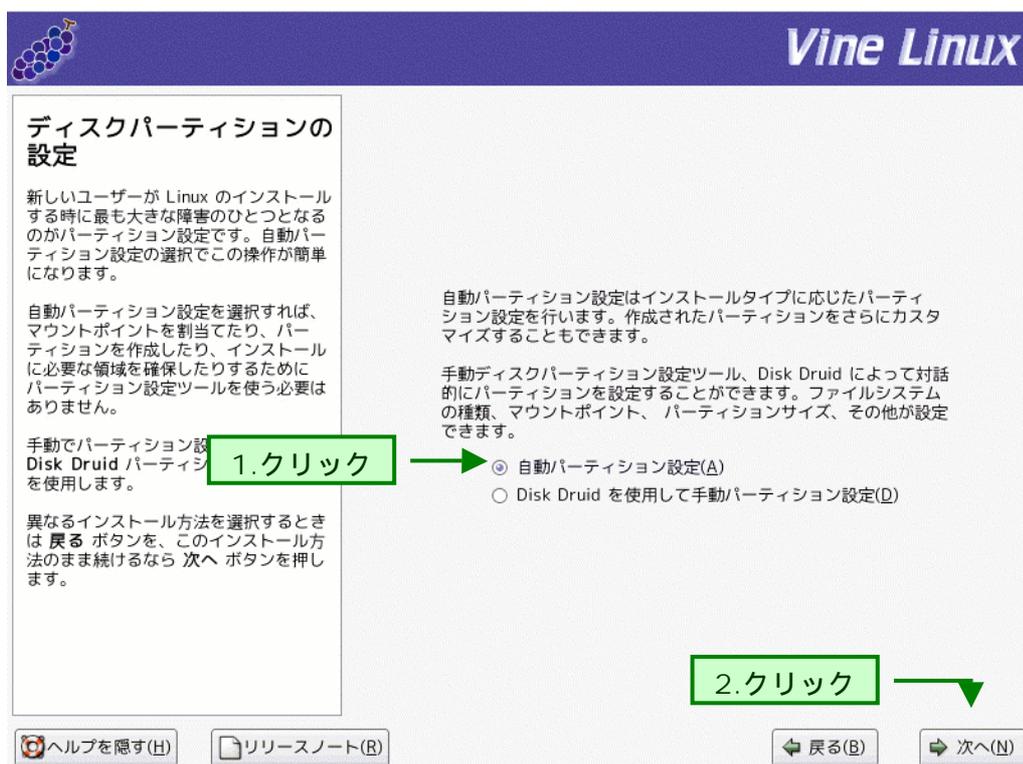
4

インストールの種類では、[全てインストール]を選択し、[次へ]をクリックする。



5

ディスクパーティションの設定では、今回は[自動パーティション設定]を選択する。選択後、[次へ]をクリックする。



## 第5章 付録：Vine Linux のインストール

6

自動パーティション設定では、今回は新しく Vine Linux のみの OS のサーバを構築するため、[システムのすべての Linux パーティションを削除]を選択し、[次へ]をクリックする。

自動パーティション設定

自動パーティション設定では、システムから除去するデータ (存在すれば) に関していくつかのコントロールができます。

Linux パーティション (以前の Linux インストールで作成されたパーティション) だけを除去するのLinuxパーティションを選択します。

ハードディスクの全てのパーティション (これは Windows 95/98/NT/2000 など他のオペレーティングシステムで作られたパーティションも含む) を削除するには、**すべてのパーティションを削除** を選択します。

現在のデータとパーティションを残すには、ハードディスクに十分な空き領域があることを確認した上で、**すべてのパーティションを保持し、既存の空き領域を使用** を選択します。

マウスを使ってインストールするハードディスクを選択します。複数のハードディスクがある場合は、どのハードディスクにこのインストールを収納す

インストールプログラムで自動パーティション設定する前に、ハードディスクの領域の使用法を選択しておく必要があります。

自動パーティション設定するドライブ:

- システムのすべてのLinuxパーティションを削除
- システムのすべてのパーティションを削除
- すべてのパーティションを保持し、既存の空き領域を使用

このインストールに使用するドライブを選択

|                                     |     |          |            |
|-------------------------------------|-----|----------|------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> | hda | 16379 MB | Virtual HD |
|-------------------------------------|-----|----------|------------|

作成された(そして変更された)パーティションを確認(V)

ヘルプを隠す(H) リリースノート(B) 戻る(B) 次へ(N)

7

ネットワークの設定では、[DHCP 経由で自動設定]を選択する。(後ほどルータ等で固定 IP の設定を行う。) [次へ]をクリックする。

ネットワークの設定

システム上にあるネットワークデバイスはどれも自動的にインストールプログラムによって検出され、ネットワークデバイス一覧に表示されます。

ネットワークデバイスを設定するには、まずデバイスを選択して **編集** を選択します。インターフェイスを編集画面では、スクリーン情報を設定入力することもできます。さらにデバイスが起動時にアクティブになるように選択することもできます。

DHCP クライアントアクセスがない場合、又はこの情報の内容が判らない場合は、ネットワーク管理者に連絡して下さい。

システムが、ホスト名を DHCP によって割り当てる大規模なネットワークの一部である場合は、**DHCP 経由で自動設定** を選択します。他の場合は **手動設定** を選択し完全修飾型のシステム用のホスト名 (name.example.com のように) を入力します。入力しないと、システムは「localhost」と呼称されます。

ネットワークデバイス

| 起動時にアクティブ                           | デバイス | IP/ネットマスク | 編集(E) |
|-------------------------------------|------|-----------|-------|
| <input checked="" type="checkbox"/> | eth0 | DHCP      |       |

ホスト名

ホスト名を設定:

- DHCP経由で自動設定(A)
- 手動設定(M) localhost.localdomain (例、"host.domain.com")

その他の設定

ゲートウェイ(G): [ ][ ][ ][ ]

1 番目の DNS(D): [ ][ ][ ][ ]

2 番目の DNS(S): [ ][ ][ ][ ]

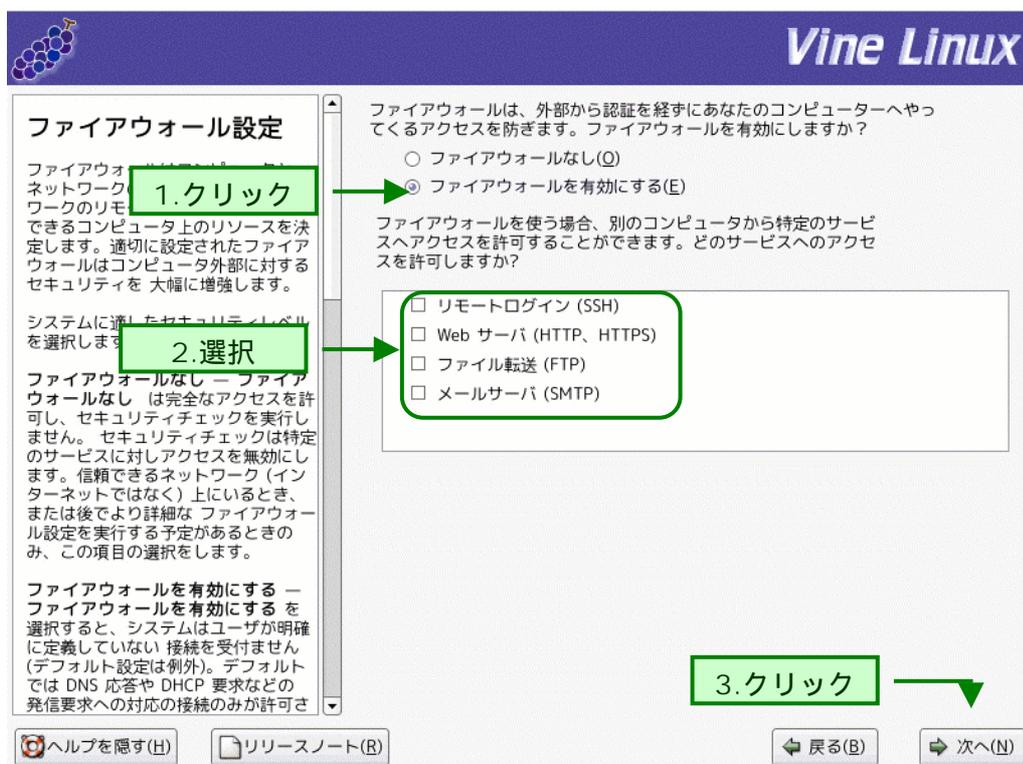
3 番目の DNS(I): [ ][ ][ ][ ]

ヘルプを隠す(H) リリースノート(B) 戻る(B) 次へ(N)

## 第5章 付録：Vine Linux のインストール

8

ファイアウォール設定では、[ファイアウォールを有効にする]をクリックする。必要に応じ、特定のアクセス許可設定を行い、[次へ]をクリックする。



9

追加の言語サポートでは、通常そのままが良いが、必要な場合は言語を追加選択し、[次へ]をクリックする。



# 10

タイムゾーンの選択では、[Asia/Tokyo]を選択し、[次へ]をクリックする。

**タイムゾーンの選択**

コンピュータの地理的位置を選択してタイムゾーンをセットします。

対話式の地図で（黄色でマークされた）特定の都市をクリックすると、選択した都市が赤い X でマークされます。また、リストにある都市をスクロールしてタイムゾーンを選択することもできます。

都市の一覧をスクロールして目的のタイムゾーンを選択することも可能です。

そしてシステムクロックで UTC を使用 オプションを選択できます。（UTC は GMT としても知られていますが、システムに夏時間の処理を適切に行わせることができます。）コンピュータのハードウェアクロック（ローカル時間ではなく）で UTC を使用している場合にはこれを選択してください。

自分のタイムゾーンで最も近い都市を選んでください:

| 場所(L)            | 説明      |
|------------------|---------|
| Asia/Thimphu     |         |
| Asia/Tokyo       |         |
| Asia/Ulaanbaatar | ほとんどの地域 |

システムクロックで UTC を使用(U)

ヘルプを隠す(H)   リリースノート(B)   戻る(B)   次へ(N)

# 11

Root パスワードの設定および一般ユーザアカウントの作成では、ログイン時に使用する Root アカウントのパスワードを設定する。

一般ユーザアカウントは後ほど必要に応じて作成する。[次へ]をクリックする。

**Rootパスワードの設定および一般ユーザアカウントの作成**

root アカウントは管理作業にのみ使用してください。またここで通常の作業用に一般ユーザアカウントを作成しておくことをお勧めします。ユーザアカウント使用中に root 権限が必要になった場合には su - あるいは sudo を使って root 権限を取得します。この基本的なルールにより、入力ミスや間違ったコマンドでシステムを破損する可能性を低減することができます。

root アカウントはシステムの管理に使用します。root ユーザーのパスワードを入力してください。

Root パスワード(P):

パスワード確認(C):

通常使用する一般ユーザアカウント(非管理権限)を作成しておくことを推奨します。一般アカウントを作成するには、以下の情報を入力してください。

ユーザ名:

フルネーム:

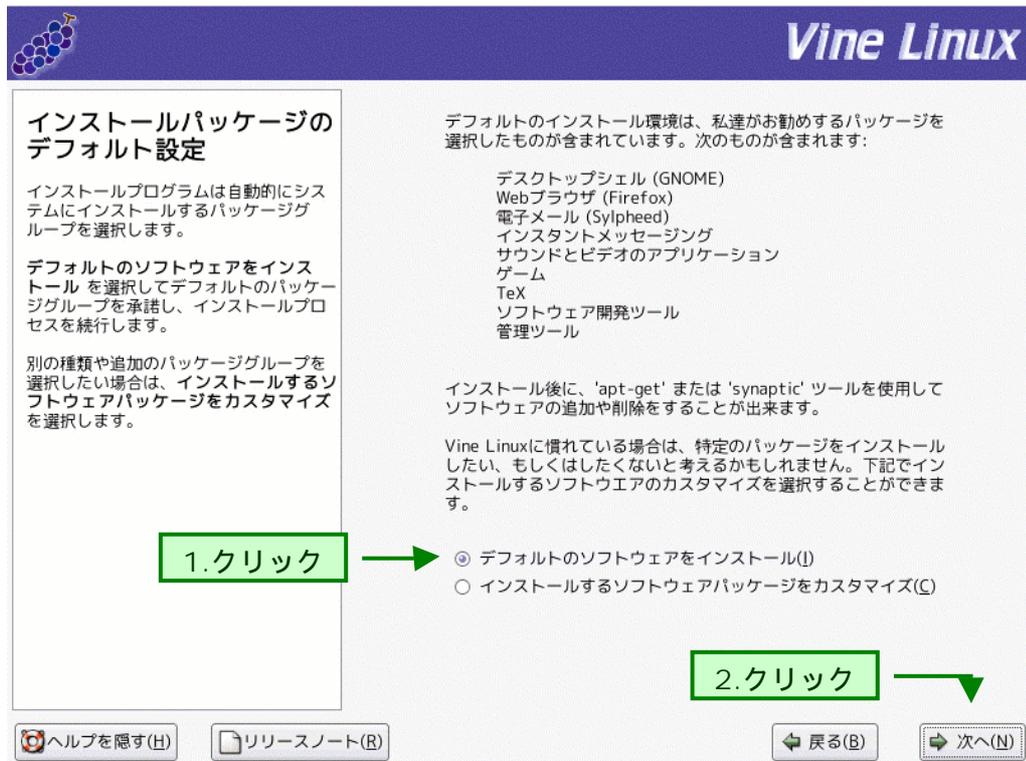
パスワード:

パスワードの確認:

ヘルプを隠す(H)   リリースノート(B)   戻る(B)   次へ(N)

## 第5章 付録：Vine Linux のインストール

**12** つづいて[デフォルトのソフトウェアをインストール]を選択し、[次へ]をクリックする。

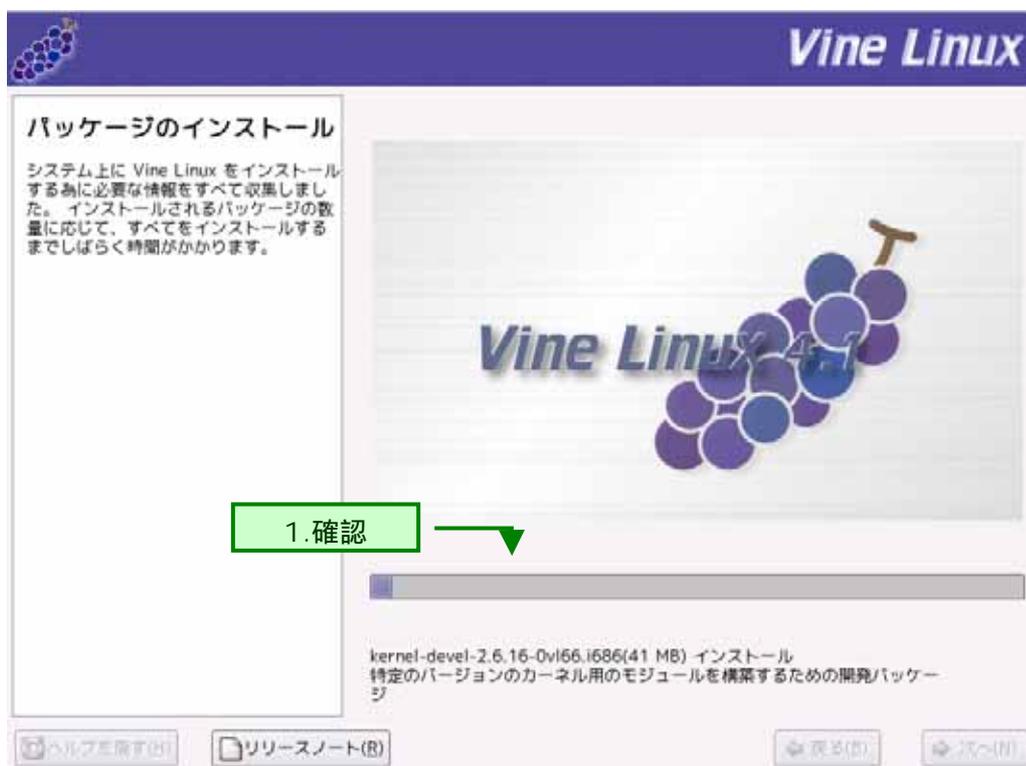


**13** インストールの準備が完了する。[次へ]をクリックする。



## 第5章 付録：Vine Linux のインストール

- 14** つづいて、パッケージのインストールが開始される。  
30分～1時間程度かかる為、しばらく待機する。



- 15** インストールが完了する。  
[再起動]をクリックする。



## 第6章 付録：固定 IP の設定

### 6.1 ルータの設定

本テキストでは、EC-CUBE および Moodle 用のサーバとして Vine Linux を使用する際に、これから固定 IP アドレスおよびポートを設定する必要がある場合に参考にしていただければ幸いです。

#### (1) 固定 IP の設定

固定 IP を設定し、サーバとして使用する場合、グローバル IP アドレスおよびローカルのネットワーク環境内のローカル IP アドレスをそれぞれ設定する。

本テキストでは、一般的に利用される、ルータを使用したネットワーク環境で、ブラウザから操作を行い、ルータに固定 IP を設定する方法を解説する。

ルータの画面は、ルータの種類により異なるが、本テキストでは例として、BUFFALO 社「Broad Station BBR-4HG」を用いた設定方法について解説を行う。



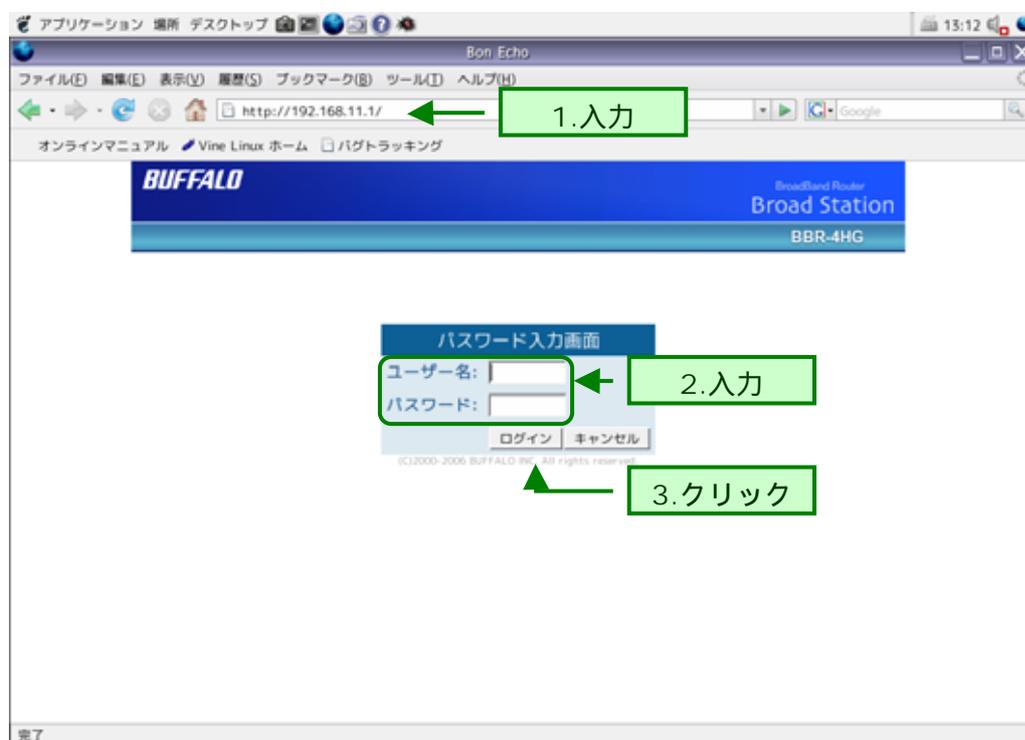
Vine Linux をインストールした PC を起動し、ブラウザを起動する。

URL に、ルータのローカル IP アドレスを入力する。

ルータのログイン画面が表示される。

[ユーザ名]および[パスワード]を入力する。

[ログイン]をクリックする。



## 第6章 付録：固定IPの設定

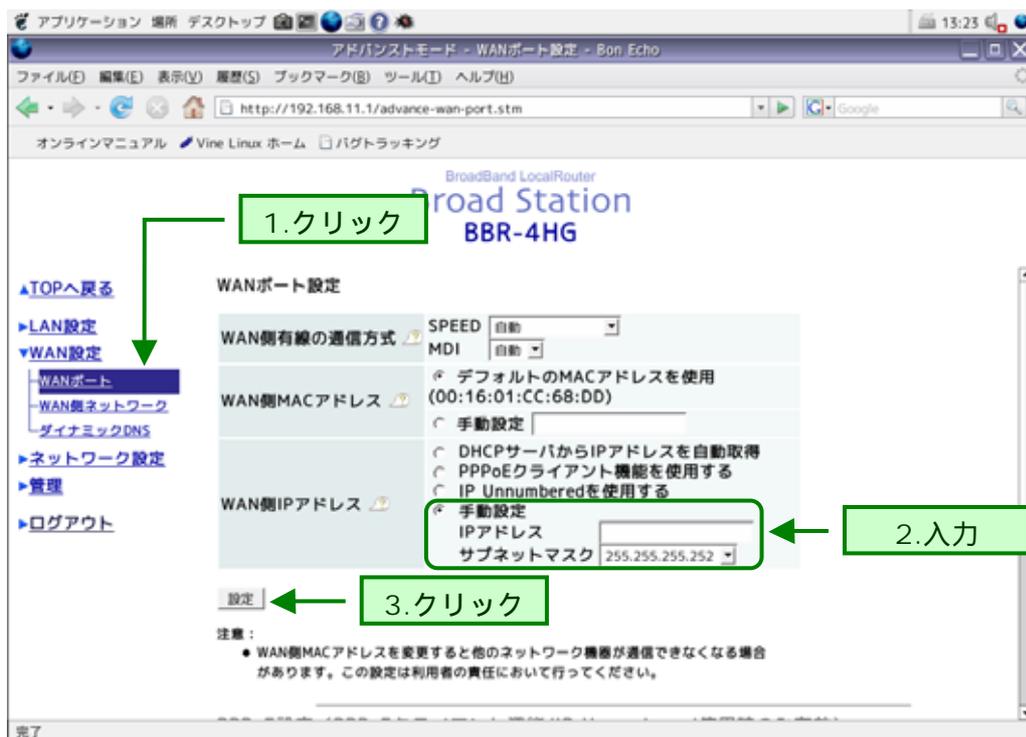
2

TOP画面が表示される。  
[アドバンスト]をクリックする。



3

アドバンストモード画面が表示される。画面左側メニューより[WAN 設定] [WAN ポート]をクリックする。  
[WAN 側]IP アドレスから[手動設定]を選択する。  
プロバイダより支給された[IP アドレス]および[サブネットマスク]を設定し、[設定]をクリックする。



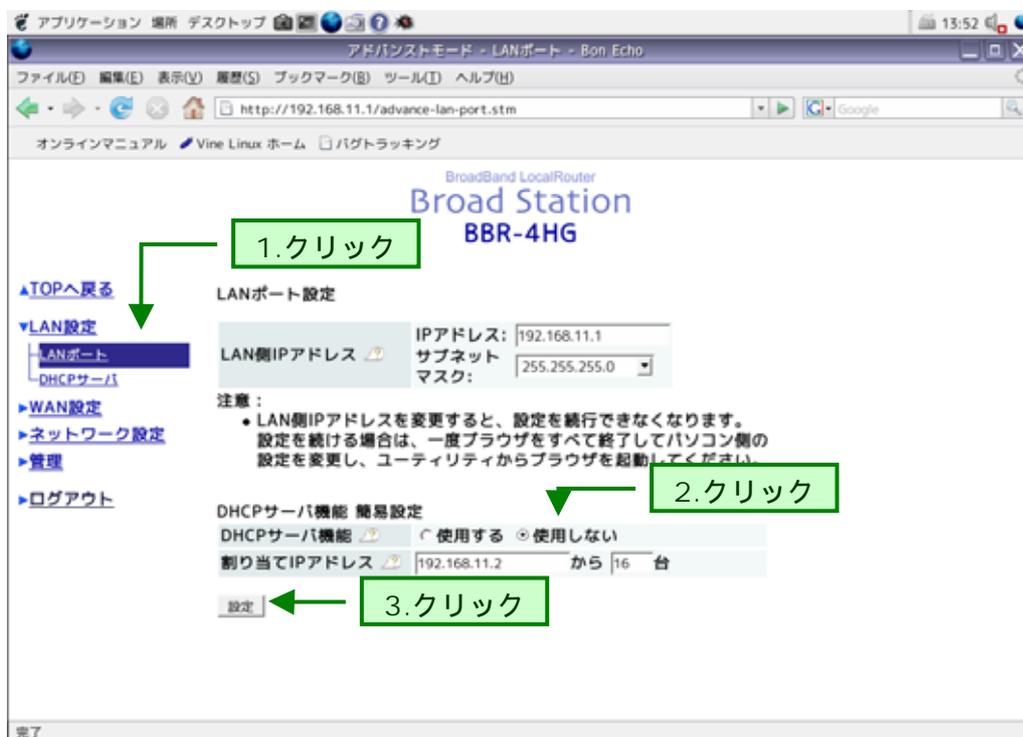
## 第6章 付録：固定IPの設定

4

[LAN 設定] [LAN ポート]をクリックする。

[DHCP サーバ機能] [使用しない]ラジオボタンをクリックし、チェックを入れる。

[OK]をクリックする。



### (2) アドレスの変換

グローバル IP の設定完了後、つづいて、グローバル IP をローカル IP に変換する際の設定を行う。

設定の手順を次ページに示す。

## 第6章 付録：固定IPの設定

1

[LAN 設定] [DHCP サーバ]をクリックする。

画面下部へスクロールする。ネットワークに接続しているパソコンのローカル IP 一覧が表示されている。

[手動割り当てルール入力]をクリックする。

The screenshot shows a web browser window titled "アドバンスドモード - DHCPサーバ - Bon Echo". The address bar shows "http://192.168.11.1/advance-lan-dhcp.stm". The page content includes a navigation menu on the left with "LAN設定" expanded to "DHCPサーバ". The main area is titled "BroadBand LocalRouter Broad Station BBR-4HG" and contains a table of IP lease information.

| リース情報 | IPアドレス        | MACアドレス | リース期限            | 状態   | 操作      |
|-------|---------------|---------|------------------|------|---------|
|       | 192.168.11.2  |         | 31 day, 18:24:00 | 手動割当 | 編集   削除 |
|       | 192.168.11.3  | 00:     | 39 day, 11:15:40 | 自動割当 | 手動割当に変更 |
|       | 192.168.11.4  | 00:     | 39 day, 17:27:15 | 手動割当 | 編集   削除 |
|       | 192.168.11.5  | 00:     | 21 day, 19:39:15 | 自動割当 | 手動割当に変更 |
|       | 192.168.11.6  | 00:     | 41 day, 09:38:50 | 自動割当 | 手動割当に変更 |
|       | 192.168.11.7  | 00:     | 18 day, 18:30:55 | 自動割当 | 手動割当に変更 |
|       | 192.168.11.9  | 00:     | 35 day, 17:10:25 | 自動割当 | 手動割当に変更 |
|       | 192.168.11.11 | 08:     | 39 day, 11:25:10 | 自動割当 | 手動割当に変更 |
|       | 192.168.11.12 | 00:     | 18 day, 18:57:20 | 自動割当 | 手動割当に変更 |
|       | 192.168.11.13 | 00:     | 18 day, 19:03:30 | 自動割当 | 手動割当に変更 |
|       | 192.168.11.14 | 00:     | 39 day, 17:53:55 | 自動割当 | 手動割当に変更 |

At the bottom of the table, there are buttons for "手動割り当てルール入力" and "現在の情報を表示". A note below the table reads: "※注意 ▲ロードステスを違うネットワークのものに変更したときは、手動割り当てさせているアドレス".

2

[LAN 設定] [DHCP サーバ]をクリックする。

[手動割り当て設定]の任意の[IP アドレス]およびサーバに使用するパソコンの[MAC アドレス]を入力する。

入力後、[追加]をクリックする。

その後、[登録・保存]をクリックする。

The screenshot shows the "DHCPサーバ設定 - 手動割り当て設定" page. The navigation menu on the left is the same as in the previous screenshot. The main area has a title "BroadBand LocalRouter Broad Station BBR-4HG" and a subtitle "DHCPサーバ設定 - 手動割り当て設定". There are buttons for "登録・保存" and "変更前の状態に戻す". A note below reads: "※ 項目を追加・編集後、「登録・保存」を押してください。登録・保存を行う前に別のページに移動すると、仮登録されたリストは消去され、前回保存した状態になります。". Below the note is a form with fields for "IPアドレス" and "MACアドレス", and a "追加" button. The "登録・保存" button is highlighted with a green box and labeled "4. クリック". The "IPアドレス" and "MACアドレス" fields are highlighted with a green box and labeled "2. 入力". The "追加" button is highlighted with a green box and labeled "3. クリック".

## 第6章 付録：固定IPの設定

サーバマシンのMACアドレスを確認する場合は、以下の方法で確認することができる。

[パネル] [GNOME 端末]をクリックする。

「ifconfig」と入力し、[Enter]キーを押す。

[ハードウェアアドレス]を確認する。

```
root@localhost.localdomain: 1.クリック
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) 端末(T) 2.入力 プ(H)
[root@localhost root]# ifconfig
eth0   リンク方法:イーサネット   ハードウェアアドレス 00:0c:29:14:00:01
      inetアドレス:192.168.11.4   ブロードキャスト:192.168.11.255   マスク:255.
255.255.0
      inet6アドレス: fe80::2b0:d0ff:fe00:0000:リンク
      UP BROADCAST RUNNING MULTICAST MTU:1500 Metric:1
      RXパケット:11594 エラー:0 損失:0 オーバラン:0 フレーム:0
      TXパケット:11159 エラー:0 損失:0 オーバラン:0 キャリア:0
      衝突(Collisions):0 TXキュー長:1000
      RX bytes:3585322 (3.4 Mb) TX bytes:2525822 (2.4 Mb)

lo     リンク方法:ローカルループバック
      inetアドレス:127.0.0.1   マスク:255.0.0.0
      inet6アドレス: ::1/128   範囲:ホスト
      UP LOOPBACK RUNNING MTU:16436 Metric:1
      RXパケット:1966 エラー:0 損失:0 オーバラン:0 フレーム:0
      TXパケット:1966 エラー:0 損失:0 オーバラン:0 キャリア:0
      衝突(Collisions):0 TXキュー長:0
      RX bytes:313860 (306.5 Kb) TX bytes:313860 (306.5 Kb)

[root@localhost root]# 3.確認
```

